こんな仕事があったのか！ 働くって面白い。僕らのやり甲斐とスキルについて。

POPEYE

Magazine for City Boys

ISSUE 913
2023 MAY
¥920

いい仕事ってなんだろう？

For All Good Workers!

5

2023年5月号（毎月9日発行） 4月7日発売 昭和52年4月27日 第三種郵便物認可 第48巻 第5号

驚きの発見
Orange, la couleur de l'étonnement
HERMÈS
PARIS

HERMÈS
PARIS
HERMES
Publicis EtNous

TOD'S JAPAN - 0120.102.578
TOD'S
TODS.COM
LINE @TODS

BIOCERAMIC
MOONSWATCH
COLLECTION
MISSION ON EARTH
OMEGA
×
swatch
Only available in selected Swatch Stores

BIOCERAMIC
MOONSWATCH
COLLECTION
MISSION TO THE MOON
swatch
TACHYMÈTRE
OMEGA
× swatch
Speedmaster
MOONSWATCH
OMEGA
×
swatch
Only available in selected Swatch Stores

POPEYE®

Magazine for City Boys

CONTENTS

2023 MAY ISSUE 913

特集
いい仕事ってなんだろう？
For All Good Workers!

024

054 仕事図鑑100

066 あの職場が君を待っている。

072 海外で働くって実際どう？

076 WORKERS IN NEW YORK
ストリートフォトグラファーが見た、ニューヨークで働く人々。

082 ラッパーの仕事列伝

086 社長もつらいよ。

088 あの人のJOB QUEST

096 追うべき背中は本の中にある。

011 POP × EYE
018 君といる街。 堀田真由
115 POPEYE JOURNAL
今月、気になる顔。 河内直哉
ONGAKU 三題噺 松永良平
しまおまほのセクよろ season2 しまおまほ
POP-EYE CINEMA 三宅 唱
ステイホームショッピング セク山
いい男になるために 麻生要一郎
PUPPET SUNSUN パペットスンスン
Talk with Ramdane ラムダン・トゥアミ×小林節正
聞こえるニューヨーク PETER ARKLE
123 popeye notes
127 徹の部屋 西山 徹
128 SING IN ME 坂口恭平
129 のみ歩きノート 牧野伊三夫
130 二十歳のとき、何をしていたか？ 第33回 若木信吾
132 味な店 SEASON3 平野紗季子
134 A ROOM WITH A GROOVE. 音楽家の部屋。 第19回 Nick Hakim
136 POPEYE FORUM
138 私のBEST 3 DISHES 前田エマ
139 LISTEN TO T-SHIRT 野村訓市
140 SCIENCE ON THE TABLE
141 青春狂の詩 岡宗秀吾
142 superrrrrrr ART WALL Nick Dahlen
144 こんな仕事があったのか
145 ぼくの伯父さんを紹介します。 岡本 仁
146 GROOVE GROOMING 黒田益朗
148 HELLO MY NAME IS......
154 シティボーイの憂鬱 & 次号予告

◎「リリー・フランキーの珍道中日記」は都合により休載させていただきます。

『POPEYE WEB』はじまってます。
https://popeyemagazine.jp/

『POPEYE』電子版もあります。
Amazon Kindleストアなどの電子書店で購入可。

https://magazineworld.jp/popeye/
@popeye_magazine_official
@POPEYE_Magazine
@mhpopeye

COVER PHOTO:
TARO HIRAYAMA
DANIEL ARNOLD
KAZUFUMI SHIMOYASHIKI
NAOTO DATE
JUN NAKAGAWA
JULIAN BAUMANN

COVER TITLE DESIGN:
SEIICHI HORIUCHI

PUBLISHER
NOBUAKI SHIBASAKI

EDITOR IN CHIEF
YUJI MACHIDA

DEPUTY EDITOR
HIROYUKI AOYAMA

SENIOR EDITOR
KENTA ENOMOTO
KAZUTO YANO
KEN MIYAMOTO

EDITOR
TAKAHIRO TSUNODA
DAIKEI FUKUSHIMA
KOHEI YANAGISAWA
AYUMI TAGUCHI
AYAKA NOMURA

CONTRIBUTING EDITOR
TAMIO OGASAWARA
KOSUKE IDE
KOJI TOYODA
KEISUKE KAGIWADA
RYOKO IINO
NEO IIDA

ART DIRECTOR
TARO KAMBE

DESIGNER
MONET TERUMOTO
TAKUMI OTA
KATSUYOSHI MAWATARI
NOA WATANABE
MARINA INO

PROOF READING
SHUCHINSHA

MEDIA PROMOTION DEPT.
HIDEYUKI MASE
MOMOKO ISHII
YASUAKI SUGIMOTO
MOTOI EJIMA
SHINJI KOBAYASHI

CIRCULATION
CHIKAKO ARAHARA

PRODUCTION
KENJI SAITO

PUBLICITY
SHIGETOMO NAGATA

※本誌編集ページに記載されている商品の価格は特別な表記のある場合をのぞき、すべて税込価格です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止策にともない、記載の営業情報等に変更のある可能性があります。事前にご確認ください。また、マスクを外して撮影をする場合は、ソーシャルディスタンスをとるなど安全に配慮しています。

©マガジンハウス2023禁・無断転載 ®Hearst Holdings,inc.

BIGYANK was founded by the work wear company named Reliance Manufacturing Company in Illinois, Chicago in 1919. There were differences in their design from other work wear companies. Especially their unique design such as GACHA POCKET and YAMA POCKET in Japanese as patented asymmetrical pocket attract many vintage lovers. Both convenience pockets are designed for cigarettes. GACHA POCKET was filed a patent in 1929 and YAMA POCKET was filed in 1942. On top of what have already been mentioned, the brand differentiated itself with the design capability, including curved back yoke and eyelet works that served as a ventilation hole to release the internal heat, which held a sharp line against other working clothes. However, as it stubbornly paid meticulous attention to details, it could not win in the price war against mass-produced clothes introduced after the WW II, and lost its momentum. In the evening of its life, the brand produced rather simple clothes, but eventually disappeared.

The high quality finish, indicating the knowledge only collectors can have.

Kinji is also one of them who were attracted by BIG YANK products. He waited the right time to revive the brand and he has done in 2011. Kinji is well known as one of world famous vintage collector and he used his strength as a collector to revive his archive. He has truly revived not only fabrics but also details. He has received great valuations from vintage collectors.

BIG YANK

35 SUMMERS CO.,LTD

A'r22724 YANAGIBASHI 1F 2-27-4 Higashinihonbashi, Chuo-Ku, Tokyo, Japan Tel:080-7024-4090 **A'r2415 KICHIJOJI** 1F 2-4-15 Kichijoji Minamicho, Musashino, Tokyo, Japan Tel:090-9834-2581
A'r139 KAMAKURA 1-3-9 Ougigayatsu,Kamakura,Kanagawa, Japan Tel:0467-37-5724 **A'r11551 FUKUOKA** 2F 1-15-51 Kego, Chuo-ku, Fukuoka, Japan Tel:070-3278-7691

NO. ONE

photo: Taro Hirayama　styling: Satoshi Kamei
grooming: Yoshikazu Miyamoto　edit: Koji Toyoda

01
Beams F

**ビジネススーツは、
ワークウェア。**

「ヤベッ。上司から5回も着信来てる……。すぐに折り返さなくっちゃ」。新社会人になれば、学生時代のモラトリアムな日々はまるで嘘だったかのように忙しい毎日の連続。満員電車に揺られ、営業先を梯子するために東京中を汗かきながら歩きまわり。少しでも気を抜けば、着信に気づかず上司の雷が落ちる（笑）。そんなビジーな社会人にとって、毎日袖を通すビジネススーツは、もはやワークウェアみたいなもの。だから、最初に選ぶべきは、この〈ビームスF〉のように通気性、耐久性にも優れた生地がおすすめ。毎日、袖を通してもヨレヨレになりにくく、めちゃくちゃ大袈裟に言ったら〈ディッキーズ〉のような感覚で着られるんだ。さらに言えば、スーツの色味はネイビーもしくはグレー（控えめなチョークストライプはあり）。形もどんな人に会っても恥ずかしくないオーセンティックなものがベター。これに黒のストレートチップのシューズを合わせれば、完璧だ。ウール素材の3つボタンスーツ¥121,000（ビームスF）、シルクタイ¥18,700（フランコ バッシ／ともにビームスF☎03·3470·3946）　セミワイドカラーシャツ¥30,800（アレッサンドロ ゲラルディ／バインド ピーアール☎03·6416·0441）　リネンチーフ¥8,800(バーニーズ ニューヨーク／バーニーズ ニューヨーク カスタマーセンター☎0120·137·007）　ストレートチップシューズ¥88,000（クロケット ＆ ジョーンズ／シップス 銀座店☎03·3564·5547）　ユーズドの〈ポロ ラルフ ローレン〉のトレンチコート¥25,080（ビグスティ 原宿店☎03·6438·9969）　その他は私物

OLDE THINGS

Olde H & Daughter

初めてのスーツなら、セレクトショップのオリジナル。

前ページの〈ビームスF〉のスーツもそうだけど、初めてのビジネススーツは変な見栄を張らず、地に足のついた日本のセレクトショップのオリジナルを選ぶのがいいと思う。やっぱり日本人の体型を熟知したものづくりをしているから、スーツを着慣れていない僕らにも戸惑いなくしっくりと馴染む。この〈シップス〉のオリジナルスーツも、人間工学に基づいた型紙をベースに、日本人の体の特徴を知り尽くしたオーダースーツメーカー〈ファイブ ワン・ファクトリー〉と共作したもの。生地には、英国老舗の生地メーカー「フォックスブラザーズ」のサマー素材「フォックス エア」。適度な張り感とドライタッチを併せ持ち、これからの暑い季節もなんとか乗り切れそうな縁の下の力持ち的存在だ。ウール素材のチョークストライプ3つボタンスーツ¥139,700（シップス／シップス 銀座店☎03·3564·5547） オックスフォードボタンダウンシャツ¥39,600、シルクニットタイ¥12,100（ともにルイジ ボレッリ／バインド ピーアール☎03·6416·0441） リネンチーフ¥8,800（バーニーズ ニューヨーク／バーニーズ ニューヨーク カスタマーセンター☎0120·137·007） ユーズドの〈ポロ ラルフ ローレン〉のトレンチコート¥25,080（ビグスティ 原宿店☎03·6438·9969） その他は私物

02 Ships

MORE HAPPINESS!

FROM TOKYO TO THE WORLD & TO THE FUTURE.

TOKYO DESIGNPLEX INSTITUTE

GRAPHIC/DTP | WEB CREATIVE | CREATIVE DESIGN | DIGITAL COMMUNICATION DESIGN | COMMERCIAL SPACE DESIGN | CAD/3DCG
INTERIOR DESIGN | SPACE CONTEMPORARY DESIGN | UX RESEARCH | UI/UX | DESIGN STRATEGY | WEB INTERACTION DESIGN

最先端×実践教育で次世代のデザイナーを育成する。

東京デザインプレックス研究所は、次世代の「プロフェッショナルデザイナー」を育成する「東京発コンテンポラリーデザインの複合型教育機関」として、デザイン業界で抜群の就・転職実績を誇ります。講師にはトップクリエイター/現役デザイナーが集結し、少人数制・対面型・実践形式による授業を展開。国内最先端プログラムは、全12専攻・70コース / 昼間部・夜間部・土日集中クラスで編成されており、大人（社会人・大学生・フリーターなど）を短期間で即戦力に導いています。

【募集専攻】 デジタルコミュニケーションデザイン・グラフィック/DTP・Webクリエイティブ・クリエイティブデザイン・空間コンテンポラリーデザイン・インテリアデザイン・CAD/3DCG・商空間デザイン・Webインタラクションデザイン・UXリサーチ・UI/UX・デザインストラテジー
【クラス】 昼間部 / 夜間部 / 土 or 日集中 / 全日制　**【授業形式】** 少人数・対面型・実践形式
【受講期間】 コースにより3ヵ月〜1年　※詳細は学校案内書に掲載

2023年4月生 / 7月生 募集

学校案内書請求 Web・TELにて受付中！

渋谷ファイヤー通りへ校舎拡大移転完了！リニューアル開校
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-12-10（旧渋谷電力館）※受付2階
渋谷駅より徒歩7分／明治神宮前駅より徒歩8分／原宿駅より徒歩10分
0120-456-539　https://www.tokyo-designplex.com/

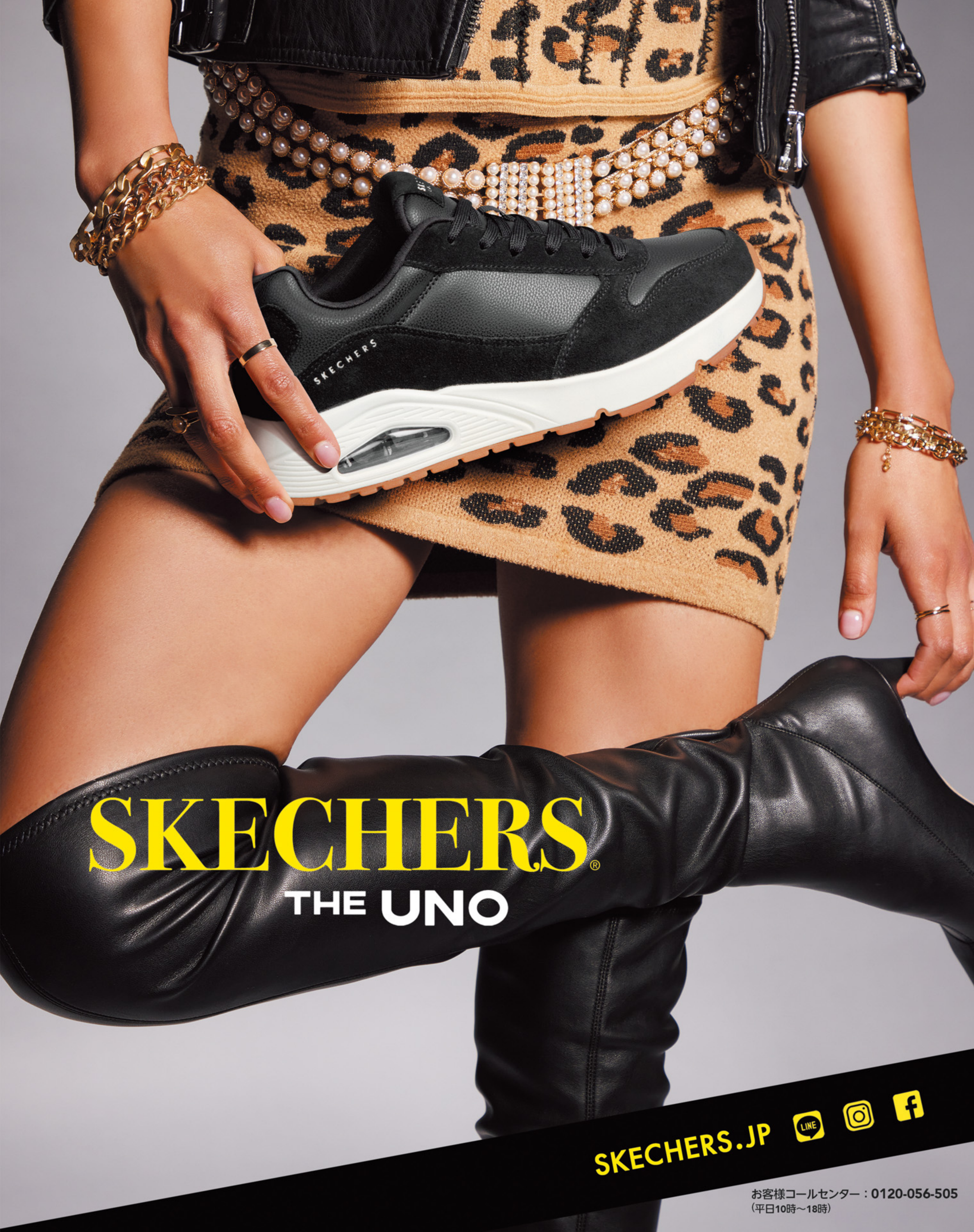
TOKYO DESIGNPLEX INSTITUTE
東京デザインプレックス研究所

03

Sovereign

**シャツはサックスブルー。
タイは紺ベースがフレッシュ。**

ネクタイは若々しく見える紺色をベースにしたレジメンタルタイやニットタイが望ましい。ただし、合わせるべきシャツは白だとコントラストが強くなりすぎるので、サックスブルーがベストバランス。襟型は好みになるけれど、近頃のスーツはラペルが広いので、やや襟幅が広めなものを選ぶのがベター。ちなみにこの端正な面構えのグレースーツは、〈ソブリン〉の一着。国内の老舗生地メーカー「御幸毛織」が40年以上春夏の定番として作り続けるチャンピオンモヘヤの別注生地を使用。ハリとコシが強い生地で、控えめな光沢感もチャコールグレーの色味と相まって、とても上品。ウール×モヘア素材の3つボタンスーツ¥132,000（ソブリン）、レギュラーカラーシャツ¥20,900（ユナイテッドアローズ／ともにユナイテッドアローズ 六本木ヒルズ店☎03·5772·5501）　シルクタイ¥18,700（シーワードアンドスターン／ビームスF☎03·3470·3946）　ネックウォーマー¥2,200（ビーチフィールド／プロップス ストア☎03·3796·0960）　バックパック¥53,900（アンドワンダー☎03·5787·3460）　ヘルメット¥19,800（ジロ／ブルーラグ幡ヶ谷店☎03·6662·5042）　その他は私物


SKECHERS®
THE UNO
SKECHERS.JP
LINE
お客様コールセンター：0120-056-505
（平日10時～18時）

ギャルソンという名の ビジネススーツ。

ある程度、スーツを着ることに慣れてきたら、2着目を買い足すことも視野に入れてみよう。なんせ毎日一張羅ばかり着ているとさすがにシワにもなりやすいし、生地の傷みも早い。諸先輩方に話を聞けば、本来は2〜3着のスーツを回して着るのがベストとのこと。で、その2着目には、〈コム デ ギャルソン・オム ドゥ〉がよさそうだ。もともとは1987年にビジネススーツのブランドとして発足したものだから作りはとてもベーシック。グレーのトロピカルウール素材というのもこれからの季節にぴったりだし、大好きな"ギャルソン"を仕事着として着られるのが嬉しい。こんなスーツを着ていればちょっとやそっとのトラブルなんて簡単に乗り越えられるはずさ♪

トロピカルウール素材の2つボタンジャケット¥101,200（コム デ ギャルソン・オム ドゥ／コム デ ギャルソン☎03·3486·7611） セミワイドカラーシャツ¥39,600（ルイジ ボレッリ／バインド ピーアール☎03·6416·0441） ウールタイ¥22,000（アーデー アンド シー 1956 ミラノ）、リネンチーフ¥8,800（バーニーズ ニューヨーク／ともにバーニーズ ニューヨーク カスタマーセンター☎0120·137·007） バックパック¥53,900、ダイニーマ素材のバッグカバー¥15,400（ともにアンドワンダー☎03·5787·3460）

Girls in the City
君といる街

第22回

photo: Masumi Ishida
styling: Takanohvskaya
hair & make: Miki Oikawa
text: Yusuke Monma

ほった・まゆ●俳優。1998年、滋賀県生まれ。2015年デビュー。NHK連続テレビ小説『わろてんか』で注目を集め、NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』、NHKドラマ10『大奥』など、話題作に多数出演する。出演するドラマ『風間公親-教場0-』(フジテレビ系)が4月10日から放送開始。初の写真集『MY』が発売中。

ジャケット¥121,000（ガブリエラ コールガーメンツ／ビオトープ☎0120·298·133） カーディガン¥24,200、中に着たキャミソール¥7,700（ともにオーラリー☎03·6427·7141） ヴィンテージの〈リーバイス〉のパンツ¥8,580（ベルベルジン☎03·3401·4666） ユーズドのスニーカー¥6,490（原宿シカゴ神宮前店☎03·5414·5107） ショルダーバッグ¥23,100（アモーメント／ショールーム ロイト☎03·6859·8112） ネックレス¥16,500（シシジョイア／メイデンズショップ ウィメン☎03·5772·5088）

堀田真由と浅草

郷里の滋賀から浅草に来た、中学時代の修学旅行のことが強く印象に残っている。

「中学生の私にすれば、東京は憧れの場所でもあって、その頃から俳優になりたいという憧れを抱いていたので、いつか夢がかなって東京に出てこられたらいいなと思っていたんです。だから修学旅行で浅草に来られたときはすごく感動して。浅草寺にお参りしたり、参道でおみやげを買ったり、あと草餅作りの体験をしたりしたことを覚えています」

当時のあだ名は〝ホッティ〟。

「お笑い芸人のゆってぃさんがテレビに出てこられた時期で(笑)。兄がいるんですけど、兄も私もホッティと呼ばれていました」

そのため外で「ホッティ!」と声をかけられると、どちらが呼ばれているのかわからないことがよくあった、と彼女は笑う。

俳優を志すようになった原点は、幼い頃、おばあちゃんと一緒に観た宝塚歌劇団の公演にあった。それからバレエを習いだし、なにかを表現する仕事に憧れ、やがて俳優の仕事を夢見るようになった。

オーディションで賞を受賞し、夢がかない、単身で上京してきたのが高校2年生の春。希望で胸は溢れんばかりだったが、環境ががらりと変わり、戸惑うことも多かった。支えになってくれたのはなんでも話せる、気づけば3時間ほども長電話するときがある、「いちばんの親友」みたいな母だった。

浅草には今もたびたび訪れる。

「先日も撮影がありましたし、純喫茶が好きなので、休みの日に来ることもあります。母が東京に遊びに来たときは、一緒に来ましたね。以前は憧れの場所だったのに、今や身近な場所になっていて、浅草は私にとって大切な街なのかもしれません」

さあ、今日も気持ちよく働こう。〝いい仕事〟をするのに、年齢や肩書は関係ない。『とんかつ とんき』のアルバイト、中澤くんも出勤だ。

photo: Taro Hirayama
text: Shintaro Kawabe

古着好きのスポーツマンが、とんかつの老舗でアルバイトしてるって。

店主が黙々ととんかつを揚げる様子をカウンターが取り囲み、そこに座る客が静かに見守る。いまだ行列の絶えない目黒の老舗といえば、『とんかつ とんき』だ。かつて目黒にお店のあった、これまた老舗の『洋菓子舗ウエスト』創業者・依田友一も、清潔な店のなんたるかを知りたいならとんきに行きなさいと語った名店だ。

その『とんき』でアルバイトをしているのが、4月から大学1年生となる中澤一悟くんだ。「こんにちは！」と自転車で坂道を上がってきたのが彼。野球部でピッチャーで、古着好きのシティボーイ。ポパイが彼と出会ったのも豪徳寺の古着屋『アストロジー』だったから、とんかつの老舗で働いているというのがなんだか意外で、その仕事ぶりを見てみたくなったのだった。中澤くんが働くのはテーブル席と個室がある2階。住み込みの職人が住む上階の「青雲寮」にて着替え、さあ始業。さぞ厳しい環境で、びしばし鍛えられているんだろう。そう思っていた。

欧州サッカーのごとくとんかつをパス。そして皿洗い。

中澤くんの主な仕事は皿洗いと〝リフト前〟の2つ。リフト前というのは、とんかつが1階からリフトに乗って上がってくるのを、素早く豚汁の給仕係にパスする係。見た目よりもデリケートなポジションだというが、なぜなら『とんき』の衣は超繊細で肉から剥がれやすいから。それがポロッと取れたらもう出せない。でも、もしやっちゃったとしても、怒られたりはしない。「反省する気持ちがあったらOK」という教育方針だ。中澤くんがアルバイトで入って5か月、怒鳴り声は聞いたことがない。キャベツ、豚汁、からし、お箸。システマチックな欧州サッカーのようにパスを繋いでいって素早くお客に届けている。

そしてお客が食べ終わった皿を洗うのも中澤くんの仕事。コツは3代目店主の吉原出日さんが教えてくれた。「ご飯が茶碗にこびりつかないうちに洗うのが肝心。ただ洗うんじゃなくて、綺麗なものを綺麗なうちに流す感覚」。ただの雑用としないために、中澤くんも丁寧に手際よく皿洗い。

とんかつはお客さんのもの。スタッフは2杯の豚汁を食す。

店は21時の閉店まで休みなしだが、休憩は交代で短くとる。中澤くんが楽しみにしている、まかないの時間だ。実は、『とんき』で働きたいと思った理由が、まかないの豚汁がおいしいぞ、と先に働いていた友人に聞いていたからだった。

「とんかつはお客さんのものだからスタッフは食べません。まかないはみんな同じ、ご飯と、漬物と、キャベツと豚汁2つ。でもこれがおいしくて」

実はこの豚汁、とんかつに負けず劣らず歴史のあるメニュー。創業者の出生地である新潟県で、創業1898年の蔵元『扇弥商店』の味噌をベースとしたオリジナル。なのだが、とにかくスタッフはとんかつを食べないというところに老舗の心意気を感じた。裏でとんかつを食べていたとしてもお客はわからないと思うけど、店長たりともそれをしない。とんかつは、お金を払って食べるごちそうなんだ。『とんき』の暖簾(のれん)はこうやって見えないところでの心がけにこそ支えられているのだ。

中澤一悟

なかざわ・いちご｜2004年、目黒生まれ。目黒育ち。今年3月に日本学園高等学校を卒業し、4月からは工学院大学に進学。小学生から続けている野球に大学でも真剣に取り組むべく、体育会野球部へ入部予定。ポジションは、ピッチャー。ヘアメイクアーティストであるお父さんの影響で、レコードやフィルムカメラなどの古いものに興味を持ち始め、クラシック好きに。

「お母さんには、ちょっと変わったなと言われます」

約5か月のバイト期間を経て、徐々に『とんかつ とんき』での仕事に慣れてきた中澤くん。彼のお母さんも「以前は言われるまでやっていなかった掃除や食器洗いを、言われる前にやってくれるようになった」と言ってくれるようになった。中澤くん自身も、「何かを極めたいと思う先輩たちと一緒に仕事ができて、僕も将来どんな仕事をしようかなと真剣に考えるようになりました」と語る。中澤くんの真面目な仕事ぶりに店主の吉原さんも感心して「社員、どう？」なんて声をかけてくれたりもする。中澤くんをアルバイトに採用した理由を聞くと、野球部だから礼儀正しいし、ということだったらしいけれど、実は店主の吉原さんも野球好きで日ハムファンだったというのは今になってわかったこと。きっかけは豚汁だったり、野球だったり、いろいろ偶然が重なって『とんき』で働く中澤くん。

将来、何になるかは未定だけれど、〝いい仕事〟は、格好いい。それをすでに知っているはずだ。

とんかつ とんき

1939年創業。小説家の池波正太郎も常連だったのは有名な話。1967年に目黒駅西口付近にあった店舗から現在の場所に移転。薄力粉、強力粉を合わせた粉と卵を3回ずつ付けた後に細かいパン粉で揚げる衣は非常に繊細。かつのメニューはロースかつ(¥2,300)、ヒレかつ(¥2,300)、串かつ(¥1,800)の3種の定食のみ。○東京都目黒区下目黒1-1-2　☎03·3491·9928　16:00〜LO21:00　火、第3月休

いい仕事ってなんだろう？

For All Good Workers!

フレームビルダー、引箔職人、ヘッドスパニスト。
世の中を見渡せば見知らぬ職業がたくさんあるなぁ。
会社や肩書に縛られずに活躍する人も増えたし、
副業できたり、働き方はどんどん自由になっている。
今月のポパイは、そんな今こそ目の前の仕事について、
考えてみようじゃないかという特集です。
見えない苦労を惜しまない人、仕事をスポーツだと捉える人。
100点じゃなくて、常に80点を目指す人。
いろんな分野のプロたちの〝いい仕事〟を集めました。
将来の夢も、今夜のビールの美味しさも、
今日の働きぶりにかかってる？　かもしれない！

photo: Jun Nakagawa

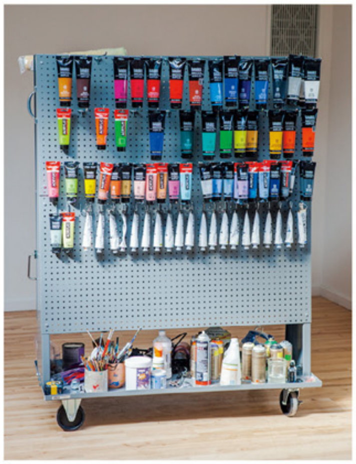
自分の決めたルーティンは何があっても継続する。

「誰にも頼まれていないですけど、タイムズが印刷され続ける限りは続けると思います」

WORK ペインター

NAME Sho Shibuya

photo: Takeshi Matsumi
text: Shimpei Nakagawa

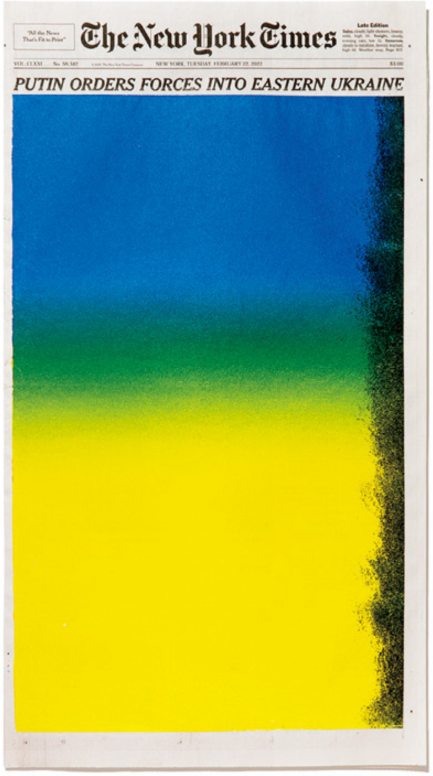


アート用具店からそのまま出てきたような、ペインティング用具一式を収納している自作の棚。ちなみに、出張や旅に出るときも、NYTと一緒に絵の具も一式必ず持っていく。

PROFILE

ショー・シブヤ｜1984年、千葉県生まれ。2011年にNYに移住。2018年には自身のクリエイティブエージェンシー「Placeholder」を立ち上げるなど、もともとは雑誌のエディトリアルデザインや広告、ブランディングなどを手掛けるグラフィックデザイナー。2020年、コロナ禍で様々なニュースが飛び交い新聞の紙面も混沌としている中で、ふと自宅の窓から見た朝日が美しく、そのコントラストを表現しようと、NYTシリーズを作り始める。パティ・スミスやサラ・アンデルマンなどの著名人や、〈Saint Laurent〉、〈A.P.C.〉とのコラボレーションも。日本でも、2022年に伊勢丹新宿店にて展示されるなど、世界各地で展示される。

こちらの束は新聞の中ページ。普段はNYTの表紙にペインティングするため、中ページは読み終えれば不要になるのだが、それをペイントをし積み上げた束で何か面白いアプローチで作品に昇華できないか試行錯誤中。



1.

2.

365日、その朝の日の出を当日の新聞「ニューヨーク・タイムズ」（以下、NYT）の1面に描く。このルーティンをずっと続けているのが、ペインターのSho Shibuyaさんだ。彼は朝5時に目を覚まし、自宅の屋上で朝日を撮影。目覚ましの白湯とフルーツと一緒に、NYTのウェブ版に目を通す。そして4マイルのランニング後、いつものニューススタンドで紙のNYTを買って、冷水シャワーを浴び、瞑想後に朝食を作る。この生活習慣を続けるのもすごいけど、そこからルーティンの本番であるペイント作業に取り掛かる。今や、世界各地で展示が開かれるほど有名になったペイント作品は、本家NYTにも取り上げられ、パンクの女王パティ・スミスからもラブコールが届くようになった。この〝日課〟が、彼の地位を確立したのだった。

「続かなかったことはありますよ。建築もそうだし、勉強も、当時やってたブレイクダンスも。数えたらキリがないです」

大学在学中にグラフィックデザインに興味を持ち、出版社で雑誌のエディトリアルデザイナーに。独立後は数年間東京で活動した後、グラフィックデザイナーとして成長したいという思いのもと、27歳のときに渡米する。「面接を受けても何言ってるかさっぱりなレベルの英語力でしたが（笑）」とはいうものの、わずか3か月でデザインの腕が買われ大手エージェンシーのインターンに。その後はデザイン事務所を渡り歩き、2016年にスーツケースブランド〈Away〉のアートディレクターに。

「実は朝型生活にシフトしたのはこのタイミングで、それまでは夜中2時に寝て、朝8時に起きて眠い目を擦りながら会社に行く感じでした。でもあるとき、河原温さんの『Today series』という日付が描かれた作品を見て、時間をテーマに日々を記録してみたいと思ったんです。それで、NYTシリーズの原型となる月曜から日曜までをカタカナで表現するペイントを始めました。それを続けるためにお酒も平日は減らして、17時に退社するために朝早く出社するようになった。当時は自分がルーティンを守っているという感覚はなかったですが、今思い返すとそこで基礎ができたと思います」

そして2020年4月、コロナ禍を機に、NYTのシリーズを作りはじめた。4月にその習慣は約1200日を超えた。いやいや、今日はいいでしょ、と言ってくるもう一人の自分もちゃんといるらしい。そこは普通の人たちと変わらない。それでも続けられる秘訣はあるのだろうか？

「究極を言うと、やらないという選択肢をなくすということですかね（笑）。雪が降ろうが、気温がマイナス16℃だろうが、走りに行きますし、絶対その後に冷水シャワーを浴びる。やることが決まっていると時間だったり頭に余裕が生まれるからか、新しいことに挑戦したくなる。誰にも頼まれていないですけど、NYTが印刷され続ける限りは続けると思います。人生のミッションだと思ってます」

Shoさんが言うように、ルーティンを続けるコツや楽な方法はないけれど、その分、継続することは、どこかでいい仕事に繋がっているのかもしれない。

Sho Shibuyaの仕事内容

朝のルーティンを終えて、9時頃にはスタジオに来てその日の朝焼けのペインティングを始める。ペイント後のドライも含めて2~3時間ほど。その後はメールの確認・返事をしたり、描いた作品の撮影、新しいアイデアを練る時間も作る。17時頃には帰宅。

延べ1200枚以上ある中で、特に思い入れの強い作品。

2

『100,000 DEATH』

2020年5月24日制作。アメリカ国内の新型コロナ感染症による死者の数が10万に迫ったこの日、NYTの1面は犠牲者の名前だけで埋められた。この記事をきっかけにフルページにペイントする現在のフォーマットが誕生した。

1

『STOP WAR』

ロシアがウクライナへの侵略を開始した2022年2月24日に、その侵攻を伝えるニュースに憤りを感じ制作した一枚。これまでにも、度々この戦争に関する作品を作っている。

褒められたのはなぜかを分析する。

「面白さを言語化できたら、世の中のお笑いレベルの総量が上がる気がする」

WORK 芸人

NAME 高比良くるま

「あんまり覚えられないので、記憶を外部に置いている感じです。見れば思い出すから」とくるまさん。メモは自分なりに組み立てたメソッドのひとつだ。「反省点は出番の合間とかに相方とパーッと喋る。過程はメモせずに、ネタの大本を書き換えちゃいます」

photo: Naoto Date
text: Neo Iida

昨年の『M-1グランプリ』の敗者復活戦で見た、令和ロマンの漫才「ドラえもん」は熱かった。MOROHAが歌う主題歌とか、大山のぶ代から水田わさびに声が変わるとか、「わかる！」が攻めてくる感じ。決勝進出ならずも、記憶に残る4分間だった。そんな令和ロマンのYouTubeチャンネルを見ていると、「1回戦対策講座」や「敗者復活戦の攻略法を考えよう」といった考察動画が目立つ。もちろんエンタメではあるけれど、根底にはボケの高比良くるまさんの分析力が生きている。

「気温とか音響とか、その時々の環境を考えるのが好きなんです。例えば敗者復活戦の会場は野外の六本木ヒルズアリーナで、東京中の風が流れ込む。日が沈むとめちゃくちゃ寒いんです。寒いとお客さんは笑いづらくなるので、出順が遅いときついんですよ。そうなったらどうしようかなと考えて」

12月の吹きさらしは確かにきつい。いくらいいネタができても、お客さんが万全の状態じゃないと笑いは起きないもんなあ。

「あと客席のガンマイクが演者を追いかけてくるのが面白いなと思ったんです。ガンマイクが左右に動くと僕が無茶苦茶してるふうに見えるから、ネタにその笑いが乗っかるんですよ。『M-1』ではそういうボーナスポイントも取りに行ってます。カラオケ採点でしゃくりとかビブラートで点数ひたすら上げるみたいな。実力とかフィジカルな質とか声量とか演技力みたいな面では、俺らは準決勝に行ってる人たちの中でも下のほうだと思うんで、コツコツ足していく」

いやいやそんなこと……と素人は口を挟みたくなるけれど、これは芸人の頂上決戦の話。きっと我々には見えないパンチやキックが山ほどあるし、くるまさんによる自己分析ではそういうことになるらしい。その思考はメモしておくんだろうか。

「書く脳の人じゃないんですよ。発話の脳みその人なので、人に聞かれて喋ったときに思いつくし、筋道が立つんです。文字で書こうとすると矛盾しちゃうというか」

ただ、iPad miniには考察の跡があった。

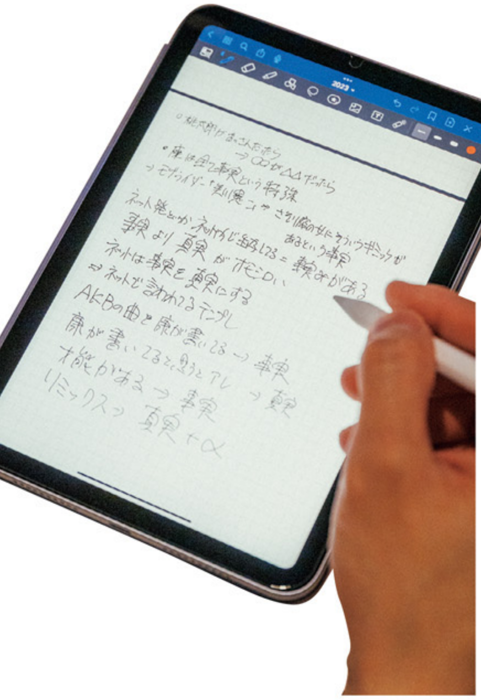
「普段は書かないんですけど、これは気になったのでまとめました。先輩が俺らのABCお笑いグランプリのネタを見て、『おもろかった』って言ってくれたらしいんです。〝AKB48の歌を秋元康先生が歌ってたら〟っていうネタなんですけど、『お客さんに想像させる感じが落語みたいだった』って。それを聞いて、じゃあ何をもっておもろかったんだろうと考えたんです。あれって分解すると『桃太郎がおっさんだったら』みたいな、何かと何かをかけあわせるネタと一緒なんです。俺たちの独自性としては、まず『AKB48の歌を秋元先生が書いている』っていう事実があるんですよ。それに対して、『秋元先生というおじさんが若い女の子の歌を書いてる』っていう真実がある。真実のほうが事実よりちょっとおもろいんです。基本的にみんな事実で生きているから、真実を見せないように事実を提示して、後から真実が追い越してくるのがおもろいのかなって」

なるほど、「おもろい」を感想で終わらせず、その角度で掘っていくんだ。

「ニュアンスをメソッド化したいんです。お笑いって感覚的すぎるので、なんで面白いのか言語化できたら人に伝えられるし、世の中のお笑いレベルの総量が上がる気がして。友達を川に落とすようないじめもなくなるんじゃないかと思う。それに、今の日本で最先端と思える分野ってあまりないけど、お笑いは追求する価値があると思うんです。学問とされないものなので、研究してる感じですね。新薬を作るみたいな。メソッド化したものを、笑いのズレが起きている現場に注入して、お笑い全体をよくしたいし貢献したい。そう思って無理やりやってるのが僕の活動です」

高比良くるまの仕事内容

所属する「神保町よしもと漫才劇場」の企画ライブに参加する他、大阪や京都、兵庫など全国各地にある吉本興業の劇場に出演している。即興漫才ライブ『令和ロマンのR2D2』では、来場するお客さんからのテーマでネタを作る。また、先輩や同期とのライブにも出演する。合間にテレビやラジオ、Podcastなどの収録や、自分たちで企画するYouTubeの制作を行う。またM-1戦士として毎年夏には『M-1グランプリ』にエントリー。優勝を目指す。



上／最近買い替えたiPad miniで「おもろい」を考察。「モグライダーさんの『さそり座の女』のネタも、『ただの歌詞じゃん』が事実で、『誰かが聞いてきた』が真実。完全なファンタジーより、それぐらいの塩梅がいま面白いんだろうなって」　下／2018年の初舞台以降、いつどこで何のネタをやったかをすべて記録。「神保町」と検索すれば直近でスポーツのネタをやったとわかるので、内容を変更することも。ネタの台本の他、"小手先"と呼んでいるパーツも入っていて、漫才コントのとき、適宜組み合わせてネタに入れるという。「しょうもない、ちょっとしたボケ。例えば『"借りイチですね"って"貸しイチ"のとき言う言葉だろ。借りるときに言うな』みたいな、誰が言っても冗談とわかることをバーッて入れてある。組み合わせるだけなんで、カロリーの低い漫才の考え方だと思います」

PROFILE

たかひら・くるま｜1994年、東京都生まれ。慶應義塾大学のお笑いサークル「お笑い道場O-keis」に入部し、1学年先輩の松井ケムリとお笑いコンビ「魔人無骨」を結成。複数のコンビを組み、魔人無骨以前はコントを軸にしたツッコミ役が多かった。学生お笑いサークル連盟長も務める。2017年にNSC東京校23期生となり、首席で卒業。芸歴1年目でヨシモト∞ホールのファーストクラスメンバーに昇格。改元を機に令和ロマンに改名する。2020年、『NHK新人お笑い大賞』優勝。現在『アッパレやってまーす！火曜日』（MBSラジオ、隔週レギュラーコーナー）、『令和ロマンのご様子』（stand.fm）などに出演中。YouTubeで『official令和ロマン』も配信中。

現在、昨年のファイナリストから準決勝進出者までが全国を回る『M-1ツアースペシャル2023』の真っ最中。この日の令和ロマンは1部と3部に出演し、「千と千尋の神隠し」と「パン屋」のネタを披露。『ヴァイオレット・エヴァーガーデン』を観て泣く坊、最高。

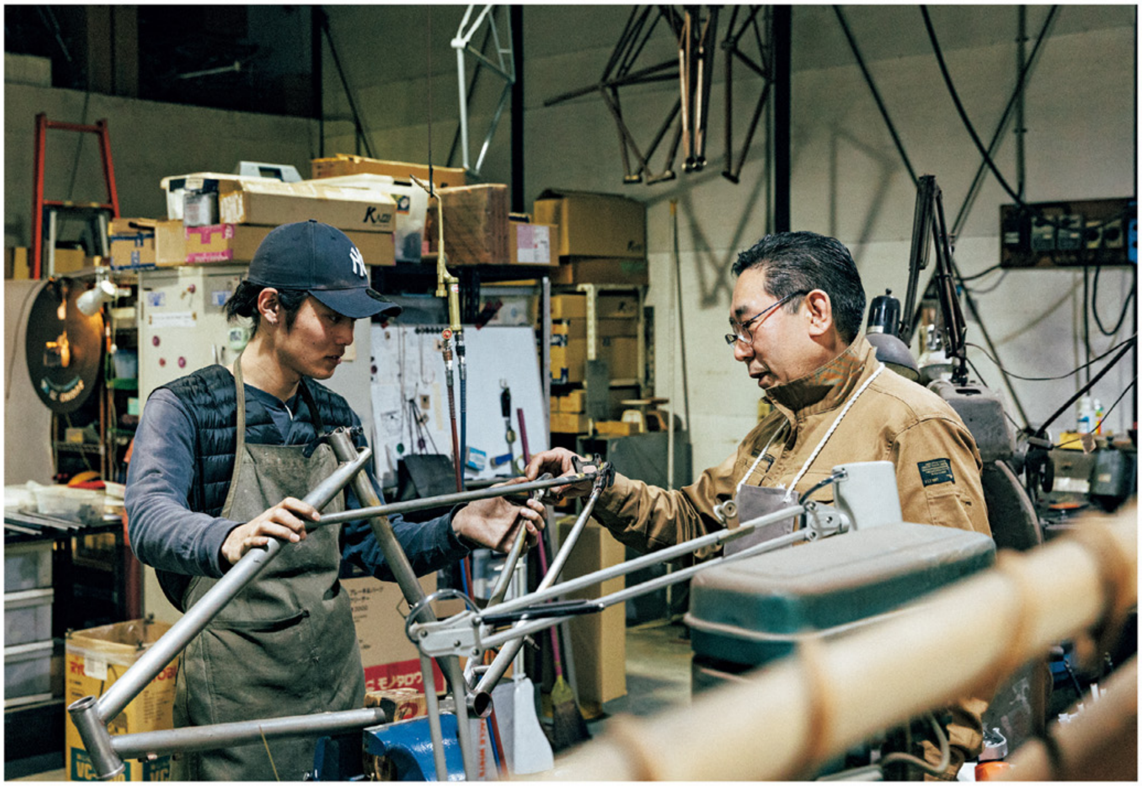
「1mmのズレが影響する世界で、
合格点を取り続けることが大事」

WORK フレームビルダー

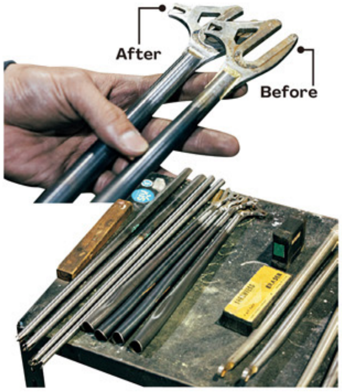
NAME 原田海斗

常に80点を狙い続ける。

photo: Naoto Date
text: Shintaro Kawabe



「仕事の入り口までは教えますが、完成までの工程をどう取り組むか、自分の頭で考えるのが大事だと思っています」と師匠の村山さん。原田さんが個人で引き受けた仕事も村山さんが毎度しっかりチェックして、80点をキープし続ける。技術的なアドバイスだけでなく雑談も飛び交う。親子のような師弟関係がいい仕事を生み出すのだろう。



パーツを溶接してフレームにする前に、部品の仕上げとして根元にくぼみが出るように削る。右が完成前で左が完成後。削り過ぎると後戻りできなくなるので特に神経を使う作業だそう。「この工程だけに限らずですが、焦らず確実にやるのが大切なんです」と原田さん。

ミリ単位の世界と向き合う「フレームビルダー」という職業がある。自転車フレームを作る仕事なのだが、その業界で一人前の職人を目指す20代、原田海斗さんと出会ったのは幡ヶ谷『Wood Village Cycles』。自身で自転車フレーム製作や修理を手掛けつつ、1987年から競輪選手用フレームを製作する神奈川県の工房『ストラトス』で、師匠と2人で働いている。そもそも、自転車のフレームってどうやって作られるの？　気になって彼の職場を訪ねてみた。

住宅地の一角にある工房は思ったより小規模で、扉を開けると機械類に囲まれた原田さんと師匠の村山司さんがいた。ちょうど溶接の作業中で村山さんが原田さんの仕事を静かに見守っていた。「1㎜でもどこかにズレが生じるだけで、選手のパフォーマンスに影響するので責任重大ですね」と原田さん。競輪選手とのヒアリングを重ねて村山さんが作った緻密な設計図を基に原田さんがパーツを製作し、村山さんが仕上げるという役割分担があるそう。鉄フレームにこだわり、全工程がハンドメイド。職人の目と手が完成度を左右する繊細な世界だ。

「常に100点の仕事を目指していますが、まずは確実に80点を取り続けられるように。仮に90点の仕事ができても、その次が60点ではダメ、と村山さんから教えを受けたので」。仕事にバラつきがあるようでは半人前、合格点を狙い続ける姿勢が大事だけど、常に完璧を目指すと無理が出るということ。「約45年、この仕事をやってますが、80点を維持し続けるほうが難しい。経験を重ねるほど、より細かな粗が見えてきます。だから100点って絶対にできない。もちろん、近づこうとしていますが、平均点が80点というのが理想です。そのためにもミスをなくす、というのが肝要かと」と村山さんは付け足す。永遠に道を窮めることはないという、まさに求道の精神だ。

師の教えを胸に原田さんはのびのびとかつ工夫しながら日々の仕事に取り組む。「部品の洗浄などの下処理こそ丁寧に。小さなゴミが付いていると、パーツを削りすぎてしまうことがあるんです。集中力が途切れないよう休憩をこまめにとるよう心がけています」。適度な緊張感がありながらも親子のような2人。原田さんの職人求道は始まったばかりだが、日々の心がけが成果に影響するのはものづくりに限ったことではない。大切なのは気の持ちようなのかも。

原田海斗の仕事内容

フレームを仕上げるのが師匠の村山さんの担当で、原田さんの仕事は主にその前段階であるパーツの製作。選手一人ひとりの細かいオーダーに合わせて、鉄製のパーツの長さを調整したり、パイプを曲げたり、削ったり、というのが実際の作業だ。朝11時に工房に来て、ウォーミングアップとして取り掛かるのは個人で引き受けるフレームの修理やラック作り。そこから競輪用フレームの細かい仕事に手をつけ始める。その後、何度かの休憩を挟みながら19時には帰宅する。

PROFILE

はらだ・かいと｜1998年、大阪府生まれ。競輪選手であるお父さんの影響で、小学生の頃から自転車に夢中に。フレームビルダーになることを志したのは、高校時。BMXのレースでの怪我をきっかけに選手活動を休止していた原田さんは、父の紹介で競輪フレームの工房を見学することに。工程の細かさに感銘を受けた原田さんは、選手から一転して生産者としての道を進むことを決意し、専門学校「東京サイクルデザイン」に進学。卒業後、同校で教員を務めた。職場の同僚であり、かつては原田さんの先生であった村山司さんに弟子入りを志願。その申し出を1年間続けた一昨年、『ストラトス』に入門。今の目標は競輪選手の父と弟のフレームを手掛けること。

左／「当時は100点のつもりでしたが、今点数をつけるなら40点（笑）」という二十歳の頃に作ったマウンテンバイク用のフレーム。上左／パイプを曲げる道具「ベンダー」を持ち運べるように自作。上右／金具の溶接を接着剤で作り上げたラック。この手法とベンダーのおかげでイベント時にもラックを作れるように。右／個人で受ける仕事も『ストラトス』で行う。

WORK インテリア デザインスタジオ

NAME 〈Green River Project〉
Aaron Aujla
Benjamin Bloomstein

常識を逸脱したほうが、いい方法が見つかる。

先日のパリコレクションで〈BODE〉のランウェイに突如現れたアメリカの片田舎風の小屋に目を奪われた。手掛けたのは、ブルックリンを拠点に「グリーン・リバー・プロジェクト」（以下GRP）として家具作りや内装業を行うエーロンとベンの2人。エーロンが〈BODE〉のデザイナー、エミリー・ボーディのパートナーでもあるため、ダウンタウンにある同ブランドのお店の内装も手掛け、国内外で大いに注目を集めている。

2人の仕事は、形やデザインよりもコンセプトありきで、物語性を重視することが多いという。それゆえ、すべては膨大な2人の対話から始まる。「僕がベンにアイデアを投げたら、それに対して彼は次のレベルに昇華した意見をくれる。そういうやり取りを経て、制作に取り掛かる。例えば精神性について話してたときに、ベンが1年半前に買って自宅に置いてる1820年代の木製の教会の聖具が話題に上がった。当時僕は〝なんでこんな妙なものを買ってんだ〟って思ってたんだけど（笑）、それが対話を経て何が彼を惹きつけたかがようやく僕にもわかり、そうしたことが作品にも反映されていく」（エーロン）。「技術的な意味でカービングも気になっていたから、まずは人間の手や足を木で彫ってみよう、とこの手（左ページ）を作ってみているのが今の状況だよ。でもまだどう使うかはわからないし、必ずしも使うとも限らない。エクササイズみたいなものなんだ。脳と手を繋げていく作業というか」（ベン）

何もない宇宙にポツンと石を投げるような作業から始まり、無限の手探りを繰り返すような彼らの無謀さ、そしてその勇敢さは、実はとても重要なこと。次の時代を作るいい仕事って、やっぱりそういうことから始まるのかも。「わかりきったものを作るのは痛々しいくらい退屈さ。アイデアがあっても、それをどう実現したらいいかわからないときこそが面白い。その答えをなんとか探り当てられた瞬間にベストな仕事ができたと感じるんだ。もちろん失敗することだってある。でも、難題に取り組むほど、いい結果が出るものだと思うんだ」（ベン）。

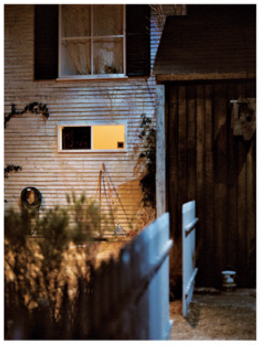
「そのとおりだね。僕らは〝まだ存在しないユニバース〟を作ろうとしてる。この間ラムダン・トゥアミが〈BODE〉の店に来て、『よくこんなシットなマテリアルでいい空間が作れたな。俺も色々トライしたけど、こうはならなかった』と言ってくれた。店内には通常の施工会社だと絶対にやらないような手法で噴水が備え付けられていたりもするよ」（エーロン）

一見できそうに見えて、実は模倣するの

ブランクーシの彫刻のようだが、実はビーバーがかじった天然木をそのままオブジェクトに。

本来は外で使う建築資材のコンクリートブロックも、発想を変えれば立派なインテリアに。

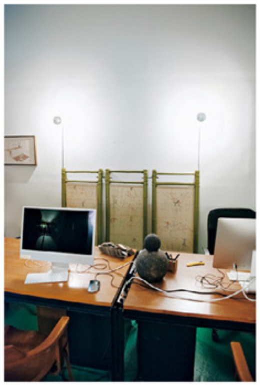
photo: Omi Tanaka
text: Momoko Ikeda



2016年より〈BODE〉のルックブックやランウェイのセットも手掛ける。今回のパリコレではケープコッドにあるような家を作り込むという大掛かりなセットに。「アメリカのものはパリで作れないからオリジナルを大量に送る大変な仕事だったよ！」（エーロン）

壁全面を木で覆い、アンティークで飾られた手作り感のある空間は、懐かしいような、それが逆に新しいような、なんとも言えないホッとする気持ちにさせてくれるNYの〈BODE〉の店内。本文にも出てくる「噴水」は、ノリで置くことになったそうだが、ちゃんと水も出る。いわゆるな洋服屋さんとは違う発想、オリジナルな手法で施されている。

「内装デザインについては、僕がライターでベンがエディター。家具作りではその逆でベンがライターで僕がエディター。お互いに客観性を持ってサポートし合っている関係さ」とエーロン。今試行錯誤中の手の形のカービングに、小物置きになりそうなこれまたカービングされたボックス、そしてビーバーがかじった木をそのまま使ったオブジェクト。大事な仕事道具の一つであるカラーチャート。繊細な色味のチョイスが彼らの作品を引き立てる。



「パソコンの前で仕事をすることはほぼないから、ここはいつも無人空間さ」という殺風景なデスクスペースと、それに比べて珍しい道具類がずらりと並ぶスタジオスペース。使ったことのない道具も、惹かれたらとりあえず買って試してみるそうだ。

は難しいテクスチャーや技術が随所にあるのがGRPのものづくり。そんな彼らが仕事で大事にするのは、技術や経験ではない。「何より仕事への向き合い方だね。今まで誰もやったことがないことをしようとしてるわけだから、やり方なんて誰も知らない。それに対処できるかどうかが鍵になる。やり方を探って学んで解決策を見つける。そのリズムが大事だね」（ベン）。「特定のスキルがあると、それが逆に重荷になることもある。伝統的な方法が通用しないときにどう対処していいかわからなくなってしまう人もいるよね。だからルールなんて知らないほうがベター。みんなで一緒に学んでいるわけだからね。僕らの仕事ではエゴは大敵だよ！」（エーロン）

グリーン・リバー・プロジェクトの仕事内容

「アーティストのための家具作り」をテーマに活動をスタートしたのは2017年。以来、〈BODE〉と同じビルにあるスタジオでの家具製作に加え、個人宅やショップ、『Dr. Clark』など、NYで話題のレストランやバーの内装デザインを手掛ける。普段スタジオでは「仕事をするぞ」と意気込むのではなくプライベートの延長のようなリラックスした過ごし方をし、パリやインドなどの異国へも、インスピレーションを得るための旅に頻繁に出る。

PROFILE

右／エーロン・アウジュラ｜1986年、カナダ生まれ。アーティストのネイト・ローマンのアシスタントを経てGRPを設立。「正直で自分のビジョンに忠実な仕事が身上。ジュリアン・シュナーベルの映画『夜になるまえに』はそのいい例。映画というメディアの形態をも変えた価値のある仕事だね」

左／ベン・ブルームスティーン｜1989年、コネティカット州生まれ。高校をドロップアウトして、ウッドワーカーとしての訓練を始める。アーティストのロバート・ゴーバーの下で働いた後、GRPを設立。「奇妙なDIYをする人たちに囲まれて育ったから、人知れず野菜を育てたり、家を建てたり、自分で工夫して面白いものを作っている人たちの仕事が好きなんだ」

面白さを言語化して、響く企画書に。

内容はギュッと凝縮。わかりやすく意図を伝える

『ここにタイトルを入力』第2弾で放送されたドラマ「足りない世界で愛を描く。」の原案。画面上のゲージが減るごとに演者の衣装や小道具がチープになる。企画書の表紙はタイトルと自分の名前だけ。ページ数も5P程度と少なく、手に取った人が負担なく最後まで読めるよう心がける。

まずは企画意図をしっかりと。

のちに『ここにタイトルを入力』初回放送「バイきんぐ小峠の今夜もグダグダ気分」になる、「MCだけ入ります。」の企画書。1ページ目上段では「MCとひな壇の時間の分断により、一方通行なツッコミが今までに見たことのないトークバラエティを生むのではないか!?!?」と書かれている。

具体的にどんな内容か、番組概要を説明。

続いて具体的にどういう番組なのか、どう面白いのかを噛み砕いて伝える。なるほどひな壇の芸人たちは先撮りのVTRで、MCはその映像に対してツッコミを行うんだなという基本設定がここで見えてくる。ページをめくると、想定キャストの写真入りのより詳しいイメージ図が。

内容によっては、ペライチでまとめることも。

2022年に放送された『あえいうえおあおお』の企画書。フジテレビアナウンサーが街録インタビューを行うも、途中で難航。やがて原田さんとの掛け合いがメインとなり、心情を吐露していく。構造がシンプルな場合は、このように企画書が一枚に収まることも。大事な箇所は色分けで強調。

上／最後の「ポイント」では、作り手視点の企画の面白さだけでなく、番組を俯瞰した制作のメリットを的確に示す。視聴者がどう感じるか、想定しうるSNSの反応やTVerの反響なども盛り込む。最後だから記憶に残りやすいのかも。

下／企画書に起こすまでに思いついたアイデアはスマホにメモし、思考するときは愛用の無地のノートに理路整然と書いてまとめる。カフェなどで作業することはほとんどなく、「自宅にこもりまくってます。家が一番仕事しやすいです」とのこと。

「バラエティを作るからこそ、雰囲気で流さず、文章できちんと伝えたい」

WORK テレビディレクター

NAME 原田和実

photo: Naoto Date
text: Neo Iida

あらゆる番組は一枚の企画書から生まれる。フジテレビに目を向ければ、常に特番や深夜枠の企画募集が相次ぎ、ディレクター陣がこぞって企画書を送り続けているという。ベテランから若手まで猛者がひしめくなか、新卒で異例のディレクターデビューを果たしたのが、現在入社4年目の原田和実さんだ。初作品は、若手ディレクター育成特番『567↑8』（2021年）でオンエアされたフェイクドキュメンタリー『ハイパーハードボイルドひとリポート』。なんでも、新入社員なのに入社3年目くらいからが対象の募集に手を挙げたんだそうだ。

「年次に厳密な規定があったわけではないんですが、なんとなくそんな雰囲気があって。でも『めちゃ×2イケてるッ！』の総監督・片岡飛鳥さんが企画演出を手掛ける一大プロジェクトだし、僕も参加したいなと思ったんです。それで、前から持っていたネタを企画にして持っていきました」

入社以来企画を出し続けても通らなかったのに、競争率の高い募集でまさかの採用。さては企画書の作り方を変えた？

「いえ、特に変えてないんですよ。多くの企画はタイムテーブルを見ながら、面白さだけではなく、その番組が今後どんなブランドになるのか、継続性はあるのかを様々な側面から判断される。その点、飛鳥さんは面白さを最優先に企画書を見てくれた気がします。『1年目が変なの持ってきたな』って。それが幸運でした」

原田さんの企画書を見せてもらったら、想像と少し違った。テレビの企画書って、「面白いですよ！」って写真やイラストがドーンと入ったテンション高いものだと思ってた。あるいは視聴率やターゲットのグラフや数字がびっちりとか。でもそうじゃなくて、文章できっちり伝えてくる感じ。

「僕は企画意図はしっかり書きますし、最後には『こう見せたい』というポイントを必ず入れています。それもあってか、よく『原田の企画書は小説っぽい』って言われたりも。飛鳥さんは言語化をすごく大事にされていますし、その点は社員もみんな意識しているんです。バラエティを作るからこそ、雰囲気で流さず、文章できちんと伝える。これはフジテレビに脈々と伝わるDNAみたいなものかもしれません」

そうか、「面白い」の感覚は千差万別だから、原田さんが何をどう面白いと感じているかを言葉で伝える必要があるんだな。では、どうやって企画に落とし込むんだろう。

「アイデアはスマホのメモに書いておいて、いざ肉付けするときにいったんノートやホワイトボードに書いて、整理してから企画書にまとめています。特に今までは思いつきだけで進んできたところがあるんですけど、これから上の時間帯を目指すにあたってはゴールデン帯と深夜帯の違いなんかも考えなくちゃいけない。そういう要素も考えながら構成を詰めていきます」

『ひとリポート』の実績もあり、翌年の深夜若手枠で『ここにタイトルを入力』が始動した。回ごとにクイズ、ロケなど異なる構成で、いずれもトラブルを含んでスタートするのが特徴だ。年末年始で出演者が集まらない回なんて、パネラー5人を合成のアンミカさんにしてしまい、影武者説が出る始末。SNSを騒がせる発想の源は？

「大学でようやくテレビを見始めたくらいなんです。そもそも僕は大学で劇団をやっていた頃から、システムやギミック、メタ構造が好きだったので、その考え方をいろんな番組を見ながら『このずらし方や崩し方をするとこうなるな』とテレビに置き換えていった感じです。ロジックを組み立てる上で、演劇や広告に刺激を受けていることが多い気がします」

テレビっ子だらけの業界で「テレビを見てこなかった」のカードは強い。固定観念に囚われず、自由に発想できるからだ。それに、好きなコンテンツを選べる今だからこそ、偶発的な出合いを生むテレビの力は大きい。原田さんには世間がザワつく番組をガンガン作っていってほしい。

「やっぱり楽しくてやっているので、自分がときめくほうに向かっていけて、それが周りの皆さんも喜んでくれるのが一番いいんじゃないかなと思いますね」

原田和実の仕事内容

日頃は『ネプリーグ』のADとして番組制作に携わる。その傍ら、社内での企画募集にトライし、通ればディレクターとして番組を担当。編成やプロデューサーと相談しながら出演者の人選、セットの作り込み、演出の色々まで段取り、台本に落とし込んでスタッフに周知する。収録時はスタジオ内のフロアでカンペを書いて演者に指示を出す。『ここにタイトルを入力』では冒頭で出演者に企画趣旨を説明するくだりがあり、原田さんが自ら登場する。

PROFILE

はらだ・かずとみ｜1996年生まれ。2020年、フジテレビ入社。1年目で『ネプリーグ』に配属され、ADとして働く傍ら社内の企画募集に応募。2021年に『567↑8』内の「ハイパーハードボイルドひとリポート」でディレクターデビュー。同年、深夜帯で『ここにタイトルを入力』をスタート。奇抜な企画がSNSを中心に話題となり、現在第3弾まで作られている。第2弾では50本の企画を書き、うち6本が番組化された。2022年には6週連続で放送された『あえいうえおあお』や単発特番『デタラメ賛』と単発の特番を担当。同年の『内村と相棒』では「内村光良さんがいつも持っている棒」にフィーチャーしたVTRを制作した。今夏から新企画が始動予定。

原田さんがディレクターを務めた、バラエティ番組。

『ここにタイトルを入力』

（2021年〜）

深夜のチャレンジ枠『水曜NEXT!』でスタート。回ごとにクイズ、ロケなど独立した構成の30分番組で、いずれも「ロケのデータをなくしてしまったので防犯カメラなどの映像で構成」「MCの予定がダブルブッキングされているので2番組に同時出演」など、違和感やトラブルを抱えた形で番組が展開していく。現在第3弾まで放送されている。

『567↑8』

（2021年）

MCの江頭2:50さんが覆面姿の若手ディレクターたちを従え、彼らが作った映像を鑑賞する深夜特番。原田さんの作品は、劇団ひとりさん主演の『ハイパーハードボイルドひとリポート』。「売れたくない」と局を脱走しようとし、スタッフに喧嘩を売るハチャメチャな姿に迫る。片岡飛鳥さんのブラッシュアップを受けて作り上げた。

どんなときでも余裕を見せる。

1. 壁には設計士さんが開業祝いにくれたディフューザー。「コーヒーに香りってタブーですけど、うちはありかなって」 2. ハイスツールは〈WEND〉のファーストモデル。1脚持っていて、新たに3脚作ってもらったそう。「昔の型をオーダーって失礼な話ですけど、思い切って桜井さんに話したら『前のモデルもこだわり持って作ってたからいいよ』って。嬉しかったです」 3. 棚には〈Taguchi〉のスピーカーがぴっちり。「その見積もりに来た工場長のエリックさんに予算が足りないと伝えたら呆れられて。でもエリックさんの私物の試作品を貸してくれました。いつか買います！」 4. ブランケットはちょっと斜めにしておくと、「店に動きが生まれる気がする」そう。

ワンオペなので、コーヒーはカウンターに取りに来てもらうことも。3月まではスイーツを作ってくれていたTOMOさんが店に立っていたし、今も近所に住むデザイナーのフクナガコウジさんがレコードを流す。店はいろんな人の支えで回っている。ラテ¥600

「『休んでないですよね？』って言われても、『全然余裕です』って答えてました」

WORK 『AUTUMN』店主

NAME 林 翔

弦巻に『AUTUMN』というカフェができたのを知ったのは、去年の秋だった。会う人、会う人「林くんが店を開けた」と嬉しそうに話すので、まだ見ぬ〝林くん〟に興味が湧いた。このご時世、インスタに店のアカウントがないのもまたミステリアスだった。

「インスタ、やってないんですよ。やらないっていうポリシーがあるわけじゃないんですけど、なんとなく『今日やろうかな』と思えたときに始めればいいかなと思って」

いざ対面した〝林くん〟こと林翔さんは、明るくて、柔らかかった。バリスタって職人気質なイメージがあるけれど、軽やか。店のど真ん中にある大きな木製のカウンターで、世間話をしながらオーダーを受け、エスプレッソを落とす。店に漂う緩くて快活な空気を、林さんが作っている感じがした。

「普通は、動線を考えて入り口近くにエスプレッソマシンを置いて、客席を増やすことが多いんですよね。でも僕は中央にこのカウンターを置きたかったし、天井まである棚も造りたかった。後先考えなかったのもありますけど、この内装だったらみんなびっくりすると思ったんです。だからたまに『誰が絡んでるの？』って聞かれます。そんな人いないのに(笑)」

確かにこの造作の細部にまでこだわった重厚な内観を見たら、出資者がいるはずだとか、持ち家なんじゃないかとか、邪推したくなるのもわかる。でも『AUTUMN』は、間違いなく林さんが自力で立ち上げた、人生初の店だ。都内にあるいくつかのコーヒーショップで働いたのち、フリーランスのバリスタに。そこからは友達の店舗に入ったり、ポップアップでコーヒーを淹れたりしながら、出店の機会を窺っていたという。

「2年間くらいのほほんとしてたんです。コーヒーだけじゃなく、家具屋で働きながら解体現場の仕事をしたり。そんな感じなのに縁あっていい洋服をもらえたりするから、周りから『林くん、どうやって生活してるんだろうね』『そんなお金どこにあるの？』って思われてたらしくて」

身近に一人は必ずいる、いわゆる「普段、何をしてるかわからないヤツ」だった林さん。流れに任せて謎めいたキャラクターを引き受けてきたけれど、ついに店を始めたら、そのムーブがいい方向に働いたのだという。

「後付けなんですけど、僕が楽しそうにしていたら、自然とそういうお客さんが増えてきた気がするんです。頑張ることは大事だけれど、全面に出してしまうと大丈夫かなと心配されたり、あるいは励まされたりする。でも店ってそういうのじゃない気がして。店主が余裕を見せていたら、余裕あるお客さんが集まってくる。ポジティブな空気が繋がっていけばいいなと思うんです」

photo: Jun Nakagawa
text: Neo Iida

PROFILE
はやし・しょう｜1989年、福井県生まれ。大学卒業後、数軒のコーヒーショップで働き、のちフリーランスのバリスタに。家具屋や解体など様々な仕事も経験。〈エンダースキーマ〉の展示会ではコーヒーを淹れるための木製カウンターを自作した。蔵前で物件を探したが、友人数人から「弦巻に物件が！」と知らされ、ヴィンテージマンションの1階にあった現状渡しだった元タイ式マッサージ店舗に一目惚れ。「解体費用は自分で持ちます！」と手を挙げ権利を勝ち取った。日頃の余裕のせいか、隣の寿司屋の大将からは「ぼっちゃん」と呼ばれている。AUTUMN○東京都世田谷区弦巻5-6-16　☎なし　8:00〜17:00　火・水休

開店すると、ぽつりぽつりとお客さんがやってくる。犬を連れたカップルに、年配のご夫婦、赤ちゃんを抱っこした女性。テーブルがいっぱいならカウンターでスタンディングというのもアリだし、みんな思い思いに過ごしている。オープンわずか4か月でこの空間が出来上がったのって、結構すごいことなんじゃないか。

「最初の2か月は休まず営業したのが良かったんじゃないかなと思います。絶対に店を開けてたから毎日来てくれる人もいたし、横の繋がりも生まれて。それに、どこかに『ゆとりじゃないから』っていうアピールもありました。体力もあるし、頑張れますって。『休んでないですよね？』って言われても、『全然余裕ですよ』って答えてました」

売り上げがなければ家賃は払えない。でも混み過ぎてお客さんがゆっくり過ごせなくなるのは避けたい。店主なら誰もが抱える葛藤は、ぐいとカウンターに押し込んでしまおう。

「店は僕の夢だったので、開いた時点で夢は叶ってるんです。だから毎日楽しいし、全然余裕です。裏ではめっちゃヒーヒー言ってますけど(笑)」

林 翔の仕事内容

バリスタ兼店長として、コーヒーを淹れながら接客全般を行う。エスプレッソは〈ラ・マルゾッコ〉。ドリップは真っ白なアメリカ製の〈コートストーリー〉の「ジーナ」を使って淹れている。ドリッパー下部に弁が付いているため、湯を注いだらいったん弁を閉じることで、じっくり抽出できる優れもの。コーヒー豆は経堂の『Raw Sugar Roast』のものを愛用。店が一段落したらカウンターでゆっくり白湯を飲む。営業中は店を離れられないので、昼食はカウンターでおにぎりをササッと。

気持ちよく一日を始めるために、開店準備はぬかりなく。

5. 自宅からは自転車で30分ほど。朝は冷えるので防寒して、店に着いたら薄着に。6. 店では身ぎれいに。バックヤードには〈エンダースキーマ〉や〈オールデン〉などの革靴が置いてあり、出勤後に履き替える。〈ビルケンシュトック〉のサンダルを履くことも。服がしわくちゃにならないよう、スチームアイロンも完備。7. オープン前の最も大事な儀式、トイレ掃除。フロアは店が開いてからでも掃除できるけど、裏にはなかなか行けないから。8. フロアは〈ダイソン〉で。エントランスの掃き掃除はかっぱ橋の〈かなや刷子〉の箒を使っている。コーヒー豆を払うブラシも革靴を磨くブラシも〈かなや刷子〉で揃えている。「ご近所さんと挨拶できるのがいいんです」

初心を忘れず、我慢せず、嘘をつかず。

左／今回の印刷は、都立大学にある『PRINT + PLANT』にて。昨年、大学の知人を介して知って以来、活版印刷といえば最近はこちらにお願いしているという。上／試し刷りを重ね、より明るいトーンに調整した。今回は色味の調整が主だったけれど、かつては金と銀のグラデーションにする予定が実際に刷るとしっくりハマらず、その結果ブルー一色になる、など大きく変更したこともあるそう。下／二色刷りで完成。『代官山 蔦屋書店』他で販売中(¥330)。

「直接話して、実物に触れてこそ、良し悪しを判断できるんです」

WORK グラフィックデザイナー

NAME 脇田あすか

PROFILE

わきだ・あすか｜1993年、愛知県生まれ。東京藝術大学進学を機に上京。空間デザインからグラフィックまで幅広く学ぶ。2013年、初めて『TOKYO ART BOOK FAIR』に行って刺激を受け、グラフィックデザイナーを志す。以来、学生時代から今に至るまで出展を続けている。2018年、東京藝術大学デザイン科大学院卒業時に、代表の祖父江慎さんに声を掛けてもらいデザイン事務所「コズフィッシュ」に入社。のちに独立したいことは相談した上で働き始め、2020年に独立。書籍のデザインの他、「PARCO」「ルミネ」のシーズンビジュアルや『代官山 蔦屋書店』のフェアでのアートディレクションなどを手掛ける。6月頃『OFSギャラリー』で展示予定。

脇田さんがこれまでに制作してきたものの一部。丸みを帯びた図形に、細いラインが走るデザインが印象的だ。ブックデザインでは表紙に箔を使うこともあるという。左上の『とっておきドラえもん』シリーズや、左上から3、4点目の歌人・伊藤紺さんの諸作品などを手掛ける。左側のまとまりは個人制作物で、どれも『TOKYO ART BOOK FAIR』に出品。ポスターからポストカードまでサイズは様々で、リソグラフや活版など印刷方法も多様。

photo: Kazufumi Shimoyashiki
text: Ryota Mukai

本の装丁やポスターなど、いわゆる紙もののデザインやディレクションで知られる脇田あすかさん。その一方で、学生時代からずっと個人的な制作も続けていて毎年『TOKYO ART BOOK FAIR』に出展している。そのモチベーションは一体どこから？

「グラフィックデザインをやりたいと思ったきっかけが、大学生の頃に行った『TOKYO ART BOOK FAIR』だったんです。格好いい大人がたくさんいて、少し背伸びしたくなるような雰囲気があって。当時、ようやく憧れを見つけた！　と思ったんです」と脇田さん。自分のスタート地点に毎年立ち戻る、いわば初心にかえる体験は長く仕事をしていく上で大きな支えになるに違いない。一方でこんなことも。「好きなように制作できるのはやっぱり楽しいですよね。というのも、私自身、あまり我慢強くなくって……。仕事相手とこちらが目指している方向性が違うと、お互いに辛いじゃないですか。そんな齟齬をなるべく減らすように打ち合わせはできるだけ直接、対面でお願いしています。こちらの提案をどう思っているか、よくも悪くも反応がダイレクトに伝わってくるので」。結果、仕事を断ることもあるという。ものすごく真っ当に思えるけれど、実際にそうするのはなかなか勇気がいること。それも、かつて在籍していたデザイン事務所「コズフィッシュ」の代表・ブックデザイナーの祖父江慎さんからの教えを聞いて、腑に落ちた。「事務所で唯一くらいのルールが『秘密はOK、嘘は禁止』でした。言いたくないことは言わなくていいけれど、嘘は言っちゃいけないと」。これは今日からでも真似したい。

このなんともチャーミングな教えが如実に発揮された瞬間を目撃した。その日は新作のポストカードの印刷の日。現場で試し刷りを見て触ってチェックする脇田さんは「もう少し明るいトーンに」「青味をちょっと足して」「印圧を強めに」といった具合に、印刷所の方と話し合いながら、次々と微調整を重ねていく。確かにここに嘘はない。「印刷はできる限り立ち会うようにしています。調整のためでもあるし、こうしてデザインしたものを印刷してもらって形になる瞬間が好きなんです。人の手を介して自分だけのものじゃなくなる寂しさと、完成される喜びが一緒になったような感覚で。地味だけど、印刷された紙をトンボに合わせて裁断するときも達成感がありますね」

脇田あすかの仕事内容

オファーを受けて打ち合わせをし、それをもとにデザインを進める。平日は11時から20時頃まで事務所で働く。土日は基本お休み。右で紹介したポストカードは『代官山 蔦屋書店』で3月下旬から4月頭まで開催されたフェア『SPRINGSWING』に関連した作品。こちらの場合は、年始にオファーを受け、2月までにデザイン、カラー、使用する紙を決定。活版をオーダーし、3月頭に印刷する、という流れだったという。現在では常時20件ほどを同時進行している。

昨年から友人2人とともに借りている事務所での作業風景。左／デザインはまずiPadで。ある程度固まったら、モニターで文字入れなどを行う。使っているペンタブレットは〈ワコム〉。上／ブックデザインのための資料読み。打ち合わせでのメモもしっかり。6月発売予定のくどうれいんさんのエッセイ集の準備中だ。下／大好きだというトンボを切る作業。

時間をかけて関係性を築く。

「時々の色形や味わいを考慮して、畑の魅力をまるごと伝えたいんです」

WORK 農家

NAME 田中遼平

上／種は自身で採り始めたものと、譲り受けたものを合わせて全50種ほど。保存は冷蔵庫で。下／農地には棚田も少なくないので、大型機械は使わず、農具も活用。種採りに使う"ワラジゴロ"という木製ハンマー。

どれも五木赤大根だけど、サイズや形はもちろん、色づき方まですべて微妙に違っている。「不揃いで流通に適さないから一般的には規格外の扱いになるけれど、これも個性の一つ」

原川さんが毎週注文している「Mサイズ」には、15種類ほどの野菜が。箱には詰め合わせた野菜の特徴やおすすめの食べ方などが詳しく紹介された説明書を同封している。裏面には畑にまつわる日記も。

photo: Yasutaka Tomiyama
text: Ryota Mukai

長崎県雲仙市の農家・田中遼平さんの存在を知ったのは、同じくこの地にあるレストラン『BEARD』でのこと。シェフの原川慎一郎さんは「これは田中くんが育てた日野菜カブで……」といった具合に、必ず生産者と野菜の名前を挙げて料理を説明してくれるのだ。聞けば、田中さんは若くして独立し約5年になるという。一般に、農家というと種苗業者から種を買って作物を育てるのだが、彼は「種採り」という伝統農法を大切にしている。雲仙の在来種を筆頭に、育てた野菜から種を得て、それを植えて野菜を作り、また種を得て……というプロセスを繰り返して、品種を次世代に繋いでいるという。原川さんの料理を支えるその仕事を知りたくて、畑を訪ねた。

「種採り」の方法はいたってシンプルに思えるけれど、なかなか奥が深い。というのも、例えば何百個とできるナスの大半は当然出荷される。つまり種を採るのは、選ばれし十数個程度だというのだ。では、どのように選抜するのか？「色や形がいいものはもちろん、土や気候をはじめこの土地に合ったものから種を採っています。といっても、土地に馴染むには時間がかかる。20年、30年と長い時間をかけて関係性を作っていくんです」。さらりと言うけれど、そこまでのスパンでものを考えることってそうそうない。さらに「子供の成長を見守るのと似ていて、可愛くて仕方ないけど得意なことや苦手なこともある。野菜だって付き合うほどに欠点がわかってくるし、それは消せるものでもない。長所は伸ばしつつ、短所も含めてまるごと受け入れていくことが大切だと思います」とも。なるほど、マネジメントみたいなものじゃないか。それは何も種採り農家に限ったことではなくて、会社の職場環境も同じ。人と人の付き合いは一朝一夕で出来上がるものではないし、短所に思える性格も単に嫌いで済ませず、折り合いをつけながら関係性を築いていけばいいのだ。

コントロールできない自然と向き合うからこそできることも。田中さんの場合、それは販売方法の工夫に表れる。基本的には単品売りはせず、15種類ほどの野菜の詰め合わせセットを作って発送しているのだけれど、その組み合わせ方が面白いのだ。「例えば大根には寒さに強い種類、弱い種類があります。大寒波のシーズンには耐寒性に優れたタイプを重用したり。カブなら成長スピードが違う2種類を作付けして、順々にセットを組めるようにしたり。特性が違う野菜を組み合わせて補い合う。こうして野菜ひとつひとつに役割を与えるんです」。個性を見極め、個と個がきちんと生きるように一つのセットにまとめていくさまは、サッカーチームの監督が練り上げる戦術のよう。その時々のベストメンバーが収まるボックスは、県内はもちろん全国各地へ飛び立っていく。「お客さんに『生きてるみたいに新鮮だね』と言ってもらえたときにはいい仕事ができたかなと思います」

田中遼平の仕事内容

畑では、種まき、収穫、野菜の成長の確認などを、畑のすぐ隣にある一軒家では種採りや野菜セットの梱包・発送作業他、収穫物や種の保存・保管をしている。梱包・発送は火曜日をメインに、一部金曜日も行っている。それに合わせて、前日の月曜日と木曜日は畑での収穫作業が主になる。水・土・日は畑に出ていることが多く、ほとんど休みはない。朝は8時頃から夜は18時過ぎまで働く。春の種まきの時季には朝5時にスタートすることも。

上／長崎赤長カブの花。昨年秋に植えて、この3月に花が咲いた。今夏に種を採り、秋にまいて、冬にカブが収穫できるという。中／野菜の状態を仔細に観察するのも仕事のうち。こちらは雲仙の伝統野菜「雲仙こぶ高菜」。下／見下ろす範囲のほとんどが田中さんの畑。広さは約2万㎡。ここに辿り着くまでに歩き疲れるくらい広い。

PROFILE

たなか・りょうへい｜1992年、長崎県生まれ。鹿児島大学在学中に地域開発・国際協力を学ぶなかで農業における種の問題を知る。留学先のフィリピンで農家について調べているときに、同郷で種採り農家の岩崎政利さんの存在を知り、帰国後すぐに直接会いに行く。この出会いを経て農家になることを決意し、在学中から農家でインターンをして、卒業後には雲仙で研修をスタート。約2年半を経て独立し、現在5年目。研修の間も月に1回、岩崎さんのもとで学び、種を分けてもらっている。田中さんの野菜セットは通販も可能。野菜10種類ほどが入ったSサイズ(¥2,800〜)、15種類ほどのMサイズ(¥3,800〜)。詳しくはHP(tanakatane.thebase.in)で。

お金を目的に仕事をしない。

アトリエ内でまず目を引くのは、スケボー用のランプが設えられていること。これはスケボーができないPIGUさんが練習するためだったという。ここにも、かっこ悪い自分を隠さないことで、開かれた場所を目指すPIGUさんの姿勢を垣間見ることができる。3代目秘書のエルさんも、元気にスケボーを練習中。

フリーダムすぎる！　2022年、神奈川県綱島にオープンした〈TENBOX〉のショップ『Kenzai.Depot』に足を踏み入れれば、誰もがそんな感想を抱くに違いない。この日も、ディレクターのPIGUさんは知り合いの美容師さんに髪を切ってもらっているし、店奥に設えられたランプではお客さんがスケボーを滑っているし、かと思えば、店の隅で黙々とパターンを引くスタッフさんもいるし……という具合だ。これ、本当にショップなの？　というこちらの疑問を見透かしたように、PIGUさんは語る。

「この場所は、〈TENBOX〉のアトリエという位置付けなんです。だから、来てくれる人はお客さんではなく、ゲストって僕らは呼んでいるんですよ」

ゲストなんて呼び方はディズニーランドくらいでしか聞いたことがないが、そこにはPIGUさん独自の哲学があるようだ。

「お客さんって言っちゃうと、お金に直結するイメージがあるじゃないですか。僕らのモチベーションはお金と関係ないところにあると思っているし、来てくれた方とは人として接したいので。同じ理由で商品はアイテム、売り上げは満足指数って呼んでいます。〈TENBOX〉はあくまでチームで、並んでいるアイテムはそのチームが海外への旅に着ていくユニフォームという位置付けなんで。こういう考え方は、LAの『VIRGIL NORMAL』の影響かもしれません。あそこも、別にお客さんって感じじゃなく、いろんな人種やカルチャーの人が出入りして、パーティをやったりしているので。ここもヒップな人だけが来る場所にはしたくなくて、おしゃれな人もそうじゃない人も、老人から子供、犬や猫もひっくるめて集まるコミュニティにしたいんです」

だから『Kenzai.Depot』は多種多様な人が集うフリーダム空間なのか。と思いきや、PIGUさんはこの場所を始めた理由を「自由に飽きたからでもある」と付け加える。

「今は〈TENBOX〉にとって第3章に当たるんですね。僕の秘書が代わるごとに章が更新されるんです。秘書といっても、僕と一緒に海外に行く人ってくらいの意味ですが、なんかかっこいいじゃないですか(笑)。ただ、秘書が代わるたびに、〈TENBOX〉はガラッと変わっていて。そもそも〈TENBOX〉はLAを中心とするカリフォルニアのローカル・カルチャーを発信するブランドとして、1人目の秘書であるカオリさんと始めたんですね。だけど、アメリカのホームレスのメッセージボードを集めた個展をやったり、『伊勢丹 新宿店』にローラースケート場を作ったり、やりたかったことは全部できたかなってタイミングでカオリさんが辞めて。その後、しばらく特定の秘書はいなかったんですけど、カエって子が入ってくれて第2章が始まったんですね」

しかし、時同じくしてコロナが猛威を振るい始め、ライフワークだったアメリカへの道が閉ざされてしまう。新たな道を歩み始めるきっかけとなったのは、そんな中でも国境が開放されていたメキシコに行ったこと。そこでナイスな生地をたまたま発見し、これまでの〈TENBOX〉とはひと味違うシャツを作ったのだ。

「第1章では、LAに行くといっても純粋にカルチャーを知るのが目的。そこでアイデアが湧いてくることがあり、僕は〝降臨待ち〟って呼んでいるんですけど(笑)、たまたまいいものが見つかったときに、急遽ポップアップをするくらいで。だけど、メキシコ以降は、いろいろな国に生地を探しに行っているので、海外に行く意味やものづくりの方法が変わりました」

しかし、あまり調べず海外へ乗り込むため、失敗することもなくはない。

「かっこいい生地がセネガルにあるらしいという情報を得て、いざ行ってみたら全然なかったんですよ。それでたまたまその生地の服を着ている人がいたのでどこにあるのか聞いたら、実はセネガルじゃなくてベナンの生地だったっていう(笑)。結果的に似たものを見つけられたからいいんですけど。ただ一方で、朝起きて、『来週からLA行くかな』みたいな自由に飽き始めてもいて。コロナもあって日本人とはほぼ交流してなかったんで、自分をもう少し国内に拘束して、人と接することができる場所が欲しくなったんですよね」

シャッターが閉まっていることもあるけど、勇気を出して入ってみよう。温かく迎え入れてくれる。アトリエ内の的当てゲーム的なものに成功すると、驚愕の割引率でアイテム購入可能。◯神奈川県横浜市港北区樽町1-23-16 1F　☎なし　14:00〜19:00　不定休

かくして、始動した『Kenzai.Depot』は、3代目秘書のエルさん、マネージャーのチョンさん、パターンナーのヒナタさんの4人で運営されている。そんなPIGUさんにとって「いい仕事」とは何なのだろう。

「とにかくみんなをワクワクさせることですかね。だから、旅に行くときも、秘書には直前まで伝えません。『明日から行くから。とりあえず10日分くらいの着替えを持ってきて』みたいな(笑)。身内をワクワクさせないことには、ゲストをワクワクさせられないと思うんですよ。まぁ、それを含め仕事とは思ってないですけどね。自分を無職だと思っているんで(笑)」

PIGUの仕事内容

〈TENBOX〉にまつわるデザイン全般と、〝降臨待ち〟および生地買い付けを兼ねた海外の旅。しかし、これだけ海外にコネクションを持つにもかかわらず、PIGUさんはほぼ英語が喋れず、基本はボディランゲージだというから驚くしかない。また、インスタグラムのストーリーズを細かく投稿し、〈TENBOX〉の裏側を丸裸にするのも重要な仕事。それもまた、多種多様な人に開かれた場所にするための秘策だ。時には1日の投稿が100に上ることも！

岩井さん

ある日のこと、PIGUさんは「決まった美容室がない」とエルさんに相談。アトリエに岩井さんが訪れたのはその翌日。面識があったので「美容師ですよね？」とPIGUさんが声をかけて意気投合。岩井さんのお店がある渋谷には行きたくなかったPIGUさんは「この場所で切ってくれませんか？」と提案し、アトリエ内での髪切り会が恒例に。

エルさん

3代目秘書を務めるエルさんが、PIGUさんと出会ったのは2018年のこと。場所はLAの『VIRGIL NORMAL』だった。お互い強烈な印象を残したこの初対面の4年後、『Kenzai.Depot』オープンを知ったエルさんが訪ねたことで再会。自分で古着屋を運営していたエルさんだったが、PIGUさんの人柄に惹かれ、着の身着のまま秘書に就任。

photo: Kazufumi Shimoyashiki
text: Keisuke Kagiwada

PROFILE

ぴぐ｜1978年、東京都生まれ。「ビームス」を経て、NYのあるブランドのディストリビューターになることに。そのお披露目までの準備期間に、趣味で作っていた〈TENBOX〉をローンチ。その後NYブランドとの契約が終了し、〈TENBOX〉だけが残った。結果、2017年に〈TENBOX〉を本格始動することになった。ちなみに、「ビームス」に在籍していた時代から、有給休暇を使い切って年2回のペースで海外旅行をしていた。さらには、会社の後輩に順番に数名ずつ同伴してもらい、リアルなアメリカを学んでもらう機会を作っていた時期もあるそう。現在のPIGUさんにも繋がるエピソードだ。

「まず身内をワクワクさせなきゃ、ゲストをワクワクさせられない」

WORK 〈TENBOX〉

NAME PIGU

〈TENBOX〉の仲間たち

チョンさん

もともと『ビームス ボーイ』で働いていたチョンさんは、そこで「ビームス」時代のPIGUさんと知り合う。その後も、交流していたチョンさんは、PIGUさんから『Kenzai.Depot』オープンの相談を受けるなかで、〈TENBOX〉に参加することに。一応マネージャーという肩書だが、実際はさまざまな業務をこなしている。

ナナさん

『Kenzai.Depot』の近所に住む大学4年生。イベントの際、アトリエを訪れたのを機に、PIGUさんと仲良しに。先日、居酒屋で夜中まで語り明かした際は、取材日の数日後に卒業を控え、人生の転換期を迎えるナナさんを、「そのままでいいんだよ」と励ましてくれたという。PIGUさんはアトリエ外でも頼れる先輩のようだ。

藤平さん

『MOB』の藤平さんは、「伊勢丹 新宿店」のローラースケート場を手掛けたときのことが忘れられないそう。ある日、PIGUさんからの電話を取ると「今、LAにいるんですけど、来ませんか？」と言ったというのだ。リアルなローラースケート場を見せたかったというのがその理由だが、すぐにLAに向かったという『MOB』の2人もすごい。

ヒナタさん

エルさんの運営する古着屋のスタッフをしていたヒナタさんは、エルさんと一緒に〈TENBOX〉に参加。文化服装学院で学んだ技術を生かし、パターンナーとして働いている。いつも賑やかな『Kenzai.Depot』で、職人的な仕事をするのはなかなか大変そうだと思いきや、本人いわく「そこまで気にならない」とのこと。

北角さん

『Kenzai.Depot』をはじめ、〈TENBOX〉関連の設計を数多く手掛けるユニット『MOB』の北角さんは、PIGUさんについて、「いつもイメージが明確で、提案に対するイエスかノーかの判断も早いので、仕事がしやすいです」と語る。『Kenzai.Depot』の内装の参考例としてPIGUさんが挙げたのは、樹木希林の家らしい。

掃除をすれば、やるべきことが見える。

「気付かれないかもしれませんが、
普段の心がけが味に影響するんです」

WORK 『永福町大勝軒』３代目

NAME 草村豊彰

photo: Naoto Date
text: Nozomi Hasegawa

客のグラスの氷が「カラン」と鳴ったら即座におかわりを注ぐ。また「食事中にグラスが倒れるのを心配する必要がないように」という理由で厚底でずっしり重みのあるグラスを採用している。徹底した配慮。

右上／閉店後も台拭きは欠かせない。サッと拭いた後にタオルを裏返してまた拭いて、最後はテーブルの縁に沿うように。右下／左端のカウンター席から見える厨房内の棚には、レンゲがビシッと並べられている。左上／もちろんトレーも毎日磨く。「かつてはどんぶりのまま提供していたのですが、持っていくときにスープに指が入ってしまうこともあったりで、衛生面でお客様が不快な思いをしているんじゃないかという話になり、トレーを導入することになりました。ちなみにどんぶりは現在7代目。変わっていないように見えて、実はマイナーチェンジを繰り返してます」　左下／「どうせ並べるならいいものを」と座席ごとに置かれるのは、ちょっと嬉しい柔らか高級ティッシュ。

永福町大勝軒

煮干しや鰹節、豚骨、玉ねぎなどをブレンドした滋味深いスープが最後まで熱々なのは、仕上げにラードを加えているから。ラーメンは1種類のみで、生卵とメンマ、チャーシューは追加可能。一杯に中華麺がたっぷり2玉入る。中華麺(生玉子付)¥1,180
◯東京都杉並区和泉3-5-3　☎03-3321-5048　11:00〜22:00　月休

閉店後の佇まいを見ればいい仕事をする店かがわかる。例えば『永福町大勝軒』。写真をよく見て！　ラーメン屋ではなかなか見かけない一人掛けのラウンドチェアもボックス席の椅子もすべて、テーブルに上げられているのだ。そういえばこの店で、溜まった埃やこびりついた油汚れを見たことがない。接客は丁寧で、店員さんは水を飲んだらすぐに飛んできておかわりを注いでくれる。ラーメンはもちろんとびきり美味しい。味に接客、そして環境。すべてにおいてプロフェッショナルな店だが、その理由はなんだろう？　3代目の草村豊彰さんに聞いてみると、まず話してくれたのは、昭和30年、創業当時のことだった。

「当時は『汚い店ほどうまいラーメンを出す』といわれていたのですが、創業者の祖父からしたら『そんなバカな話があるか』と。汚い店より綺麗な店で食事をしたほうが、ずっと美味しいに決まってる。第一にお客さんに気持ちよくラーメンを食べてもらいたい、と祖父は店を始めたときから掃除に力を入れていたようです」

お客さんが気持ちいい場所を作るということは、働く自分たちにとっても気持ちいい場所になるということ。よい環境を保つのは案外難しいことだが、草村さんは日々の生活で身につけていた。学生時代の夏休みは、毎日おじいさんの家の掃除。常に部屋が綺麗な状態だからか、目につかない場所の埃も見つかっておじいさんによく怒られたそうだ。環境を整えることで、簡単には見えなかった問題が可視化されるということ。それって僕らの仕事にも通じる。いくつかの案件が重なったとき、デスクは資料や書類で山積みに。焦って気持ちの余裕がなくなりがちだが、まずは周囲を整理していったん落ち着いてみると、自分のすべきことが見えてくる、というように。

草村さんは、そんな環境づくりに加えておじいさんからの〝掃除を通じて頭を使え〟の教えも受け継いでいるという。確かに手を動かせば考えなくても掃除はできる。だが、ここは毎日開店から閉店間際まで行列ができる店。絶えずお客さんの出入りがあり、ダラダラと掃除に費やす時間もない。

「例えば、テーブルを綺麗にしたいとき。タオルを手のひらと同じ大きさにすれば、五指の力が入りやすくなって効率よくテーブルを拭くことができるんです。頭を使えという言葉のとおり、いかに綺麗に素早くできるかは常に皆で考えていますね。しかも、一緒に働く従業員を見ているうちに『掃除がしっかりできる人間は、どんな仕事でも丁寧に取り組める』ということにも気付きました。子供の頃から今の仕事にも通じる哲学を、祖父はひそかに教えてくれていたんだな、と今では思います」

草村豊彰の仕事内容

一日の始まりは営業前の清掃から。店内・外の掃き掃除、窓と椅子とテーブルを拭き、調味料の液漏れの確認、どんぶりとレンゲを磨いたら準備完了。毎回2時間以上かかる。開店は11時だが、10時には清掃を完了させてお客さんが店内で待てる状況に。ラーメン作りと接客はもちろん、草村さんには「味変え」という大事な裏方作業もある。「同じ味を2、3回食べると味が落ちたと舌が錯覚するので、バレない程度に年に数回タレやスープの味を調整しています」

PROFILE

くさむら・とよあき｜1988年、東京都生まれ。アメリカの大学で2年半会計の勉強をした後に日本へと戻り、簿記の資格を取得。企業で経理の仕事を始める。社会人1年目が過ぎた頃、店が人手不足となり、急遽お手伝いをすることに。継ぐ気はまったくなかったものの、手伝ったことに対して祖父が大喜びしたため「このままラーメンに本腰を入れてみるか」と2014年から『永福町大勝軒』の一員に。ちなみに毎日200食ほど売り上げる「お土産ラーメン」のスープ容器がプラスチックボトルからレトルトパウチに変更となったのは草村さんのアイデア。それによって、約40分かかっていたスープの調理時間を15〜20分と短縮させることに成功した。

スポーツのようにカラダを動かして働く。

〈カーハート〉のパンツにボディスーツというイカしたワークスタイルで、口には釘を、手にはハサミを持つ女性。アーティストのジャクリーン・サーデルだ。アメリカの工業都市であるシカゴ出身という生い立ちと、バレーボール部で鍛えた運動神経を生かして、ときには9m大にもなる超ダイナミックなテキスタイル作品を作るアーティストなのだ。

そして今、彼女が何をやっているかというと、日本で初めて作品をお披露目するアートフェアのために、自ら作品を設営している真っ最中。

「作品を作るだけではなく、人に見てもらうためのインストール（設営作業）も、大事な仕事だと思ってます」

とジャクリーンは言う。だからこんなに真剣に白い壁と向き合っているのか。

そういえば、昨年見た李禹煥（リウファン）の大規模回顧展でも、アーティスト本人が展示構成をディレクションしていたというので、大好評だった。今の時代、アトリエで黙々と美と向き合うことだけがアートではないんだな。

さて、ジャクリーンの大作品の展示準備は着々と。設営スタッフと壁に掛ける高さやライトの位置を決めて、大人5人がかりで作品が壁に掲げられる。そこからジャクリーンは会場全体を歩いて回った。他のギャラリーがどんな作品を展示するのかとか、そういうものを見ているようだった。戻ってきたと思ったら、今度はせっかく黒いロープが編んであった作品の一部をチョキンと切り落としてしまった。どうして？

「この会場では、作品の右手からゲストが入ってくる動線なので、目に入ったときの暗い印象を変えたくて、右側のロープを切り落としたんです。他のアーティストの作品の雰囲気、すきま風や自然光の有無など、空間の持つニュアンスや特徴をカラダで感じ取るようにしています。作品の完成形は会場によって変わるべきだと思っているから」

その作業は実は、バレーボールをプレーする際にコートを歩いて空間を把握するルーティンと重なるのだそう。考えてみれば、アートもスポーツも感覚を頼りに行うものだったりする。数ミリ単位の釘打ちの微調整をやってみて、かと思えば離れてジーッと眺めてみたり。こんなに時間がかかるのかというほど丁寧に丁寧に。設営というより、もはや作品作りの一部だ。たぶん本人はヘトヘトだと思うけれど、きっと作品はベストコンディション。すがすがしいし、見習いたい！

ジャクリーン・サーデルの仕事内容

ギャラリーなどから作品の展示依頼を受け、設営後の状態もイメージしながらスケッチを描く。スタジオにある自作の巨大な織機を用いて制作を開始。織っている途中も、大股で作品の中に入っていって微調整をしながらゆっくり仕上げる。展示を行うときは、国内外問わず、可能な限り自分が現地に赴いてセッティングを行い、見てくれる人と共有して初めて、ひとつの作品に対する仕事が完結するという考え。

photo: Kazufumi Shimoyashiki
text: Shoko Yoshida

作品の重量は80kgを超えるので、ロープに埋もれて見えていないけど、重たい生肉を吊るすために使われていた鉄の棒が支柱に使われている。他のスタッフとの協力が欠かせないジャクリーンの設営作業は終始和やかな雰囲気だった。

基本は自分の体以上に大きな作品を手掛けるジャクリーンだが、今回は両手で持てるサイズの作品も制作。作品が輸送されてきた虫除けのために燻されたアート作品専用の木箱に展示した。

2023年2月に「科学技術館」で開催されたアートフェア『EAST EAST_TOKYO 2023』にて、ギャラリー『Gallery COMMON』にお呼ばれして展示・販売した作品。コロナ禍の過去3年間でジャクリーンが経験した感情のアップダウンがインスピレーション源となっている。

スタジオでの作品制作の様子。「無理やり大きくしているのではなく、作品と正面から向き合うと自然と体と同じ大きさになります。作品作りもスポーツのように体を使うのが自分にとって気持ちのいい方法なんです」

PROFILE

ジャクリーン・サーデル｜1993年、アメリカ・シカゴ生まれのテキスタイルアーティスト。現在もシカゴを拠点に活動。ペインターだった祖母の影響で高校時代から肖像画を描き始めた。大学時代の講義で、全身を動かして作品を作る喜びを知り、現在のような巨大な作品を作り始める。作品制作は仕事だと捉えている。自宅は生活スペースとスタジオが隣り合わせのため、仕事モードに切り替えるために写真のようなスタイルの作業着を着て創作する。「スタジオの前に吊るした、『play like a champion today（今日という日をチャンピオンのつもりで楽しもう）』と描いた看板とハイタッチしたりして、自分自身を奮い立たせています」

PURPLE RAIN

LA RATTE D'ARDÈCHE

CHEYENNE

BAMBERGER HÖRNCHEN

ANGENGOLD

ALLIANS

せっかくやるなら突き詰めて。

年間約100種類のじゃがいもを販売している店頭には、色も形も異なる品種がごろごろ。味の好みや料理への意欲に応じて、品種や調理方法、野菜や肉との相性、保存のコツなどを丁寧にアドバイスしてくれる。「まず試してほしいのは、アリアンスとアンゲンゴールド。これを食べるとじゃがいものイメージがガラリと変わるよ!」

「じゃがいもは今も昔もクールじゃない。
だからこそ、イメージを変えたいんだ」

WORK じゃがいも専門店 店主

NAME Dominik Klier

じゃがいもの魅力をとことん詰め込んだレシピ本は、シェフのカイ・ウーヴェ・ホッペと一緒に制作。オリジナルソックスやミュンヘンの音楽レーベル「パブリック・ポゼッション」とのコラボTシャツなど、定期的にリリースしている数量限定グッズも洒落てるね。

photo: Julian Baumann
text: Yukiko Yamane

行列ができるほど人気のランチ営業に向けて、開店から料理の下準備に励むスタッフたち。ランチが始まる12時になると、掛け声としてスタッフ全員で店名の「キャスパー・プラウツ」を3回言うのがお決まり。「15時にランチ営業が終わった後、スタッフもゲストもみんな笑顔でいると、今日もいい仕事したなって思うんだよね」

「みんな当たり前のように主食やおかずとして食べてるけど、じゃがいもは今も昔もクールな存在じゃない。でも、たくさんのポテンシャルを持ってる食材だから、僕らはそのすばらしさを伝えて、イメージを変えたいんだ」。そう話すのは、「ミュンヘンの台所」こと19世紀から続く野外市場「ヴィクトアリエンマルクト」にあるじゃがいも専門店兼カフェ『キャスパー・プラウツ』の共同設立者、ドミニク・クリエさん。じゃがいもが大好きすぎて起業したのかと思ったら、実はそうではなかったようで。

「友人のテオと一緒に飲食店を持ちたいという夢は漠然とあったけど、じゃがいもは想定外。たまたま僕らが通ってるコーヒーショップの向かいにあったじゃがいも屋が閉まるって聞いて、店の経営を引き継ぎたいと申し出てさ。ここはブースごとに何を販売するのか規則で決められてるから、じゃがいもしか選択肢がなかったんだ」

2人ともフルタイムの仕事を辞めたけど、初めての挑戦に不安だらけ。まずはじゃがいもの知識を深めようと、じゃがいもの専門家ペーター・グランディエンさんのもとへ駆け込んだ。その日から、知れば知るほど奥が深いじゃがいもの世界にどっぷりハマっていくことに。最初は2人だけで接客も料理もこなしながら、学ぶ日々が続いた。そのうち、若者が運営するじゃがいも屋としてドイツのメディアに取り上げられ、その評判が瞬く間に広まったという。

「特にビジネス的な戦略はなくて、いい料理をつくってフレンドリーな接客をするっていうシンプルなことを常に心掛けているだけ。どんな仕事でも一番大事なのは、自分の仕事に情熱を持ち続けること、自分らしくクリエイティブでいることだよ」

食に対する情熱が、今まで〝当たり前〟だったじゃがいもにどんどん注がれていく。クラシックなじゃがいも料理を再解釈し、違う国のテイストを加えた創作料理が人気となり、行列ができる店として知られることに。また、多様な品種やそれを育ててくれる農家をサポートするために、珍しい品種を積極的に仕入れることも欠かさない。そんな新しい見せ方とクリエイティブなアイデアによって、停滞していたじゃがいも業界に新しい風を吹き込む店として、ますます注目を集めるようになった。

「自分の店を持つ情熱と自分を幸せにできるアイデアがあるなら、これまでの経験と自分自身を信じて、挑戦すべきだと思う」

ドミニク・クリエの仕事内容

マネジメントだけでなく、販売やキッチン、掃除など現場の仕事はなんでもこなすというドミニクさん。基本的には8時から17時まで、マーケットの営業中は店頭で勤務。毎週火曜日はテオさん、ペーターさんと一緒にミュンヘンの野菜市場でじゃがいもの仕入れ。「必ずテイスティングをして、地元で育てられた、シーズナルでかつ美味しいものを選んでるよ」。毎週金曜日は自宅のオフィスで、仕入れ先とのミーティングやメールなどの事務作業をしている。

オーブンでホクホクに焼いたアグリアをクリエイティブに味付け。上／7種のハーブを使用したソースが美味しい定番メニュー「グリーンソース」。下／この日の週替わりメニューは、ベイクドビーンズやチェダーチーズなどイギリスにインスパイアされた一品。

PROFILE

ドミニク・クリエ｜1988年、ミュンヘン生まれ。オーガニック食品と料理好きな母の影響で、小さい頃から食に対する興味が強かった。大学では社会学を専攻し、博士課程に進学したが、2週間で退学。その後2年間、TVのプロジェクトマネージャーとして勤務する中、ホリデー期間は副業でイベントのケータリング事業も開始した。その頃から金細工師のテオ・リンディンガーを誘って、一緒にメニューを考えるようになる。2017年に仕事を辞めて、『キャスパー・プラウツ』をオープンした。店名は1621年に初めてじゃがいものレシピを出版した修道士の名前。〇Viktualienmarkt Abt. III Stand 38 80331 München　Instagram: @casparplautz

最短距離よりも、無駄なまわり道。

『風に舞うビニール袋を卓上で再現できるデバイス』など「誰がどこで使うの？」な、でもフッと笑える発明をSNSで発信する藤原麻里菜さんは、今年で無駄づくり歴10年目。巷には映画を2倍速で観る人だっているらしいし、最近コスパとかタイパってよく聞くなかで〝無駄〟を仕事にしているってどういうこと？

「私自身は仕事として〝無駄づくり〟をしているつもりはないんです。好きで10年続けていますが、今の生活にすがりつきたいわけでもなく稼げなくなったらバイトでもすればいいかなって」と冷静沈着。はなから無駄づくりで生計を立てようとしていないからか、焦りや不安は全く感じられない。

「アイデアが出ないときは何もしないです。苦し紛れで作ってもワクワクしないので。1年間制作しない時期もありました」と涼しい顔で話す。

「教育者エイブラハム・フレクスナーの『有用性という言葉を捨てて、人間の精神を解放せよ』という言葉が好き。例えば『試験に出ない箇所は勉強しない』と目先の価値で行動をふるいにかけることってありますよね。しかし好奇心のままに好きなことをしたほうが、将来的な価値が生まれやすい。私は最短2時間の道のりよりも、5時間の遠まわりにキラキラと輝く何かが落ちていると信じています。だから〝無駄づくり〟は新しい価値を生むと思うんです」

しかしすぐに効果を得たがる世の中で、無駄を創るって案外難しいのではないか？

「私はとにかく作るのが好きなんです。無駄じゃなくても面白いものが作れたらそれでいい。無駄に縛られすぎて作る行為がつまらなくなるほうがすごく嫌なんですよ」

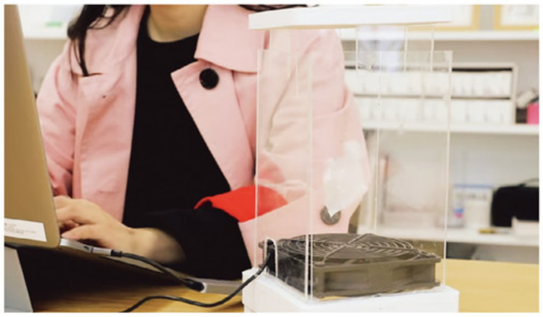
「“無駄づくり”は新しい価値を生むと思うんです」

WORK 発明家

NAME 藤原麻里菜

発明品2　カレーライスを50:50で食べられるスプーン

無駄を思いつく場所やシチュエーションを尋ねると「特に決まりはない」と言う。「散歩中、無性にカレーが食べたくなったときがあって、ずっとカレーのことを考えていたんです。『でもカレーっていつもルウだけ余るんだよな』と思ったのがきっかけで、『カレーライスを50：50で食べられるスプーン』を作りました。こういうふうに、頭の中で1つの事象をブラッシュアップして無駄を生むことが多いですね」



発明品1　風に舞うビニール袋を卓上で再現できるデバイス

箱の底に設置されているファンから風が吹き、小さなビニール袋が空中を舞う。仕事の疲れた合間に、ついつい「ずっと見ちゃう～」な発明品だ。デバイスの土台で使った3Dプリンターは、扱い方を独学で学ぶなど、その時々で発明技術を習得している。「ビニール袋が道端で風に吹かれて舞っているのを見るのが好きだったので、卓上版にしました。あまり自分で作ったものに執着はないですが、これはお気に入りですね」

photo: Kazufumi Shimoyashiki
text: Uno Kawabata
edit: Rio Hirai

稼ぐためでも、社会貢献のためでもない、〝好き〟に没頭するだけ。そうした藤原さんの素直な生き様の先には、コスパやタイパのような目先の効率では予想だにできないパフォーマンスが待っているのだと思った。

藤原麻里菜の仕事内容

〝無駄づくり〟と題した無駄な発明と、その発信や執筆活動など。制作から自身のYouTubeやTwitterに載せる動画の撮影まで、すべて1人で行う。午前中は、はんだごてやフィラメントなどの道具、これまでの発明品などが溢れるアトリエへ。紙にイメージを描きながら、〝無駄〟のアイデアを放出する。途中でカフェへ出かけてぼうっとしたりしながら、16時には作業を終了させて完全撤収。その後は飲みに出かけたり、寝て過ごしたり。

PROFILE

ふじわら・まりな｜コンテンツクリエイター、文筆家。株式会社無駄代表取締役社長。頭の中に浮かんだ不必要なものを何とか作り上げる「無駄づくり」を主な活動とし、YouTubeを中心にコンテンツを広げている。2013年からYouTubeチャンネル『無駄づくり』を開始。現在に至るまで200個以上の不必要なものを作る。2016年、Google社主催「YouTube NextUp」に入賞。2018年、国外での初個展『無用發明展- 無中生有的沒有用部屋in台北』を開催。2万5000人以上の来場者を記録した。2020年 Forbes Japanが選ぶ「世界を変える30歳未満」30 UNDER 30 JAPANに選出される。青年版国民栄誉賞JCI JAPAN TOYP会頭特別賞受賞。

藤原さんは発明品を発表したあと、エゴサーチもしないし、コメント欄も見ない。「発明品が完成に近づくにつれて『面白く思われたい』という自意識がどんどん薄くなる感覚が好きなんです。世にアウトプットした後は皆さんどうぞご自由にという気持ち」

電車の移動中、飲食店の行列、就寝前。いつも携帯を見たり仕事をして、つい潰そうとする無駄な時間。「以前、体調を崩したことをきっかけに、ぼうっとする時間が増えました。何もせずに自分と対峙すると、好き嫌いがはっきりわかったんです。それから何もしない時間を大切にするようになりました」

環境の変化に敏感でいる。

仕事道具は「Nicon」の8倍双眼鏡に鳥の図鑑、ノート。「双眼鏡の倍率は8倍から10倍。倍率が高くなりすぎると自分の手の震えで見えなくなったり視野も狭くなるので、鳥に触れるのが難しくなるんですよね」。ノートには天気や気温はもちろん、観察会の下見の場合は1か月後の環境予想と、当日の見せ方を書いて企画書に落とし込む。「絶対そのとおりにはいかないけれど、目的だけはブレないように。引き出しを多くする作業です」

「鳥を見なくなるということは、人と自然が離れている証拠です」

WORK 日本野鳥の会

NAME 萩原洋平

「鳥」は、人と身近な生き物の中でもっとも音を出すので、耳で探すことも多いです。今、あそこにヒヨドリが来ましたね。フンが落ちる音が聞こえました」

野鳥探しに目を使うだけでなく耳も澄ませる。そう語るのは「日本野鳥の会」の萩原洋平さん。彼は会から給料が支払われている有給職員、つまり野鳥観察のプロだ。

野鳥の会というとNHK紅白歌合戦の客席審査のカウント係の印象が強いけれど、会の主目的はあくまで野鳥の保護であり、それを通じて環境を守ること。自分たちだけでは活動の規模に限界があるので、一般の人たちにそれを普及させるのも大事な仕事だという。

この日、萩原さんは神奈川県藤沢市で開催される初心者向けの野鳥観察ワークショップのための下見をするというので同行させてもらった。そして冒頭で触れたとおり、住宅街だというのにどんどん鳥たちを見つけては解説をしてくれる。こんなにいるのってほどの鳥の数にはもう驚くしかない。

「鳥は都会にもたくさんいるので、住まいのまわりを観察してみてください。ポパイ編集部がある銀座でも、耳を澄ませば鳥の声が聞こえてくるはずですよ」

なるほど、下見を住宅街から始めた理由は、街でも野鳥を探せると教えるためだったのか。

「今年は暖かくなるのが早くて、例年この時期にいたカモを見ていない。おそらく移動が早くなっているんでしょうね。いつも観察会の下見では、1か月後にはどうなっているのかを予測しながら行います。川には小さい魚がいるので4月下旬になると鮎がいるなとか。土手には満遍なく花が咲いてるから飛んでくる蝶などの虫を狙う鳥も増えるだろう、そんな具合です」

人がなかなかコントロールできない自然というものを相手にしながら、萩原さんは目と耳とこれまでの観察記録をもとに、少し先の未来を予測しようとしていた。正直もっと行き当たりばったりで、偶然に身を任せるしかないと思っていた自然のことが、こんなにしっかり把握できるなんて。

「そういえば、最近ツバメを見かけなくなったと思いませんか？　唯一人のそばで子育てすることを選んだ鳥だったのですが、最近は泥がつきにくい塗装をした家や、庭のない家が多く建てられていて、巣を作る場所も、巣の資材を集める場所もなくなってきているんです。人の最も近くにいた鳥が見えなくなるということは、自然と人との距離も離れつつあるということ」

マイボトルでコーヒーを飲んだり、日々環境に気を使っているつもりだけど、そもそも環境破壊に対するリアリティや危機感をどこまで持てているかと問われるとかなり疑問だ。そこで、ツバメを最近見なくなったな、といった小さな自然の変化を見つめることは、街に住む人が自然と離れてしまわないようにする一番身近な方法なのかもしれない。

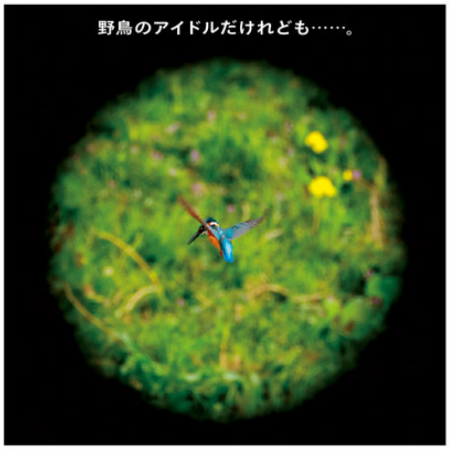
photo: Kazufumi Shimoyashiki
text: Nozomi Hasegawa

カルガモ

バードウォッチング中、川縁にこびりついた藻を食べる2羽のカルガモに癒やされていると、少し遠くで橋の上から鯉やカルガモに向かってパンを大量に投げているおじいさんを発見！　バタバタッと何羽も集まってくる姿を見ると食べ物をあげたくなるかもしれないが「雑食とはいえ、あのパンを食べるのもあまりよくないですね。生態バランスが崩れちゃうから」。

ジョウビタキ

フェンスに止まり虫を捕っていたのは、オレンジのお腹と青い帽子を持つジョウビタキ。かつてはシベリア方面で繁殖していた彼らは、八ヶ岳の麓にある別荘の郵便受けなどの人工物に巣を作り、近年は日本でも繁殖するように。「仲間の1羽が日本でも繁殖できるって気付いたのかもしれませんね」。数年後にはまた、近所で見られる鳥の種類にも変化が起こるかも。



カワセミ

「チー！　チー！」と川面を猛スピードで一直線に飛ぶカワセミ。コバルトブルーの羽を持ち、その美しさに魅了されたカメラ小僧のなかには自然を破壊している者がいるようだ。例えば、画角に入る枝が邪魔だと切り落としてしまったり。観察した目久尻川の土手では、不自然に生えた枝を何本も見つけた。カワセミにとっても悪い環境になったら本末転倒だ。

ムクドリ

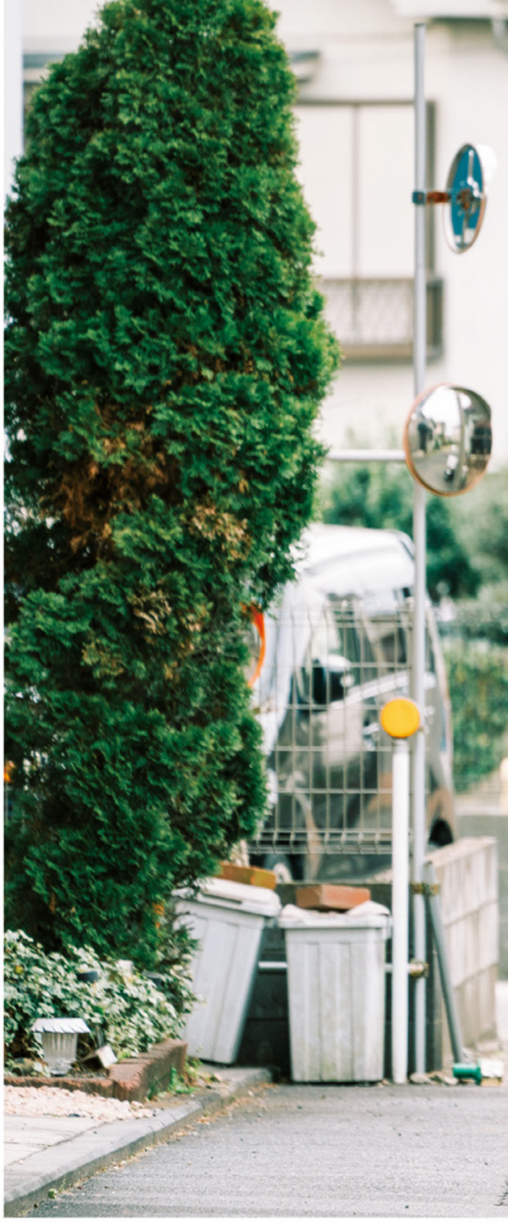
電線に並びネグラ入り前集合をするムクドリは、ワイドショーでも騒音やフンの問題でたびたび取り上げられているような……。「里地にすんでいたのですが、すみかやネグラだった場所がどんどん少なくなって目をつけたのが都会の街路樹。あれだけ人がいて夜も明るい場所では外敵に襲われることがない。追いやられた環境を逆手にとって『都市適応』できた鳥です」

キジ

藪がひとつなくなるだけで絶滅してしまう鳥がいる。その一種が、高架下の畑で見つけたキジ。『桃太郎』では活躍しているけれど、実際に飛べるのは30～50mほどで、長距離移動は大の苦手。草地で生活をして、巣作りは藪の中で行う。「『地域絶滅』といって、すんでいる田んぼや畑がなくなってしまうと、遠くまで飛べない鳥はもう死ぬしかないんですよね」

スズメ

「小学5年生の娘が『ベランダにスズメが来なくなったね』と言っていて。日中は家にいないので気付かなかったのですが、そういやスズメが瓦屋根の隙間で子育てをしていた近所の家が最近取り壊されたんです。スズメにとって居心地の悪い場所になってしまったのかもしれません」。身近な自然は当たり前に見ているからこそ、変化にも気付きにくい。そこで鳥だ。



PROFILE

はぎわら・ようへい｜1973年、東京都生まれ。公益財団法人「日本野鳥の会」職員。小学5年生の頃、八ヶ岳の麓へイワナ釣りに行った際、綺麗なオレンジ色の鳥を見つけ「何ていう名前の鳥なんだろう」という好奇心から野鳥図鑑を購入。鳥が好きになる。その後は『ビー・バップ・ハイスクール』の世界のような愉快な高校に進学、一般企業への就職、保育士を経て「日本野鳥の会」で働き始めたのは2002年。保育士だった当時、相談に乗ってくれていた知人が「東京港野鳥公園」のレンジャーだったことがきっかけ。個人的に好きな鳥はオオタカ。趣味は魚釣りで、鳥の動きを見て魚の位置を把握できるという技を持っている。

「何かしなきゃと思うと否定的にものを見てしまうことがあると思うんです。だから、鳥を見るといった体験と繋がるのがベスト。楽しむのが一番大切だと思います」

萩原洋平の仕事内容

基本的には毎日、不動前の事務所へ出勤。一般の人からの電話を問い合わせによって部署ごとに振り分けたり、鳥についての質問の電話には自ら回答するといった事務作業が主な業務。過去のレンジャー経験を生かして、観察会や講座も年に数回行う。最近の変わった仕事では、ゴルフ場で自然繁殖したフクロウを保護するために、巣箱を設置して引っ越しの手伝いをした。「日本野鳥の会」の活動として、シマフクロウなど絶滅危惧種の保護・観察も大事な業務。

Job! 2023 仕事図鑑100

会社名や肩書だけでは、その職業の実際の仕事ぶりを知ることはできない。人の数だけ"いい仕事"はあるはずだ。100人の実例集！

photo: Keiko Nakajima
text: Rio Hirai, Ayako Nozawa, Fu Shoji, Uno Kawabata

ギャラリスト
Gallerist

Profession No. 001

木内俊文 /38

『LAID BUG』

きっかけ グラフィックのデザインに従事する延長でアートにも興味が広がり事務所の一部を改装しギャラリー運営を開始。

仕事 デザイナーとして広告やブランディングに関わるデザインをしながら、月に1回のペースでギャラリーでの展示を企画・運営している。オランダのアーティストFenna Schillingの初個展、初の書籍出版を企画。作品が完売したのは嬉しかった。

働き方、待遇 午前に事務作業やリサーチ、午後にギャラリーを開けながらデザイン業務を行う。従業員は少ないが毎年昇給するようにしている。社宅制度や食事補助もあり。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

バーテンダー
Bartender

Profession No. 004

板橋 凜 /25

『Sputnik』バーマネージャー

きっかけ 初めて行ったバーでマスターのサービスや所作、作り出すカクテルに感銘を受け、バーテンダーの世界へ。

仕事 ドリンク作り、バックバーのお酒の選定、お店のシーズナルカクテルやオリジナルカクテルの考案。その一日の終わりにバーへ来たお客様の気持ちに寄り添った空間、会話、カクテルを提供し、心地よい時間を過ごしてもらうのがやりがい。

働き方、待遇 月給約28万円、健康保険、通勤手当あり。14時に出勤し、0時に退勤。仕事終わりは飲みに出かけたり、家でアニメを見て過ごす。休日も大体お酒かアニメか。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

DJ
DJ

Profession No. 003

Kotsu /27

フリーランス

きっかけ 学生時代にはバイトとデザインの仕事を掛け持ちしていたけれど、今は京都へ移住し、DJだけで生活している。

仕事 現場でのパフォーマンスだけでなく、ツアーの営業、イベントの企画やプロモーションまで何でもやる。野外イベント『Rainbow Disco Club』ではDJ出演する以外にもフライヤーにコラムを寄稿するなどし、立体的にパーティを作る意義を感じた。

働き方、待遇 基本的に業務委託でギャラの交渉も自分次第。遠征や夜の現場が多いから、休みの日は家でのんびりしたり太陽の光を浴びる。銭湯での心と体のケアも忘れない。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

金融機関職員
Bank Employee

Profession No. 002

山腰美花 /23

高山信用金庫　預金担当　窓口係

きっかけ 地元・岐阜県高山に若者や移住者、新しいお店が増えていると知ったのをきっかけに、Uターンして今の会社に就職。

仕事 窓口での口座開設、公共料金の受け付けや、お客様のライフプランに合った金融商品の提案、相続関連の手続き、資金運用のサポートなど様々。お客様の悩みに合った金融商品や預金管理の仕方を提案し、喜んでもらえるとやりがいを感じる。

働き方、待遇 9時の開店に向けて8時半に始業。15時の閉店後に念入りに締め作業をし、17時半には帰宅する。ほとんど定時で帰宅でき、休みが取りやすいのがこの仕事のいいところ。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

セラピスト
Therapist

Profession No. 007

山﨑久栄 /38

プライベートサロン　オーナーセラピスト

きっかけ 産後の心身不調から、独学でセラピストの勉強をした。サロン勤務は経験せずにプライベートサロンを開業。

仕事 自宅にあるサロンをベースに月一都内で出張施術。お客様にはワーキングママが多く、ハードな日常から解放できる時間と場所を提供するのが使命。人の心と向き合い手当てをするように、オールハンドの施術にこだわるのがモットー。

働き方、待遇 9時から15時までサロンを営業し、片付けを終えた16時以降は母タイム。個人経営なので休みや勤務時間は柔軟。休日は家族でのんびり過ごすのが定番。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

シャルキュティエ
Charcutier

Profession No. 006

河田力也 /41

『オーボンヴュータン』シェフ

きっかけ 酪農体験などを経てフランス料理を学ぶ。渡仏してシャルキュトリを学んだ後、家業の『オーボンヴュータン』を継ぐ。

仕事 ハムやソーセージ、パテなどの食肉加工品・洋惣菜の製造販売。父はフランス伝統菓子を作っていたが、甘いものが好きではない自分はシャルキュトリの道へ。ナチュラルワインやクラフトビールとの相性も良く日本でも認知度が高まってきた。

働き方、待遇 店の定休日以外は7時から19時まで、製造・販売やそれにまつわる事務を行う。待遇は同世代の飲食関係者と同じくらいで、休日に知り合いの店に飲みに行って困らない程度。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

マーケティングPR
Marketer and Public Relations Agent

Profession No. 005

駒井美月 /27

「丸紅フットウェア」メレル事業部マーケティング課PR

きっかけ 前職は出版社の広告営業。退職したタイミングで当時のクライアントだった今の会社から声をかけてもらった。

仕事 プレスリリース作成、リース・メディア・インフルエンサー対応、SNS運用（コンテンツ制作から投稿まで）。女性向けメディアとタッグを組んでリトリートツアーを実施したときは反響も大きくて「いい仕事をした！」という達成感があった。

働き方、待遇 9時過ぎに出社し、17時半には退社。出社時以外は山や海などでの撮影に同行したり他ブランドの展示会に行ったり。完全週休2日制で、休日は体を動かして過ごす。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

左官職人
Plasterer

Profession No. 010

榎本留衣 /30

「あじま左官工芸」工事部職長

きっかけ 美大で油絵を描くうちに左官に興味を持った。特に土壁に惹かれ、伝統工法の左官仕事ができる今の会社へ。

仕事 古い壁の調査解体から塗り壁の施工まで、壁に関するすべての仕事を請け負う。他にも土間や、瓦屋根を繋ぐ屋根漆喰、かまどなどの製作も行う。今は1年かけて製作した古民家の完成と、その後の経年変化が楽しみ。

働き方、待遇 8時から17時まで途中一服を挟みながらひたすら作業。現場へ向かう移動時間が長いため、大抵朝は早起きする。年収400万円弱。休日には自分の作品づくりも行う。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

ハウスクリーニング会社研究職
Housecleaning Company Researcher

Profession No. 009

村上佳奈子 /31

「HITOWAライフパートナー」くらしスタイル研究所係長

きっかけ 研究が好きで前職も企業の研究職。よりユーザーに近い目線で商品やサービスの研究がしたく、今の会社に転職。

仕事 住宅や靴、バッグのクリーニングで扱う薬品のエビデンス取得や防カビなどの新規サービス導入に向けての基礎試験を行う。大学との産学連携によって今までになかった「汚れの数値化」を達成し、学会で発表した。次は論文化するのが目標。

働き方、待遇 9時の始業からデータ分析や実験、論文の執筆など。完全週休2日、社会人博士として大学院にも通う。収入は猫1匹と楽しく暮らし、ゴールデン街で飲み歩けるくらい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

ビジネスコンサルタント
Business Consultant

Profession No. 008

清本莉七 /33

「アクセンチュア」インダストリーX本部マネジャー

きっかけ 大学院修了後、一級建築士として多種多様な建物の構造設計に従事。コロナ禍で働き方を見直し、今の仕事に転身。

仕事 建設・インフラ業界などでデジタル技術を活用し、建物の構造やプラント設備の技術的なサポートやプロジェクトの管理。前職のスキルを生かし、仕事の可能性が広がったのは財産。日本のエネルギーインフラを支える業務にやりがいを感じる。

働き方、待遇 自宅、オフィス、クライアント先などその日の業務に合わせて好きな場所で働く。仕事の後は、量子力学の勉強と筋トレ。休みは夫婦で離島に旅行に行くのが楽しみ。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

クリーニング店スタッフ
Cleaning Store Staff

Profession No. 013

石塚千皓 /24

『WASH&FOLD中目黒高架下店』サブマネージャー

きっかけ 大学卒業後に新卒で入社。もともと古着が好きで、素材の特徴やケアの方法について学べることも魅力に感じた。

仕事 クリーニング品の受け付けや預かった洗濯物の洗い・乾燥・たたみ、その他事務作業。スニーカー手洗いサービスも担当。週2日ほどはデリバリーのサービスで都内を走り回る。お客様のお気に入りの洋服を綺麗にするのは気持ちがいい。

働き方、待遇 10時に出勤し、事務作業とクリーニング実務をこなして19時に退勤。週休2日制で年収は300万円程度。社員割引で、自分のお気に入りの服も定期的にメンテナンス。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

スポーツ紙記者
Journalist

Profession No. 012

柳原直之 /38

「スポーツニッポン新聞社」編集局スポーツ部大リーグ担当

きっかけ 大学まで野球部だったため、スポーツ全体、とくに野球に携わりたくて3年半の銀行勤務を経て転職。

仕事 大谷翔平選手を日本ハム時代から担当。現在は日本人選手を中心に大リーグを担当。試合前、試合後と取材を行う。担当前のTOEICスコアは650だったけれど何とかやれている。期間は年約150日。※写真提供／スポーツニッポン新聞社

働き方、待遇 年収は約700万円。アメリカでは14時に球場入り。練習や関係者取材の後、19時から試合観戦。終了後に取材。24時より原稿執筆開始。27時頃に就寝。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

呉服商
Mercer

Profession No. 011

泉二啓太 /38

「銀座もとじ」代表取締役社長

きっかけ 留学時に日本の着物文化の素晴らしさを肌で感じ、創業者である父が着物姿でミラノを歩く姿がカッコよく見えて。

仕事 店舗接客からオリジナル商品開発、産地活性化プロジェクト企画の立案から実行など幅広い仕事内容。小学校で銀座の柳染めの課外授業を毎年開催。自分の仕事が子供たちの夢や将来を考えるきっかけになっていると思うと嬉しい。

働き方、待遇 午前中に全体ミーティング、午後は取引先やお客様の来客対応をするのが主な流れ。夜は会食があることも多い。収入は美味しいご飯が月に3回食べられるくらい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

映像作家
Videographer

Profession No. 015

内海 拓 /25

フリーランス　@takurinbo

きっかけ 東京藝術大学大学院修了後、映像の創作活動を行う中で、仕事になっていった。

仕事 アート創作のSNSでの発信が目に留まり、依頼を受けることが多い。様々なファッションブランドのPR映像、ミュージシャンのMVなどを制作。ディレクション・撮影・編集をすべて担当することもある。

働き方、待遇 基本的に自分で調整して日曜と祝日を休みにしている。休みの日は日本各地にて、今後の創作活動の動機や仕事に繋がるようなリサーチを行う。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

AVメーカー広報
Public Relations of Adult Video Manufacturer

Profession No. 014

アナエル /25

アダルトビデオメーカー広報部

きっかけ もともとセクシー女優さんのファンだったので、好きなことができて他の人がしていないこの仕事を中途採用から探した。

仕事 作品のプロモーションや写真集などのディレクションを担当している。他にもグッズ作成やイベントの運営など、セクシー女優さんを多くの人々に知ってもらうための企画を考え、彼女たちが楽しく仕事をできるような環境を作っている。

働き方、待遇 12時から21時くらいまで勤務。給料は、一般企業よりもちょっといいかも。オフィスで働くこともあるし、セクシー女優さんが赴く現場に同行することも。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

Profession LIST 100

001. Gallerist
002. Bank Employee
003. DJ
004. Bartender
005. Marketer and Public Relations Agent
006. Charcutier
007. Therapist
008. Business Consultant
009. Housecleaning Company Researcher
010. Plasterer
011. Mercer
012. Journalist
013. Cleaning Store Staff
014. Public Relations of Adult Video Manufacturer
015. Videographer
016. Chef
017. Manager of Farm
018. Sound Designer
019. Sales
020. Craftsman of Edo-Kiriko
021. Taxi Driver
022. Trading Company Employee
023. Waterproof Industry
024. Stall Manager
025. Comic Storyteller
026. Balloon Pilot
027. Japanese-English Interpreter
028. Catering Chef
029. Mandarin Orange Farmer
030. Bakery
031. Manager of Notebook Store
032. Manager of Bath Facility
033. Intimacy Coordinator
034. SNS Marketer
035. Mahjong Player
036. Dog Breeder
037. Plastic Surgery Nurse
038. Interior Trading Company Sales
039. Construction Tools Sales Rep
040. Sommelier
041. Tanka Poet
042. Rake Dealer
043. Glasses Designer
044. Manager of Campsite
045. Vintage Clothing Dealer
046. Hair Stylist
047. Ballerina, Ballet Teacher
048. Special School Teacher
049. Digital Media Planner
050. Auctioneer
051. Curator
052. Company Employee and Yoga Instructor
053. Train Driver
054. Food Director
055. Architectural and Interior Designer
056. Doctor of Internal Medicine
057. Sushi Chef
058. Blacksmith
059. Product Marketer
060. Florist
061. Nishijin Silk Fabrics-Hikibaku Craftsman
062. Building Material Industry
063. Radio Director
064. Cosmetics Research Planner
065. Monk
066. Assistant Director of TV Program
067. Apparel Company Sales
068. Music Festival Organizer
069. Early Childhood Educator
070. Mayan Calendar Appraiser
071. Editorial Designer
072. Logistics Consultant
073. Maritime Officer
074. Candle Artist
075. Femtech Company Manager
076. Coffee Roaster
077. Home Appliance Marketer
078. Department Store Buyer
079. Firefighter
080. Philosopher
081. Costume Designer
082. Hotel Manager
083. Headspanist
084. System Engineer of Quality Assurance
085. Writer
086. Creative Director
087. Art Director
088. Tatoo Artist
089. Lawyer
090. Actor
091. Real Estate Agent
092. Illustrator
093. Architect
094. Furniture Store Manager
095. Film Distributor
096. Hair & Makeup Artist
097. Proofreader
098. Cocoa Trading Company Sales
099. Weather Caster
100. Sake Brewer

サウンドデザイナー
Sound Designer

Profession No. 018

千葉亜門 /32

「SOUND CoUTURE inc.」代表　@soundbond_

きっかけ 大学で、空間・人・音の関係を研究。DJやPA業を経て音作りに本格的に取り組むためサウンドデザイナーに転向。

仕事 商業施設やホテル、展示会場の音作り。空間音楽アプリや楽器の企画・制作も。「ここのサウナの音がいい」って友達が話していたのが自分の仕事だったときは嬉しかった。人と空間の体験になっているのが、いい仕事。

働き方、待遇 娘をこども園に送った後、11時頃にスタジオ入りして音の制作。19時頃帰宅。残った仕事をやりつつ寝るのはだいたい午前1時。波はあれど年収は約600万円。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

ファームステイ管理人
Manager of Farm

Profession No. 017

小川 諒 /32

『滝ヶ原ファーム 滝ヶ原クラフトアンドステイ』ディレクター

きっかけ バックパック一つで放浪していたときに石川県の里山に村を作ろうと誘われて何もないところからファームを作った。

仕事 野良仕事とデスクワークが半々。畑で開催するパーティのオーガナイズもやっている。学校嫌いな少女がここへ来て、イベントで人生初のライブをして「好きなことをやっていい」という本来あるべき社会の姿を見せられたのは嬉しかった。

働き方、待遇 自分はディレクターだけど、ここではみんながそれぞれの携わり方で働き、待遇もまちまち。暮らしと仕事の境界線が曖昧だから、休日には遠くへ行って本でも読みたい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

レストランシェフ
Chef

Profession No. 016

中村 啓 /25

『Common』シェフ

きっかけ 学生時代に食べたフランス料理に衝撃を受け、大学卒業後から『メゾン サンカントサンク』へ。現在は2店舗目。

仕事 日々の営業に加え季節ごとのメニュー考案やケータリングも行う。『Common』店内で展示している作品に合わせて料理やインスタレーションを組むことも。音楽、アート、食を組み合わせた"空間づくり"を意識するのが自分にとってのいい仕事。

働き方、待遇 ブランチ営業前の9時に出勤してバー営業が終わる23時に退勤。休みは月に7日、交通費一部支給。休みの日も、朝から夜まで食三昧。渋谷の『鳥竹』がお気に入り。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

タクシー乗務員
Taxi Driver

Profession No. 021

平原昌和 /62

「京急交通」大船営業所

きっかけ サラリーマンを45歳で退職。子供のスポーツ活動をサポートするために時間に自由度のある今の職を選んだ。

仕事 タクシーに乗ってきたお客様を目的地まで安全に送り届けるのが仕事。担当するのは夕方から翌日早朝までの深夜帯。乗務中、常に心がけているのは平常心。お客様から感謝の手紙をもらったときは、喜びもひとしお。

働き方、待遇 月に乗務22日、公休8日。給与体系は基本給＋歩合制。いつも夕方または夜に出勤し、翌日の朝方に退勤。体力が必要な仕事なので、時間があるときは体を動かしておく。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

江戸切子職人
Craftsman of Edo-Kiriko

Profession No. 020

三澤世奈 /33

「堀口切子」職人

きっかけ 代表・堀口徹の手掛けた江戸切子が容器に採用された化粧品を見てその美しさに感動し、自分から弟子入りを志願。

仕事 職人といっても切子の制作の他、デザイン企画、接客営業、広報活動など業務は様々。社内の新ブランド〈SENA MISAWA〉を立ち上げたときは、今までにない切子を提案し、江戸切子の新たな需要を開拓できたようで嬉しかった。

働き方、待遇 9時の始業から18時の終業まで、休憩を挟みつつ基本的には切子の制作作業。途中に打ち合わせ・取材対応があることも。産休・育休復帰後時短制度あり。土日祝日休み。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

メーカー営業職
Sales

Profession No. 019

村橋佑合 /25

「シャープエネルギーソリューション」国内営業推進統轄部首都圏支店

きっかけ 世界に誇れる仕事をしたくて、歴史ある「シャープ」に入社。太陽光パネルや蓄電池を扱う今の子会社に配属となった。

仕事 太陽光パネル・蓄電池システムの販売、販促支援セミナーの開催など、販売実績を伸ばすための営業活動。販売店からの問い合わせ対応やお客様の故障トラブル対応も。太陽光パネルや蓄電池が電気代削減などに役立っていると聞くと嬉しい。

働き方、待遇 8時半に出社し、19時には退社。賞与は年3回で、寮・借り上げ社宅制度やリフレッシュ休暇など福利厚生も充実。オフはお笑いライブや旅行でリフレッシュ。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

屋台店主
Stall Manager

Profession No. 024

天本正中 /76

博多移動飲食業組合中洲屋台『紀文』店主

きっかけ 15歳で料理人を志し、博多の料亭で12年間板前修業。縁あって今の屋台と出合い、あっという間に50年目。

仕事 お客様と対面して会話をしながら料理を作り、出来たての天麩羅などを提供。全国各地からお客様が来てくれるのは嬉しいし、お客様同士の縁が繋がるのも屋台の魅力。ちなみに営業後の畳んだ屋台は、業者が駐車場まで引っ張ってくれる。

働き方、待遇 夕方に食材の仕入れをするところから始まり、帰宅するのは片付け後の午前2時過ぎ。お客様からビールを頂くことも多いので、帰宅はだいたい代行を利用している。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

防水業
Waterproof Industry

Profession No. 023

穴田成美 /27

「南防水工業」職人・社長見習い中

きっかけ 東京の印刷会社勤務を経て防水業を営む父の仕事への思いを知り自分もこの職人業を継ぐべく地元へ。現在修業中。

仕事 全国各地の建物の屋上で、雨漏りを防ぐための防水工事を行っている。1年の半分以上が出張という特殊な環境のため、宿泊先や取引先とのやり取りも仕事のうち。THE・親方である父と職人たちの間の緩衝材になるのも大事な仕事。

働き方、待遇 週6日勤務だが、外作業なので雨天は休み。資格の取得や技術の向上により給料UP。休日には勤務で行った地方のサウナやスナックに足を延ばすなど出張ライフを謳歌。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

スポーツ用品専門商社
Trading Company Employee

Profession No. 022

ミカミタイキ /44

「RCTジャパン」ライフスタイル事業部

きっかけ スキー選手として活動していたときサポートしてくれたブランドの人たちに憧れてアルバイトを始めた。

仕事 マーケティングや営業、販促、MD、直営店運営など輸入卸業務全般。店頭に立つこともあれば、アウトドアイベントやツアーの企画やアテンド、展示会出展、取引先と海外視察に行き、スキーやアクティビティを体験するなど多岐にわたる。

働き方、待遇 社員の大半がスキーが好きなので、社長や仲間とスキーを楽しみながら働ける。取り扱う商品は社割があるのでギアが安く揃う。休日の楽しみも息子とスキーをすること。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

熱気球操縦士
Balloon Pilot

Profession No. 026

山尾太郎 /43

「チームアマテラス」代表　@livingontheearthproject

きっかけ 『最後の冒険家』（石川直樹著）を読んで実在した日本の熱気球操縦士・神田道夫に憧れ、ライセンスを取得。

仕事 空を飛ぶ体験を各地で提供。風が強い日には飛ばせないので天候を読むのも大切。乗った人の笑顔が原動力。最近の感動は、親友が空の上でプロポーズを成功させたこと。移住先の京都・天橋立を中心に全国のイベントで出張フライトあり。

働き方、待遇 夜が明ける朝5時にクルーチームが集合してフライト準備。昼前には青空に熱気球を飛ばす。パイロットの報酬は1回のフライトにつき大体1万5000円から3万円くらい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

落語家
Comic Storyteller

Profession No. 025

桂 枝之進 /21

六代桂文枝一門三代目桂枝三郎門下

きっかけ 5歳で落語に夢中になり、9歳から独学で演り始め、勢いそのままに15歳で三代目桂枝三郎に弟子入り。芸歴は7年目。

仕事 座布団の上に座って、お話をしたり扇子でうどんをすする仕草などをする。若いお客様に対して、正攻法のコテコテな古典落語でウケたときが気持ちいい。クリエイティブチーム・「Z落語」を主宰し、落語の新しい導入設計をデザイン中。

働き方、待遇 給料は完全出来高制。公演で東西を行ったり来たりする分、お金は出たり入ったりする。仕事中はずっと正座なので、夜はクラブで踊って汗を流す。仕事の打ち上げも多い。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

Profession LIST 100

001. Gallerist
002. Bank Employee
003. DJ
004. Bartender
005. Marketer and Public Relations Agent
006. Charcutier
007. Therapist
008. Business Consultant
009. Housecleaning Company Researcher
010. Plasterer
011. Mercer
012. Journalist
013. Cleaning Store Staff
014. Public Relations of Adult Video Manufacturer
015. Videographer
016. Chef
017. Manager of Farm
018. Sound Designer
019. Sales
020. Craftsman of Edo-Kiriko
021. Taxi Driver
022. Trading Company Employee
023. Waterproof Industry
024. Stall Manager
025. Comic Storyteller
026. Balloon Pilot
027. Japanese-English Interpreter
028. Catering Chef
029. Mandarin Orange Farmer
030. Bakery
031. Manager of Notebook Store
032. Manager of Bath Facility
033. Intimacy Coordinator
034. SNS Marketer
035. Mahjong Player
036. Dog Breeder
037. Plastic Surgery Nurse
038. Interior Trading Company Sales
039. Construction Tools Sales Rep
040. Sommelier
041. Tanka Poet
042. Rake Dealer
043. Glasses Designer
044. Manager of Campsite
045. Vintage Clothing Dealer
046. Hair Stylist
047. Ballerina, Ballet Teacher
048. Special School Teacher
049. Digital Media Planner
050. Auctioneer
051. Curator
052. Company Employee and Yoga Instructor
053. Train Driver
054. Food Director
055. Architectural and Interior Designer
056. Doctor of Internal Medicine
057. Sushi Chef
058. Blacksmith
059. Product Marketer
060. Florist
061. Nishijin Silk Fabrics-Hikibaku Craftsman
062. Building Material Industry
063. Radio Director
064. Cosmetics Research Planner
065. Monk
066. Assistant Director of TV Program
067. Apparel Company Sales
068. Music Festival Organizer
069. Early Childhood Educator
070. Mayan Calendar Appraiser
071. Editorial Designer
072. Logistics Consultant
073. Maritime Officer
074. Candle Artist
075. Femtech Company Manager
076. Coffee Roaster
077. Home Appliance Marketer
078. Department Store Buyer
079. Firefighter
080. Philosopher
081. Costume Designer
082. Hotel Manager
083. Headspanist
084. System Engineer of Quality Assurance
085. Writer
086. Creative Director
087. Art Director
088. Tatoo Artist
089. Lawyer
090. Actor
091. Real Estate Agent
092. Illustrator
093. Architect
094. Furniture Store Manager
095. Film Distributor
096. Hair & Makeup Artist
097. Proofreader
098. Cocoa Trading Company Sales
099. Weather Caster
100. Sake Brewer

みかん農家
Mandarin Orange Farmer

Profession No. 029

若松優一朗 /30

『Tangerine』主宰　@tangerine7993751

きっかけ 実家が柑橘農家で農業や地方の活性化について考えることは多かった。農家を継ぐために東京から地元へ戻った。

仕事 山へ出向き、みかんの木を枯らさないように世話する。すべて手搾りで作ったみかんジュースを、全国のレストランに卸している。様々な土地に赴き、イベントにも出店。

働き方、待遇 美味しいみかんと、畑で採れる野菜と米が食べ放題。みかん農家の休日の昼はスケボーやゴルフで体を動かし、夜は街へ繰り出してPR活動（という体で遊ぶ）。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

ケータリング・シェフ
Catering Chef

Profession No. 028

柳沼千春 /30

『good good good』主宰　@_goodsun_

きっかけ 農家に生まれ農薬・化学肥料不使用の野菜やお米を食べて育ち、食に興味を持つ。多くの人に良い食体験を届けたい。

仕事 農薬や化学肥料を使わずに野菜や米を家族で育てて販売。そしてそれらを使いお弁当やケータリング、時には出張料理人としてお客様のニーズに合わせた様々なお料理を提供している。

働き方、待遇 朝は早いが、美味しいごはんをたくさん食べて、体をたくさん動かすので健康的に過ごせる。休みは特に決まっておらず、仕事の依頼が入ればどこへでも飛んでいく。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

日英通訳・翻訳者
Japanese-English Interpreter

Profession No. 027

春川ゆうき /29

「Art Translators Collective」所属

きっかけ アートトランスレーター通訳講座に参加したことがきっかけで、アート分野の通訳をするように。

仕事 国内外のアーティストの舞台稽古やインタビューの通訳、芸術祭や展覧会の文章、台本、映像字幕などの翻訳。抽象的なことを表現できたときは嬉しい。言語をそのまま訳すのではなく、意図を酌み取って違和感なく言葉に落とし込むのが私の仕事。

働き方、待遇 昼頃から始業し、集中力が続く限りは作業。途中で食事や散歩をしたり。通訳現場の前日は睡眠時間を削らないのが鉄則。通訳は主に拘束時間、翻訳は文字数で単価が決まる。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

温浴施設館長
Manager of Bath Facility

Profession No. 032

大澤秀征 /22

『PARADISE』館長

きっかけ 学生時代の縁で、三田の『PARADISE』をオープン前から任せてもらえることに。大学は現在休学し、起業修業中。

仕事 接客から清掃、イベント等の企画など、温浴施設の運営すべて。内装も含めたくさん時間をかけて作ってきたので、『PARADISE』がオープンした瞬間の感動は忘れられない。大好きなサウナをたくさんリサーチするのも仕事の一環。

働き方、待遇 24時間営業の施設で、勤務時間は日によって様々。どれだけ稼ぐかも自分の頑張り次第。今年はもっと気軽にリサーチに行けるようにバイク免許を取得するのが目標。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

ノート屋
Manager of Notebook Store

Profession No. 031

尾崎彩夏 /24

『HININE NOTE』店長

きっかけ 自分にフィットした仕事を求めて、大学を卒業するタイミングでアルバイトとして入社。

仕事 たくさん用意したパーツからお客様それぞれが選んだものを製本。世界に一つだけのオリジナルノートを作る。パーツ選びの相談に乗るのも仕事のうち。ノートができたときのお客様の幸せそうな顔を見ると、この仕事のやりがいを感じる。

働き方、待遇 朝はゆっくり過ごしてから11時に自転車で出勤。営業が終わり、作業を終えて家に帰るのは21時頃。休みの日は、大体サイクリングがてら彼とお茶に出かける。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

パン屋
Bakery

Profession No. 030

鈴江 篤 /30

『Slō（スロウ）』 店主　@slo.kyoto

きっかけ 中学時代に「手に職があるってかっこいい」と思い、漠然とした理由でパン職人を志し、大阪と京都のお店で修業。

仕事 夜明け前から、妻とその日に販売するパンを作る。営業中は裏で仕込みをし、妻が店先でパンを販売。昨年末にお店を開いたばかりだが、嬉しいことに朝8時にオープンしてお昼頃までには完売する。

働き方、待遇 午後7時に寝て午前1時に起きる生活。仕事のあとには夫婦揃って銭湯に行くのがお気に入りの日課。週に1回の休日には二人で仲の良い飲み屋をはしご酒。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

© Hajime Kato

プロ雀士
Mahjong Player

松本吉弘 /30

「サイバーエージェント」契約プロ

きっかけ 大学2年生のときに商社勤めと二足の草鞋でプロ資格を取得。2018年にMリーグが発足してからは麻雀一本に。

仕事 麻雀の試合や試合の解説から、コラムや本の執筆、YouTube配信やファンの方との交流会、インタビューなど仕事内容は様々。自分の試合の逆転劇を見てファンの方々が泣いてくれたときは嬉しかったですね。

働き方、待遇 起床後すぐに試合の研究やコラムを執筆し、夕方にいざ試合へ。終わってお風呂に入りながら振り返りやYouTubeの配信。給与は麻雀の仕事だけで不自由なく暮らせるくらい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

SNSマーケター
SNS Marketer

椿屋如登 /26

「Loco Partners」

きっかけ 就職活動中、美味しいご飯や宿など自分の好きなことに責任を持って携われるところに魅力を感じて入社。

仕事 ホテル・旅館の宿泊予約サイト「Relux」のSNS運用。宿泊施設の魅力を最大限伝えるべく、チームで企画から投稿まで一貫して制作。もちろんリサーチも欠かさない。利用者からの「Reluxで予約してよかった！」の声が仕事の原動力。

働き方、待遇 10時に始業し、SNSの投稿が完了する19時に退勤。今は育児リモート制度を利用して地元の福島県に里帰りしての就業。最近生まれた我が子がなによりも癒やし。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

インティマシーコーディネーター
Intimacy Coordinator

西山ももこ /43

フリーランス

きっかけ 前職はロケーションコーディネーター。インティマシーコーディネーターという仕事を知り育成講座に参加した。

仕事 映画やドラマでのヌードや性描写シーンを専門とするコーディネーター。事前に台本を確認し、現場では予定していた描写以上の撮影がないかも確認。同じ監督や役者に再び呼んでもらえたときは自分の仕事の必要性を実感した。

働き方、待遇 報酬は日当だが、収入自体は不安定。休みの日の線引きが難しいので、リフレッシュのために月に一度は旅行。時間がある日はポールダンスのレッスンで体を動かす。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

輸入家具商社営業
Interior Trading Company Sales

川村新太郎 /30

〈インターオフィス〉コントラクト営業

きっかけ 映画『コーヒー & シガレッツ』でトム・ウェイツの登場場面のテーブルセットを観て空間づくりに携わりたいと思った。

仕事 オフィスを中心に、ショールームや公共・商業施設、教育施設などを手掛ける設計事務所やデザイン事務所のデザイナーに対し、プロジェクトにふさわしいインテリアをセレクト、提案するのが仕事。

働き方、待遇 朝6時半頃起床、愛犬の散歩後10時頃に出社。だいたい20時頃に帰宅。次の休みは銭湯か新しいリード探し。年収は425万〜600万円(弊社平均)。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

美容クリニック看護師
Plastic Surgery Nurse

中田莉子 /25

正恵会「ディオクリニック」看護師

きっかけ 大学病院に勤務していたが、自身が10kg減量した経験から美容の世界へ。食生活アドバイザーの資格も取得した。

仕事 点滴、採血、薬の処方などの他、医療従事者だけが行える美容医療の施術。ダイエットは精神的な波が影響するし、けっこう繊細。一人一人に寄り添い、効果を一緒に実感できたときは嬉しいし、ダイエットの正しい知識も身についた。

働き方、待遇 10時の開院前に出勤し、19時に退勤。週休2日のシフト制で、月給は33万〜45万円。育休・産休制度、施術職員割引(美容メニューが最大95%オフ)などの手当も。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

ブリーダー
Dog Breeder

高橋洋介 /35

『マスタッシュ』ブリーダー

きっかけ 犬好きだったので専門学校卒業後、アメリカのテリア系に強いブリーダーの下で修業した後、帰国し現在の職場に就職。

仕事 初めての方も飼いやすい、ミニチュアシュナウザーとテリア系専門のお店でブリーダー、トリマーとして働く。子犬を飼い主さんにお譲りした際、楽しそうに話しているのを見ると嬉しくなる。

働き方、待遇 9時出社、お店の子犬や成犬のお世話から始まり、お客様のわんちゃんのトリミング、子犬見学の接客を経て19時頃退社。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

歌人
Tanka Poet

伊藤紺 /29

フリーランス

きっかけ 大学時代に短歌に魅了され趣味で始めたのがきっかけ。自分の言葉で歌や文章を綴るうちに、仕事になっていった。

仕事 書籍の執筆、雑誌等への寄稿、企業やブランドへの短歌提供、イベント登壇など。様々な場所を舞台に展示をすることも。なかでも最近開催した「NEWoMan新宿」での展示は多くの人に自分の作品に触れてもらえる貴重な機会になった。

働き方、待遇 ありがたいことに自分の言葉を仕事にできている日々。午前中はゆったり自分の時間を過ごし、午後から執筆。早く終われば20時頃夕飯だけど、終わらなければ執筆続行。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

ソムリエ
Sommelier

櫻井里奈 /27

『DUCKSOUP−LONDON』フロントオブハウス・ソムリエ

きっかけ 看護師を経て英語力ゼロのままロンドンへ。今のお店でキビキビ働くスタッフと、ロクタヴァンのワインに感動して。

仕事 基本的にはオーダーを受けて配膳する仕事だが、付加価値はホスピタリティ。お客さんの"タベ"体験を向上できるよう努めている。自分の名前を覚えてくれて再来店してくれると嬉しい。ワインのチョイスを任せてくれるときは感無量。

働き方、待遇 16時にスタッフと賄いを食べたり、試飲をしてから開店準備。時給は13ポンド(日本円で約2000円)＋チップで、税金は2割ほど。給料日は2週間に1度。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

建築・建設工具の営業
Construction Tools Sales Rep

佐藤遼人 /26

「マックス」新規市場開拓セクション

きっかけ 就職活動の際、モノづくりに携わりたくてメーカーを志望。会社説明会で触れたマックス製品の性能に衝撃を受けた。

仕事 取引先や鉄筋工と呼ばれる職人さんに、鉄筋結束機「ツインタイア」を提案。実際の建設現場で、作業効率化や身体的負担の軽減などのメリットを伝えている。職人さんが「佐藤だから買ったんだ」と言ってくれたときは信頼関係を実感した。

働き方、待遇 午前中はひたすら取引先や建設現場を訪問し、午後は会社に戻り資料などを作成。ボーナスは仕事の成果が反映される成果配分制。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

キャンプ場運営
Manager of Campsite

Profession No. 044

古山憲正 /24

キャンプサイト「0site」ファウンダー

きっかけ 自然に囲まれた山で暮らそうと一念発起。自分たちの暮らしの延長線上で必要なことを進めていったら、今の仕事に。

仕事 山羊の世話や農作物の育成、拠点となる廃小学校の改装、キャンプサイトの企画・運営など。村の人との仕事や近隣の有機農家を手伝うことも。近所の女将に頼まれた梅採りをイベント化したときは、「0site」を超えた様が芽生えて嬉しかった。

働き方、待遇 朝6時に起床。畑仕事や拠点の掃除や改装などの作業をし、18時には帰宅。息子とお風呂に入って23時に就寝するのが毎日の流れ。基本的に自給自足生活。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

眼鏡デザイナー
Glasses Designer

Profession No. 043

早川大地 /27

〈Zoff〉商品部企画デザイナー兼スタッフインフルエンサー

きっかけ 大学でプロダクトデザインを学び、新卒で入社。1年半ほどの店舗接客を経て現在の部署に配属となった。

仕事 商品の企画と眼鏡のデザイン・色決めなど、接客の経験も生かして毎月デザインする。企画から開発までは長くて半年ほどかかるので、それが世に出たときは嬉しい。最近はスタッフインフルエンサーとして商品を宣伝する機会も増えた。

働き方、待遇 日によって様々だが、基本的に10〜19時の勤務時間の中で、資料作りやデザイン、色の絵型作りなどを自分の配分で進める。収入は一般的な20代の平均年収と同じくらい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

熊手商
Rake Dealer

Profession No. 042

清水雄太 /39

「Eild」代表取締役

きっかけ 音楽やアート関連の会社を運営する傍ら、大正から続く熊手商の4代目として家業を継ぐ。

仕事 熊手を手作りで製造し、酉の市での販売を行う。お客様と会うのは1年に1度だけだが、4世代にわたって付き合いが続いている家もある。現代アーティストにオファーし共に熊手をアップデートするアート熊手のプロジェクトも行っている。

働き方、待遇 11月に2、3回（東京・田無）、12月に1、2回（埼玉）酉の市で熊手販売を行い300万円ほど売り上げている。アート熊手は現在500万〜600万円ほどの売り上げがある。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

バレリーナ、バレエ教師
Ballerina, Ballet Teacher

Profession No. 047

京峰 舞 /33

「京峰 BALLET STUDIO」オーナー

きっかけ 習い事でバレエを始めて、そのままバレエ団に入団。在団中から教師の仕事も開始し、退団後に姉とスタジオ開設。

仕事 年齢やレベルに合わせたクラス構成を考えて、レッスンを行い、発表会なども企画する。スタジオ運営に必要な事務や経理を行う。バレエ団は退団したが、依頼があれば舞台にも立っているのでトレーニングも大切な仕事。

働き方、待遇 自分自身のストレッチや筋トレ、レッスンは毎日欠かさず。出演予定の舞台がある時期はリハーサルなどをしてからスタジオでバレエの指導を行うので少しハード。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

美容師
Hair Stylist

Profession No. 046

村上祐介 /30

『UNDER THE SUN』トップスタイリスト

きっかけ 絵を描くことが好きでクリエイティブな仕事に就きたかったから身近で自分の店を持つこともできる美容師の道へ。

仕事 営業中はお客様のヘアカットやパーマ、カラーリングなど様々なメニューを提供している。その後は、スタッフ育成のためのレッスン。お客様のイメージをヒアリングした上で、自分の色を出すようなデザインができると嬉しい。

働き方、待遇 アシスタント時代は大体月に20万円くらい。デビューすれば歩合制のお店が多いので、月収100万円も夢じゃない。忙しいけど休みはちゃんと取れて毎日が充実している。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

古着商
Vintage Clothing Dealer

Profession No. 045

島田晶平 /29

『ARGO』オーナー

きっかけ 兄（『バーバーボーイズ』島田裕生さん）の影響で古着が好きに。古着卸会社に8年勤めた後、昨年8月に店をオープン。

仕事 アメリカ、カリフォルニア州をメインに、車で田舎にも行って2〜3週間かけて古着を買い付け。その商品をメンテナンスし、気温などに合わせて店頭商品を入れ替える。古着から遠ざかっていた人がお店で古着熱を再燃させてくれると嬉しい。

働き方、待遇 10時に出勤し、お店の掃除。11時開店。手の空く時間に商品撮影やアイロンがけなど。19時クローズ。ただいまアメリカにて買い付け中。帰国したら和食が食べたい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

Profession LIST 100

001. Gallerist
002. Bank Employee
003. DJ
004. Bartender
005. Marketer and Public Relations Agent
006. Charcutier
007. Therapist
008. Business Consultant
009. Housecleaning Company Researcher
010. Plasterer
011. Mercer
012. Journalist
013. Cleaning Store Staff
014. Public Relations of Adult Video Manufacturer
015. Videographer
016. Chef
017. Manager of Farm
018. Sound Designer
019. Sales
020. Craftsman of Edo-Kiriko
021. Taxi Driver
022. Trading Company Employee
023. Waterproof Industry
024. Stall Manager
025. Comic Storyteller
026. Balloon Pilot
027. Japanese-English Interpreter
028. Catering Chef
029. Mandarin Orange Farmer
030. Bakery
031. Manager of Notebook Store
032. Manager of Bath Facility
033. Intimacy Coordinator
034. SNS Marketer
035. Mahjong Player
036. Dog Breeder
037. Plastic Surgery Nurse
038. Interior Trading Company Sales
039. Construction Tools Sales Rep
040. Sommelier
041. Tanka Poet
042. Rake Dealer
043. Glasses Designer
044. Manager of Campsite
045. Vintage Clothing Dealer
046. Hair Stylist
047. Ballerina, Ballet Teacher
048. Special School Teacher
049. Digital Media Planner
050. Auctioneer
051. Curator
052. Company Employee and Yoga Instructor
053. Train Driver
054. Food Director
055. Architectural and Interior Designer
056. Doctor of Internal Medicine
057. Sushi Chef
058. Blacksmith
059. Product Marketer
060. Florist
061. Nishijin Silk Fabrics-Hikibaku Craftsman
062. Building Material Industry
063. Radio Director
064. Cosmetics Research Planner
065. Monk
066. Assistant Director of TV Program
067. Apparel Company Sales
068. Music Festival Organizer
069. Early Childhood Educator
070. Mayan Calendar Appraiser
071. Editorial Designer
072. Logistics Consultant
073. Maritime Officer
074. Candle Artist
075. Femtech Company Manager
076. Coffee Roaster
077. Home Appliance Marketer
078. Department Store Buyer
079. Firefighter
080. Philosopher
081. Costume Designer
082. Hotel Manager
083. Headspanist
084. System Engineer of Quality Assurance
085. Writer
086. Creative Director
087. Art Director
088. Tatoo Artist
089. Lawyer
090. Actor
091. Real Estate Agent
092. Illustrator
093. Architect
094. Furniture Store Manager
095. Film Distributor
096. Hair & Makeup Artist
097. Proofreader
098. Cocoa Trading Company Sales
099. Weather Caster
100. Sake Brewer

デジタルメディアプランナー
Digital Media Planner

Profession No. 049

枝迫雄大 /24

「マッキャンエリクソンメディアプランズジャパン」デジタルメディアプランナー

きっかけ 姉を通じて会社を知り、説明会での社員との会話で魅力を感じたのをきっかけに新卒採用試験を経て入社。

仕事 広告を消費者へ届ける役割。時間、場所、生活スタイルなど様々な軸で伝え方を工夫する。自治体のインバウンド需要向上のため、海外向けの広告配信と機械学習を用いたプランを提案・実施したときはクライアントも喜んだ。

働き方、待遇 在宅・オフィス出社のハイブリッド。基本給は年俸と時間外手当（固定残業なし）。契約保養所、ベビーシッター割引、食事券支給など福利厚生が手厚い。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

特別支援学校教諭
Special School Teacher

Profession No. 048

酒井愛瑠 /23

特別支援学校 教諭

きっかけ 漠然とした興味から大学で特別支援教育を専攻したのがきっかけで、卒業後に今の学校に就職した。

仕事 障がいのある子供たちが通う学校の先生。授業をしたり、給食を生徒と一緒に食べる。発語のない子が一生懸命カードやサインを使って思いを伝えてくれ、自分が理解できたときに「伝わった〜！」という顔をしてくれるのは何度見ても嬉しい。

働き方、待遇 子供たちが登校してから下校するまで共に過ごす。基本的に学校が休みの日は仕事はないが、登校日は生徒が下校後も事務仕事が多い。毎月の収入は安定している。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

会社員、ヨガインストラクター
Company Employee and Yoga Instructor

Profession No. 052

宮本留衣 /29

「BEAMS」CE本部、「IGNITE YOGA studio」インストラクター

きっかけ 2つの夢を追いかけたいと思いアルバイトをしながら夜間にWEBの学校、休日はヨガの資格の勉強に励んだ。

仕事 「ビームス」では主に自社メディアの配信を担当。休日にはヨガのインストラクターとして自分のクラスを持っている。兼業を歓迎してくれる会社で、社内や店舗でもヨガイベントを開催し、みんなにいい刺激を与えられたのが嬉しかった。

働き方、待遇 「ビームス」は正社員フル在宅勤務。交通費や残業代はないですが、お金く経験・勉強時間な私には合っている。週1〜2回はヨガクラスを開催し、仕事と両立させている。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

キュレーター
Curator

Profession No. 051

高木 遊

「金沢21世紀美術館」アシスタント・キュレーター

きっかけ アートスペースの展示企画や運営にインディペンデントキュレーターとして携わった後、金沢21世紀美術館に着任。

仕事 展示企画を主軸に作家や作品の調査を行う。現在は2023年10月から始まる『DXP―次のインターフェースへ』の準備中。常日頃から全身全霊で仕事に臨んでいるが、参加アーティストが喜んでくれるのはどうしたって嬉しい。

働き方、待遇 勤務時間は9時半から18時15分までだが、展覧会開催直前は納得がいくまで働く。次の休みも山梨のアートスペース『GASBON METABOLISM』に行くなどアート三昧。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

オークショニア
Auctioneer

Profession No. 050

林田吉邦 /35

「SBIアートオークション」営業企画部アシスタントマネージャー

きっかけ 初めてオークションの下見会に行ったときに美術館やギャラリーとは異なるアートの流通に携わってみたいと思った。

仕事 作品集めと、セールの提案や交渉、顧客のコレクションの管理などを行う。経営者など普段はお会いする機会がない方々とアートを共通言語としてやり取りできるのは魅力。作品の値付けに関与するので責任は重大な仕事。

働き方、待遇 オークションがあるときは休日出勤。外国人のスタッフも多く社内ではさまざまな言語が飛び交い国際色豊か。年収はアンディ・ウォーホルのキャンベルスープ缶約1枚分。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

フードディレクター
Food Director

Profession No. 054

KAORU

フリーランス

きっかけ facebookに投稿した料理写真が雑誌編集者の目に留まったのがきっかけ。こういう職業があることも知らなかった。

仕事 CMや広告、雑誌のディレクションやスタイリング、フードクリエイション全般。アーティスト・YUKIさんのアートブックでは魚が丸ごと入ったゼリーなど自由に表現させていただけて嬉しかった。昨年フード雑誌『shichimi magazine』を創刊。

働き方、待遇 撮影や打ち合わせ、仕込み、レシピ開発、連載執筆など日によって様々。現在は郷土料理について全国のおばあちゃんへ取材する連載なども担当する。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

鉄道運転士
Train Driver

Profession No. 053

小野寺祐樹 /31

「東急電鉄」運輸部長津田電車区運転士

きっかけ 父に勧められ高卒で駅務係として入社。先輩方の姿を見て電車を運転したいと思い車掌業務を経験し運転士へ。

仕事 電車の運転業務に加え、事故ミス防止プロジェクトチームに所属し安全安定輸送に尽力する。毎日無事故で何事もなく勤務を終えることにやりがいを感じる。東急新横浜線のような新線の開通などに立ち会えることも嬉しく思う。

働き方、待遇 8時間勤務の日勤の他、仮眠時間が設けられた泊まり勤務がある。毎月安定した給与と年2回の賞与があり、福利厚生も手厚い。休日には自転車で山登りを楽しむ。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

Profession LIST 100

001. Gallerist
002. Bank Employee
003. DJ
004. Bartender
005. Marketer and Public Relations Agent
006. Charcutier
007. Therapist
008. Business Consultant
009. Housecleaning Company Researcher
010. Plasterer
011. Mercer
012. Journalist
013. Cleaning Store Staff
014. Public Relations of Adult Video Manufacturer
015. Videographer
016. Chef
017. Manager of Farm
018. Sound Designer
019. Sales
020. Craftsman of Edo-Kiriko
021. Taxi Driver
022. Trading Company Employee
023. Waterproof Industry
024. Stall Manager
025. Comic Storyteller
026. Balloon Pilot
027. Japanese-English Interpreter
028. Catering Chef
029. Mandarin Orange Farmer
030. Bakery
031. Manager of Notebook Store
032. Manager of Bath Facility
033. Intimacy Coordinator
034. SNS Marketer
035. Mahjong Player
036. Dog Breeder
037. Plastic Surgery Nurse
038. Interior Trading Company Sales
039. Construction Tools Sales Rep
040. Sommelier
041. Tanka Poet
042. Rake Dealer
043. Glasses Designer
044. Manager of Campsite
045. Vintage Clothing Dealer
046. Hair Stylist
047. Ballerina, Ballet Teacher
048. Special School Teacher
049. Digital Media Planner
050. Auctioneer
051. Curator
052. Company Employee and Yoga Instructor
053. Train Driver
054. Food Director
055. Architectural and Interior Designer
056. Doctor of Internal Medicine
057. Sushi Chef
058. Blacksmith
059. Product Marketer
060. Florist
061. Nishijin Silk Fabrics-Hikibaku Craftsman
062. Building Material Industry
063. Radio Director
064. Cosmetics Research Planner
065. Monk
066. Assistant Director of TV Program
067. Apparel Company Sales
068. Music Festival Organizer
069. Early Childhood Educator
070. Mayan Calendar Appraiser
071. Editorial Designer
072. Logistics Consultant
073. Maritime Officer
074. Candle Artist
075. Femtech Company Manager
076. Coffee Roaster
077. Home Appliance Marketer
078. Department Store Buyer
079. Firefighter
080. Philosopher
081. Costume Designer
082. Hotel Manager
083. Headspanist
084. System Engineer of Quality Assurance
085. Writer
086. Creative Director
087. Art Director
088. Tatoo Artist
089. Lawyer
090. Actor
091. Real Estate Agent
092. Illustrator
093. Architect
094. Furniture Store Manager
095. Film Distributor
096. Hair & Makeup Artist
097. Proofreader
098. Cocoa Trading Company Sales
099. Weather Caster
100. Sake Brewer

鮨職人
Sushi Chef

Profession No. 057

譽田陽大 /25

『鮨 利崎』大将

きっかけ 高校卒業後バックパッカーとして約20か国を旅する。そこで見た"寿司"という食文化に魅力を感じて現職へ。

仕事 朝の市場での仕入れや、握り、接客全般。師匠に「職人で一番大切なのは好かれること」と教わった。お客様が刺し身を食べる際にわさびを付ける量を見て、鮨に入れるわさびの量を決めるなどお客様が何を求めているかを常に考えている。

働き方、待遇 毎朝6時に起床し、市場へ。仕入れや挨拶を済ませたら店へ戻って開店準備をする。閉店後も片付けや練習をするので帰宅は大体25時くらい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

内科医
Doctor of Internal Medicine

Profession No. 056

高倉悠人 /38

大学病院　助教（任期）

きっかけ 内科医である父に憧れて。大学在学時にすべての科を体験したが、自分の理想の医師像は変わらなかった。

仕事 病院にいらっしゃった外来・入院患者の対応をする。入院してきた患者様が元気に退院し、家へ帰っていく瞬間が一番嬉しい。外来では少しでも日常生活の助けになるよう、患者に寄り添った治療を心がけている。

働き方、待遇 9時から仕事を開始し、17時まで勤務。カンファレンスや当直などがあると前後する。給与は大谷翔平選手の年俸の約250分の1くらい。福利厚生は健康保険と交通費。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

建築・インテリアデザイナー
Architectural and Interior Designer

Profession No. 055

金井晴香 /27

「SUPPOSE DESIGN OFFICE」デザイナー

きっかけ 昔から素敵な空間やものづくりが好きだったので。あまり悩むことなく自然とこの道に進んだ。

仕事 住宅やオフィス、店舗など様々な空間のデザイン。レイアウトから細部の収まりまで設計図や模型、3Dモデルなどを作りながら検討する。実際に使うマテリアルを決めたり、現場では施工をする方々と話し合いながら完成までを見届け。

働き方、待遇 年収は、一人暮らし用の部屋のリノベ代を一括で払えるくらい。一般の人も利用できる、「社食堂」で安くて美味しいご飯が食べられる。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

花屋
Florist

Profession No. 060

中鉢祥太 /36

『The Bulb Book』『inapot』@the_bulb_book　@inapot_

きっかけ 20代はアパレル勤務。花屋を経営していた母の影響で花や植物に興味を持ち洋服との繋がりも感じて花屋の道へ。

仕事 街の花屋としての店舗営業から、ショップディスプレイ、ステージ装飾なども行う花や植物のなんでも屋。「頂フェス」で植栽やプロップスタイリングをした際は、ハプニングもあったが参加者が感動するステージを作ることができた。

働き方、待遇 朝6時くらいから市場で仕入れをして、すぐお店に戻って仕入れたお花の仕込みにかかる。日中はお店の営業や配達。装飾の仕事のオファーがあればいつでもどこへでも！

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

プロダクトマーケター
Product Marketer

Profession No. 059

遠藤美穂子 /29

「富士フイルムビジネスイノベーション」グラフィックコミュニケーション事業本部

きっかけ 日本の価値ある素晴らしい技術力を、世界の人に届けるものづくりに携わりたいと考えて新卒で入社。

仕事 世界各国のお客様のもとへ訪れ、商品紹介やヒアリングを通しお客様にどのように自社商品を活用していただけるのかを把握する。それを社内に共有し、マーケットのニーズに応える商品を届けられるよう販売戦略や商品企画を考えている。

働き方、待遇 フレックス制なので9〜10時頃から業務を開始。メールの確認や社内外でのミーティングをして大体19時過ぎには退社。休みの日は朝からヨガでリフレッシュ。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

刃物鍛冶
Blacksmith

Profession No. 058

丸山敦史 /34

「二唐刃物鍛造所」刃物事業部包丁課

きっかけ 金属加工の仕事に興味があり、偶然見つけた現在の職場の求人締め切りが翌日だったため、勢いで応募したら採用。

仕事 鍛造した刃物の研ぎ作業を担当している。特に刃が包丁の片側だけに付いている「片刃包丁」の研ぎは社内で自分しかできず、会社の強みとなる商品を生み出すことにやりがいを感じている。

働き方、待遇 7時半に出社し、17時半まで仕事をする。17時半から19時半までは作業場で自分の作品作り。6時起床、22時就寝と完全に朝型の生活。時間額は青森県の最低賃金くらい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

ラジオディレクター
Radio Director

Profession No. 063

藤山のぞみ /40代

「ディアフィールド」ラジオ制作・ディレクター

きっかけ 深夜放送のADのアルバイトをきっかけにフリーランスとして活動。30歳を機に縁あって現在の会社に入社した。

仕事 収録日程を決めて放送内容の打ち合わせ、ゲストの方へのお声掛け、台本の執筆などをして収録日を迎える。最後に録音した音声を番組にする編集作業を行い、ラジオ番組やPodcast番組の完成。ゲストの方のお話から勉強することも多い。

働き方、待遇 賞与は年に2〜3回支給。エンターテインメントを体感することもいい番組を作るために大切なので、LIVEなどのチケット代は会社が負担してくれる。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

建材業
Building Material Industry

Profession No. 062

小山翔平 /33

「TIMBER CREW」製造部

きっかけ アルバイトで作業をしに来たときに工場の雰囲気と社員のかっこよさに衝撃を受け、前職の家具店を辞めて入社。

仕事 店舗の什器、備品、プロダクトの製作。自分が製作したテーブルや什器などが実際に使われているところを見ると嬉しいし、納品に行ったときのお客さんの反応にも励まされる。作業時には生地からこだわったオリジナルユニフォームを着用。

働き方、待遇 朝9時に出社し、19時には退社。早く終わった日は社内に併設されたバースペースで終業後に一杯。給料日には皆で飲み会も。休憩中は廃材で作ったセクションでスケボー。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

西陣織 引箔職人
Nishijin Silk Fabrics-Hikibaku Craftsman

Profession No. 061

村田紘平 /46

「楽芸工房」伝統工芸士

きっかけ 西陣織の特徴である引箔の工房は代々続く家業。手伝いをきっかけにものづくりに興味を持ち家業を継ぐことに。

仕事 金銀箔や伝統技法を用いた帯地のデザインを中心に、伝統工芸の枠を超えた新しいものづくりにも取り組む。「BMWと日本の名匠プロジェクト」を通してメディアでも発信し、西陣織の産地振興に大きく貢献できたことを実感した。

働き方、待遇 会社員なので福利厚生はしっかりしていて同世代のサラリーマンと同じくらいの給与。打ち合わせを挟み、時には朝から晩まで制作作業に取り組むこともある。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

TV番組のアシスタントディレクター
Assistant Director of TV Program

Profession No. 066

蒲生勇樹 /25

「クリーク・アンド・リバー社」映像制作

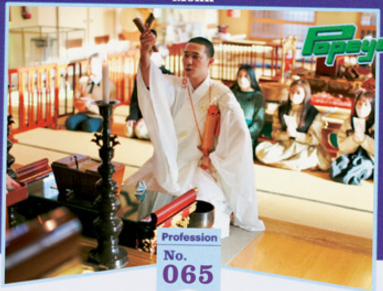
きっかけ 製薬会社を目指していたが、薬では心を健康にできないと思ったのと大好きなバナナマンと仕事をしたくて現職へ。

仕事 リサーチから収録、本編の編集まで1回の放送で数多くのことを同時にこなす。演者だけでなく技術や美術など多くの人と関わるのでコミュニケーション能力が必要。収録で先輩ディレクターから進行を任せられたときは認められた気がした。

働き方、待遇 大体8時半から働き、帰宅は21時頃。年収は約320万円。週休2日制で残業代あり。人と関わる仕事として見た目の清潔感は重要なので、次の休みは髪を切りに行きたい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

僧侶
Monk



Profession No. 065

林 光汰 /30

「日蓮宗 日頭山 立雲寺」副住職

きっかけ お寺で生まれ育ち、修行をしながら大学で仏教を学ぶ。35日間の身延山での修行を経てお坊さんの資格を獲得。

仕事 法事や葬儀、ご祈祷、参拝者の応対、御朱印の書き入れ、掃除など。地域の方々と協力してお寺での行事を企画することも。自分でお守りを作ってご祈祷を受けてもらうワークショップは反響が大きかったので今後も続けていく予定。

働き方、待遇 葬儀などがない日は、お勤め（お経）は朝6時半と16時の1日2回行い、17時にはお寺の戸締まり。待遇はお寺によって全然違うけど、地方公務員とだいたい同じくらい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

化粧品メーカー営業 研究企画
Cosmetics Research Planner

Profession No. 064

川崎安里紗 /28

「ACRO」THREE ホリスティックリサーチセンター リサーチプランナー

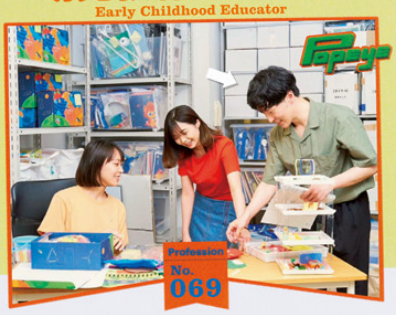
きっかけ 学生時代から化粧品が大好き。新卒で進んだのは他業界だったが、どうしても化粧品に携わりたくて転職した。

仕事 化粧品の新規原料の探索や研究や新商品の開発。実際に現地に赴き生産者と話したり、自分で畑を耕したり植物に触れることも大切な仕事。植物原料の魅力を伝えるイベントの企画・運営は、お客様の声を聞くことができるいい機会。

働き方、待遇 9時から18時頃までの勤務の中で、資料を作成しミーティングに参加、リサーチ作業などを行う。給与は400万円程度。次の休日は、パートナーとデート。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

幼児教育会社運営
Early Childhood Educator



Profession No. 069

中村将明 /27

「Palett」代表取締役CEO / CCO

きっかけ 幼児教育は人生に影響を与えるにもかかわらず、いまだに現場任せでテクノロジーが活用されていないと思い起業。

仕事 幼児教育を行う組織の経営戦略・事業開発・パーソナライズシステムの開発・ブランドデザインなどを行う。子供たちが自社のサービスに夢中になったり、仲間が仕事にやりがいを感じている姿を見て「いい仕事をしたな」と感じる。

働き方、待遇 午前中に3つあるチームのリーダーと簡単な打ち合わせ。午後はWebサイトや広告関連のデザイン業務など、昼夜問わず会社のいろんな業務に触れている。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

音楽フェスティバル主宰
Music Festival Organizer

Profession No. 068

大谷飛太 /38

「FFKT LLC.」代表

きっかけ DJをしながらイベントを主催してきて、前身であるタイコクラブの運営に携わる。独立して「FFKT」を立ち上げた。

仕事 野外音楽イベント「FFKT」の企画から制作、運営。音楽はもちろん多様な刺激を受け取ってもらえるようなイベントにするために、会場や地域とのやりとり、アーティストのブッキングやケア、ステージ演出や製作物のディレクション。

働き方、待遇 シーズンに応じて仕事量は異なるが、国内外の大勢の人と関わるのでコアタイムは要調整。待遇は、実績に応じて変化する。休日にはDJとしてイベントに出演することも。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

アパレル会社 営業
Apparel Company Sales

Profession No. 067

柿谷広樹 /42

〈CANADA GOOSE〉 ホールセールマネージャー

きっかけ 小売り業界での経験を経て、卸売りを通したブランドビジネスに興味を持ち現職へ転職。

仕事 年2回のシーズンごとに展示会を行い、セレクトショップや百貨店のバイヤーに営業をかける。ブランドのイメージアップにこだわり、販路縮小で希少価値を高めながらも売り上げを伸ばせたときはいい仕事をしたと感じる。

働き方、待遇 リモートワークは週1〜2日。国内出張は北は北海道、南は鹿児島まで。コロナ禍以降減少したが海外出張でカナダやニューヨーク、ヨーロッパへ行くことも。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

物流コンサルタント
Logistics Consultant

Profession No. 072

西尾浩紀 /37

「CAPES」代表取締役

きっかけ テレビ通販会社、コンサル会社、ネット通販会社を経て起業。物流センター立ち上げに携わったのがきっかけ。

仕事 企業の依頼を受け、写真の背景のような物流センターや、システムの改善、構築を手助けする仕事。守備範囲はネット購入した物が倉庫から自宅に届くまでと広い。日本は買い物をECでする比率がまだアメリカの約半分。伸びしろがすごいです。

働き方、待遇 コンサル＝激務のイメージがありますが、基本は9〜18時の勤務時間。時短勤務者や業務委託、副業と様々な関わり方をするメンバーがいます。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

エディトリアルデザイナー
Editorial Designer

Profession No. 071

長坂 凪 /25

「細山田デザイン事務所」デザイナー @nagasakanagi

きっかけ 美大でグラフィックを専攻していた頃、何を制作するにも最終的には本に落とし込んでいたと気づき、今の会社に就職。

仕事 雑誌や書籍を主に紙媒体のデザインを担当。『電子顕微鏡で見る昆虫・奇蟲図鑑』という専門書を担当し、ニッチな内容にもかかわらず、Twitterでバズっているのを見かけたときは嬉しくて虫の拡大写真と長期間闘った苦労を一瞬で忘れた。

働き方、待遇 残業中は夜食が支給されたり、社員旅行では1週間パリへ。今月から会社の業務を週4にして、イラストの仕事をさせていただけることに。社長には頭が上がりません。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

マヤ暦鑑定士
Mayan Calendar Appraiser

Profession No. 070

ALYN /39

「oto to maya」鑑定士、鑑定士育成講師

きっかけ 友人がいつの間にかマヤ暦鑑定士になっていて、見てもらったのがきっかけ。面白さに夢中になり、気付けば講師に。

仕事 鑑定では統計学をもとに人それぞれのバイブスの整え方、向き不向きな事柄、対人の相性などを知ってもらい潜在意識のスイッチを押す作業をしている。「元気になった」という声をもらったり、要所要所で相談に来てくれるとやりがいを感じる。

働き方、待遇 午前中にZoom授業を開講、午後に個人鑑定を行う。個人鑑定の料金は1件約1万円で、1日4件限定。イベントに参加することも。育成講座の授業料が安定した収入になっている。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

キャンドルアーティスト
Candle Artist

Profession No. 074

AKARiYA /41

フリーランス

きっかけ キャンドルの灯りやキャンドルを使った装飾が好きで職業にしたいと思っていた。イベント出店などを経て仕事に。

仕事 アトリエでキャンドルを製造し、結婚式や音楽フェスティバル、パーティでの装飾を担当したり、キャンドルの販売やリースも行っている。結婚式などのお祝いの席で、自分の装飾を見た主催者や参列者が喜んでくれる様子を見るのは嬉しい。

働き方、待遇 作業日は朝にコーヒーを飲みながらキャンドルの原料を溶かし、セットした型に色をつけた原料を流し込む。午前中これを繰り返し、昼から自由時間。夜は型から外す作業。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

Profession LIST 100

001. Gallerist
002. Bank Employee
003. DJ
004. Bartender
005. Marketer and Public Relations Agent
006. Charcutier
007. Therapist
008. Business Consultant
009. Housecleaning Company Researcher
010. Plasterer
011. Mercer
012. Journalist
013. Cleaning Store Staff
014. Public Relations of Adult Video Manufacturer
015. Videographer
016. Chef
017. Manager of Farm
018. Sound Designer
019. Sales
020. Craftsman of Edo-Kiriko
021. Taxi Driver
022. Trading Company Employee
023. Waterproof Industry
024. Stall Manager
025. Comic Storyteller
026. Balloon Pilot
027. Japanese-English Interpreter
028. Catering Chef
029. Mandarin Orange Farmer
030. Bakery
031. Manager of Notebook Store
032. Manager of Bath Facility
033. Intimacy Coordinator
034. SNS Marketer
035. Mahjong Player
036. Dog Breeder
037. Plastic Surgery Nurse
038. Interior Trading Company Sales
039. Construction Tools Sales Rep
040. Sommelier
041. Tanka Poet
042. Rake Dealer
043. Glasses Designer
044. Manager of Campsite
045. Vintage Clothing Dealer
046. Hair Stylist
047. Ballerina, Ballet Teacher
048. Special School Teacher
049. Digital Media Planner
050. Auctioneer
051. Curator
052. Company Employee and Yoga Instructor
053. Train Driver
054. Food Director
055. Architectural and Interior Designer
056. Doctor of Internal Medicine
057. Sushi Chef
058. Blacksmith
059. Product Marketer
060. Florist
061. Nishijin Silk Fabrics-Hikibaku Craftsman
062. Building Material Industry
063. Radio Director
064. Cosmetics Research Planner
065. Monk
066. Assistant Director of TV Program
067. Apparel Company Sales
068. Music Festival Organizer
069. Early Childhood Educator
070. Mayan Calendar Appraiser
071. Editorial Designer
072. Logistics Consultant
073. Maritime Officer
074. Candle Artist
075. Femtech Company Manager
076. Coffee Roaster
077. Home Appliance Marketer
078. Department Store Buyer
079. Firefighter
080. Philosopher
081. Costume Designer
082. Hotel Manager
083. Headspanist
084. System Engineer of Quality Assurance
085. Writer
086. Creative Director
087. Art Director
088. Tatoo Artist
089. Lawyer
090. Actor
091. Real Estate Agent
092. Illustrator
093. Architect
094. Furniture Store Manager
095. Film Distributor
096. Hair & Makeup Artist
097. Proofreader
098. Cocoa Trading Company Sales
099. Weather Caster
100. Sake Brewer

航海士
Maritime Officer

Profession No. 073

杉原すみれ /28

郵船クルーズ〈飛鳥Ⅱ〉3等航海士

きっかけ 幼い頃に見た客船に魅了されて。大学では海事工学を学ぶ。卒業後の大学乗船実習科で3級海技士の資格を取得。

仕事 操船以外に安全運航に関すること全般を担う。航行する海域の潮流計算や日出没の計算、担当機器の保守管理など業務は多岐にわたる。通り雨後の虹を船内放送で案内。お客様の笑顔が嬉しかった。

働き方、待遇 8〜12、20〜24時の計8時間航海を行い、その他の時間で事務処理やメンテナンスなども行う。飛鳥Ⅱ家族割引乗船制度で、自分も含め家族が割引で乗船できる。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

家電メーカー マーケティング
Home Appliance Marketer

Profession No. 077

金崎泰真 /41

「カドー」マーケティング部長

きっかけ 長い間アパレル業界にいたが、より領域を広げて日々の暮らしに近い距離での価値提案をすべく転職した。

仕事 加湿器などの空気に関する家電をブランディングから販売まで、価値提案を形にするための仕組みを作る。ベンチャー企業なのでプロジェクトを成功させるためにチームメイトも含めたくさんの人の力を借りているがそれが面白いし感謝。

働き方、待遇 福利厚生が手厚く安定した収入がある。9時に出社し社内外とのミーティングなどをして19時に退社。仕事の後にはバスケやワークアウトをルーティンに取り入れている。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

コーヒー焙煎士
Coffee Roaster

Profession No. 076

大西正紘 /36

『SWITCH COFFEE TOKYO』オーナー

きっかけ 学生のときにアルバイトでコーヒーショップで働いたのが始まり。27歳のときに今のお店をオープンした。

仕事 焙煎とパッキングなどの製造から店頭での接客やドリンク作りも。2020年にオープンした兜町K5の立ち上げにも携わった。お店がある目黒の地元の人から、世界的なシェフまで、幅広いお客様に立ち寄ってもらえるのは嬉しい。

働き方、待遇 8時起床、開店前の9時半に出勤。18時に店を閉めたら、近所で飲んで帰宅。収入は飲食や趣味を満喫できる程度。直近の長期休暇は、ヨーロッパのワイン産地で過ごした。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

フェムテック企業 マネージャー
Femtech Company Manager

Profession No. 075

梅津和佳奈 /39

「fermata」シニアマネージャー

きっかけ 前職は化粧品メーカーに勤務。忙しく働く自分の体や気持ちに向き合えていないと気付きフェムテックに興味を持つ。

仕事 プラットフォーム創出のためのコミュニティ育成、fermataのブランディング、年に一度の『Femtech Fes!』というイベントの企画など。いまだ取り組まれることの少ない「女性のウェルネス」課題を解決・支援することが目的。

働き方、待遇 午前にメールや売り上げを確認。午後はFemtech Fes!の運営企画や大使館で各国のフェムテック事業のディスカッションなど。最新のフェムテック商品は社割で購入可能。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

哲学研究者
Philosopher

Profession No. 080

牛田悦正 /30

フリーランス

きっかけ 「私はなぜ生きるんだろう？」と思ったのがきっかけ。その答えが希薄になった現代では難しい仕事だけど、挑戦中。

仕事 受講生に哲学を教える他、ビジネスマンに哲学を使ったコンサルやコーチングをすることも。YouTube「おしえて！うしくん！」では政治や社会の問題を哲学的に解説。仕事柄いつも本を読んでいるので、公私の境目はほとんどない。

働き方、待遇 朝起きてぼーっとして、昼から対人の仕事。それ以降は夜中の3時くらいまで本を読んだり、YouTubeの台本を書いたり様々。収入はギリギリ相対的貧困ではないくらい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

消防士
Firefighter

Profession No. 079

景山徳馬 /23

「敦賀消防署」消防第2課 救助隊

きっかけ 幼い頃に自宅前が火事になった恐怖が忘れられず、中学校での職場体験をきっかけに消防士の道を決意。

仕事 火災や交通、水難事故などの現場での要救助者の救出。災害はないに越したことはないが、助けを求める人の心に寄り添う救助がやりがい。ルールに沿って救助タイムを競う消防救助技術大会に出場し県優勝できたときは嬉しかった。

働き方、待遇 8時半に交代、翌朝の8時半まで災害に備える。17時15分までの訓練が終わったら事務処理や筋トレ、仮眠など。24時間勤務、明け休み、公休を繰り返す。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

百貨店 バイヤー
Department Store Buyer

Profession No. 078

宮下創太 /31

三越伊勢丹 「伊勢丹新宿店」メンズ館 地下1階 紳士靴 バイヤー

きっかけ ファッション誌の編集部でバイトをしていた学生時代に、「三越伊勢丹」のバイヤーを取材する機会があり興味を持った。

仕事 商品の企画やセレクト、PRプランや、いつどのように店頭に商品を並べるかの計画を立てる。"ISETAN靴博2022"というイベントで約50ブランドと別注品を製作した他、オーダーシューズの職人さんと数多くの協業を行ってきた。

働き方、待遇 11時頃出社、日中は打ち合わせや展示会訪問の予定で埋まっており、18時過ぎからメールチェックと資料作成、20時頃に退社。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

ヘッドスパニスト
Headspanist

Profession No. 083

西牟田吉 /32

『Headspa&treatment』オーナー

きっかけ 美容師時代、好きな技術がシャンプーとマッサージで、親からもマッサージが上手と言われていたのを思い出し独立。

仕事 毛髪を健やかに育てるための診断と生活習慣のアドバイス、それをYouTube（名義は仙人）でも発信する。顔色の悪く疲労困憊のお客さまにヘッドスパを施したとき、血の気が戻り見た目もまるで別人に。やはりヘアケアは大切だと実感した。

働き方、待遇 7時出社で1日3～4人施術。終業は早いと19時、遅いと22時。開業したばかりのため、手取りは月15万円くらい。最終的に手取り月50万円を目指す。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

ホテル支配人
Hotel Manager

Profession No. 082

笠井明 /26

ホテルグループ「水星」ホテリエ

きっかけ 大学時代のインターンシップをきっかけにホテリエの道へ。激務であろうと自分の責任範囲が広い今の仕事を選んだ。

仕事 ハーブティーやバスアメニティの開発、イベント企画など。スタッフ育成計画も行う。お客様が「大切な人とまた来たい」と思うようなサービス提供を目指す。チームのパフォーマンス向上でコロナ禍でも高い年間稼働率を達成した。

働き方、待遇 午前中は事務処理などをしながら12時半までにチェックアウトをするお客様の対応。その後設備・サービス管理などをする。福利厚生としてホテル宿泊の補助代が出る。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

衣装デザイナー
Costume Designer

Profession No. 081

中垣良亮 /36

フリーランス

きっかけ アパレル企業でパタンナーをしていたが友人のスタイリストからのはじめてのオーダーがきっかけで衣装を作り始める。

仕事 アーティストやアイドルがCMなどの様々な媒体で着用する衣装を製作している。アイドルのデビュー衣装を担当して、プロデューサーから「予想を超える衣装を作ってくれてありがとうございます」と言われたときは本当に嬉しかった。

働き方、待遇 大体10時くらいから19時くらいまでは、作業台で生地の裁断やミシンの前に座るかパソコン作業やミーティング。衣装を製作したアイドルのライブを見に行くこともある。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

photo: Kanato Hamaguchi

クリエイティブ・ディレクター
Creative Director

林 隆三 /38

「CRAZY Inc」クリエイティブ ディレクター

きっかけ 建築設計事務所、インテリアデザイン会社を経て現職。10年前に「CRAZY」から仕事の依頼をもらったのがきっかけ。

仕事 結婚式場としてだけでなく、人生の節目を祝う施設「IWAI OMOTESANDO」のブランディング全体を行う。また、「CRAZY」社内の価値観や行動指針といった"組織カルチャー"のディレクションも行う。

働き方、待遇 8時起床。12時と19時に食事ができるよう調理時間も含めて一日のスケジュールを組む。週一度は出社して社員と意見交換したり経営会議に出席。年収は初年度年収の3倍。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

ライター
Writer

佐藤稜馬 /30

フリーランス　@jjjryoma

きっかけ 新卒で入社した会社を5年で辞め、プータロー同然で波乗りをしていたところ、知り合いの紹介で仕事をもらった。

仕事 横乗りスポーツを中心に、インタビュー記事、海にまつわるコラムの執筆を行う。スポーツイベントの手伝いも。普段出会わない異業種のプロと話せるのがこの仕事の醍醐味で、東京五輪出場のサーフィン選手を取材したのは忘れがたい経験。

働き方、待遇 取材の日は時間も場所も案件次第。原稿執筆をする日は朝イチにサーフィンでリフレッシュして、9時から原稿を書き始める。波がいい日の執筆は自分との闘い。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

QAエンジニア
System Engineer of Quality Assurance

小松裕典 /28

FinTech企業ソフトウェア開発QAチームマネージャー

きっかけ 前職は電機メーカーで物流ロボットのソフトウェアを開発。開発全体に関わるリーダーの経験を積みたくて現職に。

仕事 QA（＝Quality Assurance）は品質保証という意味で、ソフトウェアの仕様に欠陥がないか、使いやすいか確認する仕事。不具合がないか自動でテストをしてくれるプログラムの作成も行う。また個人で開発したゲームのリリースもしている。

働き方、待遇 10時に業務を開始し、20時頃に終業。その後はゲームをしたり、作ったりなど。給与は同年代の平均年収より、少し多いくらい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

国際弁護士
Lawyer

山田康平 /34

法律事務所所属 弁護士

きっかけ TVドラマ『HERO』を見て法学部に進学。『HERO』は検察官のドラマだけど、勉強していく中で企業法務を志すように。

仕事 都内の法律事務所に所属しながら、現在はシンガポールで、日本企業が東南アジア地域へ進出する際の法務面でのサポート、現地でトラブルになった際の対応などを行う。反対に、海外企業が日本進出する際の法律のアドバイスをすることも。

働き方、待遇 日本にいた頃は23時頃まで働くことも多かったが、シンガポールに来てからは10時頃に出社し、19時頃に帰宅することが大半。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

タトゥーアーティスト
Tatoo Artist

ARIKA /30

フリーランス

きっかけ 美大卒業後、絵描きとして活動を続けながら、友人の家にあったタトゥーマシンを借りたことをきっかけに始めた。

仕事 スタジオやイベントでタトゥーを彫る。自分の絵やアーカイブを参考にお客様と相談しながら絵柄を描き起こし、マシンで彫っていく。お客様の想像力を引き出して、いい図案が出来上がるのが面白い。リピーターが多いのはありがたい。

働き方、待遇 午前中は家事や雑務を行い、午後から予約の入っているお客様の対応をする。地方のイベントなどに呼ばれることも。収入は同世代の会社員の平均くらい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

アート・ディレクター
Art Director

マッカートニー龍馬 /27

「upcoming.studio」アートディレクター

きっかけ 幼少期からパソコンでプログラム言語を使い、グラフィックを画面上に表示させるのに興味津々だった。

仕事 様々なブランド、メディアからの依頼で、カタログやWebサイト、アプリのアートディレクションからグラフィックまでをプロデュース。メキシコのお店『Loose Blues』で行った古着とフードのプロジェクトは今までで一番カオスで楽しかった。

働き方、待遇 午前中はコーヒーショップに行き、コワーキングオフィスの「みどり荘」へ。ドイツにいる同じ会社のメンバーの時間に合わせて夕方に雑談タイム。年収は700万～900万円。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

イラストレーター
Illustrator

そで山かほ子 /44

フリーランス

きっかけ 20代の頃に一生できる仕事を考えて、手に職をつけたいと思ったのがきっかけ。2013年からフリーで活動。

仕事 広告・雑誌・書籍などのイラストレーションを描く。どんな仕事でも、関わったスタッフや見てくれる人たちが笑顔で喜んでくれると毎回救われる。プライウッドのカットワークのプロダクトを個展にて定期的に発表している。

働き方、待遇 締め切りによってタイムスケジュールはバラバラ。ご飯と少しの睡眠と愛犬の散歩以外はずっと机に向かうときもある。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

不動産仲介
Real Estate Agent

西山さくら /25

「TATO DESIGN」スタッフ

きっかけ 美大在学中から「TATO DESIGN」の物件紹介サイトを見るのが好きで、バイト募集もないのにインターン希望を申し出た。

仕事 お客様が理想の物件を見つけるまでの応援役として、条件に合った物件を紹介する。物件を探して取材し図面を引くなどして物件ページを作成するのも仕事。他に内覧の案内やお客様をオーナーに繋げるなど。担当エリアは自転車で走り回る。

働き方、待遇 給料は歩合制なので頑張り次第。宅地建物取引士の資格を持っていると手当がつく（この春からついに宅建士）。休日に甥っ子に会いに行く時間が一番の癒やし。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

俳優
Actor

前原瑞樹 /30

「BLUE LABEL」所属 俳優

きっかけ バンクーバー五輪でフィギュアスケートの浅田真央さんの氷上での演技を見て感動し、なぜか「俳優になろう」と決意。

仕事 映画やドラマ、舞台、CMなどでのお芝居。本番までの監督や共演者、スタッフたちとのコミュニケーションも大事な仕事。出演映画『そばかす』を観た両親から、自分の出演シーンで客席から笑いが起こったと報告を受けたときは嬉しかった。

働き方、待遇 給料は歩合制なので、1～2時間の稼働で「こんなにもらえるの？」というときもあれば、寂しいときも。本番はいまだに緊張するので撮影前に予定を入れられない。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

映画配給
Film Distributor

Profession No. 095

中川慧輔 /31

「シンカ」映画事業部

きっかけ 大学卒業後、映画館で働きながら毎日映画を観る日々を過ごす。映画の買い付けに興味が湧いて今の会社に就職。

仕事 映画祭の時期には連日試写を観て、権利元との買い付け交渉を行う。映画の配信プラットフォームへの営業と、海外のセールス企業との契約業務が主な仕事。最近買い付けた映画は、ナ・ホンジン原案・プロデュースの『女神の継承』など。

働き方、待遇 10時始業、19時退勤。コロナ禍以降はテレワークも進み比較的フレキシブルな働き方に。休日はレコードバーで映画音楽のDJをして過ごす。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

インテリアショップスタッフ
Furniture Store Manager

Profession No. 094

遠藤 勇 /23

『P.F.S.PARTS CENTER』店長

きっかけ 20歳の頃に、家具の販売経験なし、やる気だけの状態でアルバイトで入ったのがきっかけ。そのまま今に至る。

仕事 接客と、店舗の管理業務が主な仕事。一部商品の製作、リペアも行う。ボロボロの状態で輸入したイギリス軍ベンチ、チェアを再塗装して油を差しリペアしたのが最初に任された商品に関わる仕事で、思い出に残っている。

働き方、待遇 10時半に出勤。商品の展示準備をして、12時に開店。19時にクローズ。年収は約450万円。休みはほぼサーフィンに出かける。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

建築家
Architect

Profession No. 093

竹内雅貴 /34

「permanent」代表

きっかけ 子供の頃、大工に憧れてかっこいい家を作りたいと思ったのがきっかけ。現在は建築事務所から独立して1年目。

仕事 住宅やホテルなどの空間デザイン・設計を行う。最近はフードの事業開発や、什器・家具・プロダクトの企画とデザインなども。携わった物件やモノが人の人生の一部になれるのはこの仕事ならでは。「素敵な家をありがとう」の声は励みになる。

働き方、待遇 朝9〜10時頃に事務所に出社し、22時に終業。終わらないときはその後も仕事をする。独立したばかりで未知数だけど、年収は中古のベンツGクラスくらい。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

校正者
Proofreader

Profession No. 097

牟田都子 /45

フリーランス

きっかけ 図書館員を経て出版社の校閲部に勤務、10年間経験を積んだのち、40歳でフリーランスに。

仕事 出版社から依頼された書籍・雑誌記事に目を通し、誤字脱字や文法のチェック、内容の事実確認などを行う。限られた時間で膨大な情報をチェックするうえに、見落としがあってはならないというプレッシャーも大きい。毎日が勉強。

働き方、待遇 朝6時起床。自宅が仕事場なので、出勤する家族を送り出したら始業。調べ物のために図書館や書店に足を運ぶことも。家族の帰宅する20時頃に終業。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

Profession LIST 100

001. Gallerist
002. Bank Employee
003. DJ
004. Bartender
005. Marketer and Public Relations Agent
006. Charcutier
007. Therapist
008. Business Consultant
009. Housecleaning Company Researcher
010. Plasterer
011. Mercer
012. Journalist
013. Cleaning Store Staff
014. Public Relations of Adult Video Manufacturer
015. Videographer
016. Chef
017. Manager of Farm
018. Sound Designer
019. Sales
020. Craftsman of Edo-Kiriko
021. Taxi Driver
022. Trading Company Employee
023. Waterproof Industry
024. Stall Manager
025. Comic Storyteller
026. Balloon Pilot
027. Japanese-English Interpreter
028. Catering Chef
029. Mandarin Orange Farmer
030. Bakery
031. Manager of Notebook Store
032. Manager of Bath Facility
033. Intimacy Coordinator
034. SNS Marketer
035. Mahjong Player
036. Dog Breeder
037. Plastic Surgery Nurse
038. Interior Trading Company Sales
039. Construction Tools Sales Rep
040. Sommelier
041. Tanka Poet
042. Rake Dealer
043. Glasses Designer
044. Manager of Campsite
045. Vintage Clothing Dealer
046. Hair Stylist
047. Ballerina, Ballet Teacher
048. Special School Teacher
049. Digital Media Planner
050. Auctioneer
051. Curator
052. Company Employee and Yoga Instructor
053. Train Driver
054. Food Director
055. Architectural and Interior Designer
056. Doctor of Internal Medicine
057. Sushi Chef
058. Blacksmith
059. Product Marketer
060. Florist
061. Nishijin Silk Fabrics-Hikibaku Craftsman
062. Building Material Industry
063. Radio Director
064. Cosmetics Research Planner
065. Monk
066. Assistant Director of TV Program
067. Apparel Company Sales
068. Music Festival Organizer
069. Early Childhood Educator
070. Mayan Calendar Appraiser
071. Editorial Designer
072. Logistics Consultant
073. Maritime Officer
074. Candle Artist
075. Femtech Company Manager
076. Coffee Roaster
077. Home Appliance Marketer
078. Department Store Buyer
079. Firefighter
080. Philosopher
081. Costume Designer
082. Hotel Manager
083. Headspanist
084. System Engineer of Quality Assurance
085. Writer
086. Creative Director
087. Art Director
088. Tatoo Artist
089. Lawyer
090. Actor
091. Real Estate Agent
092. Illustrator
093. Architect
094. Furniture Store Manager
095. Film Distributor
096. Hair & Makeup Artist
097. Proofreader
098. Cocoa Trading Company Sales
099. Weather Caster
100. Sake Brewer

ヘア&メイクアップアーティスト
Hair & Makeup Artist

Profession No. 096

池田奈穂 /31

フリーランス

きっかけ アートやファッションが好きで美容専門学校へ進学。美容師などを経て、単身渡英し経験を積んで帰国して現在に至る。

仕事 主にブランドのシーズン・ルックの撮影で、モデルにヘアとメイクを施す仕事。クライアントと相談してイメージを練り、当日はモデルとコミュニケーションを取りながらヘアメイクを施す。モデルのケアや現場の雰囲気作りも大事な仕事のうち。

働き方、待遇 撮影の日は6時起床、7時頃に家を出て16時頃に帰宅。帰宅後は事務作業をしたり仮眠したりして20時頃に夕飯をとり、0時までには就寝するのが平均的な一日。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

日本酒醸造家
Sake Brewer

Profession No. 100

前田英臣 /38

「油長酒造」醸造家

きっかけ もとは日本酒が飲めなかったが、6年前「風の森」を飲んだ瞬間に「ここで酒造りがしたい」と思い翌日、蔵に電話した。

仕事 お酒の仕込み期間にどんな酒にするかの設計や配合を考え、まだ達成されていないお酒である「醪（もろみ）」の管理を行う。コロナ禍をきっかけに毎年10月に蔵主催の花火大会を行うようになり、お客様が酒を飲んで喜ぶ姿を見られるのが嬉しい。

働き方、待遇 仕込み期間は朝6時からの洗米作業と、蒸米、麹、酒母の管理。午後は醪の状態を見ながら作業し、17時に終業。業務時間外に、米の魅力を発信する活動"BEISUI"を行う。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

気象キャスター
Weather Caster

Profession No. 099

今井春花 /24

「ウェザーマップ」気象予報士、防災士

きっかけ 昔から「お天気コーナー」が好きだった。アパレル会社勤務の後、猛勉強をして気象予報士の資格を取得し今に至る。

仕事 テレビ朝日系『グッド！モーニング』お天気コーナーの制作、番組出演が主な仕事。にわか雨を予報して「大事なデートで濡れずに済んだ」という反応があったときは、いい仕事ができたと思った。天気予報で視聴者の一日を少し良い日にしたい。

働き方、待遇 TV出演の日は深夜0時に出社し、最新の天気を分析。2時までにメイクや着替えをして中継先へ。7時30分から の本番を終えたらすぐに退社。残業なしで、土日はお休み。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

カカオ専門の商社 営業
Cocoa Trading Company Sales

Profession No. 098

野呂謙友 /30

「立花商店」営業

きっかけ 大学時代にガーナにボランティアに行き、村で収穫されたカカオからチョコレートを作り販売したのがきっかけ。

仕事 上記の活動をサポートしてくれた今の会社で、チョコレートの原料であるカカオ豆、カカオマス、ココアパウダーの輸入と国内メーカーへの営業・販売を行う。海外出張は年に1、2回。

働き方、待遇 9時に出社。午前はメールチェックと会議があり、お昼休みを挟んで営業先に商談に行くというのが一般的な一日。年収は約600万円。

All rights reserved. No part this trading card may be reproduced in any manner of transmitted.

あの職場が君を待っている。

様々な職種を知り、自分の仕事に打ち込む人たちの哲学を吸収してきたそこの君！頭でっかちになりすぎず、まずは実際に自分の力で働いてみるのはいかがだろう？ ここに集めたるは、夢の第一歩を踏み出すための魅力的な28件の求人情報。押忍！

① BEATINK

| *Sales* | *Accounting* | *Publicity* Apply Now

Contact
- 東京都目黒区中目黒3-8-15
- ☎なし
- info@beatink.com
- www.beatink.com

名だたるアーティストと一緒にグループを奏でよう。

Company Profile

ブライアン・イーノやトム・ミッシュ、そして我らがサンダーキャットなど、世界的な人気を誇るアーティストの楽曲を数多く日本へ紹介してきた音楽制作会社。海外アーティストの招聘やマネジメント、音楽やアートイベントの企画運営、CDやレコードの制作やプロモーション、流通など、音楽業務を丸ごと行っている。いつかのフェスで好きなバンドの演奏を観られたのも「ビートインク」のおかげかも！

Job Description

大切なのは「ビートインク」の音楽作品が好きだということ。明るく元気で物怖じせず、仕事に妥協をしたくない！ というあなたはぜひ。英語での会話が必要になるためTOEIC800点以上は必須条件。応募の際には履歴書と英文のレジュメをメールにて送ろう。

② AURALEE

| *Shop Staff* | *Clothing Planning* Apply Now

Contact
- ☎なし
- recruit@auralee-office.jp
- auralee.jp/

いつも身につけている東京ブランドで服飾の道へ。

Company Profile

2019年の春夏シーズンから出展するパリコレクションをはじめ、今や日本のみならず世界を股にかける、僕らにとって馴染み深いブランド。デザイナーの岩井良太さんは、コレクションのインスピレーションを素材や生地だけでなく、その日の天候や日々の生活を取り巻く色、旅などの様々なものから受け取る。岩井さんが大事にする哲学を間近で見て学べるなんて、きっといい経験に繋がるに違いない。

Job Description

販売職は、メンズ・レディス両方の販売経験がある人を優遇、企画職はメンズウェアの企画経験が3年以上の人を歓迎。雇用形態は、正社員、契約社員、アルバイト。応募はメールに履歴書、職務経歴書（販売職希望の場合は普段のスタイルがわかる写真）の送付を。

③ TACOS Shop IKEJIRI

| *Store Staff* Apply Now

Contact
- 東京都世田谷区池尻2-31-17
- ☎なし
- Instagram: @tacosshop_ikejiri
- tacosshop.thebase.in/

タコスの知識を蓄えながら、職場で交友関係を築く。

Company Profile

吉祥寺の『TACOS SHOP』の2号店として、2021年に池尻大橋にオープン。フレンチやイタリアンでシェフを務めていた原穣さんが考案するメニューには、豚肩ロースを蒸し焼きした「カルタニース」などの定番から「リコッタチーズとザクロ」といった独創的なタコスが。ナチュラルワインやメスカルなどのうまいお酒も飲めることもあって、お店はいつも大盛況。ここで働けば、横の繋がりが増えること間違いなし。

Job Description

タコス、メスカル、ワイン、酒場、全部が好きな人を求む。ここでの経験を生かし、ゆくゆく業務委託等で独立することも歓迎。正社員の基本給は25万円〜、アルバイトは月2、3回のシフトからでもOKで、時給1200円〜。まずは自己紹介文をインスタのDMまで。

④ はなまる整骨院

| *Chiropractor* Apply Now

Contact
- 東京都世田谷区経堂5-29-1
- +81 (0)3 3428 0009
- Instagram: @hanamaru_kyodo
- hanamaru-genki.com/

研究熱心な師匠の側で、君の整体スキルもワンアップ。

Company Profile

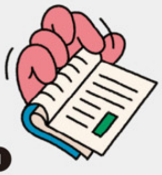
いわゆる町の整骨院だけど、店内の至る所にアート作品が飾られているから、僕らとの距離感はグッと近い。店主の中野浩樹さんは、毎年アメリカの州立大学の人体解剖実習に参加して、痛みの研究を行う。さらに最近、研究は深みを増し、職業の特有の痛みのメカニズムを掘るべく、さまざまな職業体験を行い、体の壊れ方を探っているとか。そんな探究心溢れる師のもと技術を身に付けられるなんて最高じゃないか。

Job Description

年齢は問わず、とにかくやる気、勇気、元気がある人を募集。ここは全国でも希少な、スタッフ全員が国家資格を持つ整骨院。はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師のうちいずれかの資格を有する人限定。インスタにDMを。給与は23万円〜（経験による変動あり）。

How to Use

P71にある履歴書で、実際に応募してみよう。



1 履歴書が掲載されたP70〜71をガバッと開き、POPEYEの右サイド全体をクルッと丸める。

2 P71の面をコピー機にセット。歪まないように注意しよう。切り取り線に従ってハサミで切る。

3 できた履歴書にペンで必要事項を記入。自分の人柄が伝わるよう丁寧かつウィットを利かせて。

Job Offer 2023

text: Shintaro Kawabe, Nozomi Hasegawa
illustration: Dan Woodger

7 PWA

| Sales Assistant　Apply Now

Contact

- 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-8-16 ピアザ・KONDOH 2F
- +81 (0)3 6455 5061
- pwa.contact2020@gmail.com
- pwa-tokyo.com/

PWA

服作りだけでなくプラスアルファな学びも。

Company Profile

都市生活にちょうどいい機能を備えた服作りをするインディペンデントなブランド。年1回発行する雑誌『PPAPERS』の制作や展示会の準備、さらにアーティストを絡めたイベントのキュレーションなど、多岐にわたって活動しているブランドゆえ、様々な経験ができる。しかも母体はグレイスバレーというOEMの会社だから、洋服の生産背景まで学べるぞ。

Job Description

ブランド運営全般に関わってもらいたいので、未経験の領域にも挑戦する熱い気持ちがある人を募集。アルバイトは週2〜3日程度、時給は応相談。社員登用あり。応募は、顔写真付き履歴書と職務経歴書をメールで送付を。書類通過者のみ連絡あり。

6 prov

| Shop Staff | PR　Apply Now

Contact

- 東京都渋谷区神宮前4-28-18 カトル・バン原宿 2F
- +81 (0)3 6447 0660
- prov.tokyo@gmail.com
- provtokyo.com/

PROV

クールなスケーターに、一歩近づけるかも？

Company Profile

王道のスケートブランド〈ブロンズ〉から、マイアミの〈グッドシンキング〉などのインディペンデントなブランドのアイテムが数々並ぶ、今クールなスケートショップといえば、原宿の『prov』。スタッフはみんなかっこよくてお洒落だし、海外のスケーターも足繁く通っている名店だし、きっとスケーターなら誰しも一度は働きたいと思うショップなのだ。

Job Description

スケートはもちろん、国内外のカルチャーに興味がある人は履歴書を郵送か、店に直接持って話しに行こう。海外とのやりとりもあるので、英会話ができればなおよし。仕事内容は、主に販売、商品管理、SNS更新などのPR業。時給は1075円。

5 NOON

| Cooking and Confectionery Assistant　Apply Now

Contact

- 東京都品川区上大崎4-3-7
- +81 (0)3 6417 4440
- noon.meguro@gmail.com
- www.noonmeguro.com/

NOON™

まだ見ぬ一皿を、ここで発案してみては？

Company Profile

『BIG BABY ICE CREAM』を営む吉田兄弟がオープンしたカフェ・レストラン。ニューアジアンスタンダードを掲げるだけあって、ゆずの香りが立つ豚肉と海鮮の水餃子は、他のお店ではなかなか味わえない品のある一皿。そんな目新しいメニューの考案法を学ぼう。ちなみに、2階のカフェ『PARLOR NOON』も同じくキッチンスタッフとパティシエを募集。

Job Description

彼らのコンセプトに共感し、食に関心がある人を募集。職種は、調理や製菓のアシスタント。今回はアルバイトの募集だが、勤務日数の相談に応じて社員登用も可能。『PARLOR NOON』の採用も同様。応募は履歴書を添付してメールの送付を。

10 VISVIM

| Shop Staff　Apply Now

Contact

- 東京都渋谷区神宮前5-9-17 VEXA 表参道 B1
- +81 (0)3 5778 3259
- www.visvim.tv/

visvim

photo: Hiroyuki Hirai

洋服を通じて日本の伝統技術を学ぶ。

Company Profile

奄美大島の泥染めなど、古くから日本で継承されてきた伝統技法を巧みにファッションに落とし込む〈ビズビム〉。各地の職人とともに行うものづくりからは、衣服の域を超えた重みが感じられる。ピエール・ジャンヌレの椅子をはじめ、店内に並ぶ什器ひとつとっても慎ましくも威厳があり、店頭に立つだけで、日々インスピレーションを受けられるはずだ。

Job Description

〈ビズビム〉の製品が好きで、向上心のある人を。ショップスタッフは、東京、名古屋、京都など全国各地、カフェスタッフは東京のみで募集。採用は、正社員、契約社員、アルバイト。https://www.visvim.tv/jp/recruit/ のEntry Formに入力。

9 UNDER THE SUN

| Hair Stylist　Apply Now

Contact

- 東京都世田谷区池尻2-10-12
- +81 (0)3 4285 3765
- underthesun452@gmail.com
- www.underthesunsgj.com/

UNDER THE SUN

技を磨きながら古着を見て感性も磨く。

Company Profile

古着屋兼ヘアサロンというシティボーイの暮らしには欠かせない2つが融合した店。独自の視点で買い付けたアメリカ古着のラインナップも素敵だし、店主の中川優也さんを筆頭に、シティな髪型に仕上げてくれる。ここに身をおけば、腕も上がることは間違いないし、休憩中には古着を見て買えもする。服好きな美容師にとってはまたとない職場といえるね。

Job Description

物事への興味の分野が広く、好きなモノやコトを掘り下げることが好きな人や、本気でこの仕事が好きな人を求める。条件は、美容師免許を取得済みであり、美容師の職歴が1年以上あること。雇用形態は正社員。応募は、履歴書の郵送を。

8 SHUKYU MAGAZINE

| Editor | Product and Event Planning | Shop Staff　Apply Now

Contact

- 東京都渋谷区千駄ヶ谷2-36-1 桜苑マンション101
- ☎なし
- info@shukyumagazine.com
- shukyumagazine.com/

SHUKYU

サッカーを背景に、ものづくりをしてみない？

Company Profile

年2回発行のフットボールカルチャーマガジン。毎号1つのテーマにフォーカスし、選手、クラブ、スタジアム、サポーターといった様々な角度からサッカーを紐解く。ヘアバンドやドリンクボトルなど、気が利きつつも可愛いアイテムを作る商品企画に携われるのも楽しそうで。さらにこの5月にはお店をオープンする予定とか。この機会をお見逃しなく。

Job Description

サッカーに限らずファッション、アート、音楽などの様々なカルチャーに興味がある人、サッカーを盛り上げたい人求む。アルバイトや外部委託が採用条件で、給与は応相談。応募は志望動機とやってみたいことを記入した履歴書を、メールで送付を。

13 CLUB METRO

| Bar Staff | Lighting Staff Apply Now

Contact

- 京都府京都市左京区川端丸太町下ル下堤町82 恵美須ビル2F 東
- +81 (0)75 752 2787
- info@metro.ne.jp
- www.metro.ne.jp/

歴史あるクラブで京都カルチャーにどっぷり。

Company Profile

1990年オープンの京都を代表するクラブ。音楽を中心に、アート、ペインティングなど様々なカルチャーイベントを行い、発信する。約300人のキャパながら、かつてはダフト・パンクなどのライブも。また、くるりや大沢伸一などの名だたる音楽家が活動初期に出演、ここから音楽の世界へと飛躍していった。そんな金の卵たちと一緒に仕事ができるかも。

Job Description

バーやフロント、ホールスタッフだけでなく、照明スタッフも募集。条件はアルバイト、時給は業務内容、経験、能力により応相談。応募方法は、名前、年齢、連絡先、志望動機を記入の上、メールアドレスに問い合わせを。

12 HATOS OUTSIDE

| Chef | Server Apply Now

Contact

- 東京都世田谷区赤堤4-22-5
- +81 (0)3 6265 8351
- Instagram: @hatos_outside
- hatosoutside.org/

目指すはカレーとクラフトビールの生き字引。

Company Profile

アーティストの小川洋平さんがメニューを考案して以降、ここのカレーは下高井戸のソウルフードの一つになった。メニューは、ビーフ、チキン、ベジタブル、キーマの4種。さらには15種類以上のクラフトビールも揃い、様々な食の知識が吸収できる。店のすぐそばに『テンポ』や『シェリーズ』などの古着屋もあるから、休憩時間だって大充実だ。

Job Description

思いやりのある人、業務内容を問わずとにかく『ハトスアウトサイド』で働きたいというやる気のある人を求める。雇用形態はアルバイトで、時給は1200円。応募方法は、電話またはインスタグラム(Instagram: @hatos_outside)にDMを。

11 ANATOMICA

| Shop Staff Apply Now

Contact

- 東京都中央区東日本橋2-27-19
- ☎なし
- saiyo@anatomica.jp
- www.anatomica.jp

ピエールさんの門下生に、君もなれる。

Company Profile

パリのショップ『アナトミカ』を開いたピエール・フルニエとヴィンテージコレクターの寺本欣児さんが出会い、オープンしたのが東日本橋にある『アナトミカ東京』。店内にはオリジナルアイテムに限らず、希少なヴィンテージや〈オールデン〉も並び、さしずめファッションの博物館。洋服の造詣も自ずと深まる。目の前の隅田川がセーヌ川に見えてくるかも。

Job Description

福利厚生に社員割引制度だけでなく、制服補助もあるという好条件が嬉しい。接客経験者を優遇(業界は不問)。配属店舗は、東京の直営店。正社員採用で、給与は経験に応じて優遇。応募は、メールアドレスに履歴書と職務経歴書の送付を。

16 FUNagain

| Assistant Apply Now

Contact

- 東京都文京区千駄木3-48-2
- ☎なし
- akashima.daisuke1221@gmail.com
- funagain.amebaownd.com/

古い家具から歴史やカルチャーを体得。

Company Profile

昨年4月に千駄木にオープンしたこちらは、選び抜かれた家具や雑貨が並ぶリサイクルショップ。というのも、元〈ビームス〉の店主・高島大輔さんが名もなき家具を、北欧、ポストモダン、民藝、ミッドセンチュリーといった具合に独自の見立てで選んでいる。彼の審美眼にかなった家具の背景を聞きながら学べば、自然と様々なカルチャーに詳しくなれる。

Job Description

仕事内容は、販売、陳列、家具のスタイリング、商品メンテナンスなど多岐にわたる。条件は、アルバイトで、5〜8時間ほどの労働時間。日給1万円〜(能力により変動あり)。応募方法は、職務経歴書をメールで送付後、面接を行う。

15 MIA MIA

| Town Clerk Apply Now

Contact

- 東京都豊島区東長崎4-10-1
- ☎なし
- hello@mia-mia.tokyo
- www.mia-mia.tokyo

東長崎を愛して町と人生を豊かに。

Company Profile

賑やかな町のコーヒーショップ『MIA MIA』、町にアートを持ち込み育む『ギャラリー・キオスクI AM』、町をメンテナンスして良くする『設計事務所ARA』。東長崎でその3つを運営するヴォーンさんは町を愛し、町に愛される人。今回はコーヒーを淹れ、接客し、アートを学びながら町のメンテナンスをする人を募集。職種が「町の番頭」っていうのも納得だ。

Job Description

働くことは生きること。一緒に働く人に求めるのは3つ「働くときも素のあなたでいること」「町と人を常によく見ること」「プロジェクトをつくり、動かすこと」。給与や雇用形態は応相談。2023年5月31日までにヴォーンさん宛てにメールを。

14 YAECA

| Shop Staff
| Clothing Production Apply Now

Contact

- 東京都目黒区東山1-21-22 RIVIERA 2B
- +81 (0)3 5708 5586
- contact@yaeca.com
- www.yaeca.com/

ライフスタイルも含め、凛とした人になる。

Company Profile

服部哲弘さんと井出恭子さんが手掛ける、POPEYEでもお馴染みのブランドからも求人が。『YAECA HOME STORE』を筆頭に、凛とした佇まいのお店に一日中身を置くだけで、なんだか健やかな毎日を送れそう。ショップスタッフだけでなく、生産管理の募集もあるので、魅力的なアイテムの数々がどうやって作られるのかを学べるし、自分もその担い手に。

Job Description

〈ヤエカ〉の洋服が好きな人を求める。前職の条件を踏まえて、給与や雇用形態を決定。店舗の勤務地は、中目黒、白金、恵比寿、丸の内、生産管理は明治神宮前。応募方法は、まずは履歴書の送付から。書類審査後、面接する人のみ連絡があるそう。

19 Oscar American Chinese

| Chef | Server Apply Now

Contact

- 東京都世田谷区代田2-36-15
- +81 (0)3 6823 7496
- sultry2322@gmail.com
- Instagram: @oscaramerican chinese

新発想のビーガン料理を体得すべし！

Company Profile

『PIZZA SLICE』の猿丸浩基さんが昨年12月、下北沢の「ボーナストラック」内にオープンしたのは日本にもアメリカにもなかったビーガンアメリカンチャイニーズダイナー。NYでのピザ修業時代に食べた中華料理のジャンキーさは残しつつ、肉の代わりに大豆ミートを、卵は植物性のものを使用するなど徹底している。ダイナーのような店内も素敵だよね。

Job Description

特に料理人、キッチンスタッフを募集。ビーガン料理や中華料理の経験者は優遇。ゆくゆくは新メニューの開発に携われるかも。もちろんホールスタッフの応募も可。採用は正社員とフルタイム、パートタイム。履歴書の送付はメールor郵送で。

18 IPMatter SUPERSTORE

| Store Staff Apply Now

Contact

- 東京都渋谷区代々木3-55-6
- ☎なし
- service@ipmattersuperstore.com
- ipmattersuperstore.com

自由なアート空間でクリエイティブなスキルを。

Company Profile

“Independent Printed Matter”の“IPM”を頭文字に掲げたオルタナティブスペース。主宰はグラフィックデザイナーでシルクスクリーンプリンターの古川正史さん。『KIOSCO』とのポップアップイベントや、東京を拠点に活動するアーティストのアキ・ヤマモトとアートブックやポスター制作など、シルクスクリーンの可能性を広げる企画も行っている。

Job Description

求めるのはファッションやスケート、ものづくりに興味のある人。シルクスクリーンによるアーティストの展示物の制作・準備、販売からセレクトなど、仕事内容は様々。3か月間は試用期間で、時給1200円。能力に応じて社員登用や昇格昇給も。メールで連絡を。

17 HIKE

| Furniture Restorer Apply Now

Contact

- 東京都目黒区東山1-10-11
- +81 (0)3 5768 7180
- shop@hike-shop.com
- www.hike-shop.com

本物のヴィンテージに囲まれ視点を磨く。

Company Profile

専門は北欧ヴィンテージ家具。1999年のオープン以来「物質の循環」「自然との共生」を理念として掲げ、限りある資源としてのヴィンテージ家具の永続的使用の可能性を追求。海外から直接買い付けた家具がストアに展示されるのは、自社アトリエにて修理を施した後。販売する際にはライフスタイルに合わせた提案を大切にしている。

Job Description

『HIKE』の理念と活動を理解し、社会の一端を担える人を正社員で募集。仕事内容は北欧ヴィンテージ家具修復。経験者優遇、普通免許必須。9:00〜18:00勤務で火・水定休。通勤・住宅手当、賞与あり。概要はメールで、須摩宛てに問い合わせ。

22 神田まつや

| Chef | Server Apply Now

Contact

- 東京都千代田区神田須田町1-13
- +81 (0)3 3251 1566
- kanda-matuya1884 @kyj.biglobe.ne.jp
- www.kanda-matsuya.jp

140年実直に。蕎麦の老舗で修業から。

Company Profile

池波正太郎も愛した江戸前の手打ち蕎麦を提供する『神田まつや』。茨城県産を中心としたそばの実を石臼でひいたそば粉を使用した蕎麦は、キュッと引き締まって喉越しがよく、コシも抜群。年末には年越し蕎麦を求める人がやって来て、8000食も売れるそう。140年続く老舗の職人たちが守り続ける手打ちの技術を学べるなんて、そうそうないはずだ。

Job Description

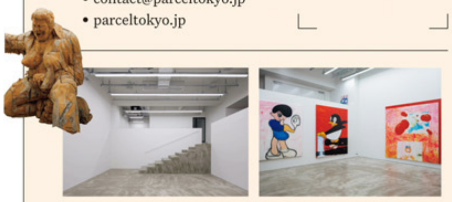
明るく元気な人！ 正社員の初任給は残業代40時間を含む24万1200円。11:00〜16:00もしくは16:00〜20:30勤務で時給1100円のアルバイトも募集。時間相談も可。本店希望はメール、吉祥寺店希望は電話（0422・22・1722）にて受け付け。

21 PARCEL

| Assistant Director
| Gallery Staff | Internship Apply Now

Contact

- 東京都中央区日本橋馬喰町 2-2-1（2-2-14-2F）
- ☎なし
- contact@parceltokyo.jp
- parceltokyo.jp



天井高なギャラリーでアートを仕事に。

Company Profile

長年ギャラリストを務めてきた佐藤拓さんがディレクターを、アートコレクティブ「SIDE CORE」の高須咲恵さんがプログラム・アドバイザーを務める。現在は「DDD HOTEL」の一角で『PARCEL』を、裏のビルで『parcel』を運営。両スペースで現代美術を軸に国内外の作家を紹介し、時代に対して多角的なメッセージを発信するプログラムを構成している。

Job Description

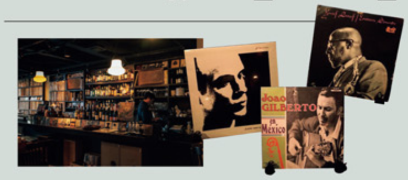
求めるのは、仕事と言葉遣いが丁寧で美術以外にも興味を持っている人。英語ができたり、イラストレーターや、フォトショップが使える人は優遇（ワードやエクセルの基本操作は必須！）。履歴書と自己PRを郵送しよう。

20 BAR MUSIC

| Server | Chef Apply Now

Contact

- 東京都渋谷区道玄坂1-6-7 5F
- +81 (0)3 6416 3307
- barmusic-coffee.blogspot.com/



選曲家の店主が流す曲で、音楽の幅を広げる。

Company Profile

2010年から渋谷で営業するミュージックバー。DJや選曲家として活動する中村智昭さんが手掛けるだけあって、店に立っているだけで過去の名曲から最新の音楽まで、体にインプットできそう。名物はコーヒーを凍らせたロックアイスにラム酒を入れ、砂糖でスノースタイルにしたカクテル「コーヒーベル」。カクテルと音楽を同時に学べるなんて贅沢。

Job Description

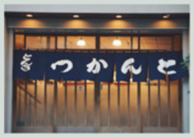
ホールでの接客や、調理スタッフを募集。音楽が好きな人。渋谷区隈在住で終電以降の勤務も可能な方を優遇。スタートはアルバイトから。給与面は応相談。能力によって昇給や正社員登用も。応募方法は、履歴書をお店に郵送。

25 とんき

| Chef | Server Apply Now

Contact

- 東京都目黒区下目黒1-1-2
- +81 (0)3 3491 9928
- Instagram: @tonkatsu_tonki



「とんかつ工場」の門を叩くのは、そこの君だ。

Company Profile

P20でもアルバイト中澤くんの仕事ぶりを伝えた1939年創業のとんかつ屋。サックサクの衣は軽く、肉の旨味もしっかり。とんかつを揚げる人、お皿に盛り付ける人、ご飯をよそう人など各々のポジションの人たちが役割を全うし、最高の一皿を作り上げるのだ。その様子はとんかつ工場とも呼ばれているのだが、君も名門の一員になってみないか？

Job Description

元気があって、向上心のある人を募集。正社員の基本給は18万円〜、昇給と賞与あり。アルバイトの時給は、平日1100円、土日祝1200円。応募は、電話にて受け付けているから、まずは働きたい気持ちを自分の言葉で伝えよう。

24 金山ブラジルコーヒー

| Chef | Server Apply Now

Contact

- 愛知県名古屋市中区金山4-6-22
- +81 (0)52 321 5223
- nqlunch@gmail.com
- kanayamabrazil.net

目指せいいとも！　ユーモアを愛する老舗喫茶。

Company Profile

モーニング文化が根付く名古屋で50年以上愛される喫茶店。店主はミュージシャンとしても活動をする角田健太さん。「金山をもっと面白くしたい」と、週末にはライブが行われたり、結婚パーティの会場になったり。ゆっくり過ごしたい人は、店内の南側の席へ。大きなガラス張りの窓で街の様子を眺めながら自家焙煎コーヒーを楽しめる。

Job Description

『笑っていいとも！』のような店にしたいと考えていた角田さんが求めるのはワンクールで終わる人ではなく、笑福亭鶴瓶のように、長期間店を底上げしてくれる人。正社員やアルバイトなどの採用条件は要相談。応募はメールもしくは電話にて。

23 Parklet Bakery

| Chef | Baker Apply Now

Contact

- 東京都中央区日本橋小舟町14-7 Soil Nihonbashi 1F
- +81 (0)3 3527 2627
- info@parkletbakery.com
- Instagram: @parkletbakery

気持ちのいい空間でサワードウを知る。

Company Profile

隣接する堀留児童公園の木々を眺めながら、サワードウブレッドや旬の野菜を使った料理、焼きたてのペーストリーなどをコーヒーやナチュラルワインと一緒に楽しめるベーカリーカフェ。料理の監修はカリフォルニアの名店『シェ・パニーズ』で調理経験のあるJJ、パンの監修はサンフランシスコの『タルティーンバー』の経営に携わったケイトが行っている。

Job Description

調理、キッチンのマネジメントを行うシェフとベイキング経験、菓子製造経験のあるベーカリースタッフ、採用や在庫管理を行うマネジメント業務で募集。飲食店勤務経験年数2年以上必須。6:00〜22:30のうち1日実働8時間のシフト制（週休2日）で土日祝日勤務必須。メールで応募を。

28 POPEYE Web

| Web Editor | Writer Apply Now

Contact

- 東京都中央区銀座3-13-10
- +81 (0)3 3545 7160
- popeyeweb@magazine.co.jp
- popeyemagazine.jp

そのアイデア、せっかくなら発信してみない？

Company Profile

ルーキーもベテランも、社交家も孤高の人も、年齢、国籍、性別、趣味嗜好を問わず、どんな人が遊びに来ても楽しめるウェブサイトを目指す。記事、ポッドキャストや動画、物販、イベントなど、あらゆる手段で自分のアイデアを実現可能だ。「世の中にこんなものがあればいいのに」「このジャンルなら自分が一番！」なーんて思う人には向いてるかも？

Job Description

募集するのは、エディターとライター。実現したい企画がある人や、今の雑誌やWebメディアに一言物申したい人までどんとこい。我こそは「散歩の達人」と思う人もぜひ。経験不問。給与は担当したものごとに支払い。気になった人はメールを！

27 FC東京

| Sales | PR Apply Now

Contact

- 東京都調布市下石原1-2-3
- +81 (0)42 444 2630
- somu@fctokyo.co.jp
- www.fctokyo.co.jp/

© F.C.TOKYO

写真＝FC東京

憧れのスポーツチームでも働ける！

Company Profile

スポーツ好きのシティボーイにとって、スポーツチームで働くことは憧れの一つなはず！　と、求人を探していたら、東京をホームタウンとするサッカークラブ「FC東京」がちょうど募集中。スポンサーへの営業職だけでなくプロモーション部門も探しているから、長友佑都選手や松木玖生選手などの日本代表クラスのプレーヤーが身近な存在になるかも。

Job Description

サッカーやスポーツに関する興味が深く、チームの成長と共に個人としても飛躍したい人を求める。応募は、組織の成長に必要なこと、個人のキャリアアップについて、を記載した履歴書の郵送を。正社員登用で、給与は経験等を考慮の上決定。

26 白馬山荘グループ

| Mountain Hut Manager Apply Now

Contact

- 長野県北安曇郡白馬村北城5940
- +81 (0)261 72 3122
- staff-info@hakuba-sanso.co.jp
- www.hakuba-sanso.co.jp

雲の上の美しい景色が日常になる。

Company Profile

1906年に白馬岳山頂で山小屋を開業したことがはじまり。今では北アルプス白馬連峰の白馬岳や百名山の鹿島槍ヶ岳などの登山ルート上で7軒の山小屋を運営している。ここに来る人は山を愛している人ばかり。4〜10月は山小屋で、11〜3月はスキー場へ。季節によって表情が変わる山を目の前に仕事ができるなんて、どう考えても贅沢すぎる……！

Job Description

ゆくゆくは山小屋支配人！　山好きの26〜50歳を正社員で募集。勤務地は白馬岳一帯にある山小屋。登山のオフシーズンである冬期はスキー場勤務となる。基本給は大卒21万円〜。昇給、賞与あり。履歴書を添付の上、白馬館宛てにメールを。

Apply to offer

RESUME
履歴書

POPEYE job

ふりがな
・氏名

・生年月日　年　月　日生　（満　歳）

写真を貼る位置
縦：36〜40mm
横：24〜30mm

ふりがな
・現住所

・電話　・性別

・学歴・職歴

年　月	
年　月	
年　月	
年　月	
年　月	

・この職場をなぜ志望したのか、特技、好きな音楽や映画、誰にも負けないと思っていること

・働く前に聞いておきたいこと（職種、勤務地、勤務時間など要望あればここに）

・POPEYEで好きな特集は？

・最近買ったものは？

・最近した親切は？

Cut

Cut

海外で働くって実際どう？

「海外で働く」って、誰しも一度は憧れるんじゃないかな？
でも、言語や制度の違いなど、なかなかハードルは高そう。
そこで、NYで2年目の若者とロンドンで20年になる大先輩、
異国で活躍する2人に、自身の経験や苦労話を聞いてみた。

「良いバイブスで現場に入れるように音楽は必須です」

まずはNYに渡って1年のダイサクくんに聞いてみよう。

CASE 01 WORK in NEW YORK

2年目

Daisaku Hidaka

モデル

ダイサク・ヒダカ｜2002年、神奈川県生まれ。日本人の母とコンゴ人の父を持つ。中2のとき家にお金がなく働き口を探していたところ、友達の紹介でモデルをすることに。2022年に渡米。NYを拠点に〈Polo Ralph Lauren〉〈Heaven by Marc Jacobs〉〈J.CREW〉〈Tommy Hilfiger〉などのキャンペーンやランウェイショーで活躍。

「サブウェイで聴く『Train Train』」

挫けそうになったときはTHE BLUE HEARTSなど日本の曲を聴いて頑張ってる模様。「例えば現場に向かうサブウェイの中で『Train Train』をかけて、辛いことがあっても突き進むしかないってなってます（笑）」

「現場への移動は、タクシーのことも」

プライベートは歩きやスケボーでどこでも行ってしまうようだけど、仕事によってはタクシーで。「朝の通勤ラッシュはむしろタクシーのほうが時間がかかっちゃうんですけどね（笑）」

photo: Takeshi Matsumi
text: Shimpei Nakagawa

「仕事のないときは
絵を描いてます」

部屋に入るとペイントされたキャンバスがたくさんある。部屋の一角にスペースを設け、時間があるといつも描いているというペインティングで、今月にはHomiesの面々と原宿の『ドミサイル』で行うグループショーにも出展する。「今年はNYで個展を開くのが目標です」

「Homiesはいつも温かく迎えてくれる」

「彼らがいなかったらここに住めてなかったと思います」と語るように、Homiesの面々は遊びや仕事のこと、悩みもすべて共有できるかけがえのない仲間たち。多くがイーストビレッジに住んでいることもあって、よく集まるトンプキンス・スクエア・パークにてこの日も集合。

謙虚でいて情熱的に。仕事も遊びも苦労も楽しむ二十歳。

「今も毎日が新鮮に感じますし、楽しいです。何も言える立場じゃないですけど、海外で働くってことはシンプルに面白い経験だと思います」。飾らない言葉で話すのは、2018年にポパイで表紙を飾ったこともあるモデルのダイサクくん、二十歳。昨年の4月にNYに越してきて、すでに〈Polo Ralph Lauren〉や〈Heaven by Marc Jacobs〉のキャンペーンに登場するなど活躍していて、プライベートも、メンバーであるクルー「Homies」の面々を中心に同世代の仲間と毎日のようにスケートしたりだべったり。〝Work Hard, Play Hard〟な日常を送っていて、すでにNYでの生活がしっかり板についている。

もともと、幼心に〝将来、海外に住みたい〟と思っていたというが、それが確信に変わったのは、前述の表紙を飾ったポパイの撮影で2018年にLAに行ったとき。「一瞬でアメリカ最高ってなってしまって。自分の力というわけではないけど仕事で連れてきてもらって、次に来るときは住むときだと思ったんです」。そして翌年、今ではNYの信頼できる仲間たちと東京で出会ったことを機にNY移住が一気に現実味を増す。「HomiesのKeiとTenzinが遊びに来て、彼らと幼馴染みだった日本に住む友達を介して知り合って、1か月間毎日のように遊んだんですよね。そしたらKeiが帰る直前に『うち泊まっていいから、NY遊びに来なよ』って言ってくれて。2か月後にはNYに行きました。案の定めちゃくちゃ楽しくて、どうすれば住めるんだろうって考えたときに、NYのモデル事務所に入ればビザのサポートもしてもらえることを知って、ダメ元で探したんです。いくつか回る中でTenzinが所属していた事務所を紹介してくれて、行ってみたら受かってしまって。『アーティストビザ申請に必要なクレジット（実績）を日本で作ってきてほしい』って言われて、それからはクレジットと貯金のためにめちゃくちゃ働きました」。持ち前の瞬発力としたたかさ、仲間の手助けもあって移住前からビザ取得も目処が立ち、移住後の家探しも、決まるまでは友達の家をカウチサーフし、HomiesのメンバーKyotaが見つけてくれた物件でルームシェア。こうやって始まったNYライフは順風満帆に思えるが、昨年の暮れスケボーのトリックを失敗して前十字靭帯を切ってしまう。

「最初はもう終わったなって思いましたね。スケートも仕事も。でも今考えると自分調子に乗ってました。スケートもそこそこに、夜はほぼ毎日パーティみたいな生活を一時期送っていて。で、怪我してみて、保険だとか制度的な部分でわからないことも多いし、近くに家族もいない。当たり前のことなんですが、自分のケツは自分で拭かなきゃいけないというか、自分でやらなきゃいけないんだって痛感させられたタイミングでした。海外で暮らすことは、日本にいればなんてことない小さなことでも苦労したりすることがあると思うんですが、だからこそ今ここにいられることだったり、友達とのたわいもない会話、仕事があって毎日ご飯食べられたりとか、日々のことにありがたみを感じるようになりました。自分のコンフォートゾーンから出ることは成長に繋がるんじゃないかなと思います」

最後に「苦労してもNYにいたいと思うのはなんでだろう？」と聞くと、「やっぱりアメリカンドリームつかみたいじゃないですか！（笑）小さい頃に悔しい思いをすることが多かったんですけど、ここで溜めて、いつか絶対かましてやるって思ってました。あ、あのときポパイの表紙に出られたのは人生1発目のかましだと思ってます（笑）」

NYで働く上で知っておきたいこと。

1 ….. 信頼できるコミュニティを作る。
2 ….. 労働ビザ取得に必要なクレジットを認識。
3 ….. 家はルームシェアが王道。
4 ….. 海外旅行保険に加入しておくといいかも。
5 ….. 海外ならではの不自由を楽しむ心構え。

NYで働く上で最初の難関となるのが労働ビザの取得。労働ビザでも職種によって申請するビザが色々あるため、学生ビザ→労働ビザというプランを考えている人も、国内にいるうちから自分に合う労働ビザとそのビザ取得に必要なクレジットを認識しておくのがベター。毎年、永住権抽選というものがあるのでダメ元で応募すべし。保険料が高いため、日本で加入できる海外旅行保険を続ける人もいる、なんて話も。家は社会人でもルームシェアが多い。

「これが最近で一番の大仕事です」

特に印象に残る昨年の〈Polo Ralph Lauren〉のキャンペーンの撮影現場。「モデルとして努力してることがあるかって聞かれると、本当に何もなくて恥ずかしい。この仕事は一生続けられるとも思っていません。でもモデル業があって今があるので、いけるところまでいけたらと思っています」

海外で働くって実際どう？

CASE 02

WORK in LONDON

18年目

YURI SUZUKI

サウンドデザイナー、「Pentagram」パートナー、共同経営者

スズキ ユウリ｜1980年、東京都生まれ。明和電機のアシスタントを経て英国王立芸術大学院（RCA）のデザインプロダクト学科修士課程修了。ティーンエイジ・エンジニアリング、ディズニー・リサーチを経て2018年にデザインエージェンシー・ペンタグラムに参画。「MoMA」などに作品が収蔵されている。

今や世界的なデザインエージェンシーのメンバー、スズキ ユウリさん流海外でのサバイバル術とは？

「やっぱり対面で話すのが大事ですね」

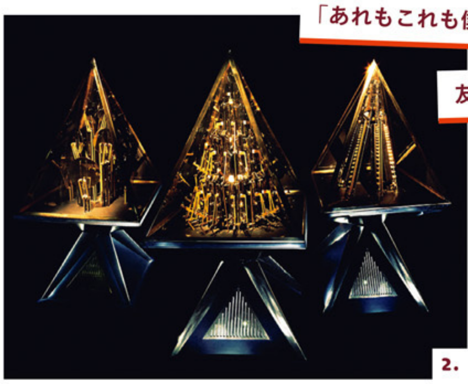
オンライン中心だったパンデミックを経て、現在は対面のミーティングが増えた。「直接話すほうが早いし、圧倒的に伝わりますね」。パートナーシップ契約と呼ばれパートナーが平等に会社を経営する方式で、ロンドンだけで約100人が働く。うち日本人のパートナーはユウリさん1人！

photo: Jack Orton
coordination: Tatsuo Hino
text: Hiroko Yabuki

「あれもこれも僕の代表作は、

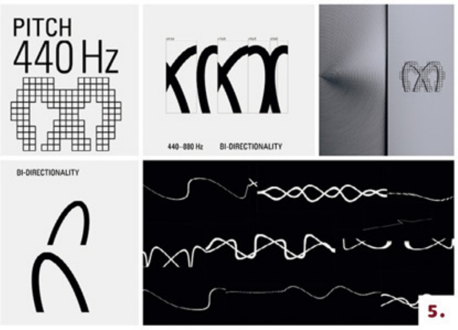
友達との繋がりから生まれたんだ」

3.



2.

1.



5.

4.

1. 古巣「Teenage Engineering」と共同制作したコンパクトかつポータブルなレコードカッター『PO-80』（2022）。**2.** ブラック・アイド・ピーズのWill.i.amから依頼されて制作した『Pyramidi』（2014）。彼の曲「Dreamin' About the Future」の音を提供するロボット機械。**3.** オブジェクトを音楽機材に変えてしまう夢のようなエレクトリック装置『OTOTO』。写真の本物のケーキも楽器に！　**4.**『Sonic Bloom』（2021）と名付けられたインスタレーション作品。サウンドを通して人とのインタラクションを促すのが意図で、ロンドンの中心部に設営された。**5.** ペンタグラムに参加後（2021年）には、代表的な音楽信号規格であるMIDIのブランドアイデンティティとサウンドデザインも手掛けた。

結局みな同じ人間って考えたほうが楽だし、楽しめる。

日本を飛び出すのが第一目標だとしたら、そこでしっかり根を張るのが次のステップだ。ロンドンのサウンドデザイナー、スズキ ユウリさんは、日本で明和電機のアシスタントとして活動した後、2006年に英国王立芸術大学院（RCA）へ。卒業後はブラック・アイド・ピーズのウィル・アイ・アムをはじめ、名だたる音楽家とコラボしながら母校で教鞭をとり、世界最大のデザインコンサルタント会社・ペンタグラムに日本人初のメンバーとして参画！　華々しい経歴の持ち主なのだが当初は苦労もあったのだとか。

「イギリスでは外国人の英語力判定にIELTS（アイエルツ）という試験が採用されていて、スピーキングやライティングもしっかりやらなきゃいけないんです。僕の場合は入学を翌年にずらして、日本とロンドンの語学学校に通いながら死ぬほど勉強しました。でも実際に留学生活が始まると、思ったよりスッと馴染めて、現地の輪にすんなり入れたんです。今思い返すと、RCAのコミュニティの存在が大きかったのかもしれません。というのも入学前の段階で、ソニーのコンピューターサイエンスラボラトリーで働いていたカールステン・シュイージヒやヘンリー・ニュートン・ダンといったRCAの卒業生を通じて、デザイン集団のアバケやスペキュラティブデザインの創始者であるアンソニー・ダン教授などを紹介してもらっていたんです。最初は英語が全然わからなかったし、論文なんかも書かなきゃいけなくて苦労も多かったですけど、卒業生のネットワークが世界中にあって助けられましたね」

　加えて労働党政権だった当時の英国内のリベラルな雰囲気も、外国人労働者にとって働きやすい環境だったとユウリさん。確かに移民政策は政治的なスタンスを反映するもの。海外での仕事先を探す上で、大きなポイントとなりそうだ。

「リーマンショック前の2000年代半ばは景気もすごくよくて、国全体にポジティブなムードがあったんです。一方でフラットシェアをすればなんとか住める。イギリスの前にベルリンにちょこっと住んだり、スウェーデンの電子楽器メーカー『ティーンエイジ・エンジニアリング』や米国ピッツバーグのディズニー・リサーチでも働きましたが、僕にとってロンドンが一番しっくりきた。ベルリンはなんとなく肌に合わなくて、ストックホルムはコミュニティの結束が強い。ピッツバーグは同僚と毎晩飲み歩いてたから、あれはあれで楽しかったけど（笑）。もちろん仕事面ではどこも有意義で、特に『ティーンエイジ・エンジニアリング』でCEOのヤスパー・コウトフと働けたことは、今でも大きな財産ですね。彼は一人で何でもできる天才肌で、1年半の間彼の下でグラフィックデザインやスタイリングなど未経験の分野を学べたんです」

　2018年から参加しているペンタグラムは、法律事務所や建築事務所によく見られるパートナーシップという形態をとっていて、各パートナーが各々のチームを率いて共同経営をするスタイル。多国籍なメンバーと働くコツを聞くと、「みんな同じと思うこと」と教えてくれた。

「例えば日本みたいに時間どおりにスタッフが来ないとか、困ることはありますよ。でも人種や国籍は違っても結局は人間。細かいことは気にせず、同じベースで考えたほうがうまくいく。その上で、純粋に楽しい人、友達になりたい人と繋がると、道が切り拓かれるはず。例えばディーヴォのマーク・マザーズボーとは、たまたまフェスティバルで朝ごはんを一緒に食べたことが出会いのきっかけになったし、ウィル・アイ・アムとのコラボも友達感覚で始まったんです。今はインスタやツイッターみたいなSNSを通じて気になる人と簡単に連絡をとれるので、それらを活用して自分の世界を広げていくのもいいんじゃないでしょうか？」

EU圏で働く上で知っておきたいこと。

1 … 外国人労働者数は制限傾向にあり。

2 … 国によりハードルの高さに差が。

3 … まずは“ワーホリ”が現実的。

景気後退もあり欧州全体的に外国人労働者受け入れに対し慎重なのが現状。ドイツは難易度低めとされてきたが、状況は随時変わるので各国大使館のウェブサイトをチェックしよう。労働可能なビザは数種類あり、年齢制限はあるが比較的容易に取得できるワーキングホリデー（英国はユース・モビリティ・スキーム）をまず視野に。

ロンドンで働く上で知っておきたいこと。

1 … 英語試験IELTSの攻略が必須。

2 … 適切なビザの種類を調べよう。

3 … 移住前に知り合いを増やすべし。

4 … 物価高のため家はシェアが現実的。

5 … 職・住環境の違いは受け入れよう。

まずは学生として入り、雇用先を見つけて労働ビザを取得するのが王道。英語検定試験IELTSの対策は必須だ。学生以外や雇用先が見つからない場合のルートとしてはユウリさんもかつて所持した自営業用ビザもあり、労働可能なビザのもと計5年働くと永住権を申請できる。家は社会人でもシェアが一般的。ネット環境は遅め！

「ウォール街での一枚。遠くからでも気付くほど元気よくふざけあっていた昼休みの現場作業員たちで、気になってあとを追っかけたんだ」

Workers in New York.

ストリートフォトグラファーが見た、ニューヨークで働く人々。

映画を撮影中の警官役に、竹馬で高い壁を塗装する職人。ダニエル・アーノルドが捉えた働く人たちは、超個性派だ。

photo: Daniel Arnold
text: Shimpei Nakagawa

Photographer: Daniel Arnold

ダニエル・アーノルド｜1980年、ウィスコンシン州生まれ。ライターとして音楽誌を中心に執筆する傍ら、ただ好きで撮っていただけのストリートフォトがインスタグラムへの投稿で火が付き、2013年に写真家に転身。サフディ兄弟の映画『アンカット・ダイヤモンド』のスチールなどを担当した。『VOGUE』『Interview』などでファッション撮影も行う。

これまで無数の写真家たちを輩出してきたフォトジェニックな街、ニューヨーク。その路上で異彩を放つのが、ストリートフォトグラファーのダニエル・アーノルドだ。毎日のようにインスタグラムに投稿されるユーモア溢れる路上写真が反響を呼んで、今では『ニューヨーク・タイムズ』や『ヴォーグ』などでも活躍中だ。

「もともと、写真家になろうと思ったことはなかったんだ。中西部出身の者にとって、過剰とも言えるほど予期せぬ出来事が四六時中起こるこの街のストリートは強烈で、自分が見たものを残しておきたいと思わせられただけなんだよ」と、彼もニューヨークの街に魅せられた写真家の一人だ。2003年にこの街にやってきて20年間、今でもよほどのことがない限り、基本的に毎日写真を撮りにストリートに出かける。街行く人々を年齢関係なく撮影した彼の写真の中には、働く人たちの姿もたくさん写っているのだった。

「NYをNYたらしめるのはまさに人だと思うんだけど、この街ではみんなが物語の主人公として振る舞っているように見える。活気に溢れていて、生きている証しというか足跡を残そうとしているように感じる。銀行マンも、現場作業員も、救急車の運転手も、みんなそれぞれが自分の仕事を誇りに思っているんだよ。クールだよな」

それでは、個性を放つ、働くニューヨーカーたちを見せてもらおう。

「この街には名物ドアマンというのが何人かいるが、彼は老舗おもちゃ屋『FAOシュワルツ』の名物ドアマンだよ。このフェイスシールドとユニフォーム、髭というヴィジュアルを見たら撮らずにはいられなかった」

老舗おもちゃ店のドアマンに、
ゴミ収集車を鎮火中の消防士。
この街ではいつも何かが起きていて、
必ず誰かが働いている。

「ワシントン・スクエア・パークにて。コロナ中よくここにいて、いつも少しキテレツな服装をしてパソコンを触ってるから、見るたびに写真を撮ってたんだけど本人は知らん顔だったね（笑）」

「夜のタイムズスクエアで渋滞にはまるロールス・ロイスを見かけたんだ。モブスター？　わからないけど、みんな仕事帰りさ」

「これは自宅前で撮った。朝6時頃に目が覚めて、焦げ臭いなと思って、外に出たらゴミ収集車から火が出てて消防士が消火作業にあたっていた。すぐカメラを取りに戻ったよ」

「これは夏の暑い日だったな。汗水垂らして働く作業員の隣をゆくベビーカーを押す女性という構図が、俺にはなんだか子供を連れて出てく女性と逃げられた旦那って感じに見えて面白いなと」

「コロナ後初めて学校が再開された日で、先生が警備を兼ねて見送りをしている。実はこれ、『teen VOGUE』にその様子を撮影してほしいと依頼されたんだけど、ボロボロな服でカメラを持ったおっさんがティーンにカメラを向けるもんだから、仕事って理解してもらうのが大変だったんだ」

彼らはそれぞれ、何の仕事中かわかるかい？多くは被写体に悟られずに撮るから、俺にもわからないことが多いけどね。

「チリ掃除をしているレストランの店員なんだけど、1950年代の俳優といえばのハンフリー・ボガートに激似で、写真を撮らせてもらった。本人もよく言われるって言ってたね」

「人通りの多い週末のSohoのど真ん中で消防士数名が排水溝覗いていて、なんでも『財布を落としたと通報が入って』と。でも財布にここまでするかなって。今でも彼らの言ったことは信じてない（笑）」

「見てのとおり、葬儀場に棺を運ぶ瞬間だ。中に人が入ってるかどうかはわからないけど、遠くから運んできてるのが見えてこの瞬間を待った」

「NBAのニックスの試合の舞台裏をドキュメントする仕事で撮った一枚さ。チアリーダーたちが試合前のパフォーマンス直前に会場裏で掛け声を出して気合を入れてるところ」

「これは2020年4月、ロックダウンの真っ只中のチャイナタウン。恐らくコロナで店を畳んだデリが冷蔵ショーケースを搬出してたんだと思うけど、誰も外にいないこの時期にやっていたからすごく目立っていた」

「夏のコニーアイランドで撮った写真で、見てのとおり竹馬に乗って壁を作っている男。通行人の表情でわかるように竹馬に乗って作業するなんて初めて見たよ」

これだけ街を歩いていても、
まだまだ知らない、
見たことのない
仕事が山ほどあるもんだ。

「先ほどの棺を運んでいた写真と同じ葬儀場の脇で撮ったもの。彼は葬儀場の演奏者だと思うんだけど、ユニフォーム姿でトランペット片手に電話してる休憩中の佇まいがいいと思った」

ニューヨーカーは働き者だが、
休む時間がないと
やってられない。
仕事も人生もニューヨーカーも、
たまには一息つかないとな。

「救急車のドライバーがハンドルに顔を沈めるこの一枚からは、彼がとても疲れているのが伝わってくるよね。誰かの命と向き合う仕事ってやっぱり大変だよなと思った」

「昼休みかな？　制服に書いてあるように『Los Tacos No.1』で働く女の子だと思うけど、全身真っ白で、それでソーホーのど真ん中に立ってるのが面白いなと思って撮ったよ」

「これは映画かTVの撮影で警察の制服を着ている俳優で恐らく休み時間。本物に勘違いされないようにシャツを肩からかけているんだ。普段絶対見ない光景だからユニークだよね」

「ウォール街で撮った写真だね。特にストーリーがあるわけじゃないけど、真夏の夕方で恐らく仕事終わりに暑くてネクタイを首にかけたと思うんだけど、そのラフさと表情がハードワークを想像させる」

「グリーンポイントで見かけた双子の警察の研修生。“双子の警察”のドキュメントしてみたいなと思ったけど、結局連絡先は聞けずじまいだった。惜しいことをした」

大先輩の写真家に、NYPDの研修生。
狭い街なのに人が多いNYは、一期一会さ。

「公園で出会った、写真家ジョン・ウィルトンの写真はお気に入りだよ。せっかちな愛犬のおかげですごくいい構図の写真が撮れた（笑）」

ラッパーの仕事列伝

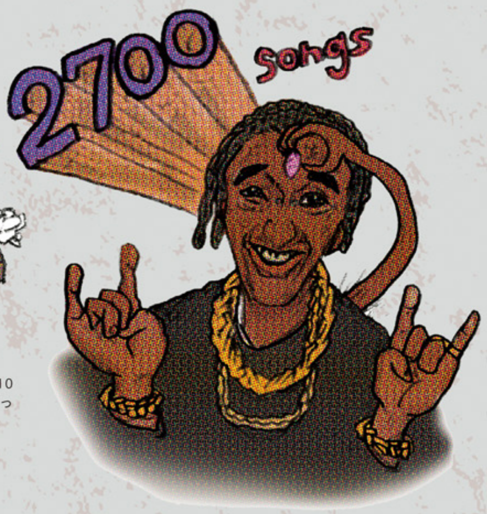
"働き方改革"が推し進められる世界で、超ハードワーカーなのがラッパーたちだ。
彼らの楽曲や残した言葉から、いい子には真似できない仕事の偏愛ぶりを見てみよう。

illustration: Kazuma Mikami text: Keisuke Kagiwada

1986年、カリフォルニア州オックスナード生まれ。数々の楽器を演奏できるラッパー兼ビートメイカー。BTSと共演したことも。

1982年、ルイジアナ州ニューオーリンズ生まれ。11歳で「キャッシュマネーレコード」と契約。ギラギラの歯が特徴。

1998年、イリノイ州シカゴ生まれ。2010年代後半のエモ・ラップシーンの代表格だったが、ドラッグの発作により21歳で死去。



1995年、ペンシルベニア州フィラデルフィア生まれ。デビュー曲「Money Longer」が大ヒット。日本のアニメが大好き。

ラッパーは曲のストックがすごい。

資本主義ってどうなのよ!? みたいな議論が盛んになされる現在、いまだに「ハスリング」だの「メイクマネー」だの、どんどん働いてお金儲けしようぜ、と歌うラッパーたちほど、反時代的に思える職業もない。しかも実際、彼ら自身はめっちゃ働き者なのだ。

例えば、"生きている中で最高のラッパー"を自称するリル・ウェインは、驚くべきことに「最近、一晩で53曲作ったんだ」とコメントしている。1曲あたり3分と計算しても2時間以上ある曲を「一晩で」って、大晦日に予約者向けのおせち弁当を作る料亭並みのスピード感じゃないか。しかも、彼はリリックに同じ言葉を使いたくないらしく、「新しい曲を作るときは、携帯に"L"って打ち込むと"Lil Wayne lyrics"が検索ワードで出てくるようになっているから、過去に同じことを言ってないか調べるんだ」とも語っている。これだけ多作でも同じものは作らない。意識の高さもまた、高級料亭のようだ。

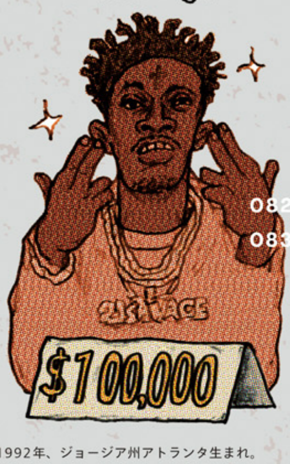
年間700もの曲を制作するというリル・ウージー・ヴァートは未発表曲が2700曲あるらしいが、プロデュース業も忙しいはずのアンダーソン・パークはさらに上をいく。その数6万5000曲！ ここまでくると一生のうちに聴けるのか心配になってくる。いや、そんなの嘘でしょ、吹いているだけでしょ、と思うかもしれないが、全米チャートの常連で2019年に亡くなったジュース・ワールドには、約2000曲の未発表曲が遺されていたというから、あながち嘘ではないのかも。確かなのは、羽振りよく遊んでいるイメージがあるラッパーが、すこぶる勤勉だってことだ。

ラッパーは安売りもしない。

仕事熱心なラッパーたちは金にも厳しい。21サヴェージのマネージャーは、SNSで気軽にフィーチャリング依頼をしてくる奴らに対し、「10万ドルは必要だ。用意できるまで連絡してくんな」と警告。高っ！ かと思えば、ソウルジャ・ボーイは自身のゲストバースをさも大特価のごとく「10万ドルで売ります！」とアピールしているので、その価格を高いと見るか安いと見るかは人によるらしい。ただ、同じくフィーチャリング料が10万ドルだというダベイビーの「ラッパーは世界で一番生き残っていくのが難しい仕事だ。俺は物語を変える手助けができる」という発言からは、その価格が信頼と実績に裏打ちされていることが伝わってくる。弁護士みたいだ！

1991年、オハイオ州クリーブランド生まれ。2作目のアルバム『Kirk』は全米1位を記録するも、差別発言でキャリアが低迷中。

1990年、イリノイ州シカゴ生まれ。ネット発のお騒がせラッパー。「初めてiPhoneを手にしたラッパーは俺だ」など迷言多数。



1992年、ジョージア州アトランタ生まれ。2枚目のアルバムが大ヒット。収録曲はグラミーで最優秀ラップ楽曲賞受賞。

© Robb Cohen / Invision / AP / アフロ

2 Chainz

1977年、ジョージア州カレッジパーク生まれ。さまざまな音楽活動を経て、2012年、ソロデビューアルバム『Based on a T.R.U. Story』をリリース。大ヒットを記録する。

JDILLA

1974年、ミシガン州デトロイト生まれ。独学で楽曲制作技術を身につけた後、'90年代初頭から活動開始。数々の名曲に関わった後、難病を患い2006年に逝去。

ラッパーはどんなことがあってもステージに上がる。

数々の名曲を世に残し、2006年に難病のため32歳の若さで急逝したトラックメイカー、ラッパーのJ・ディラは、その早すぎる晩年、痩せ細った体を車椅子に預けてもなおステージに立っていた。「そこまでしなくても」と思いつつ、その執念には感動せざるをえない。はたまた、ファッション誌にもよく登場し、ファッション好きで知られる2チェインズも、2017年のライブツアーではド派手なピンクの車椅子に乗っていた。彼は子供と庭で遊んでいるときに骨折しただけだし、ナース風のセクシーな衣装をまとったダンサーを従えて歌うその姿はJ・ディラとは比べものにならないくらいゴキゲンだったが、自分の身に何が起きようとも、ファンが待つかぎりステージに立つのが、ラッパーという仕事なのだろう。

Dr. Dre × ヘッドホン

2008年、ドクター・ドレーは仲間とヘッドホンブランド〈ビーツ・エレクトロニクス〉を設立。低音にこだわりがあるそのヘッドホンは、コラボでも有名。レディー・ガガやレブロン・ジェームズを起用したイメージ戦略が功を奏し、徐々に知名度を高める。結果、2014年にはめでたく「アップル」に買収された。その額、30億ドル！　まぁ、Dreはエミネムを一人前にした実績もあるし、何かを育て上げるスキルがハンパないってことだろう。

Lil' Kim × 美容室

世界中で1500万枚以上のアルバムを売り上げた"ヒップホップ女王"ことリル・キムが、従姉妹のカトリーゼ・ジョーンズと一緒に、ノースカロライナ州シャーロットで美容室『Salon Se Swa』を始めたのは2010年のこと。現在、同地で4店舗を展開しているらしい。リル・キムといえば、2004年の黒人女性たちによる美容室映画『Nora's Hair Salon』に本人役として出演していたが、あの頃から自分も美容室の経営者になることを夢見ていたか？

Drake × フレグランス

2021年にローンチした〈Better World Fragrance House〉は、ドレイクがプロデュースするフレグランスブランドだ。主な商品はキャンドルで、「Carby Musk」というシリーズは「ドレイクの匂いがする」というのが売り文句。「自分の女性器の匂いがするキャンドル」をリリースした女優グウィネス・パルトロウみたいな「誰得？」的な商売だ。それにしても、コンスタントに曲を世界的ヒットに導きながらこんな事業に手を出すとはさぞ多忙だろう。

Nas × ドラッグストア

「PillPack」は、オンラインで処方箋を管理し、薬を郵送するというオンライン薬局サービス。実はナズ、「QueensBridge Venture Partners」という投資会社を設立していて、そこから投資したようだ。「PillPack」は、2018年に「Amazon」が10億ドルで買収したので、かなり儲けたに違いない。ちなみに、ナズの会社は、かつてコオロギでプロテインバーを製造する企業にも投資していたらしく、なかなか先見の明があるらしい。

Masta Ace × アメフト部のコーチ

数ある"One Mic"じゃない話の中で、一番ホッコリするのがNYのオールドスクーラー、マスタ・エース。2002年から11年にわたって高校のアメフト部のコーチをしていたっていうのがソレ。もとは体力作りのためだったらしいが、シーズンの8〜11月は基本的にツアーをしなかったというから本気だ。大儲けはできないかもしれないが、この副業は普通にかっこいい。なるほど、だから「Coach's Speech」なんていうスキャット曲があったのか。

Master P × カップ麺

2019年に、自身のカップ麺「Rap Icon Ramen Noodles」をリリースしたのは、ダーティサウスの生ける伝説、マスター・Pだ。味は彼のフッドであるニューオーリンズ風にアレンジされたクリーミーチキンガンボだとか。「俺はヌードルと一緒に育ってきた」とInstagramに告知文を寄せた彼は、併せてアップされた動画内で、「俺らはヌードル界のキングコングなんだ」とまくし立てているが、果たしてそれはどれくらいすごいのだろうか？

ラッパーは"One Mic"ではない。

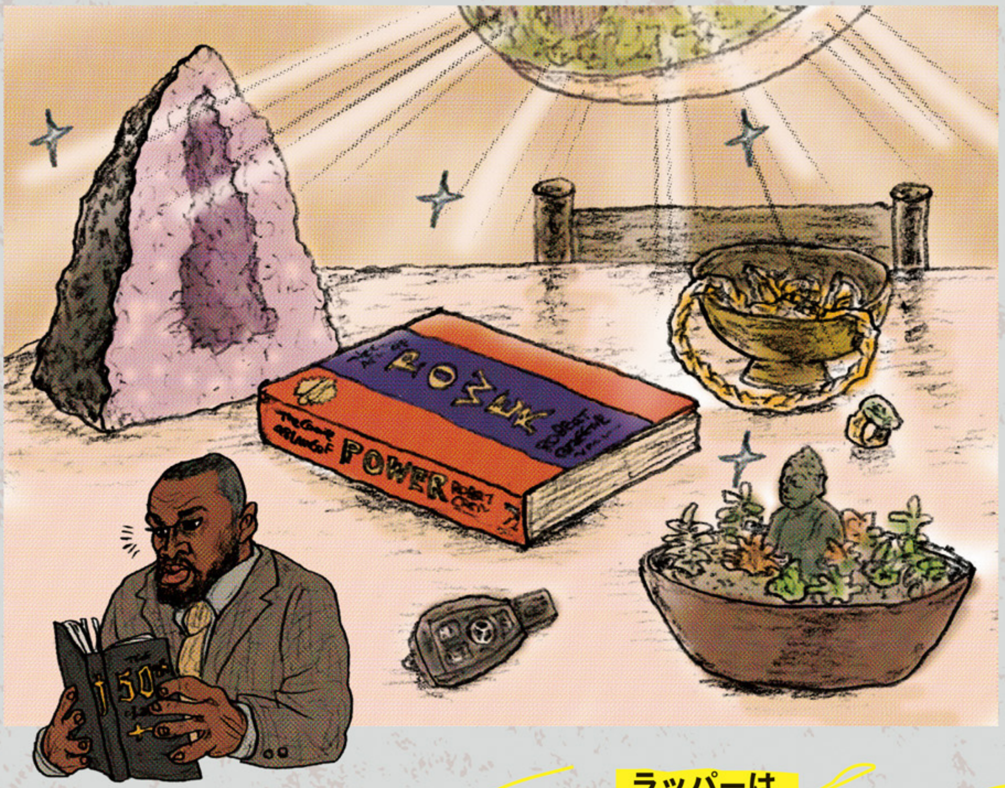
「俺に必要なのは1本のマイクだけ」。これはニューヨークのラッパー、ナズが2001年にドロップした名曲「One Mic」のパンチラインだ。要するに「ラップだけでやっていくぜ！」って決意表明で、初めて聴いたときは「やっぱり一つの道を究めるってかっこいいなぁ」と憧れたものだが……あれれ、ナズ先輩ってば『PillPack』なるオンラインドラッグストアに出資しているらしいじゃないですか。ぜんぜん"One Mic"じゃない！

考えてみれば、ヘッドホンブランド〈ビーツ・エレクトロニクス〉で巨万の富を築いたドクター・ドレーを筆頭に、最近フレグランスブランド〈Better World Fragrance House〉を始めたドレイクや美容室を経営するリル・キムなど、副業でお金を稼ぐラッパーはたくさんいる。もはやラッパーが"One Mic"だった時代は昔の話ということらしい。だけど、本業でも大成功して多忙だろうに、マイク1本で夜な夜なステージを盛り上げていた頃と変わらないハングリーさで働き続けている姿には、リスペクトしかない。

『権力に翻弄されないための48の法則』という本を読んだことがあるだろうか。「刑務所図書館貸出ランキング第1位」を謳う本書は、ジェイ・Zや、Yeことカニエ・ウェストをはじめ、数え切れないほど多くのラッパーがリリックで言及したことで知られる。内容は様々な偉人の言葉を通して、組織のトップに立つものとしての心得を説くというもの。要するにある種のビジネス自己啓発本なわけで、ラッパーたちは読書時間も仕事のことを考えているのかと思うと本当に頭が下がる。

しかし、ここまではまだ序の口。50セントは本書の著者の一人、ロバート・グリーンと『恐怖を克服すれば野望は現実のものとなる』という共著を出しているのだ。これも50セントの人生を通して成り上がりの秘訣を披露したビジネス自己啓発本なのだが、読むだけじゃ飽き足らず、人々をやる気にさせるため、書き手にもまわるというのは、いかにもラッパーらしいムーブだ。

ところで、『権力に翻弄～』ではルネサンス期のイタリアを代表する政治思想家マキャベリに言及しているが、マキャベリといったら今は亡き伝説のラッパー、2パックだ。彼は刑務所でマキャベリの『君主論』を読み、晩年はマキャベリという名前でも活動していた。『君主論』には「その者の死を偽装する事で、彼の敵を欺け」という一節があり、これを真に受けた2パックがまだ生きてハスリングしているという都市伝説もある。もしかして彼はマキャベリも自己啓発ビジネス本として読んだのだろうか。

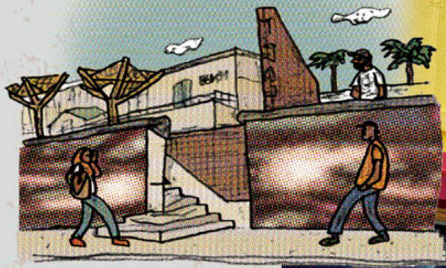


1975年、ニューヨーク州クイーンズ生まれ。「イン・ダ・クラブ」などヒット曲多数。9発被弾しながら生還した話が有名。

50CENT

ラッパーはビジネス自己啓発本を読む。

DESTINATION CRENSHAW



©AP/アフロ

Nipsey Hussle

1985年、カリフォルニア州ロサンゼルス生まれ。レーベル「オール・マネー・イン」を設立するなど、音楽活動も独自路線を貫く。

VECTOR90

Nipsey Hussleは地域貢献も惜しまない。

ラッパーがフッドを大事にするのはよく知られた話だが、「真面目か！」とツッコミたくなるほど真摯に実践していたのがニプシー・ハッスルだ。彼は幼少期から起業家精神の塊のような男で、11歳の頃は1日100足もの靴を磨いていたという。ニプシー・ハッスルというアーティストネームはその秀でた商才に由来するらしいが、それはラッパーになってからも遺憾なく発揮され、デビューするやたちまち成功したのはご存じのとおり。

しかし、ラッパーとして多忙を極める傍ら、彼はロサンゼルスというフッド貢献にもたくさんの時間を費やしたことは意外に知られてない。とりわけ注目に値するのが、「Vector90」というコワーキングスペースの設立で、地域の子供たちに向けたSTEM教育（科学、技術、工学、数学に力を注ぎ、国際競争力のある人材育成を目的とした教育システム）も行っている。あるいは、黒人の歴史や文化に関する博物館「デスティネーション・クレンショウ」設立プロジェクトにも深く関与していたようだ。

そんな彼が自身の運営する服屋『マラソン・クロージング』の前で凶弾に倒れたのは、2019年のこと。死後、街中にニプシーの姿を描いたグラフィティが溢れたことからも、どれだけ尊敬されていたのかが伝わってくる。そして、その付近に停車したアメ車のボンネットでは、彼の（おそらく非公式な）グッズが売られていた。一人の働き者のレガシーが、今も地元を潤し続けている。

お金の呼び名がたくさんある。

ラッパーにとって、働くという行為はイコールでお金を意味している。だからなのか、彼らの業界にはお金に関するスラングが少なくない。しっかり暗記して、明日からガンガン使っていこう！

Band

お金をまとめる輪ゴム（Band）が由来。ジューシー・Jの「Bandz A Make Her Dance」やT.I.の「Rubberband Man」などで使用されている。基本「俺は金持っているぜ」って曲。

Dead Presidents

紙幣には“死んだ大統領”が使用されるため。ナズの「The World Is Yours」で有名に。その後、ジェイ・Zが「Dead Presidents」で無断で同曲をサンプリングし、ビーフに発展。

C.R.E.A.M.

“Cash Rules Everything Around Me（俺の周りのすべては金に支配されている）”の略。ウータン・クランが「C.R.E.A.M.」の中で生み出して以後、多くのラッパーが使用。

Lettuce

ドル紙幣がレタスと同じ緑色だから。J.コールは「Can't Get Enough」の中で、「俺はレタスを見つける（＝金を稼ぐ）ために奮闘中だ」と歌っている。途端に可愛い。

Chedda / Cheddar

ラッパーがチェダーチーズが好きだからという説もあるが、由来は不明。ノトーリアス・B.I.G.がヒット曲「Warning」で使用している。発展形として“cheese”というのもある。

Lucci / Luchini

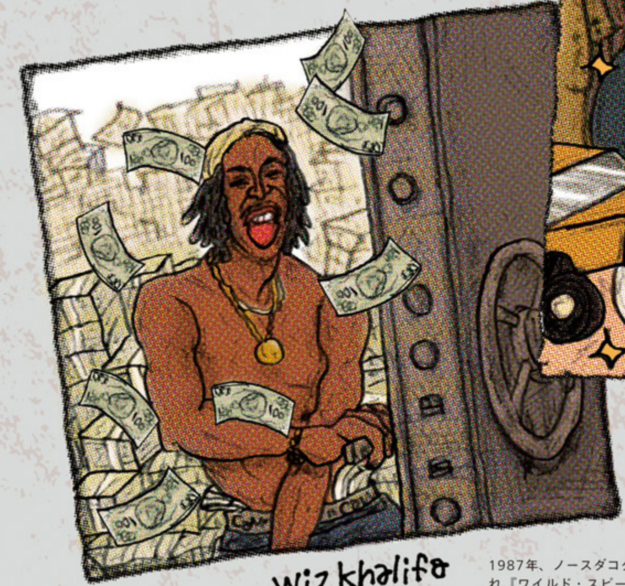
悪銭を意味する“lucre”の発展形。Lucci Louなど名前に用いるラッパーも多い。キャンプ・ローの「Luchini AKA This Is It」には、「空からLuchiniが降ってくる」なる一節が。

© Backgrid / アフロ

Eminemは9時5時だ。

ここまでラッパーがどれだけ働き者かって話をしてきたわけだが、そんな中、たった一人“働き方改革”を実践しているのが、エミネムだ。スタジオには9時に来て、13時の休憩を挟んでから17時に帰るという、日本の公務員みたいなライフスタイルなのだ。彼とコラボしたエイコンによれば、午後のセッションになると思って18時にスタジオ入りしたら、「エミネムはもう帰ったよ」と言われたという。ハードスケジュールを普通のことにしたくないし、音楽制作がストレスになるのも嫌だし、なにしろ娘と一緒にいたいというのがエミネムの言い分らしい。めっちゃ正論！ 最近、エミネムの早口ラップに磨きがかかっている気がするが、早く帰りたいせいだったりして？

1970年代後半、ニュージャージー州エングルウッドで結成。「Rapper's Delight」以降ヒット曲に恵まれず解散するも再結成した。



1987年、ノースダコタ州マイノット生まれ。『ワイルド・スピード SKY MISSION』の主題歌「See You Again」が有名。

ラッパーは働きそして自慢する。

働いて働いて働いて、たっぷり稼いだ後、ラッパーたちは何をするか？ そう、まずは自慢をするのが彼らの性。“ボースティング”と呼ばれたりもするが、1979年にリリースされたシュガーヒル・ギャングの「Rapper's Delight」には、こんなリリックが。「モハメド・アリより服を持ってるぜ。ボディガードもいるし、でっかい車を2台持ってるぜ」。ボクサーパンツのイメージが強すぎるアリが、どれだけ服を持っているかイメージできないのが悔しい。というのはさておき、この曲はラップ・ナンバーとして初めて全米トップ40入りを果たした曲なので、“ボースティング”の最初期の例であることは間違いなく、だからなのかややお手柔らかだ。

その後、“ボースティング”文化は過激化の一途を辿り、ウィズ・カリファのそのものズバリな「Work Hard Play Hard」ではこんなことが歌われる。「あぁ、金が有り余っちまって、銀行でも始めちまおうかってくらいさ」。稼いだ金の使い道が銀行開業なんて、本当にラッパーは働くのとお金が好きなんだなぁ。

社長もつらいよ。

TWO PRESIDENTS DISCUSS THEIR WORK.

ミュージシャンの小袋成彬さんとラランドのサーヤさんには共通点がある。前者はクリエイティブカンパニー「TOKA」の、後者は個人事務所「レモンジャム」の、それぞれ社長でもあるのだ。雲の上の存在すぎて、何をやっているかもよくわからない社長にも、仕事をする上での悩みはあるようだ。

photo: Jack Orton (LONDON), Kazufumi Shimoyashiki
illustration: Takahiro Shimada
coordination: Tatsuo Hino
text: Keisuke Kagiwada

サーヤ 小袋さんはどんな経緯で会社を始めたんですか？

小袋成彬 一緒に音楽の仕事やってたYaffle（小島裕規）って友達がいるんですね。今もやっているんですけど、彼とお金で揉めたくなかったっていうのが一番の理由。ただ、大学は経営学部だったんで、経営に興味はあったし、会社を立てるっていうのは法の人格を作るってことだから、俺以外の人格で何か新しい事業ができるのはいいなとも思っていました。深い意味はないけど、大きな絵はあったって感じですね。サーヤさんは？

サ 大学の同級生でもあった相方のニシダとは、卒業したらどっか既存の事務所に入りたいなと思っていたんですよ。だけど、相方が留年してなかなか卒業しなくて。私は卒業後に就職したから、お互いに授業や仕事があるなかでの芸人活動なんですけど、そんな面倒なことに対応してくれる事務所はもちろんない。だから、まずはフリーの芸人になって全部自分でやっていたんです。Gメールを作って、テレビ局の人との連絡も請求書の発行もして。でも、だんだん忙しくなってきて、パンクしたんですよね。それでマネージャーをつけて、事務所化しました。

小 回り始めて会社にしたと。

サ そうですね。1回、あまりに忙しすぎて、相方にメールの返信を頼んだんですよ。でも、出演依頼に「押忍！　出ます！」って2行くらいしか書いてなくて、「お世話になります」もない。じゃあ、マネージャーをつけようってことで。

株式会社TOKA 創業者
小袋成彬

おぶくろ・なりあき｜1991年生まれ。ミュージシャンとして活動する傍ら、2014年に小島裕規と音楽レーベル「Tokyo Recordings」を創業。その後、社名を「TOKA」に変更し、東京とロンドンを拠点にさまざまな活動をしている。J-WAVEで毎週金曜日に放送中のラジオ『FLIP SIDE PLANET』ではメインMCを務めている。

小 ウケる（笑）。でも、それでいうと、俺もニシダさんと同じタイプかも。ビジネスメールとか書けないんで。ルールに縛られるのが苦手で、統治されている気がしちゃうんですよ。だから、メールの返信とかも人に任せています。あと、俺の場合、相方が優秀なんですよ。

サ 羨ましいです。

小 だから、社内のマネジメントとかも相方に任せていて、俺の社長らしい業務としては、まずヒューマンリソースというか、人材の管理ですかね。働いている人の話聞いて、配置転換したり、部門をちょっと組み替えたりして、組織をよりよくするように動くというか。ずっと会社にいるお兄ちゃんみたいな。

サ そういうことって大事ですよね。私はいまだに会社員もやっているんで、客観的に社長と接することもあるんですけど、末端を見ないで「何でこんな数字なんだよ！」って言うような人は本当に嫌われますから。だから、端っこまで気を配るのは、社長として大事だなと思います。社員を1個の数字としてではなく、人間として見るというか。

小 本当にそう。

サ うちはニシダとマネージャーの3人の会社なんで、行き届くだろうなと思いますけど、どうやって相方の仕事増やすかっていうのは、社長としていつも考えている部分ではありますね。私の8分の1くらいしか仕事がないんで。つい最近だと、ニシダの背負っているバッグに月5万で出せる広告枠をつけてみたり。

小 やば（笑）。毎日背負ってなきゃいけないってことですよね？

サ そういう契約です。彼女と温泉旅行に行ったときも背負っていましたね。相方が不祥事を起こしたら一瞬で終わるんで、管理も徹底しています。ただ1回、本当に表に出せないようなことして、某所にスーツ着て謝罪に行ったことはあるんですけど。あんなことは二度としたくないですね。

小 ガチのやつだ。

サ ガチすぎて内容を一言も出せないっていう。ざっくり言うと女性関係です。

小 すごい世界だな。それでもニシダさんを手放さないのは才能があるから？

サ それよく聞かれるんですよ。「なんで手放さないんだ」「手放さないサーヤこそマジでヤバいんじゃないか」って（笑）。それで自分でも考えてみたんですけど、何をやっても罪悪感がわかないからかなって。どんなヒドいドッキリを仕掛けてもなんとも思わないんで、ストレスがないっていう。

小 面白い関係性だなぁ。

サ 小袋さんは他にどんな社長業があるんですか？

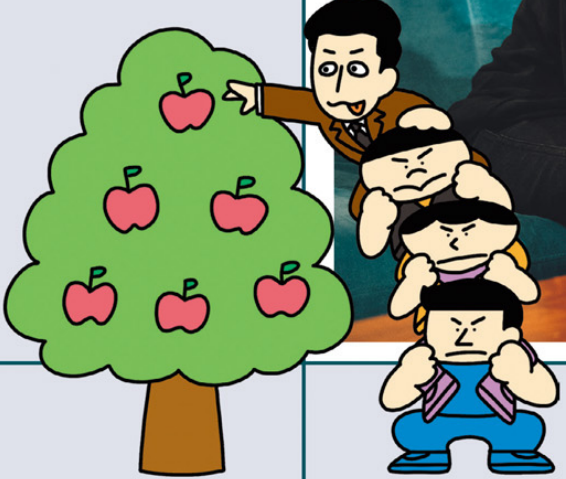
小 あとは、新規事業の立ち上げかな。社長にもいろんなタイプがいると思うんですよ。管理するのが得意な人とか、ただ突っ走っていく人とか。そんな中、自分の強みは新しい種を蒔けることだと思っていて。0から1を作るのが好きなんですよ。1から100とかは全く興味がないんですけど。ただ、いつもビジョンとコンセプトは間違いないって思って始めるんだけど、花開くまでは時間がかかるんですよね、やっぱり。最初の頃は、その間にお金がショートしそうになることもあって。そうなるとやりたくない仕事もやらなきゃいけなかったりするので、つらかったですよね。『FLIPSIDE PLANET』ってラジオも軌道に乗るまで7年かかりましたから。楽しんでやっているんですけど、振り返るとよくやっていたなって。

サ お金周りの問題はリアルに深刻ですよね。税金を払うたびに、つれぇなって思いますもん。「都民税ってこんなにするのか！」とか。

小 そうですよね。会社員だと税金って給料から天引きされているのであんまりリアルじゃないかもしれないけど、払う側になると「マジかよ」って思うことは結構ありますから。ところで、サンドウィッチマンさんは個人事務所から始めて、どんどん所属芸人とかを増やして大きくなっているじゃないですか。インスパイアされたりしないですか？

サ でかくしたいっていうのはないですね。1人ですらこんな大変なんですから。もし新しく所属させるなら、芸人とかじゃなくて、書道家とかがいいですけどね。

社長は相方選びが命運を分ける。



社長は1人では叶えられない夢を持っている。

株式会社レモンジャム
代表取締役社長
サーヤ

1995年生まれ。上智大学在学中、同級生のニシダとラランドを結成。卒業後、フリーとしての活動を経て、2021年に個人事務所「レモンジャム」を設立し、社長に就任。主なレギュラー番組は『トゲトゲTV』『沼にハマってきいてみた』など。また、公式YouTube「ララチューン」の登録者数は現在、37万人を超えている。

小 それめっちゃ面白い！（笑）

サ 逆に、小袋さんには、今後の目標とかってあるんですか？

小 具体的にはないですけど、でかい絵はあります。僕らは最初、純粋に下請けの音楽プロダクションだったんですね。でも今は、ラジオ制作とか東京ヤクルトスワローズとのイベント制作とかもしていて。アートの力を使って日本という閉鎖的な世界を広げていくというか、長いタームで文化的な無形資産を作っていくって活動もしているんですよ。

サ なるほど。

小 そういう活動をするにはやっぱり会社が必要だなって思います。社長なんて誰でもなれるんですよ。30万円だけ用意して、行政書士を呼んで、法人届を出せば、資本金は1円あればいいんだから。大事なのは肩書じゃなくて、どういう夢を実現したいかってことで。それが1人じゃ叶えられないなら、会社を立ち上げればいい。うちの会社はもともと「Tokyo Recordings」って社名だったんですが、途中で「TOKA」に変えているんですね。ひまわりとか菊のような種類の花を指す〝頭花〟から来ているんですけど。あれってひとつの花に見えて、実はいくつもの花の集合なんですよね。うちの会社も頭花のように一人一人が花を咲かせて、それが大きな花に見えればいいなと思って付けたんです。「レモンジャム」の由来は何なんですか？

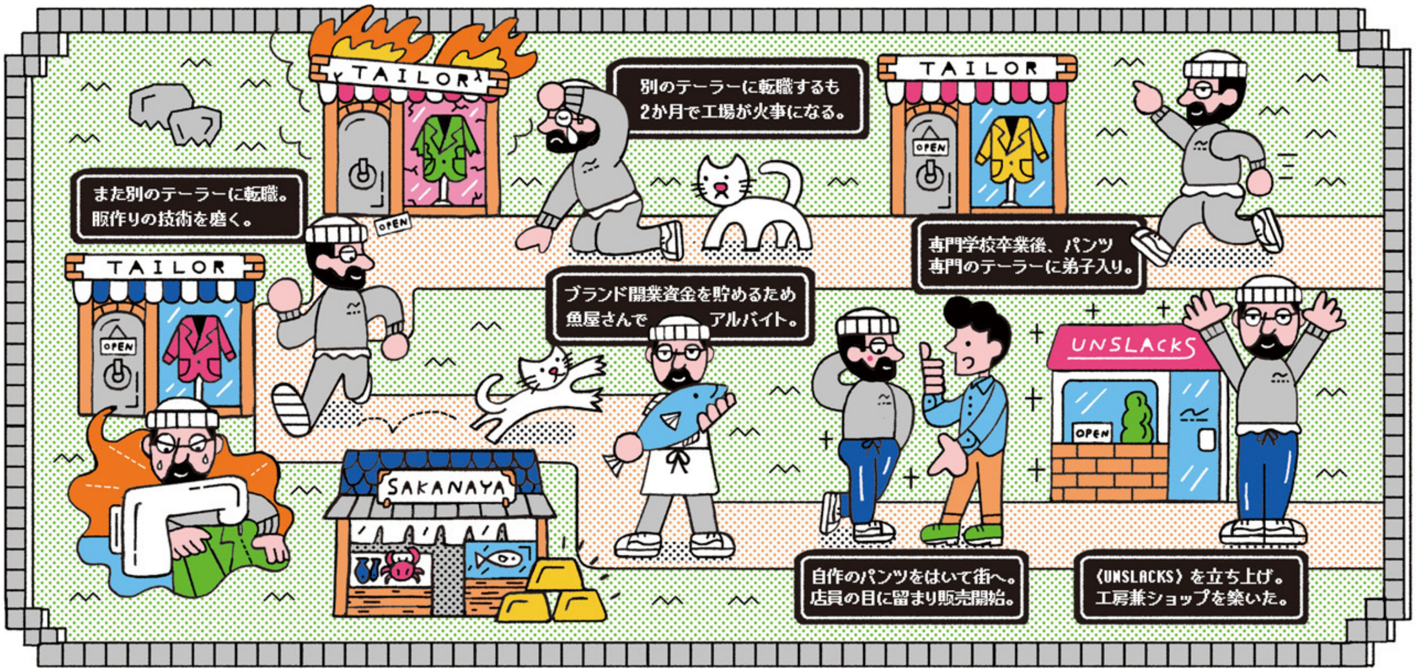
サ 事務所を立ち上げるとき、テレビの取材がついてくれて、占い師のところなんかにも行ったけど、全然決まらなかったんですよ。それでタクシーの中で、なんとなく思いついたってだけなんです。

小 そうなんだ。俺の勝手な想像では、レモンって基本は酸っぱいけど、煮ると甘くもなるじゃないですか。で、ジャムはジャムセッションを思い浮かべていたんで、酸いも甘いもジャムしていこうぜ！って意味で、めっちゃいいなと思っていたんですけど（笑）。

サ めっちゃいいじゃないですか！　今度からそれって言います（笑）。

みんな紆余曲折あって今の仕事がある！

一生勤め上げることも素敵だけど、一度きりの人生、冒険も大事。
10人の先輩たちに、それぞれが歩んだ転職遍歴を聞いてみた。
一筋縄にいくことなんてない。彼らの物語から勇気をもらおう。



JOB STAGE 1

ブランド設立の鍵は、魚屋だった。

〈UNSLACKS〉デザイナー

中野亮介

職人の卵は大変だ。技術を学びながら生計も立てないと、暮らしが成り立たないから。〈UNSLACKS〉の中野亮介さんがテーラーを目指したのは服飾の専門学生時代。絵心がなくデザイナーの道を断念したが、縫製には自信があったので仕立て屋になろうと考えた。大量生産じゃなく、手仕事で服を作りたいと思ったのだという。

「青山や渋谷のテーラーの門を叩きましたが全敗。そうしたら先生が『パンツ専門のテーラーをやってる同級生がアシスタントを募集してるよ』と教えてくれて」

仕立ての花形はジャケットで、「パンツ専門」なんて聞いたことがなかった。でも仕上がりが素敵で、働かせてもらうことに。ただ、技術を教わる代わりに無給だった。

「週4日勤務で、残りの3日は『オオゼキ松原店』の精肉コーナーで朝6時からアルバイト。職場が師匠の自宅で、ご両親もいて気も使うし、居心地はあまり良くなかったです(笑)。厳しかったですし」

怒られ、傷心のままドアを開けたら師匠の愛猫を逃がしてしまい、二重に怒られる悲劇も……（1週間後に無事帰還！）。しんどくて半年で退職した。給料が出る職場を探し、知り合いの生地屋の紹介で老舗のテーラーへ行くと、正社員と聞いていたのに「やっぱりバイトで」。他にアテもなく埼玉の外れにある工場へ通った。しかし……。

「漏電で職場が全焼したんです。幸いケガ人はいなかったけど、業務がなくなって辞めました。在籍した3か月のうち、ラスト1か月の業務は火事場の片付け(笑)」

職を求め、百貨店が扱う服を仕立てる町工場にバイトとして入った。3つ目の職場は、業務量と拘束時間がアンバランスだった。

「当時住んでいた西荻窪から、会社のある成増まで片道2時間。なのに毎日仕事を持ち帰らないといけなくて。終業が17時で、帰ると19時。裏地やラベルまわりのハンドステッチを仕上げ、裾のまつりを縫うと、もう深夜なんですよ。辛かったですね」

東日本大震災で交通網がやられ、今に続くチャリ通生活を始めた。ただ、通勤は緩和されても、給与面の不安だけは残った。

「頑張っても月給が10万円ちょっと。これはいかんと思い、高校の部活の後輩が『時給がいい』と話していた下高井戸の魚屋を紹介してもらいました。安くて旨いと評判で、魚をさばいて刺し身にしている。年末はお客さんで賑わう人気店なんです」

時給はテーラーの倍もあった。本業の傍ら週に2日店に立ち、やっと人並みの月収に。担当は力仕事と皿洗い。厳しい大将とも親しくなり、余り物も分けてもらった。2年がたった頃、テーラーの仕事を辞めた。

「技術も覚えて、どの程度なら売り物になるかがわかってきましたから。開業資金を貯めようと思って、魚屋の大将に『そろそろ自分で服を作りたいんです』と話し、シフトを週6日に増やしてもらったんです」

働き過ぎて「このまま魚屋になるのか」と不安がよぎったことも。でも家では作り続けた。最初に出会った師匠は厳しかったけれど服作りへの影響は大きく、パンツだけを作るブランドを目指した。3年がたって納得いくものができたが、発表の仕方がわからない。サンプルをはいて街に出てみた。

「ある日、セレクトショップの店員さんに『どこのパンツですか？』と声をかけられたんですが、それが現『サンリミット』店長の津雲さんだったんですよ。当時その店でアシスタントバイヤーをしていて。トントン拍子に取り扱いが決まりました」

テーラーを志して約10年、〈UNSLACKS〉が始動。魚屋で働くのも、服を着て街に出るのも、教科書には載ってない。でも自分の足で踏みしめた道は、きっと頑丈だ。

なかの・りょうすけ｜1984年、東京都生まれ。2014年にトラディショナルなスラックスの卸を始め、のちオリジナルのイージーパンツを制作。2018年、淡島通りに工房兼直営店を構え、2020年に新代田に移転。夏に代官山蔦屋書店で〈BARAILLE & GARMENTS〉とイベントを計画中。@unslacks_store

illustration: Tact Sato　text: Neo Iida

JOB STAGE 2

美容、飲食、映画館。未知の業種も全力で。

「K2」スタッフ
三浦沙織

下北沢の映画館「K2」で働く三浦沙織さんのキャリアの始まりは美容師。手荒れでお客さんに付けなくなり、「免許はあるし、大好きな映画のヘアメイクになろう！」と決心。映画業界には、撮影に特化したヘアメイクが存在する。働きながらメイクを学ぼうと思い〈シュウウエムラ〉の美容部員になった頃、飲み友達と再会。知り合いづてに事務所を紹介してもらった。早くも夢が叶ったと思いきや、厳しい世界が待ち受けていた。

「毎朝5時に新宿のスバルビル前に集合して、仕事して、事務所でスポンジや備品を綺麗にして、帰宅は翌朝3時。3日間くらいお風呂に入れなくて、汚い女でした」

月給6万円では暮らしていけず、東京駅の『東京ばな奈』の早朝バイトで食いつないだ。数々の大作を手掛けた先輩は厳しく、身体的にも精神的にも辛い日々が続く。

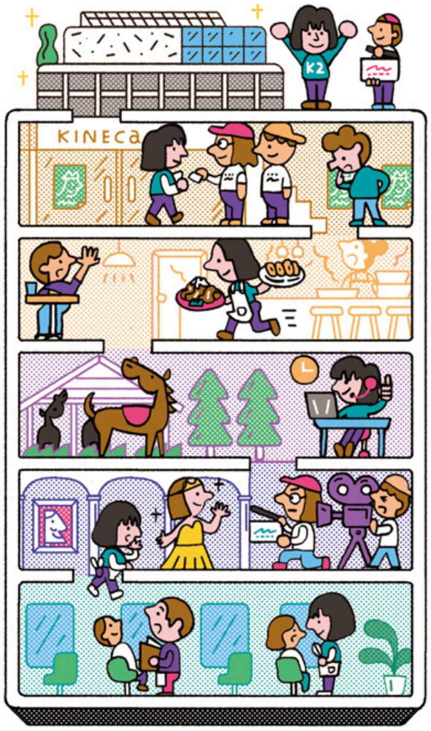
「先輩との関係に悩んだとき、ある映画監督から『誰を嫌いになってもいい。でも尊敬だけ忘れるな』と言われて、心がラクになりました。人付き合いが器用にできなくても、それでいいんだって。おばあちゃんになっても覚えてる言葉だと思います」

3年働いた後、広告事務所のヘアメイクに転職。しかしモデルに「綺麗です〜！」と声を飛ばすのが苦手で辞め、帰省。稼がねばと『ヨドバシカメラ』のコールセンターで働いていると、友達から「三軒茶屋で『マルサラ飲食店』を開くから手伝ってほしい」と連絡が。飲食は未経験だったが、お店はとても居心地が良く、4年続いた。やがて映画館で働きたい気持ちが強まり、配給会社で働く恋人にテアトルシネマの知人を紹介してもらって「キネカ大森」へ。

「みんなオールラウンダーで、もぎりもするし、映画紹介のお知らせも手作り。仕事を覚えれば映写も担当できたんですよ」

楽しかったが、バイトは長時間働けない。もっと仕事がしたいと思い、「K2」が社員を探していると聞き、手を挙げた。美容、飲食、映画館と、常に別業種に飛び込んできた三浦さん。不安はなかった？

「別に何をやってもいいって思うんです。今は働くことを選びやすい時代だし、都度自分を冷静に見て努力できれば、どんな仕事も面白いんだと思います」



みうら・さおり｜1986年、千葉県生まれ。実家は船橋競馬場の競走馬を育てており、家の1階が厩舎。三軒茶屋『マルサラ飲食店』、「キネカ大森」を経て、現在、下北沢のミニシアター「K2」で働く。掃除から告知、イベントのアテンドまで業務は色々。4月の上映情報はホームページをチェック。k2-cinema.com

JOB STAGE 3

誰にも教わらず、生まれた独自性。

〈MOBLEY WORKS〉代表
鰤岡力也

独学で身を立てる人もいる。〈MOBLEY WORKS〉の鰤岡力也さんが家具や内装を手掛けるまでの経緯は、意外性に満ちている。まず、社会人最初の一歩は福祉だった。就職先が決まらず悩んでいたとき、大学のある武蔵野市が福祉に力を入れているのを思い出し、「今後伸びる業界だし」とホームヘルパー3級の資格をとった。晴れて就職した老人ホームの仕事はやりがいはあったが、2年でパワーが尽きる。資格と経験はあるからいつでも戻ってこられる。まだ若いし、一度は好きなことを。

「中学時代がアメカジブームで、原宿の『プロペラ』によく行っていて。その会社が家具屋もやってると聞いて、当時若林にあった『ギャラップ』に入りました。実は家具は外注で、メインは木材の販売。古着感覚で古い木を売っていて、でっかいバンで買い付けに来るお客さんに憧れてました」

外注時に家具をデザインするほどではないが自分なりのスケッチを描いたという。2年半たって独立。自由が丘にあった『デポー39』で働くバイト先の先輩とユニットを組み、アンティークの修理を始めた。

「『デポー39』が2年後に閉店を決めた頃で、オーナーの天沼さんが『仕事を全部あげるから2年で人脈を作りなさい』って言ってくれて。ものすごく救われました」

修理をメインにオリジナル家具も作ったが、1年で別々の道を進むことに。鰤岡さんはひとり〈鰤岡木工〉を立ち上げた。

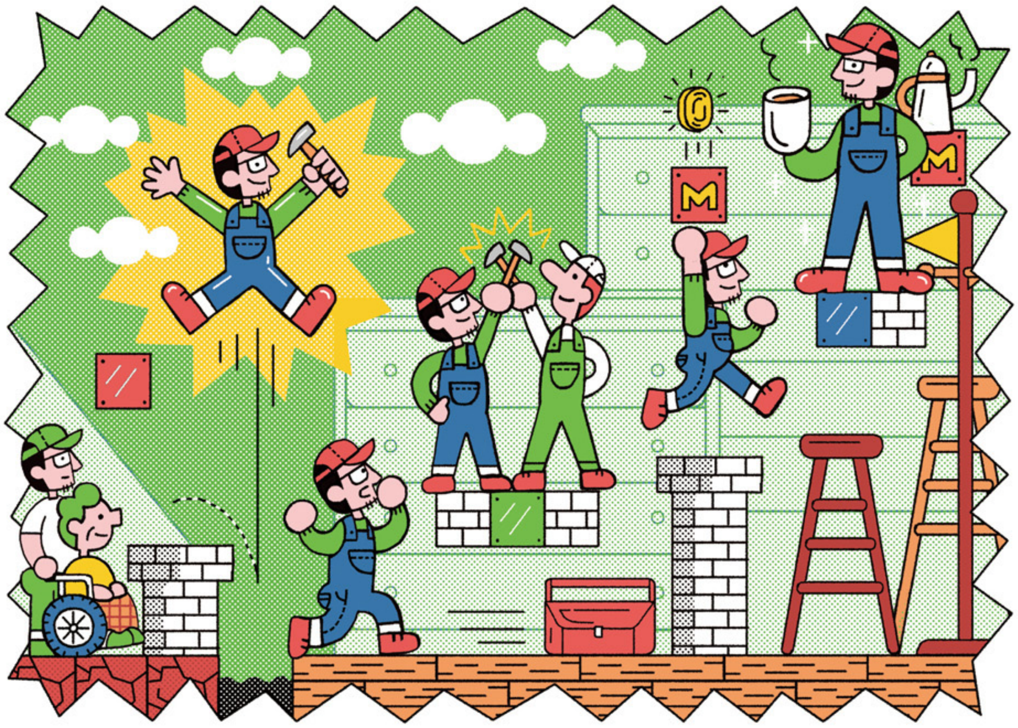
「親に100万円を借り、町田の山奥の15坪の土地に小さいプレハブの工場を建てて、ハイエースを買いました。『ギャラップ』が下請けの仕事をたくさんくれて。ひたすら床材をエイジング加工してました。一人で始めたからには誰より働こうと思って、2日にいっぺんは徹夜してましたね」

家具作りへの情熱を抱えながら下請け業に徹するも父親が突然亡くなり、人生はいつどうなるかわからないと思い知る。

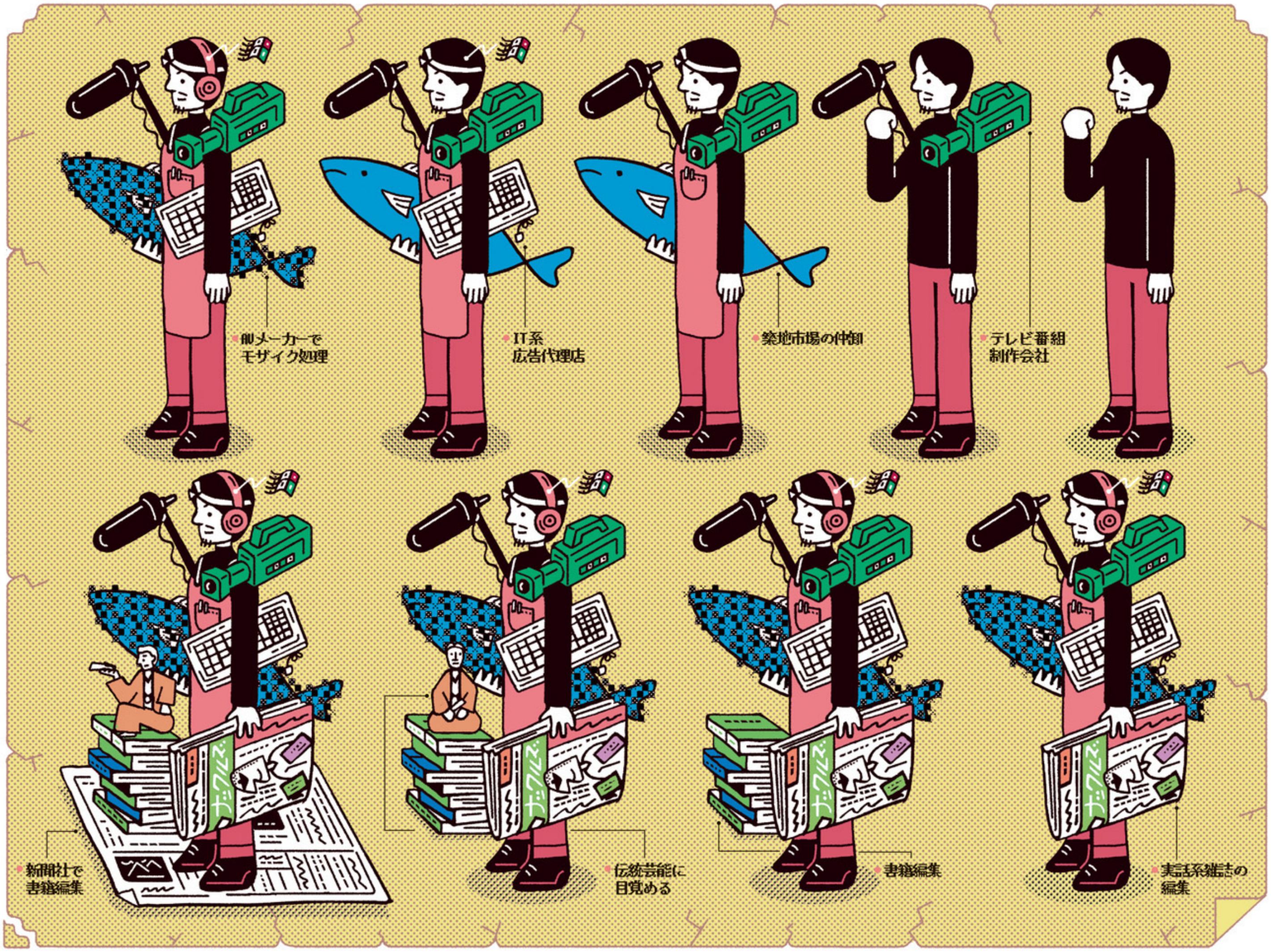
「下請けを全部断ったタイミングで友達に眼鏡屋作るから内装を頼みたいと言われ、初めて内装の仕事をしました。造作も家具もイチから作って結構いい感じにできて。これでやっていこうと、屋号も〈MOBLEY WORKS〉に。そしたら翌年、『パドラーズ』から内装の依頼が来たんです」

人生2度目の内装があの『パドラーズコーヒー』とは驚きだ。誰にもノウハウを教わらず、独学でここまでやってきた。

「イロハを教わらなかったのが独自性に繋がってるんじゃないかと思いますね。10万円のアンティークも、解体すると粗悪な作りだったり。でも見た目はカッコいいわけで、これでもいいんだって思えたんです。後発組の僕には自信になりましたね」



ぶりおか・りきや｜1976年東京都生まれ。『ギャラップ』を経て、2003年に独立。2010年に店舗の内装設計、家具製作を手掛ける〈MOBLEY WORKS〉を設立する。主な仕事に『BULLPEN』や『KITTE　旧東京中央郵便局長室』、『松㐂』など。オリジナル家具の企画や販売も行っている。www.mobley-works.com



肩書の数だけ、技術を身につけて。

編集者
九龍ジョー

編集者の九龍ジョーさんのクエストは、スキル習得の旅といえる。新卒で飛び込んだのは、テレビ番組制作会社。原一男監督の映画『さようならCP』に衝撃を受け、ドキュメンタリーの世界を志したのだ。

「小さな会社で、映像に関わることは何でもやりました。ただ、メインは自治体の広報番組とかで、熱いドキュメンタリー論を交わす機会なんてない(笑)。当時はそれを物足りなく思ってしまったんですね」

その頃、取材で築地市場を訪ね、生き生きと働く人たちの姿にハッとしたという。

「築地で働きながら、自分で自主映画を作るのもいいなと会社を辞め、築地場内市場の仲卸へ就職。朝4時に出勤すると、まず競り場の魚をメモして、店長に渡します。それから場内をターレで回り、銀座や両国の料亭へ配達。その過程で、『仕入れ値に利益を乗せて売る』という商売のキホンを叩き込まれました。『まけて』と言われれば、金額のあたまに黒三角をつけて『値引き』。そうすれば、相手の要望に沿いつつも、商品価値は下げずに対応できる、とか」

仕事は昼すぎに終わり、給料も悪くない。機材を揃え、映像づくりも続けた。時は'00年代前半、インターネットも面白くなってくる。1年たって魚河岸の季節が一回りすると、IT系の広告代理店に転職した。

「基幹系コンピューターのカタログを編集したり、記事広告を書いたり。ITの知識なんてなかったけど、商社の営業マンが優しく教えてくれました。文章を扱う仕事が意外と向いてる、と思ったのもこの頃」

ITやネットに詳しくなり、ビジネス作法も身についた。次第に案件も大きくなったが、パワハラ上司に嫌気が差して退社。

「失業保険受給中に、ハローワークで斡旋された仕事につくと、再就職手当がもらえる。それ目当てに求人情報を見たら『映像編集』とあって面接に行くと、AVメーカーのソフト・オン・デマンドでした。業務は画面のモザイク処理。当時、モザイクが進化して、ギリギリまで見えるのがウリだったんですけど、それって画像処理ソフトを使ってコマ単位でマスクを描くんですよ。作業中は音楽聴き放題だし、同僚も変わったヤツばかりで楽しかった。ただ、12時間かけて2分しか進まないような細かい作業で、これ続けたら、目が悪くなるなと」

適度に無断欠勤していたら、クビになりかけた。解雇はたまらないと、自分から退社の連絡。就職が決まったとウソをつくと、社名を聞かれた。とっさに口をついて出たのが、偶然手元にあった雑誌名。「『BUBKA』です」。言ったからには、と版元のコアマガジンを調べてみると、求人があった。

「面接で『モザイクをかけてました』と言ったら即採用。というのも、雑誌に付録DVDをつけるブームがきていた。エロ系だとモザイクをかけるコストが高かった。でも、僕がいれば内製できるぞ、と(笑)。最終的に、エロからアウトロー系まで社内のあらゆる雑誌のDVD編集を手掛けるように」

やがて、映像だけでなく、ページも任されるように。ここで雑誌編集の基礎を身につけた。そして、ライターへの道も——。

「一緒に取材したライターが別件で逮捕されて、代わりに僕が原稿を書くことになったんです。ペンネームが必要だなと思って、友達に電話で相談したら、『目に入った看板を読み上げるから、好きなのをもじってみれば』と。それで、『九龍ジョー』に」

その場しのぎのペンネームだったが、次第に原稿依頼がくるように。雑誌編集でも、吉田豪さんの連載を担当し、愛川欽也さんや角川春樹さんといった大物のブッキングに成功。太田出版が『hon-nin』という雑誌を創刊するタイミングで編集者を探していた際、執筆陣の一人でもあった吉田さんが、同社に九龍さんのことを推薦してくれた。

「でも、太田出版に入ったらみんなすごくて、これまでの編集技術では通用しないのがわかったんです。何でも聞いて、吸収しまくりました。初めて書籍の編集もしました。雨宮処凛さんの『生きさせろ!』という本で、これが運よくベストセラーとなり、

声をかけられたらやったらいい。

小説家
町田 康

肩書イコール名前、みたいな人に憧れる。表現するアウトプットが違うだけですべての活動に一貫性があるような。作家の町田康さんはまさにそんな存在だ。10代で音楽を始め、INUを結成。町田町蔵の名前でロックシーンを騒がせた。1981年のデビューアルバム『メシ喰うな！』は、2023年のいま聴いても断然カッコいい。さらにデビュー翌年には映画に出演。『爆裂都市 BURST CITY』での演技は、一際異彩を放っていた。きっと当時、「あの町蔵が役者に！」なんて騒がれたに違いない。

「役者をやりたいなんて全く思ってなかったです。自分でオーディションを受けに行ったこともなくて、『やってみないか』と監督がレコード会社のほうに来られましてね。声かけていただいたんでほなやってみようかって。僕の場合、ひとつのことを決めないというか、『自分は歌手だから歌を歌うんだ』みたいなことを考えていなくて。専門的にならない、要するにオタクの逆と言いますかね。突き詰めずなんでもやってみようと。だからバンドやってるやつがなんで映画出んねん、小説書くねんとかよう言われますけど、いや別に俺そういう意味じゃミュージシャンちゃうしって」

若い頃は特に自分の進路を決め付けてしまいそうになるけれど、町田さんの考えはすごく柔らかかった。

「わからんじゃないですか、何ができるかなんて。だから『俺はこうや！』って可能性を狭めるよりも、声かけられたらやったらええやんけ、くらいのつもりでした」

1992年に詩集『供花（くうげ）』を出したのも、「なんでもやってみよう」の精神ということ。

「詩人と呼ばれたい、そう認めてほしいと思ってなかったんですよね。ただ表現をしたいというだけで。そういう意味では地続きなんですよね」

町田康として小説『くっすん大黒』を書いたのが1996年。このときも「書いてみませんか？」というアプローチから始まったそうだけれど、2000年には『きれぎれ』で芥川賞を受賞し、「小説を書く」という表現は町田さんにしっくり馴染んでいるように見える。そこには何か特別な思いが？

「自分は子供の頃から本を読むのが好きだったから、蓄積された語彙があるんです。実社会で知った語彙でも、大学に行って専門的に知った語彙でもない、勝手にひとりで本を読んでるだけの、オリジナルの語彙です。それを組み立てて音楽の歌詞や詩を書いてたんです。お客さんはわかってくれるんです。おもろいな、うんうんって。でも、マスコミやレコード会社の人に伝わらない。そういうとき、人は阿呆やと思うんですよ。かわいそうな人扱いされるんです。自分でも俺はかわいそうな人やと思ってたんですよ。でも、その語彙を組み立てて小説を書いたら、読者がわかってくれた。中学校のときから愛読してた筒井康隆さんが『きみ面白いね』って言ってくれたときは、生きてて良かったなって思いました」

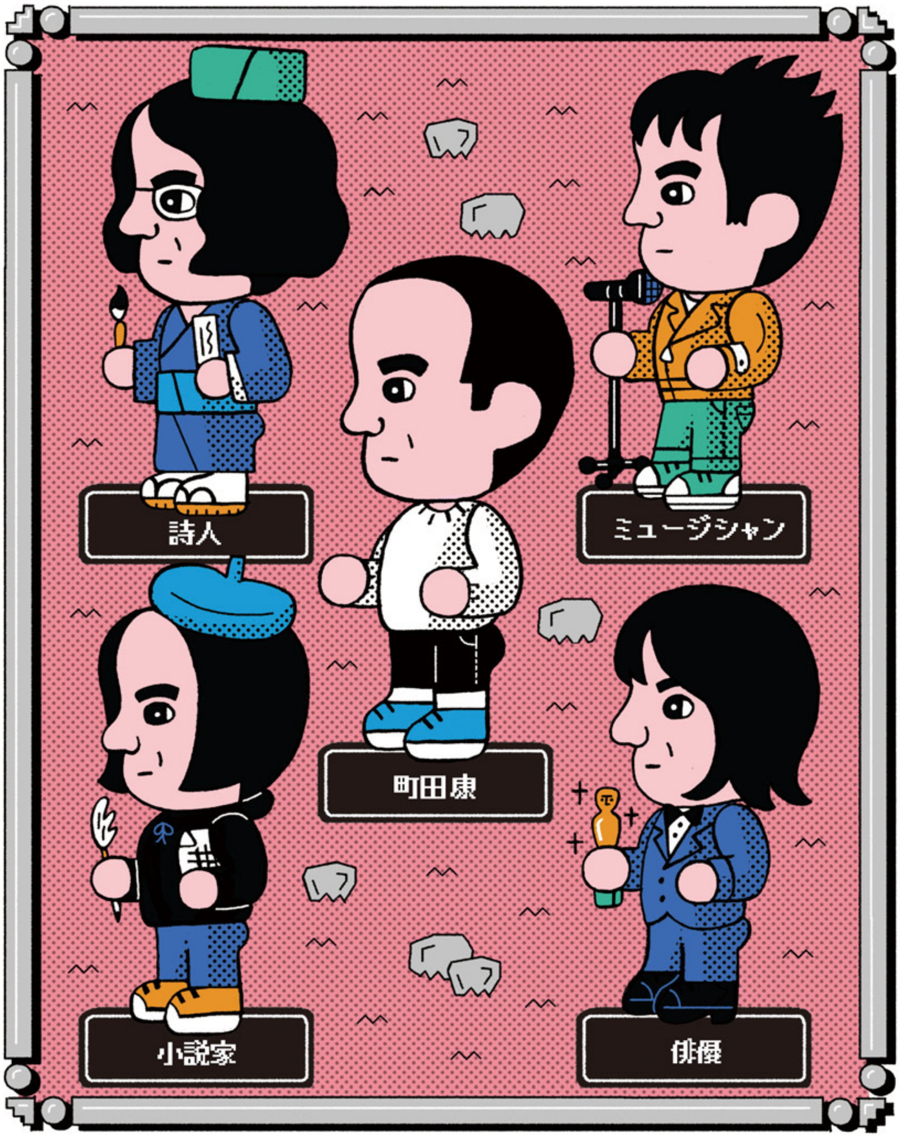
表現活動は非常にアーティスティックだと思うけれど、「仕事」という意識が頭をもたげることは？

「納期ですね。いつまでに仕上げなあかんっていうのは仕事やなって思います。僕はどういうわけか、昔から時間に厳密なんです。でもミュージシャンっていうのはね、時間どおり来やがらんのですよ。僕ひとりでスタジオに行っても誰もいなかったり。今はそんな人はいてないみたいですけどね。小説は原稿書き終えるまではひとりですから、遊んでるいうたら遊んでるようなもんなんです。やっぱり締め切りがあって、待ってる人がおって、というのを意識するようになると、それはもう仕事ですよね」

音楽や詩という形で送り出されてきた町田さんの語彙は、小説で一層ぴちぴちと音を立てて飛び跳ねている。だからどんな重たいテーマを扱っても、読んでいる時間がすこぶる楽しい。「面白い」というのは、町田さんの中で大きな軸なんじゃないか。

「自分が面白がりたいっていうのが大きいですかね。なかにはね、こんなん書いてもおもろないねんけど人は笑うよな、と思って文章を組み立てる職人のような仕事もあるし、それは立派やなと思うんです。でも僕は向いてない。やっぱり楽しく書いてるときが一番楽しいですね。書きながら自分で笑ろたりもしてますし。金のためだけに我慢してやるのは、おもろないし、目ぇ死んでいきますよね。やっぱり生きたいから。生きて仕事したいですよね」

まちだ・こう｜1962年、大阪府生まれ。1997年、小説『くっすん大黒』がBunkamuraドゥマゴ文学賞・野間文芸新人賞、2000年『きれぎれ』が第123回芥川賞を受賞。他にエッセイ『しらふで生きる 大酒飲みの決断』など。最新刊はエッセイ6本も収録した編著『だけどぼくらはくじけない―井上ひさし歌詞集―』。



ようやく編集者になれた気がしました」

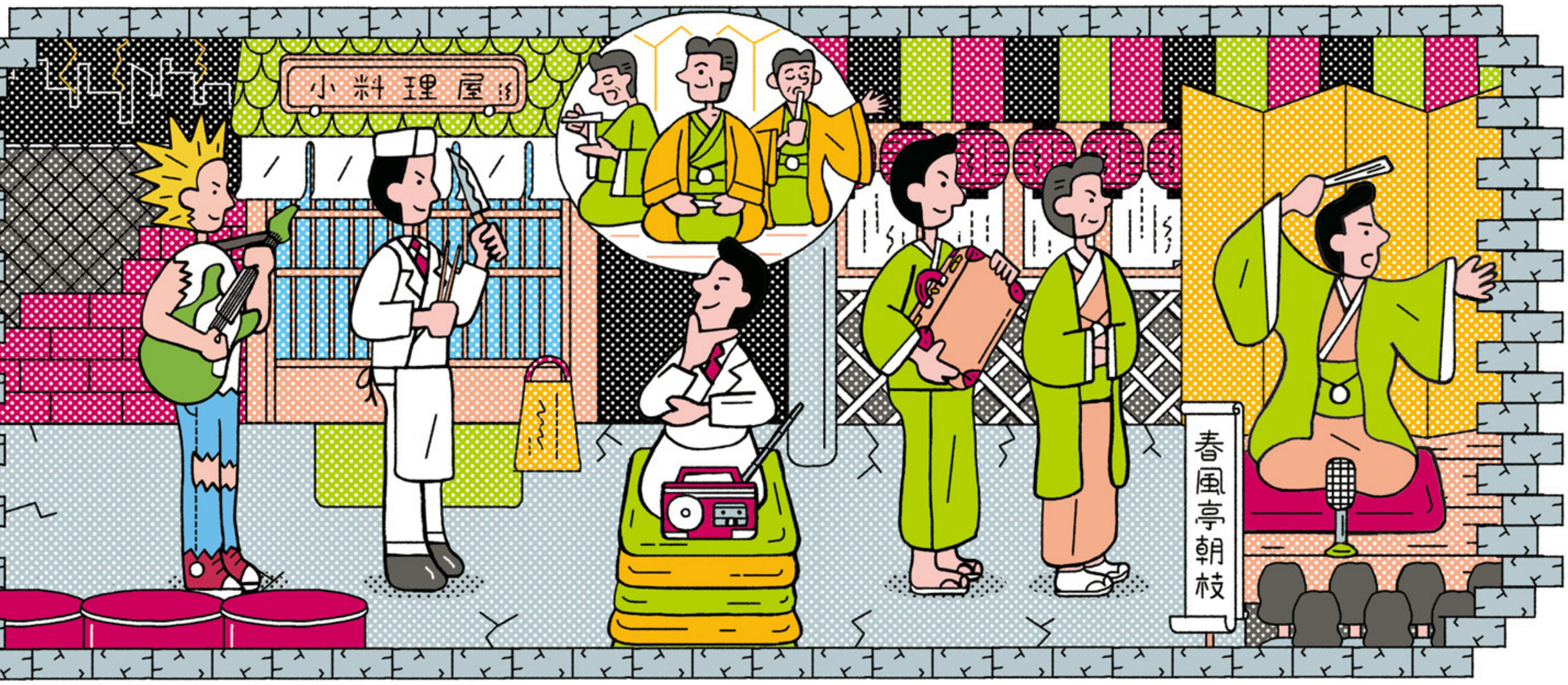
2011年、フリーのライター／編集者として独立。ライター原稿をまとめた著書『メモリースティック』を上梓。これを読んだ『文學界』の編集長から連載しませんかと声をかけられた。テーマは、伝統芸能。

「伝統芸能って、どこの馬の骨かわからないと取材しにくいことに気づいたんです。それで毎日新聞の出版局が出版社として独立するタイミングで入社しました」

同社では、浅田次郎さん、大森靖子さん、又吉直樹さん、坂口恭平さんなどの話題書や新聞連載を手掛け、気づけば書籍部の編集長に。一方で、『文學界』の連載も『伝統芸能の革命児たち』という本にまとまったところで、退職。再びフリーランスに。

「結果的にですけど、動くたびに新しい技術を身につけてきた気がする」と九龍さん。この先、新たなスキルが必要となれば、また肩書が増えるんだろう。

くーろん・じょー｜1976年、東京都生まれ。編集者として数々の書籍や雑誌の編集を手掛ける他、ライターとしてもポップカルチャーから伝統芸能まで幅広く執筆。映像編集のノウハウを生かし、YouTubeチャンネル「神田伯山ティービィー」などの監修、テレビ・ラジオ番組の構成作家としても活動する。



各国を渡り、大使館からファッションの世界へ。

〈Gorsch〉デザイナー

鈴木詠一

公務員から仕立て屋の世界へと180度舵を切った、〈Gorsch〉の鈴木詠一さん。旅の始まりは、法律専門学校を卒業後、外務省の試験に受かるところから。

「やりたいことがなかったので、漠然と公務員になろうと。木村拓哉さんの『HERO』を見て検察庁もいいなと思い、どこかの省庁に入ることができればよかったんです」

4年制大学を経たキャリア組とは異なる、〝ノンキャリ〟での入省。省内の通信環境の整備や福利厚生の仕事が担当だった。霞が関で働いて5年目に海外語学研修の機会がやってきて、スペイン語を選択し、メキシコシティに滞在することに。大学付属の語学スクールで10か月学び、その後ボリビア大使館への赴任が決まった。首都ラパスの標高は、富士山とほぼ同じ3600m。体への負担から2年で異動になる見込みだったが、3年半勤務したという。主な業務は会計と通信。事件もなく淡々と過ごしていたが、休暇でニューヨークに行き、ファッションの洗礼を受ける。

「服は好きだったんですがボリビアには欲しい服がなくて。ならば自分で作ろうと思い、大使館近くのテーラーに教えてほしい！ と飛び込みました。知識がない上にスペイン語で、教わるのは土曜のみ。とにかく理解するのが難しかったですね」

服作りを基礎から学ぶべく思い切って大使館を辞め、ニューヨークのファッション工科大学への留学を決意した。

「でも、暮らしていてここじゃない気がして、イギリスのセントマーチンズのファンデーションコースに入りました。その後メンズウェア科に進学します。セントマーチンズは教わるというより、自ら探求して自分の色を探し出すような教育方針だったので、それならファッションの仕事をしながら探求できないかと考えるように」

すると、同級生が「詠一が好きそうな服があるよ」と〈フランクリーダー〉の存在を教えてくれた。連絡したらインターンを快く受け入れてくれ、一路ベルリンへ。

「フランクはものすごく理解がある人で、今後のことを相談したらそのままアシスタントとして雇ってくれました。膨大なアーカイブを見せてくれたし、スロバキアのビスポークに1か月行かせてもらったことも。充実の日々でした。3年半働き、ビザが切れるので帰国したんです」

2018年、東京で〈Gorsch〉を設立。「ここじゃないな」の違和感は、実は東京にも抱いている。好きな街はベルリンで、理由は「田舎っぽさ」。今は実家のある岩手にも工房を構えている。世界を旅して、行き着いた先が故郷。鈴木さんの服には、その素朴さが表れている気がする。

すずき・えいいち｜1983年、岩手県生まれ。2002年、外務省入省。メキシコ、ボリビアでの日本大使館勤務を経て、2014年にロンドンのセントマーチンズに入学。のち〈フランクリーダー〉のアシスタントに。2016年〈GORSCH〉を立ち上げる。現在、池尻と岩手の2拠点で制作中。atelier-gorsch.com

JOB STAGE 6

厨房で聴いた落語が、運命を決めた。

落語家
春風亭朝枝

落語の世界は世襲でないぶん、多様なバックボーンを持つ噺家がいる。現在二ツ目の春風亭朝枝さんは、高校から20代の中頃までバンドマンだった。

「高校時代にパンクバンドでベースを弾いていて、卒業後は居酒屋でバイトをしながらバンド活動を続けました。メタル、ファンク、ジャズと好きなジャンルは変わり、やがてサポートでベースを弾くように。レコーディングに参加したり、学生さんにベースを教えてもいました」

バンドマン時代は見た目もパンキッシュで、ピアスもゴリゴリに開いていたそう。このまま音楽を続けていきたいと思っていたが、25歳のとき東日本大震災が起こり、仕事がストップ。栃木に帰り、実家の料理屋を手伝った。

「そのとき、父親が『料理をやってみたらどうだ?』と。確かにバイト先は居酒屋や飲食店が多かったし、やってみようかなと思って調理師免許の取得試験を受けました。27歳で免許を取り、実家で雑用、仕込みの手伝い、賄い作りを経て、少しずつ包丁を握らせてもらえるようになって」

当初は機会があればまた音楽を……と思っていたが、専念すると料理もなかなか面白かった。しかし、厨房で働いているとき、運命を変える瞬間が。

「ラジオから、ある日めちゃくちゃ面白い番組が流れてきたんです。それまで一切聴いたことがなかったし、内容は全く覚えてないんですけど、面白くて聞き入ってしまって。あとで調べたらそれが落語というものだと知って、そこから噺の内容を調べるようになりました」

落語の魅力にずんずんハマり、定休日には東京の寄席に通うように。なかでも春風亭一朝さんの落語を聴いたとき、「やってみたい!」と思ったという。

「その落語が、上手なのはもちろんなんですが、僕のなかでは他の師匠がたと違ってぐっと惹かれるところがあったんです。なんででしょうね、それまで音楽はやってきましたけど、担当はベースで、トークは大の苦手だったんです。でも、落語をやりたいと思ったんですよね」

まずは再び東京に出なければ。ただ実家で働いて1年が過ぎ、父親も少なからず期待を抱いているだろう。「落語家になりたい」とは言い出しづらい。

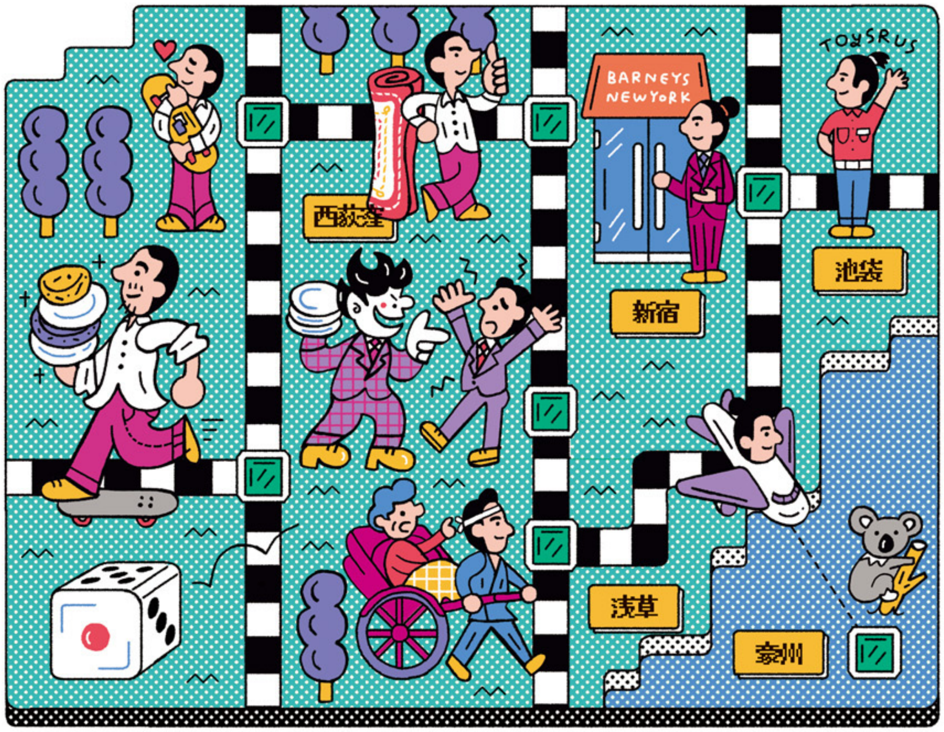
「なので、とりあえず『東京で修業をしたい』とだけ伝えました。〝何の修業をするか〟は言わずに。そして上京後は、和食屋で働きながら憧れの春風亭一朝一門に弟子入り志願に行ったんです。師匠の寄席の出番が終わった後を狙って出待ちして、その場で『弟子にしてください!』と頼み込む。最初は断られましたが、足繁く通ってお願いし続けました」

アタックを続け、何度目かで受け入れてもらえた。両親にも許しを得て、晴れて落語家人生がスタート。入門当初の「見習い」の時期は和食屋で働いていたが、「見習い」から「前座」になると寄席で３６５日働く楽屋での修業が始まるため、もうバイトはできない。住み込みではないのでアパートを借り、落語会を手伝ってお給金をもらったり、師匠や兄弟子にご馳走になったりしながら、生活をやりくりした。入門時は28歳。落語家としては遅いスタートだが、師匠の温かい人柄に支えられ、２０２０年に二ツ目に昇進した。

「人前に出ることには最初から慣れていた気がします。前座になると寄席の太鼓を任されるんですが、楽器の心得があったのですぐ覚えられました」

バンドの経験が思いがけず生きた。人生に無駄なことはひとつもないんだ。

しゅんぷうてい・ちょうし｜1986年、栃木県生まれ。高校入学を機に上京し、バンド活動にいそしむ。2015年、春風亭一朝に入門。2016年に前座となり「朝七」に。2020年、二ツ目昇進。「朝枝」と改名する。自身の落語会『第9回朝枝の会』が5月27日に赤坂会館で開催予定。choshi-spt.com



JOB STAGE 8

器と人を繋げる、原点は人力車にあり。

〈器 つか本〉代表
塚本憲央

スケボーに乗り、行商スタイルで器を届けてくれる塚本憲央さん。時間と体験を大事にする原点は、もしかすると20代の頃の人力俥夫時代にあるのかも。

「長いコースを選んでもらうことが多かったです。例えば浅草の東側を中心に仲見世から待乳山聖天を回り、観音裏まで足を延ばし浅草寺へ戻る。西側のマップを描いて『歩いて帰ってみてくださいね』と伝えて終了。時間を買ってもらうような感じでした」

高校卒業後、池袋の『トイザらス』のバイトと、新宿『バーニーズ ニューヨーク』のドアマンを経て、オーストラリアへ。帰国後は英語を生かせる仕事をしようと思い、浅草で人力俥夫になった。短時間でサクサク稼ぐ同僚もいたが、塚本さんはお客さんとの時間を楽しみながら働くことを選んだという。月収は良かったが、4年で辞め、気になっていた店舗兼ギャラリーの求人に応募。しかし圧迫面接をくらってしまう。

「好きなことはあるかと聞かれたので金継ぎや器の話をしたら、最後に社長が『今の段階で君を採用する気はない。それでもやる気があるなら連絡して』と言われて。今でもハッキリ覚えてるくらい衝撃でした」

就職をあきらめ、友達と遊んでいた頃、西荻窪で「男性募集」のチラシを発見。ペルシャ絨毯の店だった。電話をすると日本語が堪能なイラン出身の社長が出た。

「面接後、1週間して『まだ塚本さんの気持ちが変わってなければぜひ一緒に仕事をしたい』と丁寧な連絡がきたんです。圧迫面接の経験があったから、なんて素晴らしい対応なんだ! と感動しちゃって(笑)。そこで働き始めました」

家具屋の絨毯フェアに品物を送り、ギフトショーなどの展示会に出展。織物教室も開いており、塚本さんもペルシャ語を軽く理解できるくらいに。仕事は充実し、年2回、3か月分のボーナスも出た。ただ、それが原因なのか経営が厳しくなり、人員整理が。無職になった塚本さんは貯金でしのぎつつ、友達のスケートショップに入り浸った。その頃、知り合いのスタイリストから器の買い付けを頼まれるように。

「器好きな祖父の影響で、昔からよく買っていました。あるとき益子の陶器市で中国製の器が3個１０００円で売られていてショックを受けて。お祭りだからと思い直し、平日にふらっと行ったら、僕の好きな土っぽい器をたくさん扱う店に出合ったんです。店主が作陶した10年くらい前の器がすごく良くて、そこで買うようになりました」

仕入れ先を定め、実家の屋号が『寿司割烹つか本』なので屋号を〈器 つか本〉に。ウエブでなんでも始められる時代に違和感を持ち、フェイストゥフェイスをモットーにした。移動手段だったスケボーも、ちょっとした引っかかりに。作り手に会い、お客さんに会い、器を繋げていく。塚本さんが運ぶのは、その豊かな体験だ。

つかもと・のりお｜1987年生まれ。2019年、器とスケートボードを組み合わせ、〈器 つか本〉を立ち上げる。初めての焼き物は、中学生の頃に趣味人だった祖父が松屋銀座で買ってくれた急須。その佇まいを美しいと思ったのだそう。実家の寿司割烹でも器に触れていた。utsuwa-tsukamoto.com

JOB STAGE 9

『relax』な世界と、クラフツマン人生。

〈41世紀〉代表

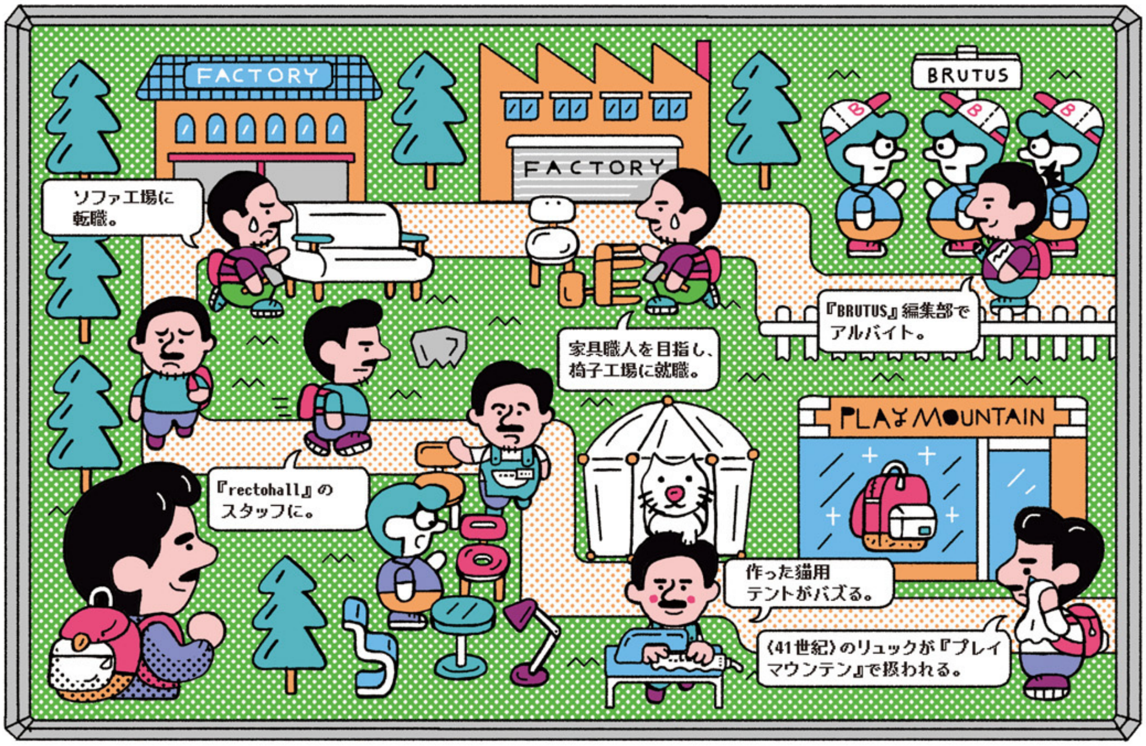
倉橋孝明

人見知りでも、ミーハーが勝って人生を切り開くことがある。〈41世紀〉の

倉橋孝明さんのクエストはそんな感じで始まった。東京造形大学に入学後、『ブルータス』の編集アルバイトに。

「本来紹介制なのに、ある日構内に募集のビラが貼ってあったんです。あとで聞いたらミスだったらしいんですけど、めざとく見つけて面接に行きました」

電話に出たり、送本を手配したりと雑用をこなしつつ、たまにイベントがあると、



JOB STAGE 10

挑戦を繰り返す不屈のマグロ大王。

「喜代村」社長

木村 清

「お寿司といえば、すしざんまい!」。両手を広げたポーズでお馴染みの木村清社長。その仕事人生の第一歩は、幼少期に遡る。生まれは1952年、千葉県の旧関宿町。早くに父を亡くした木村さんは、女手ひとつで4人の子供を育てる母を見て、家計を助ける決意をする。有精卵を雌鶏に育てて卵を売り、小学生になるとビール瓶の回収や新聞配達、ゴルフ場のキャディーのバイトで稼いだ。家が貧しいこともあり、中学卒業後は進学を断念し、北海道の牧場で働こうと考えたのだ。

「本当は、将来の夢は戦闘機のパイロットだったんです。そうしたら先生が『航空自衛隊に入ったらどうだ? 飛行機に乗れるぞ』と教えてくれて。試験を受けたら県で3人の枠に通ったんです」

入隊してみると実は、通信兵だったと知る。大検に合格しても「前例がない」と認められず、落胆する木村さんを悲劇が襲う。ランニング中にすれ違ったトラックから信管が落ち、頭を強打したのだ。

「精密検査をしたら目の調整力が低下していると言われました。戦闘機に乗るには、走行中の列車から枕木が見えるほどの視力がいる。夢を絶たれ、退官を決めました」

貯金は70万円ほど。当時パイオニアのオーディオが人気だったので、その〝株〟を買うことにした。すると株価が上がり、売ったら275万円に。そのうち200万円を貯金。次に考えたのがモーテル経営だった。

「自衛隊時代、道路沿いにたくさんあったので、儲かるだろうなと思ったんです。経営のノウハウを学ぶために、モーテルで働きました。自衛隊で叩き込まれていたので、ベッドメイクも掃除も5分で完璧。社長が驚いて会いに来てね。僕が経営を考えていると知り、『このモーテルを買わないか』と」

お値段は300万円。手持ちは200万円しかない。やむにやまれず母に相談すると、「貸してもいいけど、二度と敷居は跨がせない」。母を悲しませるわけにはいかない、とモーテルを諦めた。自衛隊時代から通信制の大学を受講していたのでそこで弁護士を目指そうと思い、学費を稼ぐため職を探した。

「新聞広告で見た百科事典の訪問販売の仕事を始めました。でも、これが全然売れない。重い百科事典に包帯を巻き付け、持って回りました。固定給2万7000円に歩合と薄給で、1個50円のラーメンばかり食べていたら顔が黄色くなっちゃって」

1か月半、600軒の家を訪ねても成果はナシ。「もう辞めよう」と公園で休憩しながら遊んでいた子供に事典のサンプルを見せていると、母親が「買いたい」と言う。

「翌日納品に行くと他のお母さん方が『私も』『私も』と。その後口コミが広がり、最終的に500セットが売れましたが、あれやこれやと理不尽な理由を付けられ給料が上がらなかったので見切りをつけました」

その後、職安に行き、新洋商事という大洋漁業(現・マルハニチロ)の子会社に就職した。水産加工食品を扱う会社だ。

「冷凍枝豆などの需要を促すため、大箱の居酒屋を作りました。当時は赤提灯系の小さな飲み屋ばかりで大型店はなく、評判になりました。他にも魚の加工で余った切り身を弁当屋に卸したり色々考えました。でも、どうやらやり過ぎたようで……」

3年弱働いたが、会社に居づらくなり、独立採算制をとる商社に転職。バリバリやるぞ! と思ったが、車で事故に遭い、相手が得意先だったので責任を取ることに。そんな木村さんを見て、いろんな人が「独立したらどう?」と励ましてくれたという。

「築地にある知人の会社に間借りをし、机ひとつで『木村商店』を立ち上げました。資金は50万円。電話を引き、自転車を買い、35万円で商売を始めました。水産食品の販売に始まり、弁当屋や居酒屋、コンテナを改造したカラオケスナックも。レンタルビデオ店を作ったときは貸し借りの顧客管理システムも作りました。自衛隊で通信兵としてコンピューターを扱っていたので、プログラミングの知識があったんです。生産管理もすべてデジタル化していました」

海外の漁場を回り、マグロの買い付けも始めた。しかし'90年代に入るとバブルが崩壊。銀行から手形の書き換えで騙され、多額の返済が発生。事業を清算して全額を返済。残った資金300万円のうち200万円を使い1997年、築地で『喜よ寿司』を始めると、高品質で低価格・明朗会計の店として大人気に。一方、築地はバブル後の不景気でお店が減り、客足も遠のいたまま。

「築地場外に店を持つオーナーから『これまでの木村さんの仕事を見てきた。築地にまた人を集めてくれないか』と声をかけられました」。場外の好立地の店舗を『好きに使っていいから』と言われ、考えたのが「24時間年中無休の寿司屋」だった。寿司は鮮度が命。24時間営業なんてありえなかったけれど、木村さんには確信があった。

「長年水産物を扱ってきたルートがあったので、ネタの仕入れには自信があった。時価をやめ、常に75種のネタを揃え、6時間ごとに入れ替え。150以上のメニューを用意しました。いつでもおいしい寿司が食べられるなんて、絶対にお客さまの心に届くと思ったんです」

こうして『すしざんまい』が誕生。誰もやったことがない事業に果敢に挑んできた木村さん。夢破れても、そのたびに新しい道を見つけ、アクセルを全開にふかしてきた。人生は諦めなければ何度でも挑戦できる。これくらいパワフルに行かなくちゃ。

きむら・きよし|1952年、千葉県生まれ。2001年、築地場外に日本初の年中無休&24時間営業の『すしざんまい本店』を開業。2019年の豊洲市場初競りでは青森県大間産本マグロを史上最高値の3億3360万円で落札した。マグロ大王の異名をとる。著書に『マグロ大王 木村清 ダメだと思った時が夜明け前』(講談社)。

造形大の技量を買われて什器製作。『relax』を愛読していたし、あの世界観が好きだったから、スチャダラパーが出演するイベントに行き、ドリンクブースでかせきさいだぁさんを発見したときには大興奮だった。

「もうミーハー丸出しで写真を撮ってもらいました。雑誌に出てる人たちはこの流れで友達になるって思ってたんで、もしかしてこれかなあって(笑)。その頃、髪の毛をチョンマゲにしてて、それを面白がってくれたのか、かせきさんが恵比寿の『みるく』のイベントに呼んでくれて」

行き慣れてないクラブに、開場21時ジャストに到着！　所在なくしていたら、かせきさんの物販ブースを手伝うことになった。会場にいたしまおまほさんやシャシャミンさんにも胸躍り、「なんでも手伝います！」とアピール。すると、のちにしまおさんから『オリーブ』の連載をまとめる手伝いを頼まれた。

「遊びに行ってご飯いただいて、名刺の整理をして、秋はゴーヤの蔓を剥がすという(笑)。バイトの意識はなかったです」

夢は憧れの「ランドスケーププロダクツ」への就職。そこで、当時マガジンハウス社員だった岡本仁さんに大学で作った家具を見せ、「紹介してほしい」と頼み込んだ。すぐに代表の中原慎一郎さんを紹介してくれて、店のペンキ塗りを手伝ったという。大学4年の終わりには、中原さんの出張に合わせてLAに連れていってもらったそう。最高の卒業旅行だ。

「ただ、スタッフが抜けたら募集という感じだったので、近くで機会を待とうと。家具作りを覚えたいと思って、就職サイトでドトールや白木屋の椅子を作る葛飾の町工場の仕事を見つけて就職しました」

堀切菖蒲園にある、東京拘置所にも近い工場で、家具職人となった倉橋さん。椅子に布を張る部門に配属され、技術を学んだ。1年ほどたった頃、「ランドスケープ」の店長の池田さんから「うちでソファを頼んでる腕の立つ椅子屋さんがスタッフを募集してるよ」と連絡が。すぐに転職した。

「スタッフは社長と僕のふたりだけ。社長がめちゃめちゃに働く人で、長時間ずーっと仕事をしてる。僕はできないことだらけで、徹夜も多いし、いつまでやるんだろうって思うようになって……」

やがて心身ともに疲弊し、遅刻を繰り返した。ある日、倉橋さんは社長から「もう終わりにしよう」と最後通告を受けてしまう。どうしよう、紹介してもらった職場なのに、と動揺したものの、続けることは難しい。改めて話し合い、退職を決めた。その後、渋谷ヒカリエにあった「ランドスケープ」が国内外のクラフトを紹介する『クラフトビューロー』の手伝いをすることに。すると、仕事が繋がった。

「来店した『TOO MUCH Magazine』の作本さんの紹介で、恵比寿のセレクトショップ『rectohall』で働くことになりました。あるとき店に『マーマーマガジン』編集長の服部みれいさんが来店して『うちでバイトしたら？』と。そこから物販の発送補助をしつつ、編集部が岐阜に移るまでの1年ほどお世話になりました」

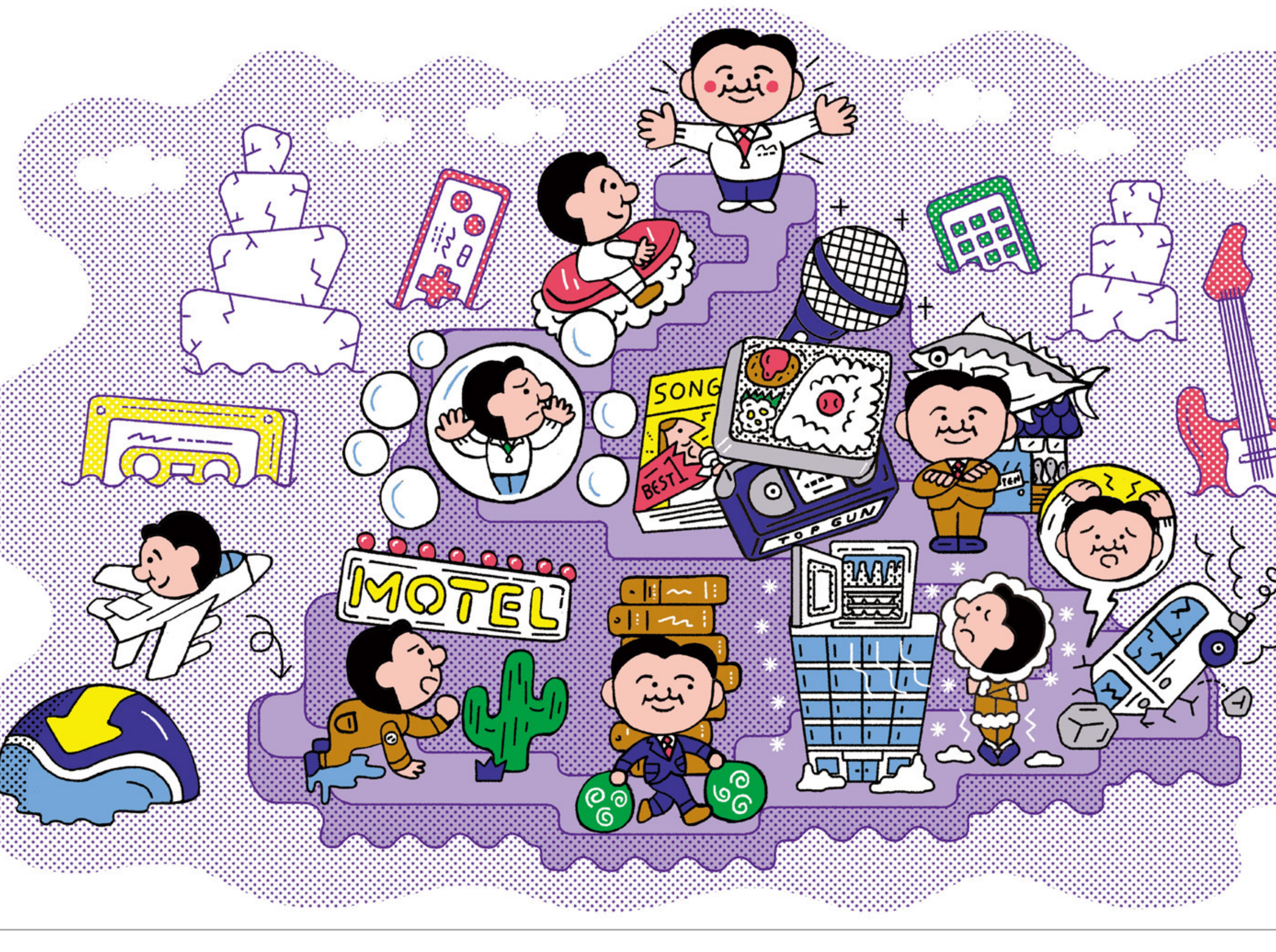
仕事ではミシンを触る機会がなかった倉橋さんだが、ヤフオクで工業用ミシンを購入し、カバンなどのプロダクトを作り始めていたという。そして2014年の2月、帆布と竹を使った、かわいらしい隠れ家のような猫テントが完成した。

「大学時代に知り合った『ランドスケープ』のPRの武井さんに見せたら『ブランドにしたほうがいいよ』と言ってくれたんです。ぴんときてなかったですが、姓名判断好きな武井さんが『倉ちゃんの名前は41画で大吉だから41がいいよ』って(笑)。それで、〈41世紀〉で開業届を出したんです」

カルチャーな人たちの繋がりが、自分のブランドへと導いてくれた。人見知りでも、踏み出せば道ができるんだ。

「昔は『行かなきゃ！』って思いが強かったんでしょうね。今岡本さんや中原さんに会うと緊張しちゃうんです(笑)」

くらはし・たかあき｜1984年、北海道生まれ。椅子やカバン、リュック、猫用テントなどのクラフトアイテムを制作。2022年に故郷の旭川に仕事の拠点を移し、家族と愛猫のパッチとドッチとともに暮らしている。神出鬼没の書店『SPONGE BOOK STORE』のメンバーとしても活動。@41stcentury



追うべき背中は本の中にある。

仕事に悩んだら尊敬する偉人の人生が書かれた本を。
自己啓発本もいいけど、本棚にあるとかっこいいしね。

一生懸命さより工夫する尊さ。

“汗水流して働く”ことをよしとする風潮はいまだに根強い。一面ではそれをよしとしながら、「だが」と言葉を継ぐのは、「松下電器産業」(のちの「パナソニック」)を創業した松下幸之助だ。「今までより一時間少なく働いて、今まで以上の成果を上げることも、また尊い」。そのための“くふう”を考えることが大事なのだ、と。松下がこれを語ったのは半世紀前だが、働き方改革が叫ばれる今こそ、すべての人がベースにすべき哲学ではないか。松下幸之助著(PHP研究所)

背中 1
松下幸之助
『道をひらく』

背中 3
ヴァージル・アブロー
『“複雑なタイトルをここに”』

既存のものを3%だけ変えてみる。

すべてのことがやり尽くされたかに見える現在、新しい何かを生み出すことなんて不可能だと悩むこともあるだろう。デザイナーの故ヴァージル・アブローも同じ意見らしい。そんなとき、彼が推奨するのは、既存のものを3%だけイジる“3%アプローチ”だ。彼の得意技である、文字をクオーテーションマークで括るってのもその一つ。デザインソフトを使わなくてもできるこの簡単なアプローチで、彼は言葉の意味や見え方を一変させた。仕事は手をかければいいってもんでもないのだ。ヴァージル・アブロー著、倉田佳子、ダニエル・ゴンザレス訳(アダチプレス)

背中 2
シャルロット・ペリアン
『シャルロット・ペリアン自伝』

選択することの重要性を考える。

建築家のシャルロット・ペリアンは、「クリエイターは選択をおこなう。選択とは、放棄すること、疑うこと、苦しむことだ」と語る。確かに、複数のめぼしいアイデアがあったとしても、1つのプロジェクトにすべてを投入すればまとまりがなくなるっていうのは、あらゆる仕事に通じる話だろう。だから苦渋の選択が重要なのだが、その末に「全体の部分がそれぞれあるべき正確な場所を見つけたときには、大きな歓び――思わず歌が出る！」と彼女は付け加える。自身の仕事において、調和を重んじたペリアンらしい金言だ。シャルロット・ペリアン著、北代美和子訳(みすず書房)

photo: Yutaro Tagawa　text: Keisuke Kagiwada

背中 4

落合博満
『嫌われた監督』

嫌われるとしても自分らしい判断をする。

2007年、落合博満監督(当時)は、日本シリーズ第5戦の最終マウンドでピッチャーを山井から岩瀬に交代する。快投を振るっていた山井の降板に、観客はブーイングの嵐だったが、結果的に中日は53年ぶりの日本一に輝く。なぜあそこで？　番記者の疑問に落合は答える。「どれだけ尽くしてきた選手でも、ある意味で切り捨てる非情さが必要だったんだ」。決断を下したときの落合の心中は計り知れないが、チーム全体を成功に導かなきゃいけない立場にとって、嫌われることもまた仕事なのかも。鈴木忠平著(文藝春秋)

背中 5

佐久間宣行
『佐久間宣行のずるい仕事術』

誰にでもできる仕事に
チャンスがある。

TVプロデューサーの佐久間宣行は、ドラマのAD業務が大嫌いだった。「だれにでもできる仕事」だと思っていたから。だから、ドラマADとして、画面に見切れる程度の「サッカー部女子マネージャーの手作り弁当」制作を任されたときも、嫌々ながら始めた……のだが、試行錯誤するうちにこだわりが出て、やたらクオリティの高いものが完成し、ドラマの物語もこの弁当をメインに据えることに。「だれにでもできる仕事」こそ丁寧にこなせば、チャンスに繋がることもあるのだ。佐久間宣行著(ダイヤモンド社)

背中 6

ヴィヴィアン・ウエストウッド
『ヴィヴィアン・ウエストウッド自伝』

石を投げずに、突っ走れ。

体制に石を投げるようなデザイン活動を続けてきた、“パンクファッションの女王”こと故ヴィヴィアン・ウエストウッド。しかし、あるとき彼女は当時のパートナーに「本当に体制を変えたければ、石を投げているだけじゃダメだ。自分の後を追わせるようにしなきゃ」と指摘され、自身の仕事のアティチュードを変えたという。新しいことを始めるなら、常識など気にせず走り抜けるべきなのだ。もし真に価値あるものなら、いずれそれが常識になる。ヴィヴィアン・ウエストウッド、イアン・ケリー著、桜井真砂美訳(DU BOOKS)

背中 7

ハービー・ハンコック
『ハービー・ハンコック自伝』

ないなら作ればいいじゃない。

1978年の『サンライト』は、実験精神に溢れるフュージョンの名盤だ。その制作に際し、ハービー・ハンコックが必要としたのは、大量のシンセサイザーの音色を1人で弾けるように3つのキーボードに集めること。そんなことはまだ誰もやったことがなかったが、彼は「そうか、だったらおれたちには最初にそれをやり遂げるチャンスがあるというわけだな」としか思わない。そのチャレンジ精神はもちろん、新しい技術を自分の仕事にどう応用すべきかを常に気にする好奇心も見習いたい。ハービー・ハンコック著、川嶋文丸訳(DU BOOKS)

背中 9

リード・ヘイスティングス

『NO RULES
世界一「自由」な会社、
NETFLIX』

部下の厳しいフィードバックも受け入れる。

「Netflix」社では、“あくまで前向きな”という条件付きで、“率直なフィードバック”を交わすことを推奨していると、共同創業者リード・ヘイスティングスは語る。驚くべきは、部下から上司（ヘイスティングスも含む）へのフィードバックも積極的になされ、上司は指摘に感謝するというカルチャーが根付いているということ。仕事において注意されれば気分がよくない。部下からの指摘ならなおさらだ。しかし、“前向き”な指摘であれば、真摯に受け入れるべき。それが働く自分のためにもなるのは間違いないんだから。リード・ヘイスティングス、エリン・メイヤー著、土方奈美訳（日本経済新聞出版）

背中 8

横尾忠則

『横尾忠則自伝』

決まった様式より、プロセスが大事。

グラフィックデザイナー時代の横尾忠則は、白黒の市松模様を用いたイラストで頭角を現した。しかし、苦労して手に入れた様式にもかかわらず、彼はあるときそれをあっさり捨ててしまう。「単に飽きっぽい性格というだけでなく、結局ぼくにとっての様式とはその追求のプロセスそのものにある」からだ。確かに、自分なりの仕事の様式を見いだすのは大事なことだ。しかし、ありとあらゆるタスクをその様式でもってオートマチックに処理しているばかりじゃ、いい仕事を続けることはできない。横尾忠則著（文藝春秋）

背中 11

松田哲夫

『編集狂時代』

「人間だから」を口ぐせに。

ちくま文庫を創刊した編集者の松田哲夫は、幼少期より漫画や映画に浸かってきた。そのこだわりの強さは仕事にも及び、迷路に迷うこともしばしばだ。そんなとき思い出すのが、自身を編集の道へと導いた『ガロ』編集長、長井勝一の口癖、「人間だから」。「人間だから間違いはあるさ」「人間だから完璧なんてないよ」というニュアンスがあるそうだが、仕事に対する肩の荷を軽くしてくれるキーワードを、一つ心の引き出しにしまっておくのも大事かもしれない。松田哲夫著（新潮社）

背中 10

井上陽水

『井上陽水全発言』

休日は思いっきりダラダラしよう。

休日をダラダラ過ごして終えると、罪悪感が湧く。そんな人は井上陽水の言葉に耳を傾けよう。「歌を作る事は嫌いだ」と豪語する陽水は、1つレコードを作り終えると、テレビを見たり麻雀をしたりダラダラ過ごすという。しかし、そうするうちに、音楽への意欲が湧いてきて、またレコードを作る……というサイクルで生きてきた。このエピソードが証明するのは、ダラダラの中にも次の仕事への種が眠っているということ。罪悪感なんて抱く必要はないのだ。えのきどいちろう編（福武書店）

背中 14

R・P・ファインマン

『ご冗談でしょう、ファインマンさん』

何をするための数字かを見失わない。

ノーベル物理学賞受賞者R・P・ファインマンは、あるときカリフォルニア州で使用する数学教科書の認定員に任命され、愕然とする。どの教科書も、ただ公式などを教え込むばかりで、具体的な役立て方を示唆するものが皆無だったから。数字は科学的に応用しなきゃ無意味というのが彼の意見なのだ。仕事で向き合うべき数字も同じ。それが示すものを見抜いて活用する道を探らず、数字の多寡に踊らされているばっかりじゃ、ファインマンをまた愕然とさせちゃうので要注意。R・P・ファインマン著、大貫昌子訳（岩波書店）

その仕事相手はシド・ヴィシャスより面倒か？

女性パンクバンドの先駆けであるスリッツへの加入前、ヴィヴ・アルバーティンはかのシド・ヴィシャスとバンドを組むつもりだった。結局立ち消えとなったが、最低な悪童シドとの日々は、バンド解散後にヴィヴが映像制作会社で仕事をするときにも役立ったらしい。なぜなら、面倒な奴と仕事することになっても、以下のように思うことで笑ってやり過ごせたから。「シドよりも？」。仕事での対人関係に悩んだら、より最悪な“あいつ”を思い出すのも一つの手かも。ヴィヴ・アルバーティン著、川田倫代訳（河出書房新社）

背中 12

ヴィヴ・アルバーティン

『服 服 服、音楽 音楽 音楽、ボーイズ ボーイズ ボーイズ』

背中 15

カート・ヴォネガット

『人生なんて、そんなものさ』

会社を辞めるときはリアリストになるな。

仕事の辞めどきを見定めるのは難しい。執筆業が好調になり、勤めていた会社を辞めようとしていたカート・ヴォネガットも、同じことで悩んでいた。辞めようとしても、同僚が思いとどまらせようとしてくるからだ。この同僚に対し、彼の妻が放った言葉が痛快だ。「そんな頭の固いリアリストにならないでください」。結果、退職した彼は成功を収めたが、誰もがそうなるかはわからない。確かなのは、未来は予測不可能なんだから、リアリストぶって後先の心配をしても仕方がないってこと。人生なんて、そんなもんさ。チャールズ・J・シールズ著、金原瑞人、桑原洋子、野沢佳織訳（柏書房）

背中 13

黒沢 清

『黒沢清の映画術』

会議を制すのは第三のアイデア。

会議において2つの意見が対立した場合、どう振る舞うべきか。若い頃から不毛な議論に巻き込まれることが多かったという映画監督、黒沢清の見いだした戦術は実に役立つ。「AとA'が対立している時、新たな全く関係ない第三の案を、いいタイミングで出した人が勝つ」というのがそれ。議論をすること自体が好きな人もいるから、まずは適当な意見を提案し、とっておきのアイデアは議論が膠着状態になった“いいタイミング”で、さも降って湧いたように口にするのが効果的かもしれない。黒沢清著（新潮社）

Coffee and Oxford Shirt

毎日通うコーヒーショップでは、素敵な店員が爽やかに迎えてくれる。
センスのいい彼らが着ているのは、いつだってオックスフォードシャツだ。
誰にだって似合ってしまうその服が、今では僕のワードローブの中心になっているんだ。

オックスフォードシャツ¥22,000、Tシャツ¥16,500、チノパン¥27,500、ベルト¥11,000（すべてポロ ラルフ ローレン／ラルフ ローレン☎0120·3274·20）　その他は私物

プルオーバーオックスフォードシャツ¥30,800、チノパン¥29,700、デッキシューズ 参考商品（すべてポロ ラルフ ローレン／ラルフ ローレン） その他は私物

ビッグフィットオックスフォードシャツ¥23,100、チノパン¥29,700（ともにポロ ラルフ ローレン／ラルフ ローレン☎0120·3274·20）

さまざまな柄やカラーバリエーションなどが一堂に会したオックスフォードシャツのポップアップイベントが全国で順次開催！　こんなにたくさんのラインナップを一度に見られる機会はなかなかない。会場では〈ポロ ラルフ ローレン〉と一緒に作ったポパイ特製ステッカーを限定配布。期間など、詳細は下記のとおり。

○伊勢丹新宿店 メンズ館1階 プロモーション　開催中〜4月18日　☎03·3352·1111
○髙島屋大阪店 1階 グッドショックプレイス　5月3〜9日　☎06·6631·9499
○ジェイアール名古屋タカシマヤ 4階 ローズパティオ　5月17〜23日　☎052·566·1101

オックスフォードシャツ¥22,000、ベルテッドパンツ¥40,700、タイ¥20,900（すべてポロ ラルフ ローレン／ラルフ ローレン）

Footsteps on the Beach

〈トッズ〉といったら、ドライビングシューズ？　いやいや、実はそれだけじゃない。今季は、その象徴的なペブル（ソール裏の突起）がビッグになった「ゴンミーニ バブル」のサンダル版もあるし、なんならエスパドリーユ型やダブルストラップ型のサンダルもあったり。そのラインナップは、海とバカンスを愛するイタリアンブランドゆえ。ボーダーニット姿に履けば、ちょっとそこまで春の海の様子を確かめに行きたくなるってもんだ。

コットン×カシミヤタートルネックニット¥119,900、レザーサンダル¥97,900（ともにトッズ／トッズ·ジャパン☎0120·102·578）　ユーズドのショーツ¥7,590（リオール☎03·6454·6802）

コットン×カシミヤタートルネックニット¥119,900、ウインドブレーカー¥146,300、ショルダーバッグ¥182,600、スエードスリッポンシューズ¥91,300（すべてトッズ／トッズ・ジャパン） ユーズドのショーツ¥7,590（リオール）

右／コットン×カシミヤタートルネックニット¥119,900、ジャケット¥223,300、レザーワンショルダーバッグ¥295,900、スエード素材のゴンミーニ サンダル¥75,900（すべてトッズ／トッズ・ジャパン☎0120·102·578）　ユーズドのショーツ¥7,590（リオール☎03·6454·6802）　左／ジャケット¥223,300、レザーワンショルダーバッグ¥295,900、スエード素材のゴンミーニ サンダル¥75,900（すべてトッズ／トッズ・ジャパン）　ユーズドのショーツ¥7,590（リオール）

ぼくとあの子の仕事と毎日のデニム。

気になるあの子とお揃いのデニムは、20周年のメモリアルなアイテム。

　雑貨屋で働き始めてもうすぐ4年。この生活の朝は、比較的ゆっくりだ。けれど、いつも決まって早めに家を出る。シャツの着こなしが素敵な店員がいる馴染みのコーヒーショップに立ち寄り、フラットホワイトを飲み干してから出勤するのが、ぼくのモーニングルーティン。制服のように毎日穿いているデニムを相棒に、黙々と開店準備を始めると、鼓動が少し速くなる。ホウキを持つ手もどこか浮つきがちだ。なぜなら、向かいのワインバーで働くあの子がそろそろやってくる頃だから。見覚えのあるシンチバックの付いたゆったりめのペインター型デニム。それがお揃いであることに気が付いたのは、ほんの一週間ほど前。動きやすいし、シルエットも今の気分にぴったりのそれは、彼女にもとてもよく似合っていたことを覚えている。あの子を待ちわびるこの時間がもどかしくも心地よい。さぁ、今日は勇気を出してぼくから挨拶でもしてみようかな。

2023年で20周年を迎えた〈マーガレット・ハウエル〉×〈エドウイン〉のコラボレーションから、オーガニックコットンを用いたペインター型のトラウザーズが登場。ややハイなウエスト部分は、サスペンダーボタンとシンチバックを備えたクラシックなディテールで仕上げている。内側には20周年のスペシャルラベルが付けられているのも見逃せないポイントだ。

右ページ／デニムパンツ¥39,600（EDWIN FOR MARGARET HOWELL／マーガレット・ハウエル☎03·5785·6445）　シャツ¥33,000、Tシャツ¥16,500、シューズ¥57,200（すべてマーガレット・ハウエル）　ハット¥9,900（MHL.／マーガレット・ハウエル）　左ページ／デニムパンツ¥39,600（EDWIN FOR MARGARET HOWELL／マーガレット・ハウエル）　シャツ¥39,600、ノースリーブTシャツ¥13,200、シューズ¥107,800（すべてマーガレット・ハウエル）

新しい〈L.L.Bean〉とアーバンアウトドアライフ。

この春デビューの「L.L.Bean Japan Edition」。街のビーン好きたちが着たら何て言うだろう？

　みんなのクローゼットにも、一着くらいはあるよね？ 〈L.L.Bean〉の服。ご存じのとおり、アウトドアをルーツに持つアメリカを象徴するブランドのひとつだ。111年以上の歴史を持ちながら、この3月には「L.L.Bean Japan Edition」というニューラインがデビュー。過去のアーカイブに敬意を表しながらも、都市で暮らす僕らにも着やすいアイテムが揃う。野暮ったく見えたら負けのフィッシングベストも着丈が長めで着やすいし、発色の良いリップストップナイロンを採用したアノラックもモダンなサイジング。そして、'80年代のカタログをプリントした、USヴィンテージ好きが無視できないTシャツまである。どれを買うか迷うので、街のビーン好きたちの意見も参考にしてみよう。

高橋 元さん_24歳
サウンドクリエイター

過去の音源や歌詞から抜粋してビートを制作する、若きサウンドクリエイター。東京や千葉を拠点に活動する6人組のヒップホップクルー「interplay」のメンバーでもある。

Striped Crewneck Tee

「長過ぎず、短過ぎずの丈の長さがいい塩梅。ボーダー柄も太いピッチがアメリカンで良いですね」と高橋さんもお気に入り。生地はアメリカ製のコットンをギュッと詰めて編んでいるから、タフでコシのある風合い。¥7,040

島田裕生さん_31歳
『BARBER BOYS』理容師

ファッションやカルチャーを探求する理容師。アメリカの毛細血管と呼ばれる路線バスの通称"グレイハウンド"で全米を旅したことも。サッカーも愛好しており、ユヴェントスFCのファン。

French Terry Pullover

'90年代のスポーツウェアで見られる、ネックのリブの中央が重なり合ったデザインを採用したスウェット。ふっくらとしたフレンチテリーによって着心地が良く製品洗いを施しているので見た目は着慣れた古着のよう。¥8,690

Federico Shimada_1
アメリカン・コッカースパニエル

ハンティングドッグのルーツを持つ気高い犬種。名前はイタリア代表のフェデリコ・キエーザに由来。フレッドと呼ぶ。

1980 Catalog Tee

「往年のカタログの表紙を背中にプリントしたデザインですね」と早速反応してくれた島田さん。1980年の春夏シーズンのものだ。素材は、柔らかく着心地の良いアメリカ製のコットンジャージを使用。¥6,490

「いつの時代もヘビーデューティです」

島田さんの朝晩の日課は、愛犬のフレッドとの散歩。そのとき、必ず身につけているのが、〈L.L.Bean〉。「彼と公園に行くときの僕なりのTPOは、リラックス、タフ、そしてセントラルパークにいるようなニューヨーカーの着こなし(笑)。それをすべて備えるのは、このブランドしかありません。トートバッグやビーンブーツだけでなく、ダッフルバッグやフリースも、年代によって生産国は異なりますがいつの時代も質実剛健。この新しいラインもヘビーデューティでありながら、デザインやシルエットがアップデートされているのが魅力的です」

右／スウェットシャツ¥8,690(エル・エル・ビーン ジャパン エディション／エル・エル・ビーン カスタマーサービスセンター☎0422·79·9131) モックネックシャツ¥5,390、ビーンブーツ8inch¥26,400(ともにエル・エル・ビーン／エル・エル・ビーン カスタマーサービスセンター) ユーズドのスウェットパンツ¥9,900(Terrace by lemontea☎03·6407·1345)

下／カタログTシャツ¥6,490(エル・エル・ビーン ジャパン エディション／エル・エル・ビーン カスタマーサービスセンター) コーデュロイキャップ¥4,290(エル・エル・ビーン／エル・エル・ビーン カスタマーサービスセンター) ユーズドの〈エル・エル・ビーン〉のデニム¥8,800(SIESTA Instagram: @siestastore) ヴィンテージの〈Cartier〉のリング¥99,000(cravittra☎03·5929·9954)

左／ボーダーTシャツ¥7,040、ナイロンコーチジャケット¥20,900(ともにエル・エル・ビーン ジャパン エディション／エル・エル・ビーン カスタマーサービスセンター) '60ヴィンテージのチノパン¥22,000(ステップアヘッド高円寺1号店☎03·6454·6511) ユーズドの〈VANS〉のスニーカー「ネイティブアメリカン」¥18,700(Blue room Instagram: @blue_room___)

photo: Mai Kise　styling: Kazuro Sanbon　text: Shintaro Kawabe

Fly Fishing Shirt

マットな風合いが特徴のナイロンブロードを使用したこちらは、'90年代に生産していたフライフィッシングシャツがデザインベース。サイズを大きくし、撥水加工を施しているから、シティウェアとしてばっちり。¥14,300

Back Katahdin Tee

〈L.L.Bean〉のシンボルといえば、創業75周年の1987年に作られたカタディンロゴ。メイン州の山脈をモチーフにしたそのロゴをバックプリントしたのがこちらのTシャツ。吸水速乾性のある素材を用いているのもありがたい。¥5,940

Book Pack Pocket Tee

ブランド定番のバックパック「Book Pack」のデザインを、遊び心で胸ポケットに落とし込んだTシャツ。チャックが2つも付いているし、カットソーにちょっとした収納があるのって嬉しい。こちらも吸水速乾性素材を使用。¥8,140

Fly Fishing Vest

'90年代に生産していたフライフィッシングベストを街で着られるように、着丈をやや長めに。生地は高密度なリップストップナイロンを使用しているので、ブルーの発色もいいからおじさん感はゼロ。¥19,800

Windy Ridge Jacket

モチーフとなった'90年代の「Windy Ridge Jacket」から、素材をナイロンタフタに変更し、着丈をより短くした。マットな生地を使っているので、はき慣れた古着のデニムと合わせてもすんなりと馴染む。¥25,300

右／フィッシングベスト¥19,800、ナイロンアノラックパーカ¥17,600、ナイロンショーツ¥9,240（すべてエル・エル・ビーン ジャパン エディション／エル・エル・ビーン カスタマーサービスセンター）　ユーズドのキャップ¥4,950（MONK☎03·6407·8897）　ヴィンテージの〈Cartier〉の18Kのネックレス¥297,000（WORLDLY-WISE☎03·5369·6428）

左／ショートブルゾン¥25,300（エル・エル・ビーン ジャパン エディション／エル・エル・ビーン カスタマーサービスセンター）　'60ヴィンテージの〈パワーハウス〉のペインターパンツ¥27,500(古着の一善☎080·3006·5569)　ヴィンテージの〈Tiffany&Co.〉のシルバーのキーリング¥17,600（WORLDLY-WISE）

「シルエットにこだわる僕にとって、ボックス型なのが嬉しいです」

服好きの同居人である、スタイリストのアシスタントの友達とシェアすることが多いという高橋さん。だけど好きな服のテイストは明確。「以前はビッグサイズ一辺倒でしたが、最近は着丈が短いボックスシルエットの服によく袖を通しています。丈が長いと野暮ったく見えるような気がしちゃって。この〈L.L.Bean〉のブルゾンやTシャツは、程よい丈感ですし、身幅もゆったり。フィッシングベストは、本格的なものよりも少し着丈が長いので、街でも着られそうなシルエットです。機能的で形がいいなんて、最高です」

Lightweight Nylon Anorak

1984年にリリースされたモデルをベースに、軽量かつ発色のいい細番手のリップストップナイロンを採用し、シルエットをゆったりさせた。野暮ったくなりがちなアノラックを品よく着られる。¥17,600

長塚優河さん _24
『DAMAGEDONE SHIMOKITAZAWA』店長

『DAMAGEDONE SHIMOKITAZAWA』の看板スタッフから、今年3月に同店の店長に就任。休日は自然を求めて山や川へ彼女と出掛ける。将来は古着屋さんを開くのが夢。

右／ボーダー長袖Tシャツ¥9,240、ボーダー半袖Tシャツ¥7,040（ともにエル・エル・ビーン ジャパン エディション／エル・エル・ビーン カスタマーサービスセンター）　ユーズドの〈ポロ ラルフローレン〉のカーゴパンツ¥12,100（Terrace by lemontea）　ニットキャップ¥1,650（ROTHCO／ハレル☎03·5734·1946）

中／ナイロンアノラックパーカ¥17,600、ナイロンカーゴパンツ¥17,600（ともにエル・エル・ビーン ジャパン エディション／エル・エル・ビーン カスタマーサービスセンター）　中に着たモックネックシャツ¥5,390（エル・エル・ビーン／エル・エル・ビーン カスタマーサービスセンター）　ユーズドの〈ラッセルモカシン〉の「ショートサファリ」¥16,500（サファリ1号店☎03·5378·9230）

左／半袖スウェット¥7,040(エル・エル・ビーン ジャパン エディション／エル・エル・ビーン カスタマーサービスセンター)　ユーズドの〈ポロ ラルフ ローレン〉のワンナップカラーシャツ¥14,300(サファリ2号店☎03·3316·5766)　ユーズドの〈RRL〉のデニム¥13,000（ayahuasca_clothes☎03·6887·9299）　ヴィンテージの〈HERMÈS〉のブレスレット¥297,000（WORLDLY-WISE）

Spindle Tee, Long-Sleeve / Short-Sleeve

「配色、ボーダーのラインの細さ、ピッチの幅、すべてが理想的です」と長塚さんお気に入りのロンT（¥9,240）とTシャツ（¥7,040）。裾のドローコードをギュッと絞れば、丸いシルエットが出来上がる。

Logo Embroidered Tee

'90年代のスポーツウェアで見かける半袖スウェットをふっくらとした風合いのコットンジャージ素材で作ったTシャツ。インナーにシャツをレイヤードして着られるほど、サイズ感はゆったり。¥7,040

「街着っぽいデザインが随所にあるのが良い」

「昔のビーンのカタログに出てくるような、渋い色合わせがかっこいいダッドスタイルに憧れていて」と話すのは、いつもアメリカのセンスのいいおじいさんみたいな格好で洋服屋に立つ長塚さん。「自然の中はもちろん、街で着ていても溶け込めるのがこのブランドの好きなところ。この新しいラインは、ショート丈にもできるドローコード付きのボーダーTシャツのように今っぽいシルエットになっています。デザインにアウトドアっぽさがありながらも、シティウェアとしてより最適な生地やサイジングが施されているのが嬉しいかぎりです」

ANATOMICA

2023 SPRING & SUMMER

PARIS 14 rue du Bourg-Tibourg, Paris, 75004, France TEL: +33-(0)1-42-74-10-20 **TOKYO** S-building 1F, 2-27-19 Higashinihonbashi, Chuo-ku, Tokyo, 103-0004, Japan TEL: +81-(0)70-3144-0378
AOYAMA Minamiaoyama-residence 1F-2F, 3-14-26 Minamiaoyama, Minato-ku, Tokyo, 107-0062, Japan TEL: +81-(0)70-1640-8911 **SAPPORO** Daiichi-building 1F, 8 Chome, 3 Jounishi, Chuo-ku, Hokkaido, 060-0063, Japan TEL: +81-(0)11-219-1231
NAGOYA NAGOYA FLAT 2F, 3-23-24 Sakae, Naka-ku, Nagoya, Aichi, 460-0008, Japan TEL: +81-(0)52-253-8861 **KOBE** 3-5-10 Kitanagasadori, Chuo-ku, Kobe, Hyogo, 650-0012, Japan TEL: +81-(0)78-391-4696 **www.anatomica.jp**

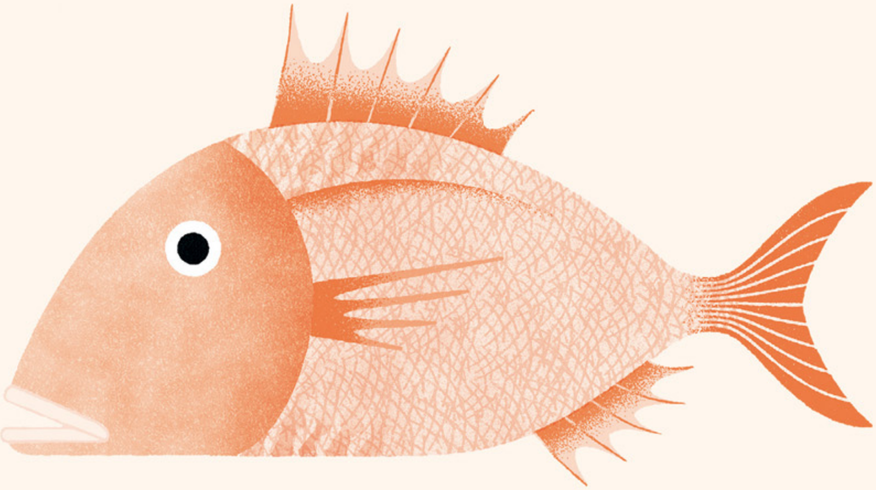
TIMEX PRESENTS 料理の話。

毎月、旬の食材とレシピを料理人・原川慎一郎がご紹介。身が肥えた春の鯛を蒸しものに。じっくりと旨味を閉じ込めよう。

魚の旬といえば、冬のイメージが強いのでは？　確かに寒さで身が締まっておいしくなるものもたくさんあります。でも、春も一大シーズンなんです。それは産卵期を迎えて栄養を蓄えているから。代表的なものの一つに鯛があります。今回はその旨味を、蒸すことで閉じ込めて存分に味わうレシピを紹介しましょう。

蒸すときのポイントは、弱火でじっくり時間をかけること。身がふわっと軟らかく仕上がります。鯛から出るだしもソースに加えられるよう、皿にのせて調理しましょう。切り身の皮を上にして置くとくっつきにくいですよ。ソースにも豊富なバリエーションがあります。今回は中華風、しょうゆとみりんを合わせれば和風、アボカドとライムならメキシカン、トマトとバジルでイタリアンにも。フレンチなら、アンチョビとパセリで。実は鯛は世界中で食べられている、万能な食材。どんな味付けにも合うんです。

さて、この連載は今回が最終回になります。時の移ろいを意識しながら旬の食材を味わうこと。そして、第1回に紹介した「身土不二」という、自分の身体と暮らす土地は切り離せないという考え方。この2つを、少しでも意識してもらえるようになったなら嬉しいです。スーパーに並ぶ商品をただ買うのではなく、今まさに活き活きとしていて、かつ生活圏に近い生産地のものを選び、シンプルに調理して食べる。そういう料理は、やはり豊かでおいしいですよね。



SEA BREAM

CHEF:
SHINICHIRO HARAKAWA

原川慎一郎　はらかわ・しんいちろう｜1978年、静岡県生まれ。長崎県雲仙市のレストラン『BEARD』、北海道函館市のカフェ『cafe water』の店主。どちらもその土地の旬の食材を味わえる。

illustration: Lan Truong
photo: Yasutaka Tomiyama
text: Ryota Mukai

最終回
VOL. 30

今月の旬　鯛

広義にはタイ科の総称、狭義にはタイ科のマダイを指す魚。産卵期を迎える春と、それを経て再び脂が乗り始める秋に旬を迎える。特に今の時季のマダイは、体が鮮やかな桃色であることから桜鯛と呼ばれ縁起物とされる。

今月のTIMEX

Weekender Central Park

和洋中と世界各地の味付けにもハマる鯛のように、このウィークエンダーは誰にでも、どんなスタイリングにでも似合うザ・スタンダード。ごくベーシックで視認性の高いデザイン、カラーバリエーション豊富なナイロン製ストラップ、かつ優しい価格で、2011年に登場してすぐ〈タイメックス〉の名作に仲間入りした一本だ。きらりと輝く真鍮製のケースも上品。インディグロ®ナイトライト搭載。¥9,570（タイメックス／ウエニ貿易☎03·5815·3277　www.timexwatch.jp）

今月のレシピ

鯛の蒸しもの

材料（2人分） 鯛の切り身…2切れ、塩…適量、オリーブオイル…適量、パクチー…2株、ソース（刻んだ玉ねぎ…1/8個分、にんにくのみじん切り…1/2片分、しょうがの細切り…2スライス分、赤ワインビネガー…小さじ1、しょうゆ…小さじ1、唐辛子…1つまみ、ごま油…小さじ1、サラダ油…大さじ3）

作り方 ①鯛の切り身全体に塩を振る。②フライパンに脚がある小皿をのせ、小皿が浸らないくらいの水を入れる。小皿にオリーブオイルを引いて鯛を置き、蓋をして中火にかける。沸騰したら弱火にする。串がスッと刺さるくらい身が軟らかくなったら取り出す。目安は約10分。③ボウルにソースの材料と❷の小皿に出ただし（大さじ2）を入れて混ぜる。④盛り付け。鯛に❸を適量かけ、残りの❸で軽く和えたパクチーを添える。

monthly interview — Naoya Kawauchi — 3170W
a tale of three themes about music — Ryohei Matsunaga — 2444W
sexy ni yoroshiku season2 — Maho Shimao — 1095W
pop-eye cinema — Sho Miyake — 885W
stay home shopping — SEX Yamaguchi — 600W
BE A GOOD MAN — Yoichiro Aso — 1300W
4-panel cartoon — puppet sunsun — 60W
Talk with Ramdane — Ramdane Touhami — 3000W
heard on the street — Peter Arkle — 300W

ISSUE 913 MAY 2023

Popeye Journal

photo: Kazufumi Shimoyashiki
text: Tamio Ogasawara

今月、気になる顔。

第17回

FEATURE

河内直哉

ものづくりに必要なのは好きだと言えるピュアな心だ。

〈ポータークラシック〉にいた河内直哉さんが〈THE DAY〉というブランドを立ち上げた。河内さんとの出会いはだいぶ古く、思い出せば、こんな髭面でもなく、目尻にシワもなく、でも、目だけは爛々と輝かせて、原宿の洋服屋さんに出入りしていた。静岡県の修善寺から兄貴と一緒に鈍行列車に乗って、いつも服を買っていた。兄貴というのも面白い人で、『KWANZAA』というブラックカルチャー全開のお店を渋谷と代官山の間でやっていて、もう10年以上も前になるけど、よく『ポパイ』でも紹介させてもらっていた。いいお店だったなあと今でも思う。

気がついたら、河内さんは千葉のセレクトショップで働き始めて、今度はそのお店のバイイングの手伝いで原宿に行くようになった。配られた絵型に一生懸命そのブランドの営業が伝える服の詳細についてメモをしていた。それからまたしばらくしたら、今度は銀座の〈ポータークラシック〉で働くようになった。すっかり吉田ファミリーの一員としての貫禄がつきまくっていた昨年の春に、〈ポータークラシック〉を卒業して、いよいよブランドを始めた。ずっと好きで好きでたまらなかった服を作り始めている。肩書はもうデザイナーだ。年は今年で39歳。決して早い独立ではないが、人生何をやっても遅いってことはない。

「中学、高校と原宿に通い、東京に行きたくて大学に進みました。受験はだいたい落ちて、結局千葉

かわうち・なおや●1984年、静岡県生まれ。中学、高校時代は裏原宿ファッションに傾倒。〈ポータークラシック〉では本店店長とプレスを担当し、2023年から〈THE DAY〉のデザイナーに。興味を持ったものには、詳しい人にお金を払ってでも教えてもらうタイプ。好きな映画は『ゴッドファーザー』。

の大学に入ったのですが、1年くらいで辞めて柏のセレクトショップで働くようになったんです。大学時代は、毎日チンするご飯とクレカレーで食費を切り詰めては、服を買っていましたね。服についてを勉強したり、そのカルチャーの一部になるには、服を買うしかなかったんです。今と違って、怖いお店ばかりでしたし、買わないと話してもくれませんから。そのお店で6年ほど働き、ある日雑誌で読んだ吉田克幸さんが作るという〈ポータークラシック〉の剣道着の刺し子に度肝を抜かれて、追いかけるようになりました。毎日HPを見ていたら、スタッフを募集していたので、履歴書を送ったんです。現社長の吉田玲雄さんとは最終面接でお会いしたのですが、緊張しすぎて何を喋ったかは思い出せません(笑)。でも、ここではたくさんのことを学ばせてもらいました。教えは、〝ファッションを勉強するな〟でした。歴史、世界の文化、映画や美術だったり、そういう素晴らしさを学びなさいと。この頃に、古いものから勉強するってことも知ることができました。過去を見ればすべてがあると。ミリタリー、ワークウェアも、なぜこういう人たちのために作られたのかがわかると俄然服が楽しくなった。理解できることが楽しくなってくるんです。古着を買ってみて、事細かに見るようになったし、着るようにもなりました。自分が興味を持てるものを探すのがとにかく楽しくなったんです。興味を持ったものに深く突っ込んでいけたことが、今の自分を形作っていて、血肉となった。〈ポータークラシック〉では12年働かせていただきました」

そこらの古着屋さんよりもヴィンテージに詳しいし、フランスのミリタリー、アメリカのワーク、骨董、アンティークといったことにも精通しているのに、〈THE DAY〉では、そんな気配がまったく感じられない服を作っている。色はネイビー、黒、白、グレー。いい意味でまるで主張がない。

「誰に対してもフラットに着られるような日常着を作りたかったんです。自分の好きを突き詰めると、主張がなくて、着心地のいいものに行き着くんです。気持ちよさそうなものを、その人の主張が感じられないくらい普通に着ている人にも、自然と目がいくくらい。シンプルで上質で、悪目立ちもせずに、品がある。でも、この嗜好って最初は意識もしていなくて、〈ポータークラシック〉時代にお客さんに逆に教えてもらったんです。河内さんって無地のものばかり着ていますねって(笑)」

初めてのものづくりは楽しかったそうだ。自分の思うとおりに、講釈は入れずに、これまでの経験を信じて、迷わずに出し切った。好き嫌いもはっきり出して。好き嫌いを気づけるようになったのは、人よりもたくさん服を掘り、実際に買って、袖を通してきたから、感覚として持てるようになった。〈THE DAY〉の服が売れなかったら？　なんてことも考えない。河内さんはピュアの塊である。一番好きなものが洋服で、それを仕事としてやっている。そこまで売れなくても、細々と暮らしていけたらそれでいい。その考え方は、町中華の在り方と変わらない。好きなものを作って、好きな人が買ってくれたらそれが一番。好きなものでそれができたら、最高の人生だって思わない？

ミリタリーやワーク、アメリカやフランスといった匂いを全部消して、着たときの"線"と着心地を大事にして作ったのが〈THE DAY〉だ。ロングテーラードジャケットとコートはモールスキンで。シャツはギザコットンを使っていて、ネックは広めに。シャツのインナーには襟周りを汚さないようにモックネックを合わせるイメージ。

illustration: Makoto Wada

ジェフ・ベック●1944年、イギリス生まれ。早くから天才ギタリストとしてロンドン界隈で知られ、'65年にエリック・クラプトンの後任としてヤードバーズに加入。アメリカでの成功を手にするが、'67年に脱退。以降は自身のグループやソロ名義で、ハード・ロックからフュージョンまでジャンルを超えたスタイルで活動した。2023年1月に急逝。

シルヴェスター・スタローン●1946年、アメリカ・ニューヨーク生まれ。アメリカを代表するアクション俳優。人気シリーズ『ロッキー』『ランボー』で知られる。無名だった'76年、自身で脚本・主演を担当した『ロッキー』第1作が大ヒット。劇中で二流ボクサー、ロッキー・バルボアの人生に大逆転が起きたように、自身も名声を手にした。

ヨ・ラ・テンゴ●1984年にアメリカ・ニュージャージー州で結成されたインディー・ロック・バンド。アイラ・カプラン、ジョージア・ハブレイ夫妻を中心に始動。'92年にベーシスト、ジェームズ・マクニューが参加して、現在の3人編成になった。'23年発表の最新作『This Stupid World』まで、計17枚のオリジナル・アルバムを発表している。

今月の一枚

There And Back
Jeff Beck

1980年リリースのソロ・アルバム。'75年の『Blow By Blow』、'76年の『Wired』と続いたギター・インスト路線の一枚。当時流行していたフュージョン的な心地よいサウンドなのに、彼のすご腕ギターによって一瞬で雰囲気が変わるのがすごい。

|第35回| ONGAKU三題噺

文・松永良平

1. ジェフ・ベック　2. シルヴェスター・スタローン　3. ヨ・ラ・テンゴ

ジェフ・ベックが亡くなったのは、今年の1月10日だった。そう言われて、「え？　そんなに最近だったっけ」と、ちょっと驚く実感がある。2023年に入り、内外の大物ミュージシャンや音楽関係者、クリエイターたちの訃報が相次いでいるから、もはや結構前に思えてしまうのだろうか。これほど悲しい報せが続くと、SNSのトレンドにアーティストの名前が浮かぶだけで、「訃報？」と勘違いしてドキッとするという感覚、身に覚えがある人も増えているはずだ。

訃報は、最初は意味を伴わず、記号のように頭に入る。いわゆる「理解が追いつかない」という状況だ。ちょっと遅れて「個人的な記憶」がやって来て、「喪失感」が目を覚まし、悲しみの連鎖が始まる。その頃には、友人知人からの連絡もいろいろと届き出す。ジェフ・ベックの訃報を知り、すぐにLINEのメッセージを送ったのは、2歳下の弟だった。

「ボストンからニューヨークに爆走中、超大音量で聴いた『ゼア・アンド・バック』、今静かに聴いています」

その返信に、思わずうなってしまった。ぼくもまったく同じ光景を思い出していたから。その「ボストンからニューヨークへの爆走」は、そんなに昔の話じゃない。あれは2005年の夏、数年ぶりに全米ツアーを行うローリング・ストーンズのライブ・レポートでボストンのフェンウェイ・パークを訪れることになり、道中の運転手として弟を誘ったのがきっかけだった。当時彼が勤めていた会社のお盆休みをずらして、8月下旬の数日間を確保してもらったことを覚えている。

その取材からニューヨークへの移動中、長時間の運転と時差ぼけからくる疲労を紛らせようとして、弟がこれをカーステレオでかけてくれとカバンから取り出したCDが、ジェフ・ベックの『ゼア・アンド・バック』だった。'80年代、ぼくら兄弟が夢中になっていた金曜夜の新日本プロレス中継で、次期シリーズの来日レスラー紹介のBGMとして使用された「スター・サイクル」が1曲目で、いきなり盛り上がる。耳から入ってきたイントロに興奮と懐かしさを激しく揺さぶられ、ふたりして「来た来た来た来た！」と声を出していた（兄弟揃って好きだったクレイジーケンバンドの影響）。

やがてとっぷりと日が暮れて、周囲の景色で見えるのは等間隔で立つ照明灯と、ヘッドライトでぼんやりと浮かび上がる数メートル先だけになる。アメリカのハイウェイは日本よりすごく暗い。行先にある見えない点から真っ直ぐに無数の放物線を引くように光が飛んでくる。カーステからはドラマーのサイモン・フィリップスが爆裂のツーバス・ドラムを踏みまくる超音速級のクレイジーな曲「スペース・ブギー」が流れていた。そこにあったのは「高速道路を使った移動」という現実ではなく、闇に溶けた景色と、度を越した疲労でハイになったぼくたちと、マッハで通り過ぎる光と音のファンタジーだった。いわゆる「バニシング・ポイント（消失点）」的なトリップ。

「スペース・ブギー」が終わり、ギターが静かに深呼吸しているようなラスト・ナンバー「ザ・ファイナル・ピース」でクールダウンした……はずだったが、ハンドルを握る弟は助手席のぼくを見てこう言った。

「兄貴、『スペース・ブギー』もう一回」

もう一回どころか、あの夜、何度「スペース・ブギー」が繰り返されたか。

弟がアメリカでドライバーを務めてくれたのは、それが初めてではない。最初は2001年。「9・11」でアメリカが震撼していた秋、ぼくが働いているレコード店の買付を、当時一時的に無職だった弟に、運転で手伝ってもらった。'05年の夏のドライブは、それ以来の体験だったが、そのときに長期休暇が取れたことがきっかけになり、この時期に弟と一緒にアメリカ買付に行くというパターンができた。運転好きな弟は長時間の移動も厭わなかったし、ぼくらもその間に仮眠したり、疲労回復ができた。

ジェフ・ベックだけでなく、弟から運転BGMのリクエストが来ることはときどきあった。ある年のフィラデルフィアでは、カバンから『ロッキー』のサントラ盤が取り出された。

ジェフ・ベックはハイウェイを爆走するのにはバッチリだった。不思議なもので『ロッキー』の場合は、そうじゃない。高速を降りて、街の中心部に向かう。精肉業が古くから盛んなこの街の労働者たちが集う下町を抜けて、ダウンタウンの中心にそびえ立つ市庁舎タワーへ続く通りに入った瞬間を弟は狙った。有名なテーマ曲ではなく、「最終ラウンド」。曲が終わる頃には、車中でぼくも弟もなぜか泣いていた。ロッキー・バルボア（シルヴェスター・スタローン）が自分を鍛え直すために走ったこの街と音楽が最高にシンクロした瞬間だった。そんなとき、弟はどんなDJよりも場を支配していた。

アメリカ運転中の弟との会話では、「イノクチ」のことが強く印象に残る。昼間、ロングアイランドを走っていた。この先、自分たちが何をしているか理想や希望みたいな話をしていたら、「もっと歳をとったら、イノクチを集めるような趣味を持ちたいと思う」と言い出した。

はて？　イノクチとは？

それは「お猪口（おちょこ）」のことだった。マジで一生分笑った。弟も自分で言ったことなのにつられて笑い、あやうく事故りそうになったほどだった。

今年の2月、ヨ・ラ・テンゴの新作『ディス・スチューピッド・ワールド』がリリースされたとき、ディスクユニオンの購入特典が、メンバーのジェームズ・マクニューがデザインした特製のお猪口だった。早速購入してSNSにポストしたら、すぐに弟から通知が来た。

「イノクチ、ですな」

結婚し、今では二児の父となった弟とアメリカで旅する機会はもうないだろうけど、ジェフ・ベックもロッキーもイノクチも、ぼくら兄弟の記憶の旅のなかではまだ生きている。

まつなが・りょうへい｜大学時代の友人たちと音楽雑誌『リズム＆ペンシル』を1999年に創刊。レコード店勤務のかたわら音楽関係の執筆やインタビューに携わる。近著に平成の音楽シーンを振り返る自伝的エッセイ『ぼくの平成パンツ・ソックス・シューズ・ソングブック』（晶文社）。

しまおまほの セクよろ Sexy ni YOROSHIKU 〜season2〜

|第23回|

裸で、働く。

カフェや図書館で仕事をすることが多い。家だとゲームや見逃し配信や睡眠、間食の誘惑にすぐ負けてしまうから。いつも行く場所はだいたい決まっているのだけど、気に入っている席に先客がいたり、日によって音楽のボリュームが異常に大きかったり、冷房が効きすぎてたり、団体客がいたりする時もあったりで毎回集中できる環境にあるわけではない。今日はコン詰めて作業しないと……って時に限って隣がイヤホンなしでリモート会議を始めて、集中できずただコーヒー飲んで店を出てしまうことも。わたしがオーナーだったらリモート専用の個室作るなーとか、お尻が冷える椅子は置かないよなーとか、軽食の種類もう少し増やしたいな、とか最近では理想のコワーキングスペースを妄想するのが趣味になっている。

リラックスできて、長時間滞在も可能で、他人がいるので適度な緊張感もあり、良いアイディアが浮かぶような、そんな空間……それってもしかして、大浴場？

湯船に浸かりながら、サウナに入りながら、露天風呂で、ジェットバスで仕事できたら最高では？技術的に完全防水のパソコンはそろそろできてもおかしくないとしても、カメラ付きのパソコンを持ち込むのはマナー違反なので、受付で風呂専用のパソコンを借りることが必要になりそう。脱衣所に入る前に自分のパソコンと同期させて、風呂での仕事内容が送られるようにしておくのがいいかも。

Ｚｏｏｍ会議などはカメラオフでの参加になるが、どうしても必要であれば専用顔ハメパネルで参加、というシステム。

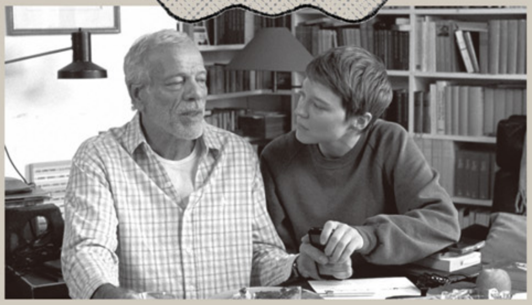
長時間の滞在も考えられるので、露天風呂の横にちょっとしたカフェテリアも併設。軽食はバナナやゼリーといった重くないもの中心で。

防滴メモパッドとペンが貸し出し可能で、プラス料金で垢すり、洗髪サービスも。画面やキーボードに泡は飛ぶけど。仕事だけでなく、確定申告や家計簿をつけるなどの憂鬱な作業も風呂に入りながらできたらストレスも半減するのではないだろうか。

サウナブームが完全に日本を制圧した今、裸ビジネスのネクストステージは風呂・コワーキングにあるとみた！……と、周囲に言いふらしているのだけど、なかなか同意してもらえない。お尻丸出しのコワーキングにはまだ抵抗があるらしい。

しまお・まほ｜漫画家、エッセイスト。1978年、東京都生まれ。最新著は子供にインタビューしたルポルタージュエッセイ『しまおまほのおしえてコドモＮＯＷ！』。

三宅唱の POP-EYE CINEMA



『未来よ こんにちは』（2016年）でベルリン国際映画祭銀熊賞を受賞したミア・ハンセン=ラブの監督最新作。親の介護と自分の恋愛、子育てに奮闘する母をレア・セドゥが演じる。5月5日より全国順次上映。

|第98回|

『それでも私は生きていく』

忘れられない映画が存在するように、自分にとって大切な映画批評もある。そのうちの一つが、友人である松井宏がミア・ハンセン=ラブ監督『あの夏の子供たち』について書いたものだ。Nobodymagで検索をかけると読めるし、短いものなのでぜひ読んでみてほしい。そこには最新作『それでも私は生きていく』に繋がるような言葉があったので、引用したい。

「やはり前作と同じく〈どのように不幸を描くか〉ではなく〈どのように幸福を描くか〉をまずもって問題にする作品だった」

「たぶん不幸を描くための前段として幸福を描いておこうなんて、そんなチャチなことは考えていない。幸福は否定されない。幸福はこの作品のルールそのものだ」

「説話の進行とは別の、ほとんど無償に近い時間。と、たとえば幸福をそう言えるかもしれない」

「あるいは、こう言えるかもしれない。〈登場人物たちは絶対に幸福にならなければいけない〉。それこそがミア・ハンセン=ラブの映画の説話におけるルールなのだと」

『それでも私は生きていく』の冒頭、レア・セドゥが道の向こうからやってくる。その時点でもう、彼女はすでに人生でいくつもの嵐をくぐり抜けてきたように見える。鮮やかなブルーのトレーナー姿や短髪という外見からそう感じたのか、彼女の歩き方にそう思わされたのかはわからない。物語が進むと、彼女の生活には、すでにこの世には存在しない夫や、ジリジリと死に向かう父がいることがわかる。重要なのは、劇中で夫が死ぬのではなく、すでに死んでいることだと思う。

映画が始まる以前から、私もあなたもあの人も、もうたっぷりとこの世の理不尽を吸い込んでいるはずだ。戦いはとっくに始まっている。それをゼロから誰かに説明したり糾弾するために映画を作る監督もいるし、そんな現実の延長線上で自分たちが今後どうやって生きていくかを試してみるように映画を作る監督もいる。ミア・ハンセン=ラブは後者の監督の一人だと思う。

みやけ・しょう｜一昨年12月に公開した監督最新作『ケイコ 目を澄ませて』は引き続き全国でロングラン上映中。

セク山の ステイホーム ショッピング

|第35回|

おいしい低糖質プリン カスタード

期間限定で抹茶味も店頭に並ぶときがあります。レアです。

約3年のコロナ禍でステイホームが基本となり完全に太った。過去最高体重をマークし、いよいよ何かしなくちゃ……と感じている。歳をとって代謝が悪くなったせいも少なからずあるだろうけど結局は運動不足。以前はちょっと出歩くだけでカロリー消費できていたはずだし、なにより歩いている時は水分補給ぐらいで何かを食べながら歩くなんてことは

｜第10回｜

おにぎりを握る男

自分の好きなことを、職業にして生きてくのは、楽しい反面、本当に大変だということは、実践してきた僕が一番よく知っている。そもそも形すらない、自分が思い描く職業を形にしていくのに不可欠なのは、何があろうとめげずに挑戦していく「胆力」であり、いい男の重要な要素だと思う。

　ケータリングでおにぎりを握る「ほぐれおにぎりスタンド」の英治さんは、一度は企業に就職し、社会人生活を送っていた。企業内での将来像が浮かんだ時、もっと自分の好きなことを仕事にしたいと考え、会社を辞め、自分の道を歩みはじめた。自分の好きなことって何だろうと突き詰めると、料理上手なお母さんの影響もあり、お米が好き。色々と試行錯誤する中で、その提供のスタイルがおにぎりになった。僕は食関係のプロデューサーの方から、最近注目している人として教えてもらい、SNSをフォロー。すると、近い関係の人との繋がりも深く、縁を感じた僕は、おにぎりを食べてみたいと思い、出店会場へ足を運んだ。僕が握るおにぎりのように、海苔がぺったりとした大きなおにぎりではなく、その名の通りごはんがふわふわほぐれる感じ、パリっとした海苔、お米の味わいを引き立てる具材、もう一個食べたくなるようなサイズ感が魅力的。待つ間に少しお話した時の印象から、また会いたくなり、そして食べたくなった。また別な機会に足を運ぶと、そこには長蛇の列。先に食べていた友人から40分はかかると言われ、普段なら行列に並ぶのは苦手、逃げ帰るところだけど一人待っていた。並んでいる友達が、どの具にしようかと会話する様子を聞きながら、自分もどの具材にしようか考えていると、あっという間に注文の順番は巡ってきた。待ちに待った、ふわふわとした食感のおにぎりはとても美味しかった。

　彼は自分の道を切り拓く努力を重ねる上で、思いが届きそうな企業へアプローチを重ね、他の仕事もこなしながら生計を立てた。その仕事でも、人柄から信頼を得てしまうが、おにぎりへの道はまっしぐら。昨年は、サウジアラビアの王女様に招待され、おにぎりを握ったことも。今は心配になるくらい、ひっきりなしにどこかで握っている。それでもその姿勢は、いつも真っ直ぐで丁寧。自分で道を切り拓いたからこその腹の据わり方があると、僕は接していて感じる。

　どこかへ就職して、その企業の中で自分のやりたいことを実現していく人生もある。しかし彼のように、何にもないところに旗を立てて自分のやりたいことを形にしていく人生が僕は好きである。希望と不安の中で、自分のやっていることに興味を持ってもらい、それが様々な繋がりを生んでいく感じが、僕はいつも楽しいと思う。20代の頃の建設会社での経験も、宿を始めた時も、そして今も。上手くいかないことなんてたくさんある、それでも、ひたすら前を向き、仲間と力を合わせて、自分の道を進んでいく。それは物怖じしない胆力がなければ続かない。まだまだ混沌とした時代が続きそうな現代、自分らしく生きるにも必要不可欠だ。場数を踏むことも大切だけれど、僕の経験から言うと、最終的には良い仲間を得ることだ。僕も、もう一歩踏み出せない時、勇気を得るのは、自分を支えてくれる仲間の顔が浮かんだ時だ。ほぐれおにぎりスタンドは2人チーム、きっとお互いを支え合って、おにぎりドリームを叶えたのだと思う。彼らのおにぎりが色々なところへ広がっていくことを楽しみにしている。

こちらはほぐれない麻生のおにぎりです。

あそう・よういちろう｜料理家。友人向けのお弁当が話題となり、料理の道へ。著書に『僕の献立　本日もお疲れ様でした』『僕のいたわり飯』(ともに光文社)。

edit: Naoko Yoshida

なかった。家にいるとダメだとわかっていてもついつい食べてしまう。買いだめしておいたものが予想より早くなくなっていく。こうなると時すでに遅し、気付いた時にはドーンと体重が増えてしまっていた。「またこの時が来たか」とまさに重い腰を上げ、何度目かの糖質制限生活に突入することに。毎度ある程度体重が落ちはじめると誘惑に負け甘いものやジャンクフードを食べてしまっていた。「今回こそは負けない！」と意気込んでみたけどいきなりすべてをNO！にするとまた気が触れてしまう可能性があるので、たまのおやつはOKのゆるいスタートを切りスーパーやコンビニで糖質オフ商品を見つけてはいろいろ買って試してみた。結果、特におすすめしたいのはこの「おいしい低糖質プリン」。糖質は3・3gと低め！　同社の「焼プリン」と比較すると約71％もカットされている。まず数字面はクリア、気になるのは味。食べてみると口に広がるカスタード感が超プリンでかなり好み。おいしい！

　スナック菓子もナッツに差し替えたし、あとは己と闘うのみ。強くなりたい。

せくやま(せっくす・やまぐち)｜神奈川県生まれ。ダンサー、雑誌編集者などを経て、現在はDJなど。Bリーグ・川崎ブレイブサンダース専属アリーナDJとしても活躍。

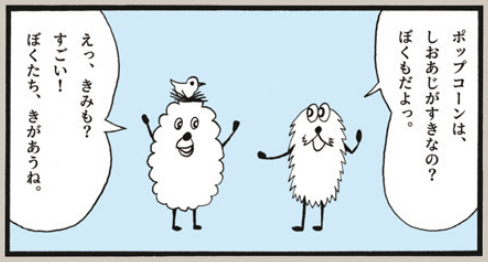
edit: Izumi Karashima

PUPPET SUNSUN パペットスンスン

｜第3回｜

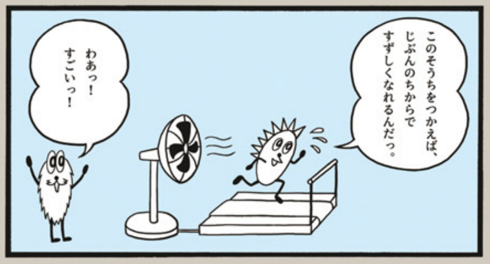
「ともだちとの思い出」

きょう、おままごとをした。



きょう、てんこうせいとなかよくなった。

きょう、のどからへんなおとがした。



きょう、すごいはつめいを見せてもらった。

パペットスンスン｜青い毛をした6歳のパペット。マンガやムービーをSNSで発表している。『TJ MOOK PUPPET SUNSUN ふわぁっとポーチBOOK』(宝島社)発売中。

photo: Kazufumi Shimoyashiki
text: Keisuke Kagiwada

小林節正さんはなぜアナキズムのモチーフをブランドに取り入れるのか？ 自身も政治的な活動を積極的に行うラムダンが迫る。

ラムダン 〈マウンテン リサーチ〉はいつ始めたんですか？

小林 2006年ですね。

ラムダン もともと山が好きだったんですか？

小林 僕が子供の頃、実家である浅草の靴工場は、夏休みと冬休みの時期がすごく忙しかったんですね。だから、夏休みと冬休みがくるたびに、愛知県に住む母方の祖父母の家に送られていたんです。その祖父が鉄砲撃ちで、三重県の鈴鹿山脈に、狩りをするときに男たちだけで使う飯場を持っていたんですよ。だから、夏は40日間、冬は2週間、僕はその飯場で祖父やその仲間たちと過ごしながら、彼らが山に入っている昼間はその辺に置いてあった鉈で拾ってきた枝なんかを切ったりして、1人で遊んでいました。幼稚園から高校2年に上がるくらいまでは、そんなふうに夏と冬を過ごしていました。

ラムダン 当時から山はお好きだったんですか？

小林 いや、好きも何もない（笑）。他に選択肢がなかったんで。

ラムダン じゃあ、2006年になって、急に「山のブランドを始めるぞ」と思い立ったと？

小林 当時は〈ジェネラル リサーチ〉をやりながら、週末はクラブとかで酒を浴びるように飲んだりしてたんだけど、「こんな暮らし方をしててもしょうがないなぁ」と思い始めていたある日、カメラマンの安部（英知）ちゃんが、キャンプに誘ってくれたんですよ。三重県のときから、何十年かぶりに山っていう場所に出かけてみると、綿だったものがナイロンになっているし、鉄だったものがアルミになっているし、山で使う道具が僕が知っているものと全く変わっていることにびっくりしちゃって。そもそも道具が好きだし、モダンな最新のガジェットを知ると体温がカーッと上がっちゃうタイプなので一気にハマってしまい、自分なりにやってみたくなって〈マウンテン リサーチ〉を始めたんです。

ラムダン なるほど。実は今、僕もアウトドアブランドを始めようと思っているんです。僕の場合、プラスチックやナイロンは一切使わないつもりなので、小林さんが目指そうとしているところと少し重なる部分があるかもしれません。ところで、小林さんのブランドはアナーキーなイメージが多用されていますよね。その辺に込められた想いを説明してくれます？

小林 どう説明したらいいかな。

ラムダン 「世界に中指を立てて、山へ行こう」って感じ？

小林 ちょっと別の角度からお話させてもらいますね。山に対して、僕はひとつのイメージを持っているんですよ。その山の奥には小さな村があって、世捨て人っぽいちょっと変わった人たちが、自分たちのコミュニティを作って暮らしていて彼らは思想家だったり詩人だったり、バイカーだったりパンクスだったり、さまざまなんだけど、全員が〝支配する者なき世界〟を標榜するアナキスト……というようなストーリーが自分の頭の中にあるんですが、ときどき彼らの喋り方や服装が見えることがあって、それが〈マウンテン リサーチ〉のスタイリングやコーディネートの根幹になっているんです。自分はアナキズムに対して正面からの答えを持っているわけではないんですが、とにかくすべてのことを自分で決めてもらいたいし、「自立とは何か？」ってことを考えてもらいたいなと思いながら、〈マウンテン リサーチ〉をやっているとは言えるかもしれません。自分なりの山の〝居場所〟を持って、今年で17年になりますが、その土地には当初過密林の森があるだけで何もありませんでした。日が暮れれば拾ってきた木を使って火を起こしたり、水が足りなくなれば水をくみに出かけたりもしたんです。都

ラムダン・トゥアミ｜1974年、フランス・モントーバン生まれ。総合美容専門ブランド〈オフィシーヌ・ユニヴェルセル・ビュリー〉を8年で成功に導き、LVMHに売却。巨万の富を得る。現在は〈ビュリー〉のクリエイティブ面を引き続き統括しつつ、新プロジェクトを準備中。

Talk with Ramdane

お茶でもしながら、ラムダンとお話しませんか。

〈.....リサーチ〉の小林節正さんを迎えた
後編はブランド誕生秘話について。

| 第6回 |

本日の話し相手

小林節正

〈..... リサーチ〉デザイナー

こばやし・せつまさ | 1961年、東京都生まれ。〈ジェネラル リサーチ〉を経て、〈.....リサーチ〉を始動。近年はバイクにフォーカスしたよりプライベートなコレクション〈RIDING EQUIPMENT RESEARCH〉も手掛ける。

会にいると、インフラが整っているので、そういうことはしませんよね？ 自立するためにはどうするのかってことを考えながら、山の中でインフラの呪縛から解き放たれて暮らす先には、自分なりのアナキズムの回答があると僕は信じているんです。

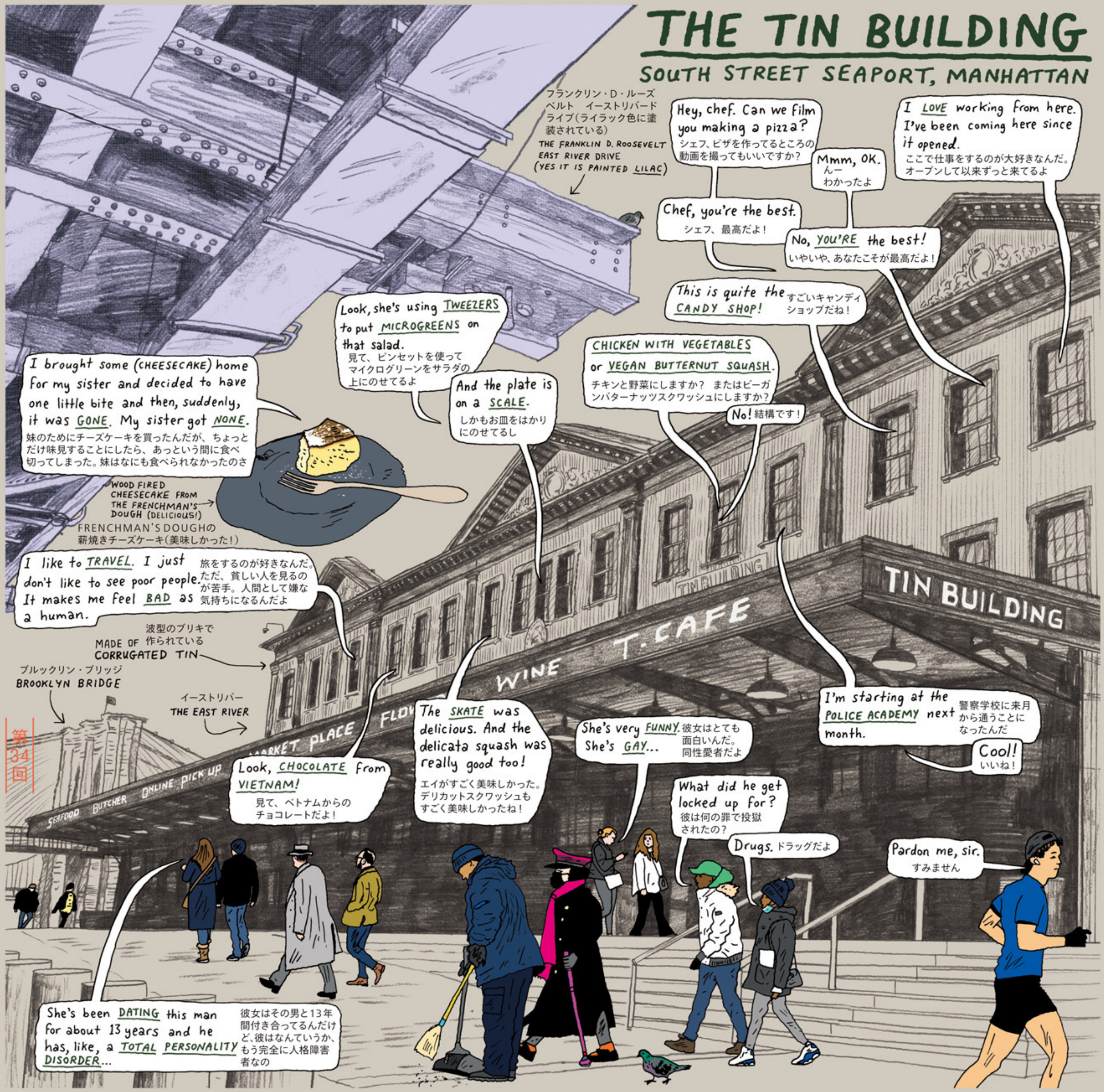
ラムダン 小林さんの活動には政治的なメッセージを感じていたので、今の話を聞けて感銘を受けています。僕も政治的な活動にはいつも興味があるので。例えば、ある革命家たちの埋葬された墓地のクリーニング代を寄付していたり。

小林 〈ジェネラル リサーチ〉をやっていた頃は、ニューヨークにアパートの部屋を持っていて、グリーンカードを持っていたこともあるんですよ。イラク戦争が勃発したと同時に、当時の政府が頭にきて「お前、馬鹿か？」と人々に言われながらも思わず返納しちゃいましたけど……（笑）。

ラムダン 素晴らしい！（小林さんとグーパンチを交わす） 僕もイラク戦争のとき、プロテストとしてゴミ箱に放火して高校をクビになりました（笑）。最後に今後について教えてもらえますか？

小林 自分を含むチームとして動いている〈マウンテン リサーチ〉と並行して、ここ数年はカスタムバイクがテーマの〈ライディング エキップメント リサーチ〉っていう洋服もやってるんだけど、こっちは完全なる個人的な趣味の世界（笑）。〈マウンテン リサーチ〉から遅れること15年ほどの月日を経てようやく本格始動させることができたプロジェクトだから、これは細くても長く長く続けてみたいかも。自分、ずっと先のことは考えられないタイプですが、「明日の気持ちよさ」を考えることにバイクに日々またがりながら今さら夢中になっていますね（笑）。

coordination & translation
: Momoko Ikeda



第34回

From PETER ARKLE サウス・ストリート・シーポートに2階建ての新しいフードコート「Tin Building」ができた。有名シェフのジャン・ジョルジュが手掛けてるんだが、1907年にフィッシュマーケットとして建てられたビルをリノベしていてスタイリッシュでとてもいい。スタッフもテーマカラーのグリーンのジャンプスーツを着ていてクールだよ。このエリアは、新しい施設が加わりつつもオールドスクールなアイリッシュバーもあったりして、今一番楽しめるエリアじゃないかな。

聞こえるニューヨーク

HEARD ON THE STREET

illustration by PETER ARKLE

聞いても教えてもらえない、ニューヨーカーの本音を聞くため、NY在住のイラストレーターは街で聞き耳を立てることにした。今回は新しいフードコートへ。

ピーター・アークル|イラストレーター。スコットランド出身で1995年よりNY在住。『The New Yorker』『The New York Times』などで活躍中。「リアルライフのほうが作り上げられた話よりずっと面白い」と、日々ストリートの出来事を記録している。peterarkle.com

photo: Nagahide Takano
text: Tamio Ogasawara
cooperation: Takahiro Goko

1

LOEWE

地中海に浮かぶ楽園イビサ島にあった前衛的ブティック『パウラズ イビサ』と〈ロエベ〉のスペシャルコレクションから、ボヘミアンなリネン素材のカフタン。メゾンの技術と職人の手仕事で作られる民族衣装はもはや芸術。パンチも効いてる。¥234,300（ロエベ／ロエベ ジャパン クライアントサービス☎03-6215-6116）

2

PORTER CLASSIC

男だってしたいのだよ、パールのネックレスが。しかも、ただの丸いパールじゃなくてハート型をだ。アクセサリーで重要なのは素材のよさとセンスだが、〈ポータークラシック〉が作るものは飛び抜けて洒落ている。こんなの他に探してもないね。¥71,500（ポータークラシック／ポータークラシック 銀座☎03-3571-0099）

3

EMPORIO ARMANI

とにかく柄がかわいい〈エンポリオ アルマーニ〉のサファリハット。柄の隙間に適度にロゴが入っているのも最高。つばが広めでドローコードも付いているので、キャンプはもちろん、日差しの気持ちいい日にかぶったら気分もいいね。¥35,200（エンポリオ アルマーニ／エンポリオ アルマーニ ジャパン☎03-6274-7070）

HALLELU

今年の初めまでNYの「MoMA」で行われていた写真家、ヴォルフガング・ティルマンスの展示のために作られていたオフィシャルマーチャンダイズのインポートもの。ボディはヘビーオンスの〈チャンピオン〉製リバースウィーブフーディーで、デザインもこの上なく潔しだ。¥23,980（hallelu☎03-5734-1946）

5

4

JIL SANDER +

ライトウェイトのオーガニックコットンを使った〈ジル サンダー+〉のシャツジャケット。きれいなライトブルーに、アシンメトリーな前開きで、襟を倒して着てもよし。¥151,800（ジル サンダー+バイ ルーシー アンド ルーク メイヤー／ジルサンダージャパン☎0120-919-256）

7

FRESCO

これさえあればスペインの肉料理ピンチョモルノが簡単に楽しめる。鶏肉や豚肉など300gを食べやすい大きさにカットし、〈FRESCO〉のピンチョモルノスパイスを10～15g、ニンニクのすりおろし1片分、オリーブオイル30g、塩3g、ブラックペッパーを少々加え、よく混ぜて冷蔵庫で1時間ほどおき、焼いて完成。左から、甘口¥800、辛口¥850、スモーク¥900（すべてFRESCO／PROPS STORE☎03-3796-0960）

6

POLO RALPH LAUREN

着ている感じは、うん、カバーオール。〈ポロ ラルフ ローレン〉のコットンジャケットを着てみると、テーラードスタイルも身近な存在に。オックスフォードのクレリックシャツは左袖のカフにポニーの刺繍入りだよ。ジャケット¥78,100、シャツ¥24,200（ともにポロ ラルフ ローレン／ラルフ ローレン☎0120-3274-20）

8

HANA TAIYO AME

〈ネペンテス〉が北海道・美瑛で新しく始めた活動「花、太陽、雨」から、第1弾として代表の清水慶三さんが製作するプリントネルシャツがどどんと登場。見るほどに凝った格好よすぎるチェック柄に、胸ポケットの柄もバイアスにすることで、よりサイケデリックな感覚になるから不思議。オクタゴンのピースマークも大好き。各¥42,900（花、太陽、雨 www.onlinestore-hanataiyoame.com）

9

MARGARET HOWELL

ガラス作家、辻野剛さんによる〈fresco〉と作ったグラスに、〈ポーター〉にオーダーしたバックパック。ノーカラー半袖シャツとショーツは藍染めで。どれも実用的で、確かな品質を持ち合わせていて、色味も日々の暮らしによく馴染む。マーガレットさんのものづくりに夢中です。グラス各¥6,380（マーガレット・ハウエル ハウスホールドグッズ／マーガレット・ハウエル☎03-5785-6445） バックパック¥31,900（マーガレット・ハウエル） シャツ¥33,000、ショーツ¥34,100（ともにMHL.／MHL.☎03-5785-6445）※5月入荷予定

10

SALLY'S JOURNEY

三軒茶屋の『SALLY'S JOURNEY』の2階のギャラリーで4月14～16日に行われる〈MONSTER FARM〉のアートショー『Death Dealer』。ここでは〈BlackBook Toy〉が手掛ける「BOO」のソフビと〈MODESTY INDUSTRY〉の手染めのロンTが登場予定。ソフビはこれ以外にもいろいろあるってさ。超人気なのでこの機会にぜひ！ ムラ絞り染めのロンT左¥13,200、柿渋染めのロンT右¥14,300、ソフビ¥36,000（すべてSALLY'S JOURNEY☎03-5787-5683）

12

11

BOGEN

テンションがめちゃ高いスキーヤーの刺繍を見ればこのシャツジャケットが〈ボーゲン〉のものだとすぐにわかる。まあ、"BOGEN"とも入っているけどね（笑）。9オンスのデニム生地を使ったスタンドカラーで、ステッチやボタンの雰囲気もよろしい、一枚あると落ち着くやつ。¥44,000（BOGEN／BOGEN LAND　@bogen_official_）

SANS LIMITE

グレンチェックのレギュラーカラーボックスシルエットに、千鳥格子の開襟タイプ。両方とも〈サンリミット〉では珍しく、日本の古いヴィンテージリネン生地を使って作られている。シャキッとも ダラッとも着られそうなのがいいところ。左¥33,000、右¥33,000（ともにサンリミット／サンリミット 上野店☎03·5826·4791）

13

OHH!

ありそうでなさそうなちょうどよい肌着を作るのが、肌着しか作らない〈Ohh!〉だ。スリーブレスは細番手のハイゲージでさらっと、ヘンリーネックとラグランクルーネックは太番手の程よく肉厚な生地感で気持ちよく。ヘンリーネックが着たいなあ。上¥5,940、中¥11,000、下¥9,900（すべてOhh!　info@ohh.jp）

14

THE NORTH FACE PURPLE LABEL

薪を運ぶトートや内側に撥水リサイクルナイロンを用いたショルダーバッグをキャンバスに、アーティストの山瀬まゆみさんによるアートが躍る。モチーフはヨセミテ国立公園にあるハーフドームと都会の自然。上各¥16,500、下各¥19,800（すべてザ・ノース・フェイス パープル レーベル／ナナミカ マウンテン☎03·6416·3012）

16

PACIFIC FURNITURE SERVICE

〈スイスパール〉のプランターが入って以来、よき鉢植えがますます並ぶ『Pacific Furniture Service』。スズランエリカやフィカス・ベンジャミン・バロックなどのかわいい植物に日本の素焼きの鉢を合わせたり。イタリアやメキシコの鉢も入ってくるってさ。¥2,200〜50,000（Pacific Furniture Service☎03·3710·9865）

15

L.L.BEAN JAPAN EDITION

ただのブラックウォッチ柄のセットアップにあらず。素材は通気性と速乾性に優れたポリエステルコットンで、夏の初めの水遊びにも使えそう。アウトドアもトラッドにね。シャツ¥13,200、ショーツ¥12,100（ともにエル・エル・ビーン ジャパンエディション／L.L.Beanカスタマーサービスセンター☎042·279·9131）

19

NEW BALANCE

〈ニューバランス〉は500番台も名作揃いだ。ヤンキースのユニフォームのようなグレーとネイビーコンビの「MT580」と、アメリカのお菓子みたいにポップな「BB550」が登場だ。春の訪れはフレッシュな足元から。上¥18,700、下¥17,600（ともにニューバランス／ニューバランスジャパンお客様相談室☎0120·85·7120）

18

AKAD

繊維メーカーの雄「旭化成アドバンス」からブランド〈AKAD〉が誕生。糸から開発したスウェットはコットンに若干のナイロンとポリウレタンを配合することで滑らかな肌触りと抜群の着心地に。前ジップの襟付きってかわいい〜。スウェットポロ¥17,600、スウェットパンツ¥17,600（ともにAKAD　www.akadvance.com）

17

SIESTA

ナイロンシェルに、トーン違いのナイロンライニング。シルエットは四角く、裾のドローコードを絞れば丸っこく。'80年代のアウトドアブランドにありそうなパープルとタンの2色で、ずーっと着られて何にでも合うジャケットを目指して作ったという〈シエスタ〉の新作。今どきこの値段。各¥25,300（シエスタ　@siestastore）

20

YAECA

『ヤエカ ホーム ストア』の2階の奥の部屋に『一画』という名の空間ができた。ここには〈ヤエカ〉の服にもよく合うような民藝などの古いものが置かれていて、写真家・土門拳旧蔵品の陶工・河井寛次郎の器や、染色家・芹沢銈介の自宅に飾られていたという自身の作品などがあった。1階には現代の工芸作家の一角があり、『柴田慶信商店』の秋田杉を使った曲げわっぱや、永平寺の僧侶が使う応量器を拭き漆で仕上げたものなど、古い技術を今に繋げたものが点々と並ぶ。プリムボタンが手付けされた半袖のマドラスチェックシャツやセージの色素を使った丈が短めのツータックチノなど、どうしよう、欲しいものだらけだ。半袖シャツ各¥22,000、チノパンツ¥26,400（すべてヤエカ／ヤエカ アパートメント ストア☎03·5708·5586）　クルタシャツ¥27,500（ヤエカ／ヤエカ ホーム ストア☎03·6277·1371）

TET'S ROOM

徹の部屋
VOLUME 35

photo: Ding Ding
text: Tamio Ogasawara

STORAGE

服や靴、道具に書類などがいい具合に収まってきた徹さんのアトリエ。編集上手な徹さんはさまざまなストレージを使ってきちんと収納するのだね。

TET'S ROOM

1

2

3

1. 『REI』の通販で買っていた〈Action Packer〉のストレージコンテナ。さらにデカいサイズもあるそうで、アメリカではピックアップトラックの一番奥に積み込んで固定して使ったり。インストラクションシールがいい感じだと欲しくなっちゃうとは徹さん。2. ウェア類はハンガーに掛けられてずらり。3. シューズは〈Vans〉〈adidas〉〈Nike〉などとブランドで棚が分かれていた。4. グレーに差し色のイエローがいい感じの日本の〈TRUSCO〉の折りたためるコンテナ。ロックT、スケートTなどと分けて収納。5. 〈Fellowes〉の「Bankers Box」もドサッと。6. 〈U-HAUL〉のボックスも格好いいんだよな。

5

7

6

4

7. ツールボックスは、左上が〈Carhartt〉、その下がアメリカ・イリノイ州で作られている〈PLANO〉、〈ディセンダント〉のステッカーが貼られたオレンジのはブランド不明で、黄緑と黒のツートーンが〈Snap-on〉、めちゃくちゃ重たいシルバーのが〈CONTICO〉。8. コンスタンチン・グルチッチがデザインした可動式の〈Magis〉の10段コンテナは、徹さんのデスクの脇に鎮座。9. スニーカーの箱にはシューレース各種を。オールドスタイルだね。10. SPECIAL DELIVERYと入った段ボールはNIGOさんの置き土産だとか。

8

9

10

TET'S ROOM

何をどのようにしまうのか？

古着などの服はミリタリーならミリタリーものにまとめてラックに掛けて、首元が黄ばみがちなTシャツはジップロックに入れてジャンルごとに〈TRUSCO〉のコンテナにしまい、靴は入っている靴の写真を箱に貼り付けて、何が入っているかがわかるようにして棚に並べています。〈Fellowes〉の「Bankers Box」には書類を、〈U-HAUL〉のファイルボックスには紙焼きの写真やアルバムなどを、バイクやDIY用の工具は用途に合わせて〈Carhartt〉や〈Snap-on〉などの工具入れに、スプレーやまだ未整理のものは古典的にダンボールをリユースして使っています。これらのストレージの中でも古くから使っているのが、'90年代にアメリカの『REI』の通販で買って集めていた〈Action Packer〉のストレージコンテナです。当時はアメリカのキャンプ用品がとにかく欲しくして、よく『REI』の通販カタログで頼んでいましたね。なので、このコンテナの中には今もキャンプ道具を入れています。スタッキングしてもかさばるし、折りたたむこともできませんが、インストラクションシールに描いてあるように川でも浮くのがいいですよね（笑）。

Spotifyで
ポッドキャスト
公開中！

西山 徹
WTAPS / DESCENDANT / FPAR
director

にしやま・てつ｜1974年、東京都生まれ。最近は〈ディセンダント〉と〈ヘリーハンセン〉でアップサイクルアイテムを販売したり、朝から名画座で名作を観る「午前の映画会」を行っていたり。

血の記憶

artwork & text: Kyohei Sakaguchi　edit: Kosuke Ide

僕の両親は、先祖が同じ村なのだが、二人は全く別のところで出会い、その後、同じ故郷だということが判明したそうだ。両親から僕は先祖の話をほとんど聞いたことがない。ところが、僕の夢に出てきたり、小説に出てきたりするもんだから、僕はついつい先祖巡りをしてしまう。両親が知らないことまで今では少し知るようになった。そんなわけで、時々僕は先祖巡りをするのだが、今回もそんな話である。きっかけは、10年以上前に亡くなった母方の祖父が夢に出てきたからだ。

祖父が「たまには墓参りにでも来なさい」と言っているように感じた僕は、祖父が眠っているその先祖の村、熊本の河内町白浜の蜜柑畑の山のてっぺんにある納骨堂に一人で行くことにした。納骨堂は鍵が閉まっていて、僕は幼い頃、祖父の家に遊びに行くといつも通っていた駄菓子を売っている村上店という商店の裏口にいる村上さんに鍵を借りて、狭い蜜柑畑の山道を軽自動車で擦らないように恐る恐る登っていった。夏の盆以外にはほとんどこの納骨堂の鍵は開いていないのかもしれない。鍵を開けると、密閉された空間から空気が一気に放出されて、入り口のガラス戸が勢いよく音を出して揺れた。祖父だけでなく、いろんな家族の先祖たちが一気に外に溢れ出てきたような感触があった。

祖父の前で手を合わせて祈っていると、頭に港の姿が浮かんできた。この白浜という村は、海沿いなのだが、江戸時代には20メートル強の津波に襲われていて、それもあってか大部分が埋め立てられ、堤防が建てられ、海と親しみのある場所には一見、見えない。祖父からも海は怖い、と教わってきた。しかし、祖父の庭には巨大な岩石が転がっていて、僕の背丈以上の高さまで満潮の時は海面が来ていたことを知らせる形跡もある。実は、祖父の家は海の中だった。もしかしたら、水上集落もしくは船の上に住んでいたのではないかと僕は勝手に夢想していた。そんなわけで、白浜には港はない。それなのに納骨堂で僕の頭には昔の港の姿があった。不思議に思って、村上店に鍵を返しに行ったついでに村上さんに聞いてみると、どうやら50年前は店の向かいにハトバがあったという。ミナトではなく村上さんはハトバと言った。

白浜にあったハトバは一体、どんな姿だったのか気になった僕は、ハトバがあったらしい場所に足を踏み入れた。そこはコンクリートで全て埋め尽くされていて、蜜柑を保存する倉庫になっていた。近くを歩いている高齢の女性に話を聞いてみると、彼女もまたハトバのことを覚えていて、コンクリートの上で、ここからここまで海だった、ここからここまでハトバだったと、まるで海が見えているかのように教えてくれた。すると、ハトバは一軒の、この辺では珍しい大きな家にくっついているように見えた。僕はその家の人に話を聞かせてもらおうと近づきながら驚いた。表札に「坂口」と書かれていて、僕と同じ苗字だったからだ。

坂口さんの家のインターホンを押すと、一人の高齢の女性が出てきた。彼女が一人で暮らしているという。僕の苗字を伝えると、そして先祖の村がこの白浜であることも伝えると、すぐに家に入りなさいと言ってくれた。話をすると、なんと僕の曽々祖父がその女性の義理の祖父だったのである。どうやら、僕はこの家の分家の子孫であるらしい。ここの坂口家がどういう人だったのかを聞いてみると、白浜随一の船を使った大商人だったというのである。だから、ハトバがこの坂口家にくっついていたのだろう。僕は鬱の時、いつも真っ暗な夜の海の上で、船の上で呆然と漂っているという映像が繰り返し出てくる。それが小説や絵になっているのだが、なんと僕の先祖はやはり、海の上、船の上で大活躍していたようなのだ。

その帰りに、隣の塩屋という町があるのだが、車で横切っていると、また「坂口商店」という名前を見つけた。塩屋はこの辺では珍しく、まだ漁師町として成り立っている町だ。車を停めて話を聞くと、坂口商店は今も、このへんの漁師の魚の仲卸をやっているらしい。坂口という姓はもしかしたら、この河内という地域で船を使った商売をやっていた人のものなのかもしれない。海の民だったりして、と思っていると、坂口商店の隣にいるおじさんと目が合って、話をすると、彼は川越さんという漁師だった。僕は幼少から祖父の教えを受け継いで、海からはなるべく離れて暮らしてきた。釣りもしたことすらなかった。でもずっと頭の中には海があり、釣りをするようになり、今度は漁の現場を見てみたいと思っていたので、川越さんに思わず、漁船に乗せてくださいといきなりお願いした。川越さんは気持ちのいい人で、いつでも来なさい、明日も漁に出るよ、と教えてくれた。というわけで、祖父の夢から始まって、先祖巡りの果てに、僕は漁に出ることになった。塩屋の漁師は今、太刀魚漁をしているとのこと。竿じゃなくて、網漁である。僕は早速、翌日の朝7時に、約束していた通り、塩屋港に向かった。

港で、焚き火をしているおじさんたちに近づくと、お前、どこから来た、と言うので白浜です、父方は坂口で、母方は井元と言います、と自己紹介すると、なぜかすぐに、あー、顔でわかる、と言われた。僕も不思議なことに彼らが他人に思えず、船に乗る時も、どこかで記憶があるような気がずっとしていた。船で雲仙の方に向かいながら、朝の静かでとろりとした青紫色の海を見ながら、あれもこれも記憶がある、と僕は感じていた。もちろん勘違いだろうが、それでも遺伝子の記憶もあるんだろう。僕の記憶よりも、僕の体に流れている血の記憶がザワザワと動いていて、20隻くらいの集団で動いているその船の家族を見ながら、僕はとても安堵していた。方法がなぜかわかる。海の上なのに恐怖心がなく、8時間も船に乗っていて、1秒も船酔いしなかった。これには川越さんもびっくりで、さらに、ここ1週間くらい太刀魚が全くいなかったらしいのだが、この日は、大漁で、しかも川越さん夫妻もびっくりの、途中で呆れていたくらいなのだが、川越さんがこれまでの人生の中で見たことがないくらいの大漁だった。太刀魚も僕になれていてもちろん何度か噛まれたが、それは斧のように鋭い歯で、太刀魚に噛まれたら血が止まらないと漁師に言われていたが、血はすぐに止まった。自分でも唖然とするくらい、船の上での網漁は僕にとって、とても自然な営みで、なんの違和感もなく、もうこのまま漁師になりたいと思ったくらいだった。

不思議なものだ。でも僕は全く不思議でもなく、生まれてきた場所に戻ってきたような感覚に満たされていた。

漁師たちもまた来いよ、と言ってくれた。そして、その後、また太刀魚がとれなくなったらしいのである。10日後に僕はまた船に乗った。すると、不思議なことにまた太刀魚は大漁だったのである。お前は、持っている人間だ。自分でもそう思っとるんやろ、と漁師たちに笑われた。

不思議なことに、太刀魚は綺麗で、僕は大好きで、三枚おろしも嘘みたいにすぐにできて、刺身と天ぷらと塩焼きにして食べたら泣けるほど美味しくて、漁師たちにその写真を見せたら、お前は誰よりも上手いな、とみんなに笑われた。

僕は突然、祖父の夢によって、漁師になってしまったのである。

さかぐち・きょうへい｜1978年生まれ。建築家、作家、画家、音楽家。本誌連載をまとめた『ズームイン、服！』の他、近著に『まとまらない人 坂口恭平が語る坂口恭平』（リトル・モア）、『躁鬱大学: 気分の波で悩んでいるのは、あなただけではありません』（新潮社）。最新アルバム『海について』を発表。熊本市現代美術館にて展覧会『坂口恭平日記』が4月16日（日）まで開催中。

Text & Artwork by
Isao Makino

のみ歩きノート

画と文　牧野伊三夫

35　湯治の酒

　二月、一週間ばかり妻の実家のある秋田に雪かきの手伝いに行く。実家は県南の雄物川の上流にあって、冬になると雪が多いことで知られている。軒下に落ちた雪の山をのぼって家の屋根まで上がれるほど、雪が深い。

　除雪機で庭の雪をとばす義父の傍らで、僕と妻はスノーダンプで雪を運んで側溝に流すということを何度も何度も繰り返す。氷点下のなかでも三十分ばかりやると体があたたまってうっすらと汗をかいてくるので、ちょっと寒いくらいの薄着でやる。以前、雪のなか、下着一枚で屋根の雪下ろしをしている人を見たこともあった。ひとしきりかき終えても、雪は無情にもまたすぐ積もるから、地元の人たちはよほどの大雪でもないかぎり、毎日、日課として少しずつやる。九州育ちの僕などは、こうやって雪と暮した経験がないから、はじめの頃は妻の家族にちょっと頑張ったところを見せてやろうと、馬鹿に張り切ってやっていたが、大汗をかいて洗濯物をふやすことになり、かえって迷惑をかけた。しかし、雪景色を見てはしゃぐ気持ちは、はじめて来たときから変わることはない。

　道路わきには除雪された雪が人の背丈より高く積まれていて、車で走ると雪の壁が眼前を流れ去ってなかなかのスピード感を味わうことができる。雪景色を描くために眺望を得ようと、その壁によじのぼってみると、上の方に積もったふかふかの雪に、ずぼっと太もものあたりまで埋まった。それで、長靴で踏み固めて足場をつくり、そこへイーゼルを立てて、吹雪でとばされぬように片手でスケッチブックをつかんで筆をはしらせていたが、眼鏡や服に雪が積もって雪人形になってしまいそうだった。気温は零下で、ぽきんと折れそうなくらい指が凍えて痛かった。しかしこういう逆境のなかで描いていると心に炎が燃えていくような心持になり、ますます画欲が高まっていくのである。誰もいなくて、たまに車がもこもこ雪の上にタイヤを転がす音をさせて通るが、あとは風の音しかしない。僕はただ、「美しいな、きれいだな」と心のなかでつぶやき、眼鏡にふきつけられた雪の隙間から景色を見た。

　雪かきに汗を流し、雪のなかで凍えて絵など描いて、何が愉しみであるかといえば、これはもう、酒である。毎日午後三時頃になると、車で公営浴場へ行き、のんびりと温泉につかって休憩場の広間で昼寝をする。そのあと食材を買いに行き、家での晩酌の支度にとりかかる。僕は義母の作る昔ながらの秋田の家庭料理の味が大好きで、これを肴に酒を飲むのが、秋田での酒のなによりの楽しみである。こちらでは「だだみ」と呼ばれる真鱈の白子を、昆布を敷いた鍋で豆腐や葱と一緒に、少し甘めの濃い醤油をおとして煮る。極寒のなかで根をつけたまま貯蔵された淡い色の葱はとろりとして甘く、白子の旨味と実にいい塩梅にからみ合う。県南の三関は、きりたんぽ鍋に用いる細く根をのばしたセリの産地で、このセリがまたうまい。鶏肉や里芋、こんにゃくなどを煮た「芋の子汁」に浮かべたり、茹でて油揚げや糸こんにゃくと和え物にしたりする。こういう素朴な家庭料理は、ずっと昔から家々に伝わってきた、いわゆるおばあちゃんの味。酒場でおぼえた味を再現したり、本を見て作ったりする僕のにわか料理とはまったく次元がちがう。めしのおかずにも、酒にも合う。素朴でやかましく主張するところがなく、懐の深い、毎日食べても飽きない味である。寒いから、ビールはただ家の廊下に置いておくだけで冷えている。スーパーには地元の酒蔵の「両関」がまぶしいほど、たくさんならんでいる。これを一升瓶で買い、コップになみなみと注いでは、義父と馬鹿話をして毎晩遅くまで飲む。

　山に囲まれた静かな集落で、雪かきをして絵を描き、温泉につかって、酒を飲む。ただそれだけの日々がなんとも心地よい。そう思っていると、妻がふいに、「私たち、湯治に来ているみたいじゃない」と言うのだった。

まきの・いさお｜画家。１９６４年、福岡県生まれ。東京の広告制作会社でグラフィック・デザイナーとして勤めた後、画家として書籍挿画や広告を数多く手掛ける。酒好き、風呂好き、料理好きとしても知られる。

二十歳のとき、何をしていたか？

VOLUME 33

アメリカの風に惹かれ、
浜松からニューヨークへ。
自ら切り開いた、フォトグラファーの道。

若木信吾

写真家、映画監督　52歳

わかぎ・しんご｜１９７１年、静岡県生まれ。１９９９年、祖父を撮り続けた写真集『Takuji』が国内外で高い評価を受ける。『白河夜船』などで映画監督としても活躍する他、出版社「ヤングトゥリー」を主宰。２０１０年に浜松に書店『BOOKS AND PRINTS』をオープン。

at 鎗ヶ崎交差点

photo: Kazufumi Shimoyashiki　text: Neo Iida

ピーピーピー。アリゾナの砂漠のど真ん中で、ポケベルが音を立てている。アメリカ横断中だった若木信吾さんは、公衆電話に駆け込み、番号をダイヤルした。すると「ウォン・カーウァイの撮影で浅野忠信さんが香港に行くので撮ってほしい」。しまった、パスポートはニューヨークの自宅に置いてきてしまった。相次いでロサンゼルスでｇｌｏｂｅの撮影も決定。そんなふうに世界をビュンビュン飛び回る仕事が、ポケベルひとつで決まっていく。「なんだかめちゃくちゃでした」と若木さんは20代を回想する。その長い旅は、浜松の中学時代から始まった。

「真面目に写真をやろうと思ったのは中3ぐらい。担任の先生が浜松では有名なカメラコレクターで、写真も撮っていて、『写真やりたいんです』って言ったら『じゃあ大学に行ったほうがいいな』と。当時、関東だと写真学科があるのは日芸（日本大学芸術学部）くらいで、大阪芸大もあるなあとか悩んで。まあ、まず高校行けって感じなんだけど（笑）」

高校は地元の進学校に進み、写真部に入って雑誌のコンテストや県のコンクールに応募し始めた。'80年代半ば。世間のムードはアメリカに染まっていた。

「小学校まで歌謡曲ブームだったのに、中学ぐらいで急にラジオから『American Top 40』や小林克也さんの『ベストヒットＵＳＡ』が流れ始めて。静岡エフエム放送も開局して、アメリカの音楽が入ってきたんです。レッチリもデビューし、高校に入るとRUN DMCが来日。一気にヒップホップが気になり、アメリカ漬けに」

学費が同じなら、物価の高い東京よりアメリカで生活したほうがいいと考えた。留学ブームも追い風になり、高2で渡米を決意。写真でもアメリカに惹かれた？

「日本はその頃、パキッとした広告写真が全盛で、一方で'70年代の新宿派の空気もまだ残っていました。高校生の僕にはあのアングラ感は難解で、ブルース・ウェーバーとかハーブ・リッツが撮るカリフォルニアの明るい風に惹かれたんです」

ニューヨーク出身の英会話スクールの先生におすすめの学校を聞くと、「ＲＩＴ」ことロチェスター工科大学写真学科がいいのではないかという。留学生が準備すべきは成績とポートフォリオとエッセイのみ。13歳から撮り続けていた祖父の写真を作品として提出し、見事合格。19歳になる春、晴れてアメリカに渡った。

「いったんロングアイランドにある英会話学校の先生の実家に泊まらせてもらって、マンハッタンも見物して、『こんなところで勉強するのか』ってワクワクしてたんです。でも大学のあるロチェスターはそこから車で7時間。同じニューヨーク州でも札幌と網走くらい離れてる。アムトラックで駅に着いたら、駅周辺がゲットーで注射針なんか落ちていて、学校も殺風景だし、ちょっと衝撃でした」

駅の周りは荒っぽいけれど、自然は豊か。オンタリオ湖に面したつくばのような学園都市で、湖の向こう側にはカナダの大都市トロントがある。始まってみると、大学生活はとにかく楽しかったという。

「ＴＯＥＦＬスコアが足りず、1年目は英語以外に勉強することがないから、めちゃくちゃ遊びました。夏はテニスとゴルフ、冬はスキー。夜はクラブに行って、日本人の友達もＤＪをしに来たりして。大学のカフェテリアでハウスパーティやって。19歳は普通のチャラい学生でしたね」

1年後に正式に入学。でも、学校では一切撮り方を教わらなかったんだそうだ。

「課題が出て、現像した写真が壁に貼り出されて、説明しながらみんなであーだこうだ言うだけ。楽しかったです。一般教養は1日200ページくらい本を読まないといけないから大変でしたけど」

医学写真学科も写真技術学科もハードと聞いていたけれど、若木さんがいた広告写真学科だけ非常に緩くて、卒業論文も卒業制作もなかったんだそう。

「写真館の息子なんかは地元に帰るんですけど、100人くらいいる生徒のうち、5人ぐらいは写真家を目指す。僕もその中のひとりで、卒業後は友達とマンハッタンでルームシェアを始めました」

4年の大学生活を経て、ニューヨークで独立。周りのフォトグラファーを真似て、写真のサンプルに連絡先を書いたダイレクトメールを自作して配った。しかし、アメリカ人で弁が立つ友達は仕事が決まっていくのに、自分はナシのつぶて。

「ぐったりしてたら、その友達がニューヨーク・タイムズマガジンのエディターを繋いでくれて、仕事をもらえるようになりました。1回行けば200ドルくらいもらえるから、なんとか食べられる。それでまた声を掛けてもらえたりして」

2年がたち、ビザが切れるので一時帰国した。せっかくだから営業しようと、ニューヨークの紀伊國屋書店で『デザインの現場』を買い、デザイナーや編集者の連絡先に「東京行くんですけど会ってもらえませんか」と片っ端から電話をした。

「ニューヨークではそうやって仕事をとるのが普通だったのに、日本は師匠が弟子に仕事を紹介する徒弟制が根強くて、誰もポートフォリオを持って回らない。それを面白がってくれたのか、皆さん快く『いいよ』って。ご飯もご馳走してくれるし、日本最高って思いましたね。岡本仁さんや仲條正義さん、そのとき会った方にはその後もお世話になりました」

アメリカに戻ると、少しずつ東京の仕事が入り始めた。やがて拠点をサンフランシスコに移した頃には、日本の仕事を中心に月額100万ほどの稼ぎができていた。行ったり来たりの生活だと収入は減ってしまう。若木さんはアメリカから引き揚げ、東京に軸足を置いてファッションや雑誌の仕事に邁進した。

「でも、まだ遊びの延長でした。若い頃ってお金が要らないじゃないですか。自分だけ楽しめたらいいし、稼ごうという気持ちもない。それより楽しい撮影があれば、っていう感じでしたね。『ロッキング・オン』がビースティ・ボーイズを取材すると聞いて、『俺じゃないと撮れないと思います』みたいなイケイケの売り込み方で」

写真熱が高まりを見せた'90年代。アメリカ帰りのフォトグラファーという経歴の若木さんは、特異なポジションを築いていたに違いない。26歳でパルコギャラリーで展覧会デビュー。東京で営業をしたときに展示がしたいと思った憧れの場所で、同級生のマイク・ミンさんと「Let's go for a drive」という作品群を作り、展示を行った。冒頭のポケベルのバタバタが巻き起こったアメリカ横断は、この制作の旅だったのだ。さらに28歳で祖父の写真をまとめた『Takuji』を出版。モノクロの静けさが印象的だった。20代は「チャラかった」と振り返りつつも、個展に写真集に、着実に実績を積んできた若木さん。師匠につかず、海外で道を切り開くのって不安じゃなかったんだろうか。

「大学を出てマンハッタンに行った頃はもちろんありましたよ。でもみんな必死で生きていて、能力や肩書がなくても、自分を少しでも上げて見せようっていう気概がすごかった。それは勉強になった気がします。それに、若い頃はなんでもチャレンジしようって思ってました。失敗したって、もともと何もないんだから」

取材メモ

若木さんが東京で最初に住んだ鎗ヶ崎。「当時、代官山にスタイリストや業界関係者が多く住むマンションがあって、大家さんに空室を尋ねたら『若いし小っちゃくていいよね』と別のマンションの小さな三角形の部屋を紹介されて。アシスタントがドアを開けると全部丸見え。でも結構長く住みましたよ。現像所も近くて、出来上がったら家のポストに投函してくれるから便利だったんです」

AT THE AGE OF 20

大学時代、課題「ポートレート」の解答として、セルフタイマーでシャッターを切った一枚。金髪＆ショートヘアで、〈XLarge〉のTシャツ、デニム、そして〈VANS〉。生粋の'90sストリートキッズないでたちがカッコいいし、マイケル・ジャクソンの紙袋も強くていい。この頃、映画学科の友人に頼まれて自主制作映画『アンテナマン』にも出演。街中の電波を荒らす怪人を倒す物語で、若木さんは数カットながらキーマンとなる刑事役を熱演したそう。アメリカの学生生活、羨ましい！

第12回 **ヒップホップと地元のつけ麺。** カレーを軸に考える、倍速時代における食。

味な店

SEASON 3

味なゲスト

ラッパー
TaiTan

タイタン｜ヒップホップユニットDos Monosのラッパー。2020年よりMONO NO AWAREの玉置周啓とPodcast番組『奇奇怪怪明解事典』をスタート。現在TBSラジオ『脳盗』に出演中。

平野紗季子（以下**平**） TaiTanさんがカレー好きということは存じ上げていましたが今回は、挙げてもらったお店リストからあえてこちらの『つけめん処 けんみん』を選ばせていただきました。

TaiTan（以下**T**） 嬉しいなあ。中学、高校と近くの学校に通ってたんで、土曜日にお昼で授業が終わったら必ず来てたんです。

平 じゃあ制服で来てたんですねえ。何を注文してたんですか？

T 「辛いつけめん」一択ですね。

平 じゃあ私も同じのを頼もう。どのへんが好きなんですか？

T なんなんすかねえ。僕のなかでは〝けんみん汁〟と呼んでいて。

平 けんみん汁？

T なんていうか、ずーっと食べてきた、馴染みのある味なんですよ。

平 （つけ麺来る）わ〜、つけ汁の脂が綺麗。そしてウマ！　煮干し？　担々麺と煮干しの融合？

T そうなんです。想像するあの担々麺とは全然違う感じで。

平 おいしいなあ。そう、今回初めてしっかりTaiTanさんとお話するから、楽しみだったんですよ。

T 僕も聞きたかったんです。平野さんみたいな食への好奇心って、どうしたら育まれるんですか？

平 え、TaiTanさん、カレーめっちゃ探求してるじゃないですか。

T いや、カレーだけですよ。給食のカレーとか苦手でしたし、突然変異的に好きになっただけで。『ダバインディア』に連れて行ってもらったら、もうウマすぎて。初めて自分の中の閾値を超えたんです。

平 そうなんだ。『ダバインディア』は最高ですけど、それレベルのうまいものは世の中にたくさんありますよね。なぜカレーだったのだろう？

T あんまり食に好奇心がなくて、過剰な期待をしないまま20年間くらい過ごしちゃったんで、何かを食べて爆発した経験がなかったんです。出合ったのがピザだったら、そっちにハマってた気がします。

平 なんか、食をやたら愛でてるのもかっこ悪いみたいなのもあるんですかね？

T あるんじゃないですかね。特に僕が属してるヒップホップコミュニティには「グルメ巡り」の文化はあまりないような。高級寿司より、ケバブみたいなストリートフードをいかに楽しむかですよね。

平 確かに、音楽やってる人の食のドレスコードってありそう。

T あとは『けんみん』みたいな、自分のコミュニティにある店をどう応援していくか。

平 それなのにカレーってグルメ的な追求をしていても、いけ好かなくならない。ストリートカルチャーと自然と接続できてしまうところが興味深い。

T 宇多丸さんみたいにカレージャンキーな先輩もいるし、相性はいいんだと思います。カレーって色々面白くて、日本のお母さんが作るカレーと本場のミールスは明らかに違うのに、「カレー」のカテゴ

photo: Koichi Tanoue　text: Sakiko Hirano　edit: Neo Iida

平野紗季子

ひらの・さきこ｜フードエッセイスト。1991年生まれ。PODCAST番組『味な副音声』がJ-WAVEでも放送中（金24:30〜25:00）。菓子ブランド〈(NO) RAISIN SANDWICH〉の代表も務める。Instagram: @sakikohirano

扉を開ければ、手前にカウンター、奥にテーブル席、暖簾の先に厨房、という細長い店構え。ラーメンもあるけれど、看板にもあるとおりつけ麺が人気。鰹節、鯖節、煮干しなどの魚介出汁と豚骨スープを加えた特製つけ汁は上品な辛さがあり、平野さん曰く「なんだか燻製っぽい香りがする」というスモーキーな風味も。少し縮れた中太麺は茹でたのちしっかり水にさらし、コシのある弾力に。つけ汁とよく絡む。

TaiTanさんが学生時代から食べ続けている「辛いつけめん 坦坦つけめん風」の全部入り（¥1,150）。つけ汁に味玉やチャーシュー、ワンタン、メンマがゴロゴロ。最後はスープ割りで、つけ汁の旨味を存分に味わうべし。

つけめん処 けんみん

不動前駅徒歩1分のつけ麺店。店主の藤本健志さんは新宿の『昌平ラーメン』で修業を積み、2008年に店舗を開いた。○東京都品川区西五反田5-12-3　☎03-5434-0400　11:30〜15:30・17:30〜23:00、土11:30〜21:00　日休

ラジオDJを務める二人がゆえトークテーマも自在。TaiTan「そういえば『紅茶も緑茶も同じ茶葉である』ってホントなんですか？」平野「そうですそうです、発酵や熟成の違い」TaiTan「へ〜、イーブイみたいですね」平野「茶葉は何にでもなれる」

りで一緒くたにされてるんですよ。アチャールをお漬物と思えば、ミールスは「定食」に近いはずなのに。

平 カレーって異文化の坩堝ですよね。TaiTanさんが食に興味がなかったのって、情報密度とも関係するんでしょうか。

T あるかもしれないですね。僕は修練を経てないから、何かを食べて『これはこうだ』ってマテリアルを分解できないんですよ。それより、食の外部情報に思いを馳せるほうが好きで。『エリックサウス』の稲田俊輔さんの「サイゼリヤのこの料理が290円はすごい！」っていうノリはものすごくわかります。

平 あー、ありますね。

T 調べたら、サイゼリヤは値上げをしないよう努力しているらしくて、せざるを得ない状況になったらメニューから下げちゃうらしくて。そういう「おいしい」を支えているシステムに興味を持っちゃいます。

平 私も小学生の頃、サイゼリヤに完全にナメた態度を取って、そしたら父親にガチで怒られて。「あのなあ、サイゼリヤっていうのはキッチンに炎がないんだぞ！　なのにこんなにホカホカなんだ！」って。

T それは英才教育ですね。

平 チェーンストア軽視はよくない、そこにはすごい企業努力があるんだと説かれて考えを改めました。その点カレーは、TaiTanさんにとっても外郭だけじゃなく食そのものの情報にアクセスできる楽しさがあるんですね。

T カレーくらいじゃないですか。僕の中で評価がアウターじゃなくインナーに向いてる料理って。

平 近年セブン-イレブンとかで、有名店のカレーが商品化されてますけど、それについては？

T 全部買って食べました。情報という観点でいうと、店のカレーが源流だとして、その情報が圧縮されて圧縮されて、“らしきもの”が発現している状態というか。値段も抑えてあるし、店を知る入り口にもなるからいいんですけどね。ただやっぱり、映画館のスクリーンで映画を観るのと、DVDで倍速で観るのとでは全く違う体験なわけで。

平 そっか、コンビニのカレーは倍速視聴なんだ！

T 倍速時代における食。だから半値。情報含有量が半分だから。

平 あー、面白い。速水健朗さんが日本の近代史をラーメンから読み解く『ラーメンと愛国』という本を出されてるんですけど、カレー版をTaiTanさんにやってほしいなあ。

T 面白そうっすねえ。カレーって、それこそシティボーイの7つ道具のひとつみたいになってるじゃないですか。インスタントにアカデミズム風を装える対象になってるのかなって。その辺りを考察するのも面白いかもしれないですね。

平野のまとめ

概念構築のプロ・TaiTan氏が味な店にやってくる〜！　ということで、話したいことリストを前夜にコツコツ作っていたのだが一つ一つ話が広がるやら、つけ麺がおいしいやらで、その大半も話すことができなかったので一部をここに置いておきます。またどっかで続きを話せますように。「TaiTanさんにとってのけんみんのように“人生で一番多く食べてきた飯”は、消え物である食をそれでも反復して食べ続けることでその味を体に刻む＝自分自身が味のストレージになる、という側面があると思います。私は、この味を忘れたくないという思いで、店に通い繰り返し食べることもあるのですが、TaiTanさんは同じ店に通い続けるという行為をどのようなモチベーションで行っていますか」……いや、近所だからっすねぇ……とかって言われそうなんだけれども。

#僕の私の味な店　みんなの「味な店」を大募集中！ ハッシュタグ「# 僕の私の味な店」を付けて投稿してみよう。みんなで広げよう「味な店」のおいしい輪！

家の中で一番お気に入りの空間だというソファ。レコードを聴くのもここ（よく見るとプレーヤーは2台ある）。楽器を集めるのも好きで、リコーダーはチャイナタウンで買ったもの、ソファの上の笛はネパールのものだそう。

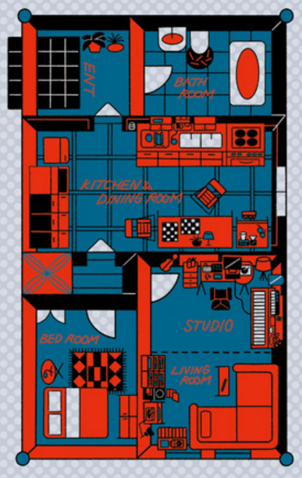
A ROOM WITH A GROOVE.

音楽家の部屋。

斬新で心地いい音楽が生まれるNYのアパートメントには、
レコードと南米という2つのルーツへの愛が詰まっていた！

——昔レコード店で働いていただけあって、レコードをたくさん持ってるね。

これはあくまで一部で、倉庫にまだいっぱいあるんだ。高校生の頃から集め始めたレコードに加えて、数年前に僕のゴッドマザーのガレージにあった300〜400枚くらいのレコードももらったからさ。オペラをやってた大の音楽好きで、Nancy WilsonやDionne Warwickとか、ジャズの名盤がいっぱいだった。最近はブラジルでレコードをたくさん買い込んできたし、他にも、激安リサイクルショッ



#19

Nick Hakim

—ニック・ハキム—

1990年、ワシントンDC生まれ。ボストン・バークリー音楽院在学中の2014年にサウンドクラウドでリリースしたEP『Where Will We Go』が数百万回再生を超え、ソウルフルなボーカルにジャンルレスなサウンドで注目を集める。'17年『Green Twins』でアルバムデビュー。

AREA	New York
SPACE	1LDK

REMARKS

ブルックリンとクイーンズの境界付近の閑静な住宅街にあるアパートメントに、2年ほど前から住んでいる。自宅の他にスタジオと、徒歩5分の距離に5平米ほどの小さな倉庫を借りている。

右／クラシカルな印象のモールディングのホワイトウォールに、モノクロ写真がよく映える。かかっている写真は父親がペルーのクスコで撮影したもの。レコードプレーヤーの隣にはちゃんとブラシとクリーナーが置いてあって、ヴァイナル愛が感じられる。左／古いものでは2007年発行のものからある『Wax Poetics』のバックナンバー・コレクションを最近読み返しているそう。もちろん『Record Culture Magazine』も集めている。「小説も好きだし何でも読むけど、今読んでるのはポルトガル語の辞書だよ。普通に本を読むようにパラパラめくって読んでるんだ」

読書中に聴くレコード、今のお気に入りは？ 「ブラジルのシンガー、ジョアン・ボスコの『Caça à Raposa』。去年リオ・デ・ジャネイロの『Tropicália Discos』で買ったんだ。サンバとファンクとソウルの融合したサウンドが最高だよ」

右／ドリンク棚にはコーヒーやお茶の他にスパイスも。ココナツミルクにターメリックや黒胡椒などスパイスと蜂蜜を混ぜた「ゴールデンミルク」をよく飲むのだそう。空き瓶に無造作に生けたポトスがいい感じ。
中／カウンターの上の棚には、思い出のものを集めた小さなギャラリーが。なかでも一番古い陶製のサックスマン人形は両親が'70年代にペルーで入手したもので、欠けやヒビを接着剤で直しながら大事にしている。
左／使い込まれた味のあるダイニングテーブルは、友人でもあるNYのレジェンド、アート・リンゼイがブラジルに引っ越す際に譲ってくれたもの。

DINING & KITCHEN

STUDIO SPACE

制作は別のスタジオですることが多いので、ホームスタジオはリビングの一角で、ミニマルなセットアップ。後ろにあるのは1920年代の「プレイヤー・ピアノ」という自動演奏機能付きのピアノ。ちょうど取材日に運び込んだばかりだそう。

プが好きでつい色々買っちゃうから、増える一方だね。本当はもっとミニマルな家にしたいんだけど、持ち物が多すぎて諦めてるよ(笑)。

―普段はどんなふうに過ごしてるの？ 家に友達はよく呼ぶ？

　レコードをかけてゆっくり本を読んだり、DVDで映画を見たり、料理をしたり。あと、この家にはかわいいピンクのバスタブがあって、おかげでお風呂に入る楽しさを覚えたよ。携帯スピーカーで好きな音楽をかけながら、しょっちゅうバスタイムを楽しんでる。コロナもあったし、最近までここにはごく一部の友達以外は呼んでいなかったんだ。別で借りているスタジオはいろんな人が来るソーシャルな空間だから、家では自分の空間を大事にしたいっていうのもある。自分ひとりの時間に慣れることも重要だと思うんだ。でも、家も片付いてきたし、これからはもうちょっと人を招こうかな。

―理想の家はどんなところ？

　前住んでいたアパートメントでは屋上にちょっとした庭があって、そこでガーデニングをするのが本当に好きだったんだ。トマトをいっぱい育てていて、森みたいになってた。お隣さんが植物園で働いていたから、珍しい種や苗を分けてくれたりしたのも楽しかったな。今の家には庭がないけど、いつか家を買ったら、小さな庭を作っていろんな野菜を育てるのがひとつの夢だよ。

NEW RELEASE

Nick Hakim
『Cometa』
(2022)

アレックス・GやDJダビ、アート・リンゼイ、弟のダニーらも参加したサード・アルバム。タイトルはスペイン語で「風」を意味し、周囲の人々や自分自身への"愛"とその高揚感がテーマ。

photo: Jacob Consenstein illustration: TRAMPOLINE edit: Hikari Hakozaki

新社会人のみなさんも！　慣れない仕事に疲れたら
サッカー観たり、サウナ行ったり、気張らずに行こう。

POPEYE FORUM

ぽってりかわいい〈はりこま屋〉の張り子。山形県内のショップで購入できる。制作の様子はインスタで。@harikoma998

左／自宅兼工房には民芸品がぎっしり。棚の下段には米沢市笹野地区のお鷹ぽっぽ。右／インスタで愛嬌を振りまく小松さん。モットーは「自分が楽しくないと人を楽しませられない」。

願いを叶え鯛！　我が地元、山形県酒田市のニュー土産。

最近は『ブルペン』のポップアップや、職人さんや作家さんに会う用事で地方に行くことが多く、ついでにご当地の民芸品を探すのも楽しみのひとつ。そんななか、POPEYEのガールフレンド号で地元・山形のページを手伝ったときに出合ったのが、酒田市の郷土玩具の張り子だ。小松広幸さん、かおるさん夫妻が〈はりこま屋〉の屋号で製作しており、手仕事ならではの素朴な温かさと愛嬌のあるデザインはまさに今の気分だなと思った。工房を訪ねると、初めましてのはずが「もしかして、あの庄司くん？」「え、小松先生!?」。まさかの高校時代の部活の顧問だった！　先生は当時20代で若くて、正直印象は薄かった（スミマセン！）。でも20年ぶり位に再会したら、民芸から地元の歴史までめちゃくちゃ詳しい。なんでも学校を辞めたあと、観光情報の発信、特産品開発の仕事に就き、その中で、土産になる民芸品が少ないと思い、5年前から独学で張り子を作り始めたんだそうだ。風土が伝わるよう、モチーフは特産品や伝統行事。オリジナルの験担ぎも楽しい。「山芋サル＝病も去る」「猿むすび＝縁結び」「叶え鯛＝叶えたい」。そして金運アップを願う「金餅うさぎ＝金持ちうさぎ」。今では縁起物として毎年飾るお店も多いそうで、地元に新しい伝統が生まれているのが嬉しかった。いつか一緒に面白いことができたら。先生、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします！

庄司真吾

『BULLPEN』共同代表

しょうじ・しんご｜山形県生まれ。最近は定期的に地元に帰郷する。別注張り子も計画中。@bullpenshop

お気に入りの席からの眺めはご覧の通り。真っ赤に染まるスタンドは圧巻。スタジアム外ではジーコ像が出迎えてくれる。

Jリーグは今年で30周年！　シティボーイよ、スタジアムへ行こう。

30年前、Jリーグが開幕した。僕は小学生でちょうどサッカーを始めた頃だった。地元の茨城にチームがあるのはなんとなく知っていたが、開幕戦で神様ジーコがまさかのハットトリック！　その瞬間から鹿島アントラーズ一筋。サッカー人気の気運が高まっている今こそ、Jリーグをスタジアムで観戦する魅力を伝えたい！

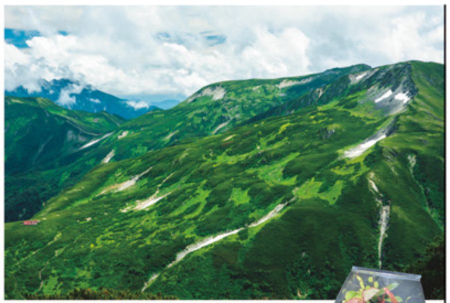
今でもなるべくカシマスタジアムまで地元の友達と足を運んでいる。僕が好きな席はサポーターシートではなく、ピッチから見て真ん中寄りの全体が見えるちょっと後ろのほう。そこから赤のユニフォームを着て熱視線で選手たちを静かに見守る（時々、叫ぶ）。そこから見るサポーターの迫力が最高で、これぞ生観戦の醍醐味。試合中は中継ではわからない選手たちの声や表情、運動量も伝わってくる。みんな簡単そうにボールを蹴って自分もできそうって思うんだけど、そんなわけない（毎回錯覚する）。あ、忘れちゃいけないのがスタジアムグルメ。場内には音楽フェスのように、おいしそうなお店で溢れている。カシマスタジアムの名物はもつ煮で、とろけるくらい柔らかく煮込まれたもつをビールと一緒に。最高なひとときを（運転手には申し訳ない）。

東京から片道約3時間かけ、どしゃぶりの中試合を観て、チームがお粗末な試合をして機嫌を損ねても、また次の週にいつも通り応援しちゃう。そんな思い入れのあるクラブが在ることは幸せですよ。

須藤勇介

『MILK TEA SERVICE®』代表

すとう・ゆうすけ｜茨城県生まれ。特製ミルクティー引っ提げポップアップで出店中。@milkteaservice



上／雲ノ平山荘AIR滞在中に撮影した写真。右／ジメジメ系植物。ピンクの柄が緑に映える。

植物を置ける出窓があるという理由が決め手となり、最近引っ越しをした。メタル作家の菊池奏美から購入したお気に入りの置物と共に植物たちを愛でている。

尽きぬ高山植物への興味。山に登れば財布が枯れる。

生き物好きを自称して二十数年。なぜか植物にはピンとこない人生だった。しかし、この頃植物がアツい。ハマっているのは熱帯の高山植物。ピンクのドット柄やら、棘やら、ビロードのような毛やらヘンテコなのだ。具体的にはベゴニアやホマロメナ、ビカクシダなど。流行に敏感な人からはもう遅いと怒られそうだが、値段はこなれ、ネットの情報が増え、入門するには案外都合が良い。

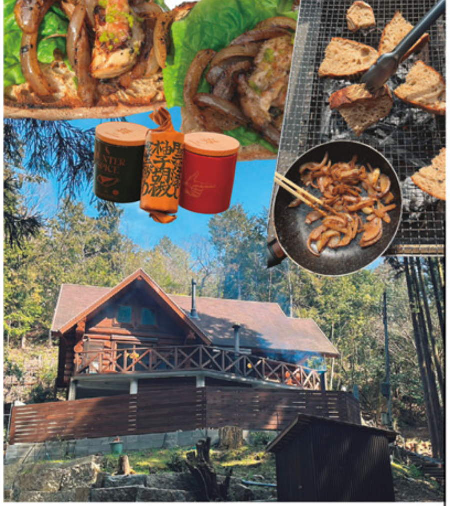
昨夏を北アルプスで過ごした。雲ノ平AIRという企画に参加し、標高2600mにある山小屋で滞在制作をしていた。そこは2日間歩かなければ辿り着かない奥地だ。道中15kgもあるバックパックの重さに頭を垂れてゾンビのように歩いていると、目に留まるものがあった。モウセンゴケという食虫植物で、高山の水が綺麗なところに自生する。ホームセンターでも稀に見るが野外で出合う感動は筆舌に尽くし難い。玉状の粘液を葉先に蓄えて、これで虫を獲る。感動のあまり舐めてみたが味はしなかった。山登りする人には見慣れた植物だろうが、虫捕りでせいぜい標高800m程度しか訪れない僕には面白い出合いで、下山直後から植物書籍『MIST LOVERS』をめくっては気になる植物を買い漁る生活に転身するには十分なキッカケだった。それでは今頃、部屋の中は鉢で埋まって大変だろうと心配するなかれ。一向に上手くなる気配がなく、相当枯らして今や財布まで枯れてしまいそうなのだ。

岩崎広大

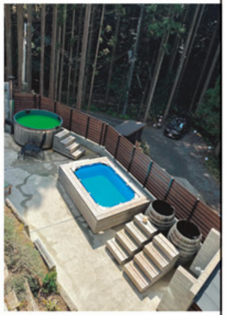
現代美術作家

いわさき・ひろまさ｜昆虫の翅に風景をプリントした作品や昆虫図鑑を作った。iwasakihiromasa.com

edit: Neo Iida, Rio Hirai



最高のロケーションでBBQ。『食堂おがわ』の柚子胡椒と『HUNTER』のスパイスは京都のお土産にもおすすめ！



予約はすぐに埋まってしまう（連れて行ってくれた友人に感謝！）ので、Instagram（@replus075）を逐一チェックするのが吉。1日1組で10時から18時まで存分にサウナを楽しむことができる。

森の中のサウナで、春の京都を満喫する。

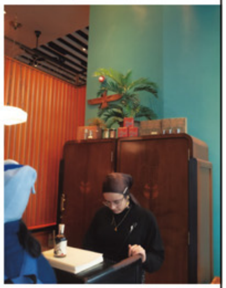
京都の中心部から車で15分ほど走ると、木々が生い茂る森の中に。細い山道の先には、ログハウスのプライベートサウナ『Replus』がある。ここは一棟貸しで、丸っと一日滞在できてBBQまでできてしまう最高の場所。

一息ついたら水着に着替え、さっそくサウナにイン！　薪ストーブを使用していて、2段ベンチの上段角に座ると、まろやかな熱気でじんわりと温まってくる。この日は3月上旬、一気に春めいて連日20度以上の晴れだったので、薪の乾燥具合も最高で、完全にサウナ日和。お茶と白樺、2種類の香りのアロマ水が用意されていて、セルフロウリュすると、熱気と香ばしい香りに包まれ、たちまち汗だくに。サウナを飛び出すと、デッキには樽の水風呂と大きなプール！　シャシャッと汗を流して、樽にドボン！　目の前を流れる鴨川源流の天然水を使用しており、山水の冷たさにグッと身が引き締まりつつ、整い椅子へ……。見上げると聳える森の木々、鳥の鳴き声、程よい春の日差し、心と体がほどけていく感覚だ。さ〜て、2セット終えてBBQタイム。『大西』のお肉に、友人持参の『食堂おがわ』や『HUNTER』といった京都の名店のスパイスで味付け『クルス』のパンに乗せて食べる。なんとも贅沢な京都オールスターズ！　その後もサウナに戻ったり、〆の焼きそば食べて、またまたサウナに入ったり。サウナと共に、京都の食と自然を五感で楽しむ大優勝の一日だ。

片木希依

ピアニスト

かたぎ・きえ｜京都を拠点にバンドJizueのピアニストとして活動。4月19日に大阪でソロライブも。



上／店のまわりには古着屋さん。中／『DISHOOM』の様子。下／これで15ポンドくらい。インドのチャイは、イギリスの紅茶を通じて生まれたという話もあるらしい。

ロンドンで触れたのは、インドと日本のカレー愛。あと優しさ。

インドカレーよりも、日本のカレーが好きだ。家庭でよく見る、小麦粉入りのとろみあるタイプ。

先月友人に会いに人生で初めて行ったロンドンで、日本のカレーに触れた。飛行機で23時間かけて到着した朝、真っ先に向かったのはカレー屋。「ロンドン1食目にカレー？」と思う勿れ。日本のカレーは、インドを真似たイギリスからはるばる伝わったのだから。イギリスのカレーと、インドの米で「カレーライス」なのよ。

お香の香りが漂うインド料理店『DISHOOM』に入り、目玉の〝インド風〟イングリッシュ・ブレックファストを注文した。しゃびしゃびのスクランブルエッグにパクチーとグリーンチリ、ひよこ豆のミネストローネにマサラスパイス。インドのカレー文化を、自国らしく噛み砕いていて（はたまた逆？）面白い！　特に若者の間で流行っているらしく、古着街にあるそれはまるで下北沢。見渡すと日本人もちらほら。やはりイギリス式のカレーが馴染んでいるのでしょうか。ロンドンで食べるインド料理で、日本を想う時間。カレーってどこの国でも愛されている。

余談だが「DISHOOM」はロンドン指折りのホワイト企業らしく、待遇が良いためかスタッフの気前が良くて優しかった。退店時に鞄を忘れて帰ったアホな私に鞄を届け、お香と朝食無料券をくれたのは忘れません。ありがとうロンドン、ありがとう『DISHOOM』。また必ず行くね。

川端うの

編集、ライター（FIUME inc）

かわばた・うの｜1999年、福井県生まれ。2022年に金沢から上京し、編集の世界で修業中。酒場が好き。

今まで作ったビーズアクセサリーと集めているガーリーモチーフ。枯れかけてしまった花びらは水を張った器に浮かべると良いらしい。これは学生時代に読んだ中原淳一さんの本から得た知見。

幼い頃の記憶を呼び覚ます、〝ガーリーテイスト〟と私。

去年、NewJeans のY2Kリバイバルのお手本のようなビジュアルに触れた衝撃で、1999年、市川実日子さんを見て「こんな男の子になりたい！」と思った11歳の私が目を覚ましました。Y2Kは〝ガーリーカルチャー〟が日本でも流行した時期。子供の私は〝ガーリー〟にずっと憧れていたのです。インナーチャイルドを癒すため、ハート、星、テディベアなどをモチーフにしたビーズアクセサリー作りに熱中し、ギンガムチェックやパステルカラーのアイテムを集めるようになりました。最近はこの感覚をイラストのお仕事にも活かすようになり、「男の子なのに」と言われてしまうからという理由で遠ざけていた〝ガーリー〟が今では立派な生活の糧に。嬉しいです。今年の春は、イラストレーター・須藤はる奈さんのグッズ〝うさぎさんキーホルダー〟をいかにお洒落に身につけるか？　思案中です。

〝ガーリーカルチャー〟の定義のひとつは、女性たちによる芸術表現の中に〝自発性〟が見られることだそう。当時はファッションにおいても、それがハイヒールやミニスカートであれ、ショートカットやパンツスタイルであれ、〝自分が好きだから〟という理由で選ぶムードが強かったそうです。男性社会の評価軸とは距離を置いた主体的な選択が〝ガーリー〟なのでしょう。私ももっと〝ガーリー〟を実践し、子供時代の自分を癒していこうと思います。

カナイフユキ

イラストレーター、コミック作家

長野県生まれ。エッセイなどのテキスト作品や、それらをまとめたジンの制作も行う。@fuyuki_kanai

私の BEST DISHES 3

vol. 132

来たるあたたかな季節を感じる
清爽なサラダの冷たいおうどん。

1

『うどん豊前房』の
香味野菜のサラダうどん

ちゅるんと滑らかな手延べうどんを堪能できる創業25年目のうどん屋。お酢とごま油を加えたお出汁の酸味と、クレソン、みょうが、大葉、玉ねぎのサラダとの爽やかなコンビネーションに一足早く夏気分。¥1,155

東京都目黒区東山1-11-15 ☎03·3710·5425 11:45～14:30・18:00～LO21:00※売り切れ次第終了（月・祝は昼のみの営業）日休

更けゆく夜の三軒茶屋で
ユダヤ伝統の素朴な料理を。

2

『Nicolas』の
真イワシとエンダイブのオーブン焼きユダヤ風

店内にピアノや書籍が置かれた詩情溢れる夜のカフェ。ユダヤの古いレシピを参考に、シャキッとした食感の野菜、エンダイブと真イワシを塩とオリーブオイルのみで焼き上げた一皿は、驚くほど味わい深い。¥950

東京都世田谷区太子堂4-28-10 鈴木ビル2F ☎03·6804·0425 16:00～24:00 火・第3水休

バンズの代わりにフレッシュレタス！
ポップなビジュアルにヘルシーな食べ心地。

3

『モスバーガー』の
菜摘ロースカツ

一部商品のバンズをレタスに変更可能な「菜摘シリーズ」。レタスと千切りキャベツでふんわり包み込まれた、甘味のあるオリジナルカツソースが絡んだロースカツを頬張れば、健康的な満腹感が味わえる。単品¥500

『モスバーガー 十日市場駅前店』〇神奈川県横浜市緑区十日市場町805-3 ☎045·981·3737 9:00～22:00 無休

今月のグルマン

前田エマ
モデル

まえだ・えま｜1992年、神奈川県生まれ。大学在学中からモデル、エッセイ、写真、ペインティング、ラジオパーソナリティなど様々な分野で活躍。2022年には初小説『動物になる日』（ミシマ社）を刊行し、うどん屋で働く主人公の視点から人生や働くことの意味を描いた。

とにかく野菜が食べたいんです。

そこまで食事にこだわりはないのだが、はじめて友人と海外旅行へ行ったとき、肉とポテトのオンパレードの日々に「ああ、野菜が食べたいな」と、ポロッと口に出してしまった。美味しいものに目がなく、素敵なお店に連れ回してくれた友人に対して、なんてことを言ってしまったのか。後悔先に立たず。反省している私に返ってきたのは「野菜ジュース持ってくればよかったね～」の一言で、開いた口が塞がらなかった。そんなわけで「野菜を食べている！」と実感できるのは私にとって大切な、外食条件だ。

中目黒にあるうどん屋『うどん豊前房』は、黒くない関西風の透明な出汁。はじめて訪れる人には、あたたかいうどんを啜って、まるで温泉に浸かっているようなホッとするやさしさに包まれてほしいのだが、2回目以降の人には冷たい「香味野菜のサラダうどん」をすすめたい。ていねいに扱われたシャキシャキなクレソンとミョウガがドサッと載っており、ごま油の香りが食欲をそそる。まろやかなお酢と、麺のつるん、むきゅっな食感がやみつきになる。夏バテのときもお世話になる、さわやかな一杯だ。

三軒茶屋の本屋『twililight』を覗いた後に必ず訪れるのがカフェ『Nicolas』。まるでひとつの物語を読み聞かせるように説明してもらえるナチュールワインや、一風変わった季節限定のパスタも最高なのだが、私の激推しは地味で映えない「真イワシとエンダイブのオーブン焼きユダヤ風」だ。独特の苦味を持つ葉野菜・エンダイブは、焼くと岩海苔とか焼き海苔のように香ばしくなる。そこにイワシの脂がじゅわ～っと絡み合い、ワインがすすむすすむ。かつてローマの恵まれないユダヤ人たちが、生活の知恵の中から生み出した料理。そこからの学びが姿を少し変え、今ご馳走として私の目の前にある不思議。

ガッツリ食べたいわけじゃないけれど、お腹を満たしたい。そんなときにスマホで調べるのは近くの『モスバーガー』だ。テリヤキやライスバーガーなど、画期的な商品を数多く誕生させてきたモス。私のお気に入りはバンズの代わりに、大量の新鮮なレタスでパティを挟んだ菜摘シリーズの「菜摘ロースカツ」。毎朝パンを食べる私を炭水化物の罪悪感から解放してくれるだけでなく、4℃の冷水で洗ったレタスの存在感に感謝感激。甘辛いタレも絶妙。私にとってこれはポップで手軽なトンカツなんです。

text: Emma Maeda　photo: Naoto Date　illustration: Adrian Hogan　edit: Shoko Yoshida

LISTEN TO T-SHIRT

音楽とTシャツと私

BY KUNICHI NOMURA

VOLUME 01 新連載

Featured Artist
BEASTIE BOYS

Base: USA | Genre: HIP HOP | Period: 1978-2012

ハードコアバンドthe Young Aboriginesから結成されたNY発、MCA、マイクD、アドロックの3人からなるヒップホップグループ。Def Jamに所属していたのは1984〜1992年、その後自身のレーベルGrand Royalを立ち上げた。スパイク・ジョーンズと親交があり、「Sabotage」などのMVは彼が手掛けた。2012年にはロックの殿堂入りを果たすも、同年、MCAががんで他界。以後、グループとしてのライブは行っていない。

今月のTシャツは、間違いなく、'80年代後半のカルチャーを作っていたアーティスト。

はい、映画ばかり観て家にいてもしょうがないので、外を歩きながら聴ける音楽テーマ、バンドTを紹介していきたいと思っていますよ！　バンドTもね、聴いたこともないのに着たり、どっかの有名人が着てたからという理由で着たりするのはノンノンノンノン。まずはちゃんと音を聴いてから。昔、アメリカで仕事ではハイファッションの服をバリバリ着こなす売れっ子モデルが普段はメタリカのTシャツ着てて、喋るとガチのファンでやたら詳しく、かっこええと思ったが、バンドTが流行ってからは、俺が着ていたブラック・フラッグのTシャツを見て「あたしもそのブランドの持ってるぅ」とか言われて愕然としたりすることが多々起こるようになった。ブランドじゃないで、バンドやで。というわけで最初は'80年代のビースティ・ボーイズT。ビースティの凄さを話すのは難しい。楽曲も素晴らしいけれど、それ以上に着こなしや当時作っていた雑誌『グランド・ロイヤル』でブルース・リーやリー・ペリーをフィーチャーして再び脚光を浴びさせたり、もうカルチャーを作ってるぜ感が半端なかったんですよ。それは時代の空気感という奴で、その同じ時代に育っていなければなかなかわからないと思う。ハードコアバンドとして結成されてから、ヒップホップにハマり方向転換、そっからダストブラザーズと組んでサンプリングを極めた作品を作ったり、楽器を自ら演奏する生音志向になったりアルバム毎に表情が違うのだが、やはりここは1stから。それも最大のヒット曲となった「(You Gotta) Fight For Your Right (To Party!)」。パーティする権利のために戦えと歌う、おふざけパーティチューンだが、これで踊り狂った思い出のあるおじさんたちは異常に多いよ。まぁ音的には2枚目の『Paul's Boutique』がいいね、とか言っておけばそれも良し。ちなみにこのTシャツはDef Jam時代のもので、背面には「俺のポコチンから離れろ！」と書いてあるので、着るときは場所を考えるか、もしくは手前のブツに自信がある人用ですよ。

聴くならまずはここから。

Album Licensed To Ill／1986

Song (You Gotta) Fight For Your Right (To Party!)

レッド・ツェッペリン、ブラック・サバスといったハードロックやヘビーメタルからジャズやソウルまで幅広くサンプリングしたサウンドの作品。バンド編成の楽曲もあり、ギタリストとしてスレイヤーのケリー・キングも参加している。ヒップホップ作品として初めて全米アルバム・チャートの首位に輝いた。

野村訓市｜1973年、東京都生まれ。海外放浪の旅を経て、雑誌編集、執筆活動を中心に活動する。毎週日曜日20:00〜『TUDOR TRAVELLING WITHOUT MOVING』(J-WAVE)のナビゲーターを務める。

photo: Hirokazu Kobayashi text: Kunichi Nomura

SCIENCE ON THE TABLE

机の上のサイエンス。

その23 陸産貝類殻拡大模型

ミステリアスな極小カタツムリ

とてもユニークな形をしているものが多く、熱烈な愛好家も多い小型陸産貝類。極小のカタツムリの世界だ。その小ささゆえに、まだ生態については多くの謎が残されている。そんな小型陸産貝類の造形を直接手で触れて観察できるようにし、このジャンルの魅力を多くの人に知ってもらいたい、と作られたのがこのホワイトモデル。小さいもので2㎜程度、大きくても3㎝程度の原寸となるが、それを10㎝程度に拡大している。異常巻きのようだったり、極端に扁平だったり、まるでSF映画のクリーチャーのようなミステリアスなデザインは、「なぜ、この形に!?」という好奇心を鋭く刺激してくる。制作するのはカタツムリ専門の博物館「ラセン館」の代表、河野甲さん。もともと造形作家でもあり、こうした精密な立体物を作るのはお手のものだ。3Dスキャンのデータではなく、自らの目で観察してコツコツ手作業で原型を作っており、人の手作業の味わいが感じられるところもいい。

1 *Torrecoptis decipiens (Cuba)*
2 *Calostropha stevenliei (Indonesia)*
3 *Geoscala seminude (Jamaica)*
4 *Rhodea mariaalejandrae (Colombia)*
5 *Whittenia vermiculum (Malaysia)*
6 *Cerion disforme nodali (Cuba)*
7 *Diplommatina superba superba (Malaysia)*
8 *Plectostoma margaretchanae (Malaysia)*
9 *Diplomphalus solidulus (New Caledonia)*

「小さいもので2㎜以下という極小サイズながら、人とほぼ変わらない内臓機能がある、ということに驚きを感じる」という河野さん。ホワイトモデルは、ポリエステル樹脂に石粉を混ぜて硬化させたものでできている。各¥13,200 5番のWhittenia vermiculumのみ参考商品（ラセン館☎0774·76·4988）

TEXT&EDIT: SHOGO KAWABATA PHOTO: AKIRA YAMAGUCHI

「近代ゾンビ映画の父」と言われるジョージ・A・ロメロ監督。2017年に77歳で亡くなった監督の業績を後世に残すべく、残された妻のスザンヌが「ジョージ・A・ロメロ財団」を設立。現在世界各国に支部があり、日本支部の運営を任されているノーマン・イングランドさんと児嶋都さんにお話を聞いた。ノーマンさんのゾンビ愛は、僕がこれまで会ったゾンビファンの中でも頭抜けてアツい。

まさにゾンビと人生を共にした男だった！　NYの郊外に育ったノーマンさん最初のゾンビ体験は、13歳のときにテレビで見た『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』（ロメロゾンビ第1作)。「SFが好きな子供だったけど、それまでのどの映画とも違う！　って思ったね。ホラーは時代劇やヨーロッパが舞台になることが多かったから。それが現代劇！　人間を食べる描写も最高にクールだって感じたよ。しばらくして、おじさんから『ナイト・オブ〜』の海賊版8ミリフィルムをもらって勝手に上映会をしまくったんだ。学校や庭や教会でも」ノーマンさんがゾンビウィルスに感染した瞬間だった。そして'79年大ヒットとなったロメロゾンビ第2作『ゾンビ』が公開される。「初めて見たときにすぐ分かった。これが僕の一番好きな映画だって。それから今まで映画館で54回見た。各種ソフトを入れると350回以上見てる（笑）」本作の舞台となったショッピングモールは映画を見まくって、全フロアを平面図におこした。まさにオタク道である。パートナーの都さんが語る。「'80年代初頭は、まだロケ場所のモールがどこにあるかなんて知られてなかったんですよ。それをノーマンの弟がピッツバーグで偶然見つけ、彼はすぐにモールの写真を撮りに行った。多分、ゾンビのオタク活動をした最初のアメリカ人なのかも」そして今、ノーマンさんの手元には劇中で出てくるエレベーターの壁やタイルが綺麗に保管されている。「今でもモールはあるんだけど、改修工事を繰り返してるから、映画の中の風景はどんどんなくなっていく。当時僕がモールから持ってきたものもあれば、十数年前に友人が工事現場で交渉してゲットしたものもある」ゾンビが好きすぎて、もうゾンビ自体ではなく、建物へ興味が向いているところが最高だ。そして'93年、ノーマンさんは来日し、ひょんなことからゾンビの原稿を書くようになり、SF・ホラー映画の専門誌『ファンゴリア』の日本特派員として活動。以降、ホラー映画の字幕翻訳なども手がけるようになる。そして'98年、ロメロ監督が、日本のゲーム『バイオハザード2』のCM撮影のためロサンゼルスに。現場にノーマンさんも参加し、ついに憧れのロメロ監督と一緒に仕事をすることに。「あんなに会ってがっかりすることのない人を知らないよ。世界一好きな人間だった。優しくて、気さくで、謙虚な人。撮影のモニターを見ながら、横に座る僕に『カット！　ノーマンどうだった？』って聞いてくれた。本当に嬉しかった！」これこそマニアにとって最高の夢だろう。ゾンビのモールのかけらを集めていた男は、その情熱で、ゾンビの生みの親と、ゾンビを見つめたのだ。「ロメロ作品には社会風刺が盛り込まれており、ゾンビは弱い大衆の象徴で、死んでもモールに集まる様子は消費社会への批判だった。監督自身がとっても自由を愛する人で、リッチな生活を望んだ人でもなかった。当時まだ差別意識の強かった映画界で、黒人俳優を主役にし、スタッフに女性を多く雇用した。ブッシュやトランプが大嫌いで、結局アメリカに嫌気がさしてカナダに移住した。そんな彼も晩年は奥さんに『自分が死んだら誰も自分の映画なんて見ない』なんて言ってて、自己評価が低いところがあって…そんなわけないじゃないか！　ってやり始めたのが『ジョージ・A・ロメロ財団』なんです」僕も一ゾンビファンとして思う。監督のゾンビというアイデアは、自身の作品だけにとどまらず、多くの派生作品を生み出して遂にジャンルになった。そんな作品を撮った監督は映画史の中でも特別な存在だと思う。財団の活動はまだ始まったばかり。SNSで本国からの情報を共有したり、ピッツバーグ大学と協力して未公開のロメロ作品の公開や保存の活動もしている。将来日本でのイベントも開催したいという。ロメロ監督！　ご安心ください。監督が亡くなっても、ノーマンさんと都さんが日本人をまだまだ感染させるつもりですよ！

青春歌

「追跡」 ゴブリン

映画『ゾンビ』のサウンドトラックを手掛けたゴブリンのアルバムの一曲。ノーマンさんは聴くたびに気分が高揚するという。

おかむね・しゅうご｜テレビディレクター。代表作に『BAZOOKA!!!』『全日本コール選手権』シリーズなど。著書『煩悩ウォーク』もヒット。

ノーマン・イングランド｜1959年、アメリカ生まれ。「ジョージ・A・ロメロ財団（GARF）」日本支部（@theGARF_Japan）代表。映画コラムニスト、映画字幕翻訳者（@normancengland）。こじま・みやこ｜GARF－Japanアンバサダー。ホラー漫画家、イラストレーター（@miyakocojima）。GARFとメンバーお二人の活動はTwitterの各アカウントをチェック。

ノーマン・イングランドさん　児嶋 都さん

ロメロの映画を心から愛し、
ゾンビと人生を共にする青春さん。

1. 1997年、LAで『バイオハザード2』のTVCM撮影現場にてロメロ監督と。2, 5. 1983年、ノーマンさんが初めてモンローヴィル・モールを訪れたときに撮影。3.『ゾンビ』に出てくるモールのエレベーターの壁の額装。4. モールに設置された血圧測定器で血圧を測るノーマンさん。6. モールの駐車場にて。後方の建物は『ゾンビ』ファンのスティーヴン・キングが一室を購入したマンション。7. 2018年、『ナイト・オブ・ザ・リビングデッド』50周年記念の上映でラッセル・ストライナーと。8. 8歳のノーマンさん。9. 題字が緑なのがレアな『ゾンビ』のプレリリース・ポスター。

第58回

青春狂の詩

岡宗秀吾

ただ「好きだから」という気持ちだけで一つのことに熱狂し続ける人たちがいる。そんな“青春”の輝きを愛する、TVディレクター岡宗秀吾が、彼らの魂に触れるドキュメント。

text: Shugo Okamune

"watercolor hydrant"

Nick Dahlen

ニック・ダーレン｜ペインター、イラストレーター。アメリカ・ミネアポリスを拠点に活動。1年間グラフィックの勉強をするものの、思った職につけず20代後半まで窓拭きの仕事をして生計を立てる。2015年にインスタグラムで作品をシェアし始めたことで活動の幅が広がる。今年の夏に台湾で個展を予定しいる。@nickdahlen_

“apple”

10 Questions for Nick Dahlen

—— アートを始めたきっかけは？

Nick 『スタイル・ウォーズ』を観たのがきっかけでアートに目覚めました。ただ、絵画の先生はいつも写実的な絵を上手に描ける子を褒めていたのでアートが嫌いになった時期もありました。

—— 現在はどこを拠点に活動しているのでしょうか？

Nick ミネアポリスです。今はここが生涯の場所に思います。

—— あなたにとって、最近の大きな変化は？

Nick アパートとスタジオを手に入れたこと、東京に行くこと。

—— 影響を受けた本はなんですか？

Nick 集中力がないからあまり本は読まないんですが、最近読んでいるのは音楽家J Dillaについて書かれた『DILLATIME』です。

—— 好きな映画は？

Nick 家にテレビがないのであまり映画は観ません。

—— 好きな食べ物は？

Nick 母が作ってくれるラザニア。最近はナスのラザニア。

—— 自分を一言で表すと？

Nick 執着心、自発性、自由な精神、遊牧民。

—— 絵のテーマがあれば教えてください。

Nick うーん。人生、交友、闘争、シンプルなものへの喜び。

—— 好きな色はなんですか？

Nick 青と緑。私にとっては脳に響く色なんです。私の占いのサインは地球なので地球のカラーはしっくりくるんだと思います。

—— 今後の予定について教えてください。

Nick 彫刻をやりたいのですが、何から始めたらいいのかわからないので、今はもっと巨大なペインティングやスクリーンプリントを作りたいです。

edit: Mayumi Yamase

hello, Work

こんな仕事があったのか

Work 33 アートハンドラー 大木宗憲

すべては壁から壁へ、無事に届けるため。責任と想像力を持って美術品と向き合う。

「私の仕事は美術品のハンドリング。つまり作品を輸送することなのですが、そこにはWall to Wallという世界共通の概念があります。これは、例えばルーブル美術館にある絵画が東京、ソウル、南米……と世界巡回するときに、壁から外して掛け戻すまで、もとのコンディションを守ったまま作品を移動させるということ。それは子供の落書きや壁にかけない立体作品も同じで、どんな美術品も無事にお客さんのもとへ送り届ける。それがこの仕事の本質です」。そう話すのは大木宗憲さん。彼は現在、寺田倉庫を母体としたTERRADA ART ASSISTに所属。作品の輸送や修復、保険の取り扱いといったアート関連のサポートをするこの会社において、梱包、輸送、展示を手掛けるアートハンドラーだ。

「ハンドリングは現地へ赴き、作品の状態を下見することからスタート。大きな作品や建物と一体化した壁画の場合、建物自体を壊したり作品を解体したりできるのか、そもそも搬出入できるのかという点も相談します。そこから作品に応じて梱包、輸送しますが、期日がなければ台風や梅雨の時期の運搬を避けたり、暑い日の作業は特に空調管理に気をつけたり。運ぶ人間の汗によるダメージも想定して紫外線と湿気の対策を徹底。また、絵の場合は長時間壁に掛けないと反ってきてしまうし、オブジェは夜間に地震が起きて倒れる可能性がある。そういった点からも一刻も早く展示と固定をしてあげたほうがいいので、設置作業までが大切な仕事」と大木さん。他にも「トラック数台で移送するときは、橋やトンネルが崩れても作品を全滅させないよう、一つの橋を1台が渡り切ってから次が渡る」というように、まさに命に代えても美術品を守る覚悟が必要な仕事だが、気になるのは彼がこの道を選んだ理由。聞けば大木さんは服飾メーカーで販促デザインを手掛けたのち、技術指導のボランティアのためにイスラエルへ渡るものの湾岸戦争が勃発。退去命令を受けて帰国した後は22年間マイセンの絵皿や陶板に特化した額装と修復の仕事をしていた。

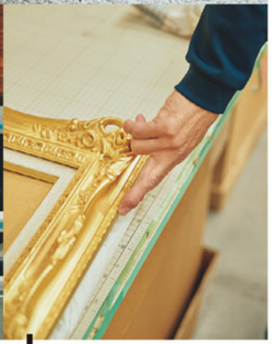
「世の中には戦争や災害で生き残った美術品を扱う団体やハンドラーがいるんです。私自身イスラエルで戦争を経験したこともあり、長らく額装や修復をしながらも彼らに興味がありました。そして知人のハンドラーがカイロ博物館の立て直しに関わることになり、その仕事を近くで見ていたところに東日本大震災が発生。それがきっかけになって自分も美術品輸送をしてみようと思ったわけです」。かくして大木さんは、美術品部門を持つ輸送会社へ入社。そこでさまざまな展覧会に携わって経験を積んだのちに、2018年にTERRADA ART ASSISTへ。

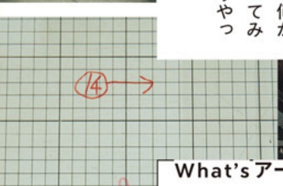
「現在は現代アートが中心。例えば過去に何度も運ばれたことがある阿修羅や千手観音は『手から外す』といった手順が記録されているし、一般的な美術品取り扱いの手引もある。ですが、初めて移動する作品は梱包の仕方から考える必要があります。そういうときに『この額は金箔がまだ乾燥しきっていないので、きつく包まない』と判断ができたり、展示する際も美術館によって絵画を設置する位置に基準があるものの、『大きな抽象画は離れた場所から全体を鑑賞できるよう高い位置で』と、一番いい状態で見せてあげられるように考えたり。額装や絵を描いていた経験が少しは生きているかもしれません」と大木さん。しかしながら「この仕事をするのに特別な能力はいらない」と続ける。

「知識があったほうが有利だし楽しめるけれど、古美術、ファインアート……と美術の世界は広い。どの作品も大切に扱う上で、自分の好みがかえって邪魔になることもある。大事なのは、トイレに行ったら手を洗うといった最低限の衛生感覚があることと、想像力です。例えば10万人が来場する展覧会のときに、地震のことだけでなく、一枚の絵の前で20万歩分の振動が起きるという発想をして適切な設置ができるかどうか。全長5mの絵画を輸送するときは10人がかりで運んだり、高さ3mもある大型作品のクレート(絵画輸送箱)を作らなければいけないときは機械を活用したり。もちろん予算の問題もあるけれど、何か課題が生まれたら工夫する気持ちを持ってみんなで相談すればいい。なにより、そうやって考える時間が楽しいんです」

大木宗憲

おおき・むねのり｜1961年生まれ。東京藝術大学美術学部デザイン科卒業。服飾メーカーで販促デザインを手掛けたのち、額装・修復師として22年間活動。2011年に美術品輸配送の道へ。2018年、TERRADA ART ASSIST入社。





What'sアートハンドラー

美術品の梱包、国内外の輸送、保管、展示をする。必須条件はなし。「心がけているのはケアする気持ちを持つこと。例えば言語や規格が違う国へ作品を送る際、盗難対策を取りつつもハンドラー同士だけにわかるよう梱包の解き方のヒントを残したり。後に引き継ぐハンドラーのことまで考えられる人が一流だと思います」

photo: Kento Mori　text: Ryoko Iino

ぼくの伯父さんを紹介します。

文　岡本仁

第8回

かまやつひろし／ムッシュかまやつ

1939年生まれのミュージシャン、俳優。父は日系2世でロサンゼルス生まれのジャズ・シンガーであるティーブ・釜萢。ロカビリー歌手としてレコードを制作後に、ザ・スパイダースに加入。「バン・バン・バン」「なんとなくなんとなく」「フリフリ」などのヒット曲を作詞・作曲。解散にともない1970年からソロ活動し、吉田拓郎との作品「シンシア」や「我が良き友よ」などのシングルをリリース。他にテレビアニメ作品『はじめ人間ギャートルズ』のエンディングテーマ「やつらの足音のバラード」も彼の作品である。1990年代に入り、シングル「我が良き友よ」のB面だった「ゴロワーズを吸ったことがあるかい」が再評価され、若いミュージシャンとの交流がさかんになる。2017年3月1日に膵癌のため死去。

ムッシュと話していて感じるのは、いくらでも自慢できるような内容のエピソードでも、そこにまったく自慢の匂いがしないことでした。だからイヤな気分にもならないし、羨ましいとも思わないし、ただただ楽しいのです。そして自分よりも年下の人間から、何かを学び取ろうと、いつも謙虚な姿勢でいる。ムッシュの身の処し方には、もう「憧れ」という言葉しか出てこないですね。

ムッシュが亡くなってから何年経っているのでしょうか。ムッシュというのはかまやつひろしさんのことです。今回はムッシュについて書こうと思い、久しぶりに2002年に発売された『我が名はムッシュ』というCDを聴きました。これはレディメイド・インターナショナルから出た、つまり小西康陽くんがプロデュースした作品です。CDももちろん楽しいのですが、封入されている小冊子が素晴らしい。ザ・スパイダース時代の写真はもちろん、カントリー&ウエスタンを歌っていた頃の写真や、『Baby Doll』店内で撮られた写真、ジャズ喫茶で演奏する姿など、格好よい写真もたくさん収められているし、ムッシュ本人、そしてプロデューサーの小西くんの文章以外に、ミッキー・カーチス、クレイジーケンバンドの横山剣、松任谷由実、カヒミ・カリィ、小山田圭吾、コモエスタ八重樫、あいさとう、曽我部恵一、市川実和子の各氏がムッシュについて語っていて、それを読むとムッシュの人柄がよくわかります。ぼくがここで何かムッシュについて書くよりも、断然、伝わってくるはずです。しかも、あらためて読んで気がついたのですが、小西くんのコラムのタイトルが「ぼくの伯父さんを御紹介します」なんですよ。これはこのアルバムをつくりながら、小西くんが「最初に考えたコピーだった」と。これでは、ぼくの出る幕はありません。なので、これで終了。というわけにはいかないし、ぼくにもムッシュを紹介するにあたって、ぼくなりの想い出もあるわけで、気を取り直して先を続けることにします。

ムッシュはザ・スパイダースのメンバーとして、テレビ番組で観たのが最初です。ぼくが何歳だったかは判然としない。でも、ぼくの父と母は、ムッシュが「三人ひろし」というキャッチフレーズのもと、「日劇ウエスタン・カーニバル」に出ていた人だよというようなことを、ぼくに教えてくれました。実際に自分の目でムッシュを観たのは、郷里の商店街でやった夏の大セールの景品として小学校の体育館で開催されたザ・スパイダースのライヴでした。このときに、新曲ですと言って「黒ゆりの詩」を演奏したことを憶えています。この曲のシングル盤は1968年の9月なので、ぼくは中学1年生だったのかな。その次は大学生になってから、1973年にあったはっぴいえんどの解散コンサート『CITY-Last Time Around』のステージでした。ムッシュはどういうわけか、このコンサートの司会者だったんですよね。あとは、テレビドラマ『時間ですよ』の釜田さんとして。とにかく、ぼくにとっては有名人だったということです。

ムッシュにはじめて自己紹介したのは、『ガリバー』という雑誌の編集者としてです。1990年代でした。ロンドンに小西康陽くんと一緒に行ってくださいというお願いのためで、先輩編集者がこのミーティングをアレンジしてくれたのです。指定された場所はホテルオークラの『ハイランダー』というバーだったかな。ムッシュは快く依頼を引き受けてくれました。そこから、テレビやステージの向こうにいる人だったムッシュが、ぼくにとってときどき会って話をするような関係になったのです。

ちなみにこのロンドン取材に、ぼくは同行していません。冒頭の『我が名はムッシュ』というアルバムは、この取材の際に思いついたと小西くんのコラムには書いてあります。とにかく、素晴らしい特集になりました。そしてその何年か後に、雑誌『Bar-f-Out!』で、ムッシュの連載が始まります。ぼくがムッシュの語ることを聞き書きでまとめるという内容でした。この連載で、ぼくはムッシュの人柄に、直に触れるような機会が持てたのだと思います。

憧れの飯倉『キャンティ』に連れていってくれたのもムッシュでした。サービス係の人のムッシュに対する態度を見て、こういう扱いをされるようになるにはどうしたらいいのだろうかと考えたことを憶えています。そしてその係の人に対するムッシュの態度は、実にスマートなんですね。ぼくにもそうでしたが、口調も丁寧で、いまで言うところのマウントを取るみたいなことは、なにひとつないのです。お茶目に、「え？　それは嘘なんじゃないかな」と思うような体験や知識を、（実際には本当なんですけど）嘘かホントかなんてどうでもいいというような気分にしてくれる、流れるような話術にも憧れました。

まあ、憧れても同じような存在になれるはずはないのですが、ムッシュの身についた上品さが教えてくれることは、たくさんあったのです。上質はお金があれば獲得できるでしょう。でも、品格は違う。せめて下品なふるまいは絶対にしないということが、ぼくが受け取っていたムッシュからのメッセージだったのだと思います。さて、またムッシュの音楽を聴こうかな。ムッシュがひとり多重録音で製作した『ムッシュー／かまやつひろしの世界』を。

1.『我が名はムッシュ』（2002年、レディメイド・インターナショナル）。かまやつひろしさんの格好よさ、なによりもミュージシャンとしてのセンスが伝わる傑作CD。ぼくからの紹介なんて必要ないんですよね、これさえあれば。2.『ガリバー』（1992年7月9日号、マガジンハウス）。小西康陽くんとかまやつさんがロンドンを取材した特集号。かまやつさんのブリティッシュ・ロックへの愛が爆発。そして小西くんのテキストが、かまやつさんという人物の格好よさを伝えてくれる。3.『ブルータス』（2018年3月15日号、マガジンハウス）。松任谷由実が語るかまやつさんの想い出、そして『Bar-f-Out!』に連載されていたかまやつさんの語りが収録されている。4.『ムッシュー／かまやつひろしの世界』（1970年、フィリップスレコード）。ひとり多重録音で製作されたソロ・アルバム。キャンティ時代の交遊から生まれた世界のようなものを感じさせる名曲「ソー・ロング・サチオ」や、なかにし礼と安井かずみとの「二十才の頃」などを収録。

2

1

4

3

Profile｜おかもと・ひとし｜編集者。小社で『BRUTUS』『relax』『Ku:nel』などの編集に携わった後、〈ランドスケーププロダクツ〉に参加。著書に『ぼくの鹿児島案内』『東京ひとり歩き ぼくの東京地図。』『また旅。』『HERE TODAY』など。

GROOVE GROOMING

身だしなみと道具のはなし。

photo: Hirokazu Kobayashi
illustration: Naoki Shoji
text: Ku Ishikawa

ケア用品は日常の“道具”。香りは効能で使い分ける。

ケア用品はすぐに手に入れられるものでないとダメなんです。庭造りで使うギアと同じく、日常使いの道具感覚ですから。じゃあなんでもいいかというとそうではなく、肌や髪に塗布するものは使われている成分を一つの基準としています。考え方は人によって違いますが、体や環境への配慮から防腐剤やパーム油はなるべく避けています。その上で気兼ねなく普段使いできる値段となると、自ずとメーカーは絞られてきます。僕は〈ニールズヤード レメディーズ〉や〈ヴェレダ〉が気に入っていますね。そこまで決まれば何を選んでもよいですが、香りに用いられる植物由来の成分を効用として捉えて、季節によって使い分けると効果的。花粉がひどい時期は、清涼感のあるミント系のものを使えば鼻の通りが良くなりますし、殺菌力の高いティーツリーを含んだソープは、夏場に庭仕事で汗をかいた後のシャワーに。香りも機能として考えてみるということです。一方で、機能的な毛抜きやコームは海外で買うことが多いです。やっぱり日本にはないフォルムや色彩感覚があって、洗面台がすこし楽しくなりますから(笑)。

1. オーストラリアの〈サーズデイ プランテーション〉のバータイプの石鹸。2.〈ニールズヤード レメディーズ〉のスプレーは、庭仕事で土っぽく感じるときに、首元につけるそう。3. ドイツの処方箋薬局で購入した毛抜き。ポップな色合いが素敵。4. 江戸時代からやすりの産地である新潟県燕市に拠点を置く〈Karasawa〉の爪やすり。5. イギリスで1854年に創業したグルーミングブランド〈テイラーオブオールドボンドストリート〉のヘアコーム。6.〈レミオ〉のホホバオイルは、冬場の乾燥する時期に顔から足まで全身に使用。7. 乾燥肌の黒田さんが通年使う「ジンジャー・ビー・バーム」。血行を良くするといわれる生姜油を使用。8.〈メイソンピアソン〉のミリタリーシリーズは柄がない分、ダイレクトに頭皮を手入れしている感じで気持ちが良いそう。9. イギリス・ノッティンガムの〈LO〉は、ヴィーガンキャンドルと同じく香りとサステナビリティを両立。シダーウッドやベルガモットが調合された甘い香り。10. 20年近く〈フィリップス〉のシェーバーを愛用。現在は3代目を使っているが、こちらはデザインが気に入っている旧モデルの2代目。11. 風呂上がりの頭皮マッサージに使用する〈ヴェレダ〉のヘアトニック。12. 湯シャン派の黒田さんだが、春から夏には、〈ヴェレダ〉のセージの香りのシャンプーを使用。

黒田益朗
グラフィックデザイナー

くろだ・ますお｜1960年、千葉県生まれ。「kuroda design」主宰。写真集、書籍や店舗サインなどのデザインを手掛ける。趣味が高じて庭造りの仕事をすることも多く、植物への造詣が深い。

2023年
4月下旬、
開校予定

MAGAZINE HOUSE INSTITUTE OF GOOD LIFE

MIG

NEW PROJECT START!

マガジンハウスは、学校をつくっています。

良質なアウトプットには、良質なインプットが必要です。豊かな生活を送るためには「学び」は欠かすことができません。
そこで、2023年の春にマガジンハウスは学びの場を創設することにしました。
その名も『Magazine house Institute of Good life』、略して「MIG」です。

教えるのは、いわゆる学問ばかりではありません。
映画や本、ファッション、料理に旅……「人生を豊かにするためのヒント」を専門にした教育&研究機関です。

カリキュラムは座学だけではありません。ワークショップや、時には学校を飛び出してフィールドワークだって行う予定です。
講師陣も非常にカラフル。“楽しいこと”を仕事にして日々を満喫する人たちの生きた言葉や、
センスよく暮らすためのテクニックが学べます。

MIGには
こちらから!

現在MIGは、建築家の谷尻誠さんを迎えて建設作業の真っ最中。講義の準備も急ピッチで行っています。

それでは近々、キャンパスで会いましょう。

MIG PRODUCED BY POPEYE BRUTUS Hanako GINZA

HELLO MY NAME IS......

photo: So Mitsuya

LOUIS VUITTON

ずいぶん暖かくなってきて、道端にはいろんな種類の草花が咲いていて散歩が楽しい季節。写真を撮ってアプリに聞けば花言葉まで教えてくれるし、自分の足で知識を集めるって面白い。〈ルイ・ヴィトン〉のニットカーディガンは、初夏から秋にかけて開花する「アザミ」がモチーフ。葉っぱにトゲを持ち、柔らかい針を束ねたようなピンクや紫色の花を咲かせる菊科の植物で、日本だけで100種類以上生息しているという。アザミの複雑な模様はジャカード織りで立体的に表現されていて、肌触りの良い生地は吸湿性と保温性に優れたメリノウールを使用。日中の散歩で汗をかいてもムレにくく、朝晩の冷える時間はしっかり暖かい。これが一枚あれば、散策が捗っちゃうな。

¥227,700（ルイ・ヴィトン／ルイ・ヴィトン クライアントサービス☎0120·00·1854）

HERMÈS

春に初めてストールを首に巻いたときは自分を少しキザに思って周囲の目が気になったものだけど、室内や日差しのない場所は意外とまだまだ寒く、急に雨が降ったりしたときなど一枚持っていると何かと重宝する。〈エルメス〉のそれは、コットンの中では最高級のオーガニックピマコットンを使用していて、光を通して透けるほど薄くて柔らかく、Tシャツにラフに巻いたり首にかけるだけで様になる。細くてしなやかな糸は植物由来の染料で染められ、世界的に希少価値があるというシャトル織機によってゆっくりと丁寧に織られているから手触りは絹のように滑らか。しかも、ピマコットンは吸水性と発散性が抜群だから、汗をかく夏場でもさらりと快適で最高なのだ。

「ナオシマ」100×200㎝。¥81,400（エルメス／エルメスジャポン☎03·3569·3300）

DIOR

ムッシュ ディオールが大のガーデニング好きだったことから、今シーズンはアウトドアシーンに適したアイテムが充実。ソックス付きのサンダル「ディオール ワープ」は、シティガールが愛するバッグ「レディ ディオール」で知られる格子状のモチーフ「カナージュ」を崩して再解釈したもの。もともとはメゾンのファーストコレクションの会場に用意されたナポレオン3世スタイルの椅子の模様に由来しているんだって。格子の間からカラーソックスを覗かせて街で履くのはもちろんのこと、ラバー素材だから水をはじいてくれるし、足全体を包んでくれるから水辺のキャンプのときにもいいかも。アウトドアとはいえスタイリッシュな顔つきなのがさすが。

¥156,200（ディオール／クリスチャン ディオール☎0120·02·1947）

TOD'S

旅行のときの鞄はキャリーケースだと坂道で苦労するし、いかにも観光客に見られるのも嫌だから、大きめの手持ちのバッグひとつで身軽に行きたい派。探し求めていたら〈トッズ〉の女性用のアイコンバッグ「ディーアイ バッグ」が初めて男性用としてラージサイズで作られたとの知らせ。大きなレザーパネルを組み合わせ、フロントの接合部分には型押しされたロゴを施したシンプルな見た目が上品で、大きめのトートバッグとボストンバッグの中間のような機能で色々な場面で使えそう。素材はソフトな手触りと自然なシワ感を持つカーフレザー。革を育てる楽しみもあるし、キャンバス素材のショルダーストラップとレザーポーチが付属しているから、何かと便利。

50×34×20㎝。¥479,600（トッズ／トッズ・ジャパン☎0120·102·578）

an·an　POPEYE　BRUTUS　クロワッサン　Hanako
Tarzan　BRUTUS Casa　& Premium　GINZA　ku:nel　マガジンハウスの本
MAGAZINE HOUSE MOOK　magazineworld.jp　colocal　ここ　MCS マガジンハウス クリエイティブスタジオ

マガジンハウスは 2024年度新卒採用を実施します！

募集要項

《応募資格》
2024年4月1日時点で満26歳以下の方(1997年4月2日以降生まれの方)で、四年制大学を卒業もしくは大学院を修了された方、2024年3月までに四年制大学を卒業見込みの方または大学院を修了見込みの方、四年制大学と同等の資格を取得の方もしくは2024年3月までに取得見込みの方。常識的な日本語で業務遂行能力があること。

《募集部門》　編集部門・業務部門一括採用
《雇用形態》　正社員 ※試用期間あり（入社後6か月）
《採用人数》　若干名
《勤務地》　東京都（中央区銀座）
《選考方法》
書類選考・筆記試験・作文・面接試験等を受けていただきます。

《待遇等》
● 勤務時間
業務部門 9:30～17:30　編集部門 10:00～18:00
（部署により異なる）
● 初任給
285,000円（22歳当社規定）
● 諸手当
当社規定による。通勤手当等
● 休暇・休日
週休二日制、年次有給休暇、夏季休暇、年末年始休暇、産前産後休暇、育児休暇、介護休暇、リフレッシュ休暇等
● 福利厚生
社会保険、育児・介護支援、社員食堂等

応募方法

まずはマガジンハウス新卒採用サイトを確認し、
マイページ登録をしてください。
4月25日(火) までに、マイページ上より
WEBエントリーシートを提出してください。

弊社ＨＰを必ずご確認ください。
https://s.magazineworld.jp/info/recruit/2024/

マガジンハウス

PICK-UP

日本のものづくりを世界に発信する、〈オニツカタイガー〉新業態の店舗がオープン。

東京ミッドタウン八重洲1Fに、〈オニツカタイガー〉のクラフトマンシップによる世界初《NIPPON MADE》シリーズの店舗が誕生。上質な素材、染めや縫製などにこだわったシューズが揃う。ジャパニーズモダンをベースにした店内は、日本の職人技術で構成。

（オニツカタイガージャパン お客様相談室☎0120・504・630）

誰でも、どんな人も気軽に使える、ジェンダーレスコスメ〈コムニコス〉。

SDGsやLGBTが話題の今、メイクも性別や年齢の枠を超えつつある。老若男女様々な方との出会いをもとに、プロのヘアメイク集団が開発したリキッドファンデーションやプレストパウダー、アイブロウマスカラ、スティックコンシーラーなど7アイテムを展開。

¥1,650 〜。https://store.communicos.jp/（コムニコス☎0120・626・706）

ビールづくりで培った技術を生かした、RTDの集大成《麒麟百年 極み檸檬サワー》。

百年以上のビールづくりで培った醸造技術と、《氷結®》などのブレンド技術を融合した新ブランド。ビール酵母で発酵させたレモン果汁や皮ごと搾った果汁、香り立ちが良い果汁、酸味を与える果汁などをバランスよく組み合わせ、ギュッと詰まったレモン感を実現した。

350ml缶、500ml缶。アルコール分5%（キリンビール お客様相談室☎0120・111・560）

日焼け止めブランド〈アネッサ〉に、ドラえもん限定デザインパッケージが登場。

SPF50+・PA++++　© Fujiko-Pro

太陽のもと、人も地球も輝き続けるサステナブルな世界を目指し、国民的人気キャラクター・ドラえもんデザインの《アネッサ パーフェクトUV スキンケアミルク N》（全3種）、《アネッサ パーフェクトUV マイルドミルク N》（ドラミちゃん）を数量限定発売。

「ペロッとドラえもん」はマツキヨココカラ＆カンパニー限定（資生堂お客さま窓口☎0120・81・4710）

GORE-TEXファブリクス搭載モデル初、〈コンバース〉×〈nanamica〉コラボアイテム。

スポーツとファッションを融合したウエアを展開する〈nanamica〉と作った《ALL STAR®》。アッパー素材をリサイクルコットン100%の14ozキャンバスに変更。シューレース、ハトメなどとダークネイビーに統一。ソールやテープはグレイとスタイリッシュに。

¥22,000（コンバースインフォメーションセンター☎0120・819・217）

ベースボールとアウトドアが融合した、〈'47〉×MLB×〈Helinox〉史上初コラボ。

スポーツ・ライフスタイル・ブランド〈'47〉がライセンス契約を結ぶMLB、アウトドアギアメーカーの〈Helinox〉とコラボ。レッドソックス・ヤンキース・ドジャース・エンゼルスの4チームのロゴやチームカラーを落とし込んだ特別アイテムを数量限定発売。

直営店・公式オンラインストアで販売。https://www.47brand.co.jp/

イタリア発ヘアケアブランド〈ダヴィネス〉、4月22日（土）新丸ビル2Fにオープン。

直営店オープンを記念し、ヘアオイル《オイ オイル》とミニサイズのシャンプー、コンディショナー、ウェットヘアブラシが揃うオープニングキットを発売。¥6,050。またベストセラーからスペシャルケア、ボディケアまで堪能できるスペシャルキットは¥9,460。

両キットとも数量限定発売（コンフォートジャパン☎0120・39・5410）

どこでも手軽にクールダウン可能な、《セトル ドライシャンプー アイスプラス》。

キャンプやフェス、スポーツなど、外で手軽にクールダウンできるアイテムが登場した。皮脂吸着パウダーが皮脂や汗を吸着し、髪や頭皮をサラサラに。ベタつきのなくなった根元がふんわりボリュームアップし、おしゃれも両立。アロマティックシトラスの香り。

《セトル ドライシャンプー UVケアプラス》も展開（中野製薬 お客様相談センター☎0120・075570）

〈REESE COOPER®〉×〈MERRELL 1TRL〉初のコラボシューズを限定店舗で発売中。

〈メレル〉のプレミアムコレクション〈メレル1TRL〉が、〈リースクーパー〉と初コラボ。《HYDRO RUNNER》《MTL LONG SKY 2》《MTL MQM》のシルエットを採用し、各2色展開。〈メレル〉渋谷スクランブルスクエアとオンラインストアや限定店舗で販売。

¥12,100〜。すべてユニセックス、22.5〜28.0、29.0cm。https://merrell.jp

illustration: Michihiro Hori　text: Neo Iida

シティボーイの憂鬱 98

ああ、嫌だ、本当に嫌だ。
僕らの「憂鬱だなぁ」を告白する連載。

今月のユウウツ

仕事の憂鬱 SNS編

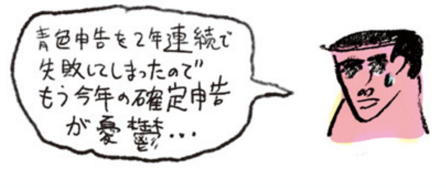
ピロン、シュワッ、ポチャ、チーン。もうすっかり、通知音を聞けばどのアプリかわかる体になってしまった。気づけば、LINEもSlackもDiscordもInstagramもTwitterも常にオンラインで、四六時中誰かと繋がっている。友達や恋人のみならず、仕事の連絡もずんずんやってくる。電車に乗っていても、晩ごはんを食べていても、お風呂でYouTubeを見ていても、「すみませんこのPDF、急ぎ確認してもらってもいいですか？」と通知がピコッ。なんとなくメールより「急いで！」の圧が高い気がして、ビッチョビチョで風呂から出て、真っ裸でiPad開いて修正箇所を書き入れている俺がいる。くー！　湯冷め！　というわけで今回は、常時接続上等な高度情報化社会における、お仕事SNSの憂鬱について。

冒頭でも言いましたけど、連絡可能なSNSが増えすぎて、「あれ、あの件ってLINEで話したっけ……DMだったっけ」と脳がグツグツ。何度探しても履歴が見つからず、相手に再度尋ねる無駄も発生している。さらにいつの間にか、あの人はLINEやってないからショートメール、あの人はメールのほうがいいって言ってたな……と先方ごとに連絡方法を選別するホスピタリティも生まれてきている。あとLINEで仕事相手がスタンプを使ってきたときに、どのスタンプで返せばいいかもそれなりに考えている自分がいる。アート系にはアート系、ちいかわにはちいかわ、猫には猫、いらすとやにはいらすとや。絵文字が2個くらい入ってきたら絵文字を2個返す。相手の文法にのっとって、なるべくリズムを合わせていくという気遣いが自然と生まれている。何なのこれ。優しさ？　共感？　でも思い返せば日常のコミュニケーションでも同じようなことをやってるから、それが文字化されているだけなんだろうな。誰か研究してほしい。

あとリアルガチな憂鬱言っていいですか。大事なファイルはLINEで送らないでほしい。なんでって保存期間1週間過ぎたら消えちゃうから。でいちばん「ギー！」って叫びたくなるのが正月。年末に「ファイル送ってください！」を伝え、送ってもらい、落としそびれて1月5日を迎えたときの絶望と自己嫌悪ね。ああ俺が悪いよでもLINE使ったお前もどうかと思うぜ！　いっそもう年末年始休むのやめてみんなで働きませんか！　と大号泣しながら「再度ファイルをお送りいただけますでしょうか」と打つ恥ずかしさ。これが仕事初めって悲しいよ。

ちなみに前に会社勤めをしてたときは、SNSはプライベート用とされ、仕事のやり取りはメール一択だった。遅い時間にメールするときは冒頭に「夜分に失礼いたします」、週末は「お休みのところ失礼いたします」を付けるべしと教育された。一般企業には「勤務時間外はオフ」という鉄の掟があるため、営業時間を過ぎたメールは、先方のプライベートタイムにコンバットブーツを履いてかちこむくらい失礼なこと。なので「あなた様の貴重なプライベートタイムに駄文を送ってお目汚し申し訳ねえです（意訳）」とできる限り恐縮してメールを送ったものです。なんだったのあれ。

家にいるときの連絡でいちばん怖いのが、「今表参道にいるんだけど」ってLINE通知ね。ベッドの中で「いるんだけど何すか……」と思いながら既読付けるか悩むやつ。どんなにSNSが発達しても、人間関係のモニョモニョは変わんないなァ〜。



堀さんの今月のユウウツ

堀 道広｜ほり・みちひろ　うるし漫画家、「金継ぎ部」主宰。1975年、富山県生まれ。'98年に『月刊漫画ガロ』でデビュー。近著に漫画『おれは短大出』（青林工藝舎）、『おうちでできるおおらか金継ぎ』（実業之日本社）など。

NEXT ISSUE 914

POPEYE 6月号は5月9日発売！

特集・僕のレコードと君の時計。

そりゃあ音楽を聴くのも、時間を知るのも携帯一つあれば十分だけど、やっぱりレコードに針を下ろしたり、腕まくりをして時計を眺めるような時間が僕たちは好きなんだな。次号はレコードと時計について。いまどこで何を買ったらいいか。徹底的に調べて報告します。

春の風には、リネンの服を。

リネンコットンフーデッドシャツ¥48,400、共地のパンツ¥36,300（ともにパパス☎03·5469·7860）　ユーズドの〈ステューシー〉のTシャツ¥20,790（スクロバ☎03·6873·5639）　ユーズドの〈カンゴール〉のハンティングキャップ¥6,490(カメレオン☎03·3478·4778)　ベルト¥2,475（リブインファブアース／プロップスストア☎03·3796·0960）　デッキシューズ¥35,200（パラブーツ／パラブーツ青山☎03·5766·6688）

Papas

MANIERE DE HEMING

春になり暑い日が続くと、ついリネンに手が伸びる。いかにも涼しげで、風も気持ちよく通り抜けるこの素材の旬は、よく夏だというけれど、先取りするかのように今のうちから慣らしておくのも悪くないのかなーって。真夏のように暑い日はとくに便利なんだ。当然、季節の移ろいに合わせていつも爽やかな服を提案する〈パパス〉も毎シーズン作っていて、今季のベストタッグはリネンコットンフーデッドシャツと2タックパンツの組み合わせ。素材にうるさい〈パパス〉らしく、ともに経糸にコットンコーマ、横糸に60/1ベルギーリネンを使って織られたハケ目シャンブレーという変わり種だ。その物珍しさにバサッと羽織ったら海に行きたくなった。春の風でも浴びにね。

photo: Reiko Toyama
styling: Satoshi Kamei
grooming: AMANO
text: Koji Toyoda